宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第15集

にし　した　ほん　じょう

西下本庄遺跡

―県立学校運動場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

1999

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第15集

にし　した　ほん　じょう

西下本庄遺跡

―県立学校運動場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

1999

宮崎県埋蔵文化財センター

序

埋蔵文化財の保護・活用に対しましては日頃より深い御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

宮崎県教育委員会では、平成５・６年度に宮崎県立本庄高等学校グランド造成に伴う西下本庄遺跡の発掘調査を実施しました。本書はその発掘調査報告書です。

西下本庄遺跡は、昭和32年に造成以前のグランド北西隅を発掘調査した際、縄文時代から中世にかけての遺構・遺物が出土していたことから、長期間にわたって営まれた複合遺跡として周知されておりました。今回の調査でも同様の遺構・遺物が検出され、特に、古墳時代と中世期の大規模な集落が確認されたことは、宮崎県の歴史を考える上でも大きな成果と言えるでしょう。

本書が学術資料として、あるいは学校教育や生涯学習の資料として広く活用され、埋蔵文化財に対する認識や理解を深めるための一助となることを期待します。

最後になりましたが、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、並びに地元の皆様に対し心より厚く御礼申し上げます。

平成11年３月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長　田　中　　守

例　言

1．本書は、宮崎県立本庄高等学校グランド造成事業に伴い、宮崎県教育委員会が行った西下本庄遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県教育庁文化課が実施した。

3．発掘調査は、平成６年１月13日から12月２日まで行った。

4．現地における実測や写真撮影等の記録は、谷口武範、山田洋一郎、戸高眞知子、飯田博之、松林豊樹、日高広人、和田理啓、久木田浩子、米久田真二が行い、地形測量及び空中写真撮影を業者に委託した。

5．整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、図面作成、実測、トレース等は主として松林が行い、一部整理作業員の協力を得た。

6．本書に使用した位置図は、国土地理院発行の２万５千分の１図を基に作成し、周辺の遺跡分布状況は、国富町、宮崎市、高岡町の遺跡詳細分布調査報告書に準拠している。

7．本書に使用した方位は、座標北（N）と磁北（MN）がある。

8．本書で使用する遺構略号は、ＳＡは竪穴住居、ＳＢは掘立柱建物、ＳＣは土坑、ＳＥは溝状遺構、ＳＩは集石遺構を表す。

9．本書第27表以降における貿易陶磁器の備考には太宰府分類を記しているが、その大部分は山本信夫氏（太宰府市教育委員会）から御教示頂いた。

10．本書の執筆・編集は、松林が行った。

11．本遺跡に関する出土遺物、その他の記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第Ⅰ章　はじめに……1
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　調査の組織……1
　第3節　遺跡の位置と環境……2

第Ⅱ章　調査の概要……4
　第1節　調査の経過……4
　第2節　基本層序……4

第Ⅲ章　調査の記録……7
　第1節　縄文時代の遺構と遺物……7
　　1．早期の遺構と遺物……7
　　（1）遺構……7
　　（2）遺物……9
　　2．後期～晩期の遺構と遺物……9
　　（1）遺構及び出土遺物……9
　　a　竪穴住居……9
　　b　土坑……14
　　（2）その他の遺物……14
　　a　土器
　　b　土器片加工品
　　c　石器
　第2節　古墳時代の遺構と遺物
　　（1）遺構及び出土遺物……22
　　a　竪穴住居……22
　　b　掘立柱建物……90
　　c　土坑……90
　　d　溝状遺構……97
　　（2）その他の遺物……98
　第3節　古代～中世の遺構と遺物
　　（1）遺構及び出土遺物……119
　　a　掘立柱建物……119
　　b　柵列状遺構……119
　　c　土坑……133
　　d　石組土坑……136
　　e　溝状遺構……141
　　（2）その他の遺物……154
　第4節　その他の遺構と遺物……154

第Ⅳ章　おわりに……154

挿図目次

第１図　位置図（１/50,000）……3
第２図　基本土層図……4
第３図　遺構分布図（１/400）……5-6
第４図　縄文時代遺構分布図（１/1,000）……7
第５図　縄文時代早期の遺構と遺物（遺構：１/30、遺物：１/３）……8
第６図　ＳＡ29・30実測図（１/30）……10
第７図　ＳＡ31・32実測図（１/30）……11
第８図　ＳＡ33実測図（１/30）……12
第９図　ＳＡ30・31・32・33出土遺物実測図（１/３）……13
第10図　ＳＣ１～３実測図（１/40）及び出土遺物実測図（１/３）……15
第11図　縄文土器実測図①（１/３）……18
第12図　縄文土器実測図②（１/３）……19
第13図　縄文土器実測図③（１/３）……20
第14図　縄文土器実測図④（１/３）……21
第15図　縄文土器実測図⑤（１/３）……22
第16図　縄文土器実測図⑥（１/３）……23
第17図　縄文土器実測図⑦（１/３）……24
第18図　縄文土器実測図⑧（１/３）……25
第19図　縄文土器実測図⑨（１/３）……26
第20図　縄文土器実測図⑩（１/３）……27
第21図　土器片加工品及び石器実測図（３/５、１/３、１/４）……28
第22図　古墳時代遺構分布図（１/1,000）……33
第23図　ＳＡ１及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）……35
第24図　ＳＡ１出土遺物②及びＳＡ２実測図（遺物：１/４、１/２、遺構：１/60）……36
第25図　ＳＡ２出土遺物実測図（１/４）……37
第26図　ＳＡ３及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）……39
第27図　ＳＡ３出土遺物実測図②（１/４）……40
第28図　ＳＡ５及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）……41
第29図　ＳＡ５出土遺物②及びＳＡ６実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……42
第30図　ＳＡ６出土遺物実測図（１/４、１/２）……43
第31図　ＳＡ７実測図（１/60）……44
第32図　ＳＡ８実測図（１/60）……47
第33図　ＳＡ８出土遺物実測図（１/４）……48
第34図　ＳＡ９及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……49
第35図　ＳＡ10及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……50
第36図　ＳＡ11及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……51
第37図　ＳＡ12実測図（１/60）……52
第38図　ＳＡ12出土遺物実測図①（１/４）……53
第39図　ＳＡ12出土遺物実測図②（１/４、１/２）……54
第40図　ＳＡ13及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）……55
第41図　ＳＡ13出土遺物実測図②（１/４）……56
第42図　ＳＡ13出土遺物実測図③（１/４）……57

第43図　ＳＡ15及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）……58
第44図　ＳＡ17出土遺物及びＳＡ18実測図（遺物：１/４、１/２、遺構：１/60）……60
第45図　ＳＡ18出土遺物実測図①（１/４）……61
第46図　ＳＡ18出土遺物実測図②（１/４）……62
第47図　ＳＡ18出土遺物実測図③（１/４）……63
第48図　ＳＡ18出土遺物実測図④（１/４）……64
第49図　ＳＡ18出土遺物実測図⑤（１/４）……65
第50図　ＳＡ19及び出土遺物実測図、ＳＡ20実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……67
第51図　ＳＡ20出土遺物実測図①（１/４）……68
第52図　ＳＡ20出土遺物実測図②（１/４）……69
第53図　ＳＡ20出土遺物実測図③（１/４）……70
第54図　ＳＡ20出土遺物実測図④（１/４）……71
第55図　ＳＡ20出土遺物実測図⑤（１/４）……72
第56図　ＳＡ20出土遺物実測図⑥（１/４、１/２）……73
第57図　ＳＡ21及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）……74
第58図　ＳＡ21出土遺物実測図②（１/４）……75
第59図　ＳＡ21出土遺物実測図③（１/４）……76
第60図　ＳＡ21出土遺物実測図④（１/４）……77
第61図　ＳＡ21出土遺物実測図⑤（１/４）……78
第62図　ＳＡ21出土遺物実測図⑥（１/４）……79
第63図　ＳＡ21出土遺物実測図⑦（１/４）……80
第64図　ＳＡ21出土遺物実測図⑧（１/４）……81
第65図　ＳＡ21出土遺物実測図⑨（１/４、１/２）……82
第66図　ＳＡ22及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……83
第67図　ＳＡ23及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……84
第68図　ＳＡ24及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……86
第69図　ＳＡ26及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……87
第70図　ＳＡ27及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……88
第71図　ＳＡ28及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）……89
第72図　古墳時代掘建柱建物実測図①（１/１００）……91
第73図　古墳時代掘建柱建物実測図②（１/１００）……92
第74図　古墳時代土坑実測図①（１/１００）……93
第75図　古墳時代土坑実測図②（１/１００）……94
第76図　古墳時代土坑実測図③（１/１００）……95
第77図　古墳時代土坑出土遺物（１/４、１/２）……96
第78図　ＳＥ２及び出土遺物実測図（遺構：１/250、遺物：１/４、１/２）……99-100
第79図　ＳＥ４実測図（平面１/80、断面１/40）……101
第80図　ＳＥ４出土遺物実測図（１/４）……102
第81図　ＳＥ８及び出土遺物実測図（遺構：平面１/80、断面１/40、遺物：１/４）……103
第82図　柱穴状遺構出土遺物実測図（１/４、１/２）……104
第83図　包含層出土古墳時代遺物実測図（１/４、１/２）……105
第84図　古代（上）～中世（下）遺構分布図（１/1,000）……120
第85図　古代～中世掘建柱建物実測図①（１/100）……121
第86図　古代～中世掘建柱建物実測図②（１/100）……122

第87図　古代～中世掘建柱建物実測図③（1/100）……123
第88図　古代～中世掘建柱建物実測図④（1/100）……124
第89図　古代～中世掘建柱建物実測図⑤（1/100）……125
第90図　古代～中世掘建柱建物実測図⑥（1/100）……126
第91図　古代～中世掘建柱建物実測図⑦（1/100）……127
第92図　古代～中世掘建柱建物実測図⑧（1/100）……128
第93図　古代～中世掘建柱建物実測図⑨（1/100）……129-130
第94図　古代～中世掘建柱建物実測図⑩（1/100）……131
第95図　古代～中世掘建柱建物出土遺物実測図（1/4）……132
第96図　ＳＣ14実測図（1/40）……134
第97図　ＳＣ14出土遺物実測図①（1/4）……135
第98図　ＳＣ14出土遺物実測図②（1/4）……136
第99図　ＳＣ14出土遺物実測図③（1/4、1/2）……137
第100図　ＳＣ15及び出土遺物実測図（遺構：1/60、遺物：1/4）……138
第101図　ＳＣ16及び出土遺物実測図（遺構：1/60、遺物：1/4）……139
第102図　ＳＣ17、18及び出土遺物実測図（遺構：1/40、遺物：1/4）……140
第103図　1号石組遺構及び出土遺物実測図（遺構：1/20、遺物：1/4）……142
第104図　2、3号石組遺構及び出土遺物実測図（遺構：1/20、遺物：1/4）……143
第105図　ＳＥ1、9及び出土遺物実測図（遺構：平面1/80、断面1/40、遺物：1/4）……145-146
第106図　ＳＥ5実測図（平面1/120、断面1/40）……147
第107図　ＳＥ5出土遺物実測図①（1/4）……148
第108図　ＳＥ5出土遺物実測図②（1/4）……149
第109図　ＳＥ5出土遺物実測図③（1/4）……150
第110図　ＳＥ5出土遺物実測図④（1/4、1/2）……151
第111図　ＳＥ6出土遺物実測図（1/4）……152
第112図　ＳＥ7出土遺物実測図（1/4）……153
第113図　ＳＥ10実測図（平面1/200、断面1/40）……155-156
第114図　ＳＥ10出土遺物実測図①（1/4）……157
第115図　ＳＥ10出土遺物実測図②（1/4）……158
第116図　ＳＥ10出土遺物実測図③（1/4）……159
第117図　ＳＥ10出土遺物実測図④（1/4）……160
第118図　ＳＥ10出土遺物実測図⑤（1/4）……161
第119図　ＳＥ10出土遺物実測図⑥（1/4）……162
第120図　ＳＥ10出土遺物実測図⑦（1/4）……163
第121図　ＳＥ10出土遺物実測図⑧（1/4、1/8）……164
第122図　ＳＥ10出土遺物実測図⑨（1/4）……165
第123図　ＳＥ10出土遺物実測図⑩（1/4）……166
第124図　ＳＥ10出土遺物実測図⑪（1/4）……167
第125図　ＳＥ10出土遺物実測図⑫（1/4、1/3）……168
第126図　ＳＥ10出土遺物実測図⑬（1/2）……169
第127図　柱穴状遺構出土遺物実測図①（1/4）……170
第128図　柱穴状遺構出土遺物実測図②（1/4）……171
第129図　その他の出土遺物実測図①（1/4）……172
第130図　その他の出土遺物実測図②（1/4）……173

第131図　その他の出土遺物実測図③（1/4）……174
第132図　時期不明掘立柱建物分布図（1/1,000）……175
第133図　時期不明掘立柱建物分布図①（1/100）……176
第134図　時期不明掘立柱建物分布図②（1/100）……177
第135図　時期不明掘立柱建物分布図③（1/100）……178
第136図　時期不明掘立柱建物分布図④（1/100）……179
第137図　時期不明掘立柱建物分布図⑤（1/100）……180
第138図　時期不明掘立柱建物分布図⑥（1/100）……181

表　目　次

第1表　西下本庄遺跡出土土器観察表（1）‥17
第2表　西下本庄遺跡出土土器観察表（2）‥29
第3表　西下本庄遺跡出土土器観察表（3）‥30
第4表　西下本庄遺跡出土土器観察表（4）‥31
第5表　西下本庄遺跡出土土器観察表（5）‥32
第6表　西下本庄遺跡出土土製品観察表（1）32
第7表　西下本庄遺跡出土石器計測表（1）‥32
第8表　古墳時代掘立柱建物一覧表……90
第9表　古墳時代土坑一覧表……95
第10表　西下本庄遺跡出土土器観察表（6）‥106
第11表　西下本庄遺跡出土土器観察表（7）‥107
第12表　西下本庄遺跡出土土器観察表（8）‥108
第13表　西下本庄遺跡出土土器観察表（9）‥109
第14表　西下本庄遺跡出土土器観察表（10）‥110
第15表　西下本庄遺跡出土土器観察表（11）‥111
第16表　西下本庄遺跡出土土器観察表（12）‥112
第17表　西下本庄遺跡出土土器観察表（13）‥113
第18表　西下本庄遺跡出土土器観察表（14）‥114
第19表　西下本庄遺跡出土土器観察表（15）‥115
第20表　西下本庄遺跡出土土器観察表（16）‥116
第21表　西下本庄遺跡出土土器観察表（17）‥117
第22表　西下本庄遺跡出土土器観察表（18）‥118
第23表　西下本庄遺跡出土石器計測表（2）‥118
第24表　西下本庄遺跡出土鉄器観察表（1）‥118
第25表　古代～中世掘立柱建物一覧表 ……132
第26表　時期不明掘立柱建物一覧表 ……175
第27表　西下本庄遺跡出土土器観察表（19）‥182
第28表　西下本庄遺跡出土土器観察表（20）‥183
第29表　西下本庄遺跡出土土器観察表（21）‥184
第30表　西下本庄遺跡出土土器観察表（22）‥185
第31表　西下本庄遺跡出土土器観察表（23）‥186
第32表　西下本庄遺跡出土土器観察表（24）‥187
第33表　西下本庄遺跡出土土器観察表（25）‥188
第34表　西下本庄遺跡出土土器観察表（26）‥189
第35表　西下本庄遺跡出土土器観察表（27）‥190
第36表　西下本庄遺跡出土土器観察表（28）‥191
第37表　西下本庄遺跡出土土器観察表（29）‥192
第38表　西下本庄遺跡出土土器観察表（30）‥193
第39表　西下本庄遺跡出土土器観察表（31）‥194
第40表　西下本庄遺跡出土土器観察表（32）‥195
第41表　西下本庄遺跡出土土器観察表（33）‥196
第42表　西下本庄遺跡出土土器観察表（34）‥197
第43表　西下本庄遺跡出土土器観察表（35）‥198
第44表　西下本庄遺跡出土土器観察表（36）‥199
第45表　西下本庄遺跡出土土器観察表（37）‥200
第46表　西下本庄遺跡出土土器観察表（38）‥201
第47表　西下本庄遺跡出土土器観察表（39）‥202
第48表　西下本庄遺跡出土土器観察表（40）‥203
第49表　西下本庄遺跡出土土器観察表（41）‥204
第50表　西下本庄遺跡出土土器観察表（42）‥205
第51表　西下本庄遺跡出土土器観察表（43）‥206
第52表　西下本庄遺跡出土土器観察表（44）‥207
第53表　西下本庄遺跡出土土製品観察表（2）‥208
第54表　西下本庄遺跡出土石器計測表（3）‥208
第55表　西下本庄遺跡出土鉄器観察表（2）‥208

図版目次

図版１　調査区東側全景（東から）/調査区東側全景（南から）……209
図版２　調査区東側全景（上空から）/調査区西側全景（西から）……210
図版３　調査区西側全景（北から）/ＳＩ１ ……211
図版４　調査区西側全景（上空から）/ＳＩ２（南西から）……212
図版５　ＳＩ３（南から）/ＳＡ29（北から）……213
図版６　ＳＡ30（北から）/ＳＡ31（北から）……214
図版７　ＳＣ１（北から）/ＳＡ１、２、５（上空から）……215
図版８　ＳＡ１（上空から）/ＳＡ１（東から）……216
図版９　ＳＡ２（上空から）/ＳＡ２（北から）……217
図版10　ＳＡ３（北西から）/ＳＡ５（西から）……218
図版11　ＳＡ５（北から）/ＳＡ６（北から）……219
図版12　ＳＡ８、ＳＣ14（上空から）/ＳＡ８（西から）……220
図版13　ＳＡ９（東から）/ＳＡ12（上空から）……221
図版14　ＳＡ12（西から）/ＳＡ12遺物出土状況① ……222
図版15　ＳＡ12遺物出土状況②/ＳＡ18検出状況……223
図版16　ＳＡ13、ＳＥ５（上空から）/ＳＡ13、ＳＥ５（東から）……224
図版17　ＳＡ18遺物出土状況（東から）/ＳＡ18遺物出土状況（南側壁面中央付近）……225
図版18　ＳＡ18（上空から）/ＳＡ18（南西から）……226
図版19　ＳＡ19（上空から）/ＳＡ19（南から）……227
図版20　ＳＡ19炭化物出土状況/ＳＡ20遺物出土状況（北から） ……228
図版21　ＳＡ20（上空から）/ＳＡ21遺物検出状況（北西から）……229
図版22　ＳＡ22（北から）/ＳＡ26（南から）……230
図版23　ＳＡ28（北から）/ＳＣ６ ……231
図版24　ＳＣ４/ＳＢ１１（上空から） ……232
図版25　柱穴半裁状況①/柱穴半裁状況②……233
図版26　柱穴半裁状況③/柱穴半裁状況④……234
図版27　ＳＣ14検出状況（西から）/ＳＣ14埋土堆積状況（南から）……235
図版28　ＳＣ14埋土堆積状況（東から）/ＳＣ14埋土堆積状況（中央付近）……236
図版29　ＳＣ14完掘状況（南西から）/ＳＣ16（北西から）……237
図版30　１号石組（南から）/１号石組（西から）……238
図版31　１号石組（南東から）/１号石組敷石 ……239
図版32　ＳＥ５埋土堆積状況/ＳＥ７（北西から） ……240
図版33　ＳＥ10（南から）/ＳＥ10埋土堆積状況（北端部）……241
図版34　ＳＥ10埋土堆積状況（中央付近）/ＳＥ10完掘状況（南から）……242

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

宮崎県教育庁学校施設課は、平成５～６年度の事業として宮崎県立本庄高等学校のグラウンド整備事業を計画した。本庄高校の所在地は、昭和32年に当時のグランド北西隅の部分を発掘調査されており、縄文時代後期～中世に及ぶ遺構や遺物が検出されていた。このことから、宮崎県教育庁文化課は、学校施設課の依頼を受け、事業対象地において試掘調査を行うこととなった。

試掘調査は、平成５年８月26日～27日にかけて実施された。調査の結果、事業対象地の大部分で縄文時代後期、古墳時代、古代～中世の遺構、遺物が検出されたため、協議の結果、グラウンド整備事業を行う前に記録保存を目的とした緊急の発掘調査を行うこととなった。

発掘調査は、平成６年１月13日～12月２日にかけて実施され、縄文時代～近世に及ぶ多量の遺構、遺物が確認された。

第２節　調査の組織

西下本庄遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査主体	宮崎県教育委員会	
教育長	髙山　義孝（平成５年度）	田原　直廣（平成６年度～）
教育次長	八木　　洋（平成５年度～）	中田　　忠（平成５年度～）
文化課長	甲斐　教雄（平成５年度）	江崎　富治（平成６年度～）
同課長補佐	田中　雅文（平成５年度～）	
庶務係長	税田　輝彦（平成５年度）	髙山　惠元（平成６年度～）
主幹兼埋蔵文化財第一係長	岩永　哲夫（平成５年度～）	
主査	谷口　武範（事業調整担当）	
主任主事	戸髙眞知子（平成５年度調査担当）	
主任主事	山田洋一郎（平成５年度調査担当）	
主事	松林　豊樹（平成６年度調査担当）	
主事	久木田浩子（平成６年度調査担当）	
主事	髙　　広人（平成６年度調査担当）	
主事	和田　理啓（平成６年度調査担当）	
調査員	米久田真二（平成６年度調査担当）	

第３節　遺跡の位置と環境

西下本庄遺跡は、宮崎県東諸県郡国富町大字本庄5071番地に所在する。国富町は宮崎県の中央部に位置し、西に九州山地が控え、東に広大な宮崎平野が広がっている。町内には本庄川や深年川といった中小河川によって浸食・開析された段丘が形成されており、各段丘上には東へ向かって標高を減じる複数の平坦面がみられる。これらの平坦面上には時代を問わず多くの遺跡が分布しており、古くから生活の場として利用されてきたようである。本遺跡が立地する台地は通称本庄台地と呼ばれ、標高40～50mほどの平坦面（第１面）と標高20～30mほどの平坦面（第２面）がみられる。第１面には国富町の中心市街地が形成されるとともに、国指定史跡の本庄古墳群が分布している。本遺跡はこの古墳群の中心部からやや南西で、台地が本庄川へ向かって南にせりだした第２面上に位置する。

以下、時代ごとに周辺の遺跡を概観する。

（旧石器時代） これまで、国富町内では旧石器時代の遺跡はあまり知られていなかったが、近年、本遺跡が乗る本庄台地と深年川を挟んで東に対峙する木脇台地周辺において、東九州自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、木脇遺跡、松元遺跡、塚原遺跡で同時代の遺構、遺物が確認されている。いずれもＡＴ火山灰層よりも上層の文化層であり、松元遺跡では３基の集石遺構も確認されている。

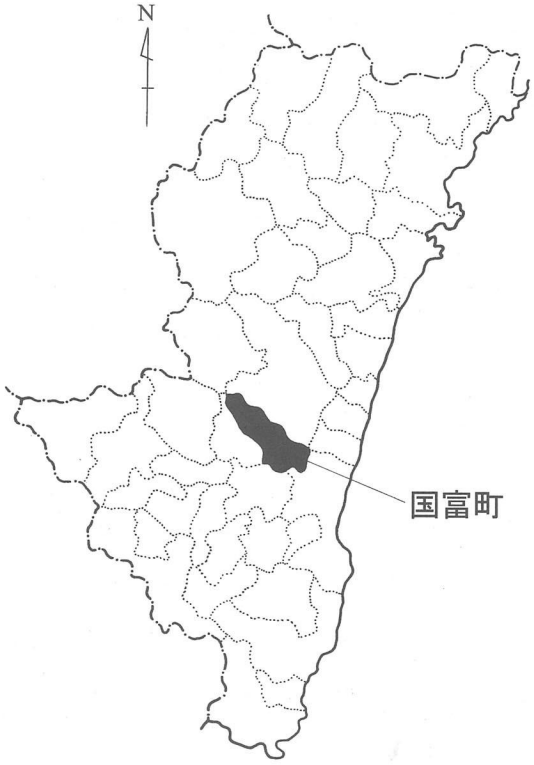
（縄文時代） 縄文時代についても周辺遺跡の調査事例は少なく、前述の３遺跡で、草創期～早期にかけての遺構、遺物が確認されている。

（弥生時代） 弥生時代の遺跡としては、工業団地造成に伴う木脇遺跡の調査において、中期～後期に及ぶ集落が確認されている。また、本庄台地の北東端に位置する上ノ原遺跡の調査では、中期後半～後期初頭頃の瀬戸内系の土器が出土している。

（古墳時代） 前述したように、本遺跡周辺の１段高い平坦面上には本庄古墳群が分布しているほか、地下式横穴墓も多く分布している。本遺跡で確認された集落はこれらの古墳と時期的に重なる部分も多いことから、古墳造営に深い関係があったと考えられる。

（古代以降） 本庄台地周辺では、古代以降の遺跡の調査例はほとんどない。しかし、東は宮崎市、西は古代の「亜椰駅」推定地である綾町、南は高岡町、北は国府や国分寺などが置かれた古代日向の中心地である西都市へと抜ける地理的分岐点であり、古くから交通の要衝であったと考えられる。また、本庄台地及びその周辺には多くの古い寺社や中世山城が分布することから、更に多くの遺跡が存在すると予想される。

１割付遺跡　２福山遺跡　３森永地下式横穴墓群　４須志田（本庄）古墳群　５守永城跡　６飯盛横穴墓群　７宍喰野第２遺跡　８竹田平原遺跡　９本庄平原遺跡　10宍喰野第１遺跡　11鶴ヶ城跡　12諏訪城跡　13東ノ城跡　14仮屋原城跡　15八幡遺跡　16本庄遺跡群（本庄古墳群を含む）　17前ノ原地下式横穴墓群　18郡山遺跡　19宗仙寺遺跡　20宮王丸遺跡　21上ノ原遺跡（上ノ原地下式横穴墓群）22加羅尾遺跡　23粕塚遺跡（東長寺跡を含む）　24堂ヶ峯遺跡　25桑鶴遺跡　26脇古墳群　27木脇城跡　28塚原遺跡（木脇古墳群を含む）　29中別府遺跡　30倉岡第２遺跡　31龍泉寺遺跡　32倉岡村古墳　33倉岡村古墳　34小谷遺跡　35花見新田遺跡　36下三蔵遺跡　37野中第１遺跡　38野中第２遺跡　39荒平第１遺跡　40荒平第２遺跡　41紙屋造遺跡　42角ノ園遺跡　43朝羽田遺跡　44天ヶ城跡　45池ノ尾城跡　46山口遺跡　47飯田城跡　48田尻城跡　49相原遺跡　50向高城跡　51向高上ノ原遺跡



第１図　遺跡位置図

第Ⅱ章　調査の概要

第１節　調査の経過

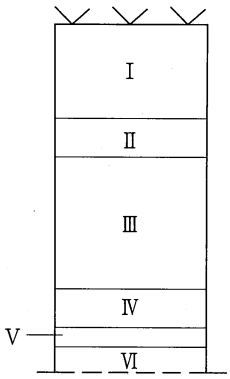
調査は試掘調査の結果から工事対象地すべてが遺跡と判断されていたため、グランドの造成が行われる約8,400㎡を対象として行った。表土下の状況は比較的良好で、縄文時代から近世に至る遺物を包含した黒褐色土がアカホヤ火山灰層まで厚い所で約１m程堆積していた。

平成５年度の調査では調査区の東半部について、この黒褐色土中位における遺構検出を試みた。しかし、その土色や土質などの状況から、断面の詳細な観察をおこなわなければ遺構を認定することが非常に困難であった。また、遺物の出土量から多くの遺構の存在が予想されたため、平成６年度以降は時間との兼ね合いや諸般の事情によりアカホヤ火山灰層上面において遺構検出を行った。調査区西半部は幸い黒褐色土が東半部よりも薄くなる状況であったため、検出面下での遺構残存状態は比較的良好であった。しかし、結果として縄文時代から近世までの遺構が同一面で検出された形となり、その弊害として遺物を伴わない遺構の時期決定、アカホヤ火山灰層まで掘込みが及んでいない遺構を確認できなかった可能性がある点など多くの問題が内包される調査となった。このことは、調査に携わった者として非常に遺憾である。

調査の結果検出された遺構・遺物の詳細は後述するが、時期としては縄文時代早期・後期～晩期、弥生時代末～古墳時代末、古代、中世、近世に及ぶ。中でも古墳時代、中世については良好な集落関連遺構・遺物が検出されており、今後の該期の研究において欠くことのできない資料であるといえる。

第２節　基本層序

西下本庄遺跡における基本土層は第２図のとおりである。遺物の包含が認められたのは第Ⅲ層ａ～第Ⅲ層ｄである。遺構の検出は殆ど第Ⅳ層上面で行ったが、調査区西側および南西部は表土以下に第Ⅲ層～第Ⅴ層を失っている部分がみられたため、その部分については表土直下において遺構を検出した。



Ⅰ	暗褐色土	(50cm)	表土
Ⅱ	暗褐色土	(20cm)	Ⅰ層よりもやや明るく、しまりあり
Ⅲ	暗褐色土	(70cm)	Ⅱ層よりもややしまりが弱く、土器細片を含む
Ⅳ	明黄橙色火山灰	(20cm)	いわゆるアカホヤ火山灰
Ⅴ	黒褐色土	(10cm)	非常に硬くしまっている
Ⅵ	暗褐色土	(10cm以上)	常に硬くしまっている

第２図　基本土層柱状図

第３図　遺構分布図（１/400）

第Ⅲ章　調査の記録

第１節　縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構として確認されたものは、早期の集石遺構３基、後期の竪穴住居５軒、晩期の土坑３基である（第４図）。遺物は、早期の土器数点と後期～晩期の土器及び石器が出土している。以下、各時期ごとに述べる。

１．早期の遺構と遺物

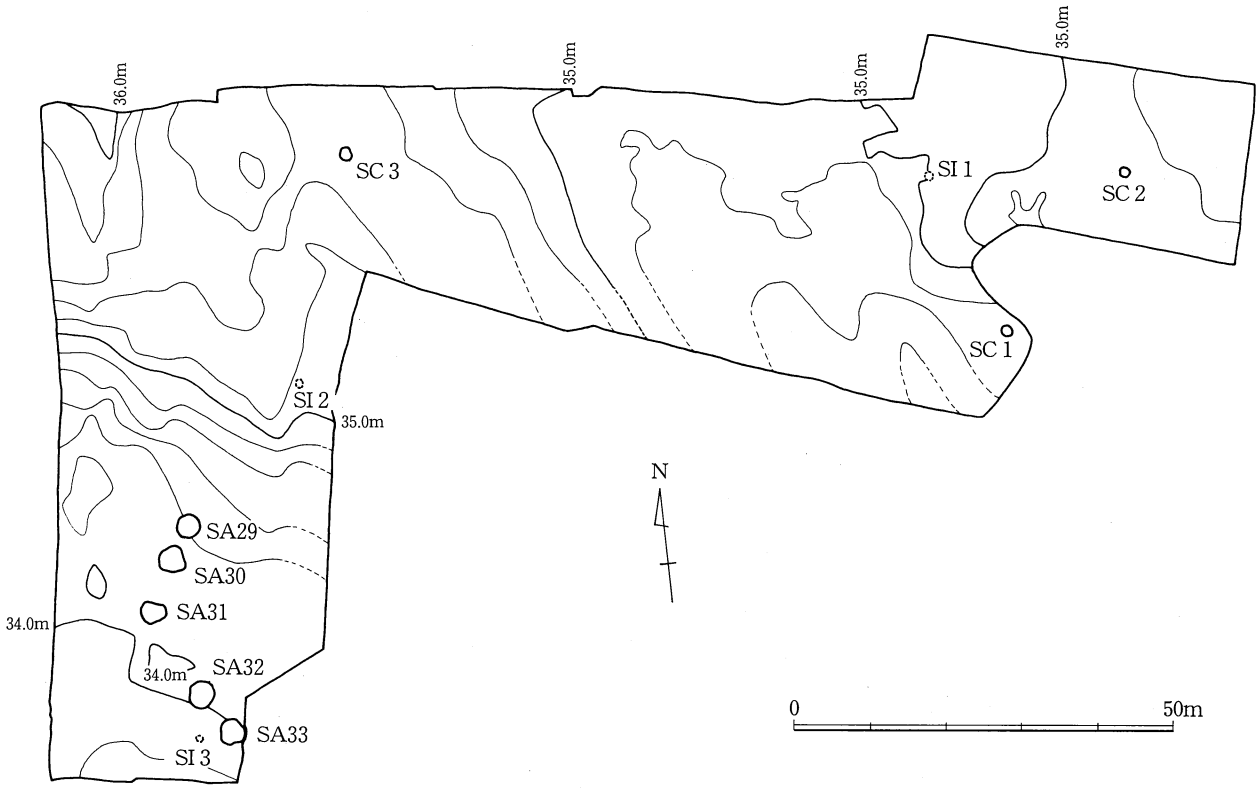
(1)　遺　構

早期の遺構が検出されたのは、層序の部分で触れたアカホヤ火山灰層が既に失われていた部分のみであり、本来はさらに多くの遺構が存在した可能性は残る。

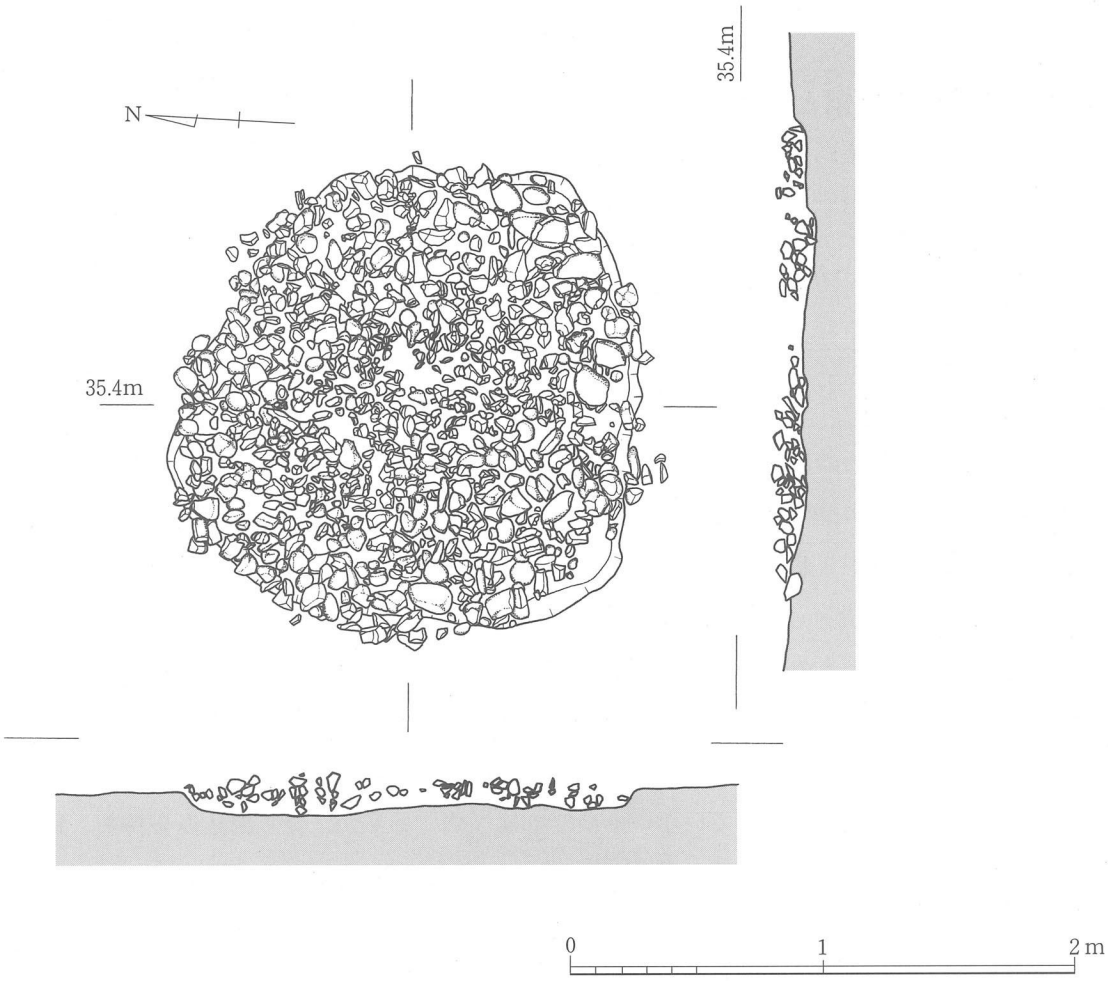
遺構としては集石遺構が３基検出されたが、諸般の事情から図化したものは１基のみであった。

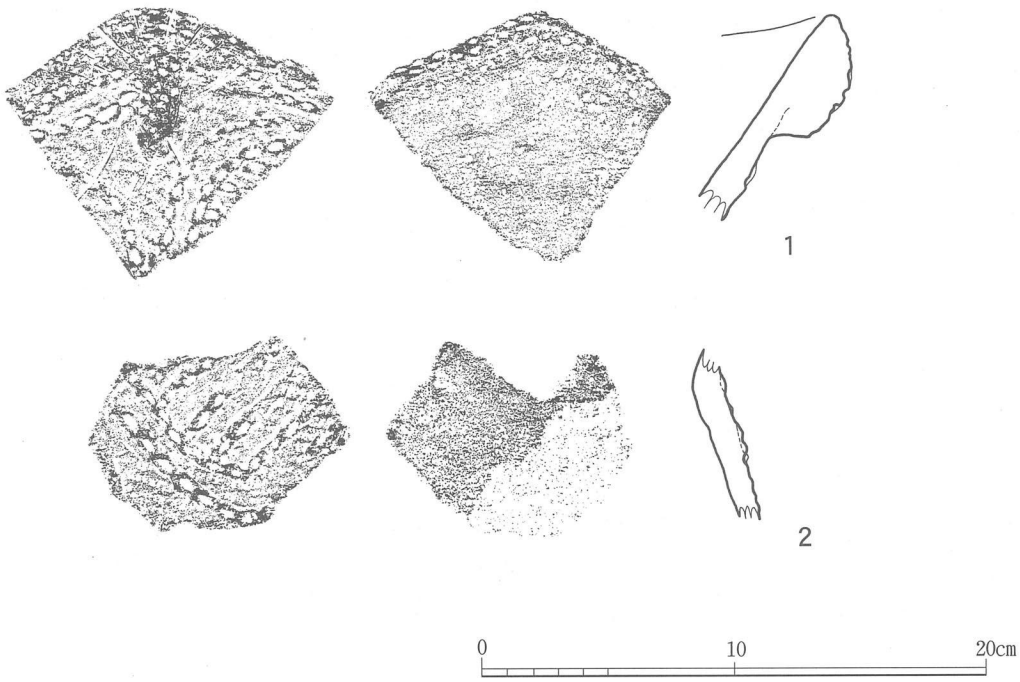
１号集石は調査区の中央付近やや東側のＶ層上面で検出された。最大径約1.8ｍ、深さ約10㎝の不正円形の堀込を有する大型のものである。集石を構成する礫は全体的に小さな角礫が多いが、堀込の縁辺部に近いほど大きめ（20㎝前後）の円礫が占める割合が高くなる。また、赤く変色した礫の分布状況も縁辺部に近いほど多い傾向が見られた。

１号以外の集石遺構は図化を行っていないため詳細は不明であるが、全て掘込みを持ち、比較的大きな円礫によって構成されたもので、最大径が60～80㎝程度の小型のものであった。



第４図　縄文時代遺構分布図（１/1000）





第５図　縄文時代早期の遺構と遺物（遺構：１/30、遺物：１/３）

(2) 遺　物

遺物は非常に少なく、４点のみであった。

１～２は手向山式と平栫式の中間的要素を持つ土器で、近年、妙見式として設定された土器とおもわれる。１は頸部で外方に屈曲し、やや内湾気味に立ち上がる口縁部である。波状口縁を呈し、波頂部下外面に楕円形の突起を貼付けている。これにぶつけるかたちで口縁部と平行する突帯が３条、その下に２条の横から縦方向に屈曲する突帯で区画をつくり、その中に横方向の突帯を貼付けている。また、外面に地文として撚糸文が施されている。２は１と同一個体の頸部から口縁部付近である。この他の２点も同一個体と考えられる胴部片である。

２．後期～晩期の遺構と遺物

(1) 遺　構

a　竪穴住居

ＳＡ29（遺構：第６図）

径が約3.0ｍほどの不正円形プランを呈する。検出面から床面までの深さは最も深い部分で15㎝程度である。埋土はアカホヤ火山灰層の粒子を多く含む黒褐色土のみで、非常に軟質である。埋土等の状況から、アカホヤ火山灰層をそのまま床面として利用したと考えられるが、かなり起伏に富んでいる。竪穴と竪穴内で検出された柱穴については埋土が極めて類似していたため、その前後関係や主柱穴について判断できなかった。また、竪穴内および柱穴からはほとんど遺物が出土しておらず、遺構の構築時期についての判断は躊躇されるが、周辺で検出された住居との構造的類似性などからここで扱った。

ＳＡ30（遺構：第６図、遺物：第９図３～９）

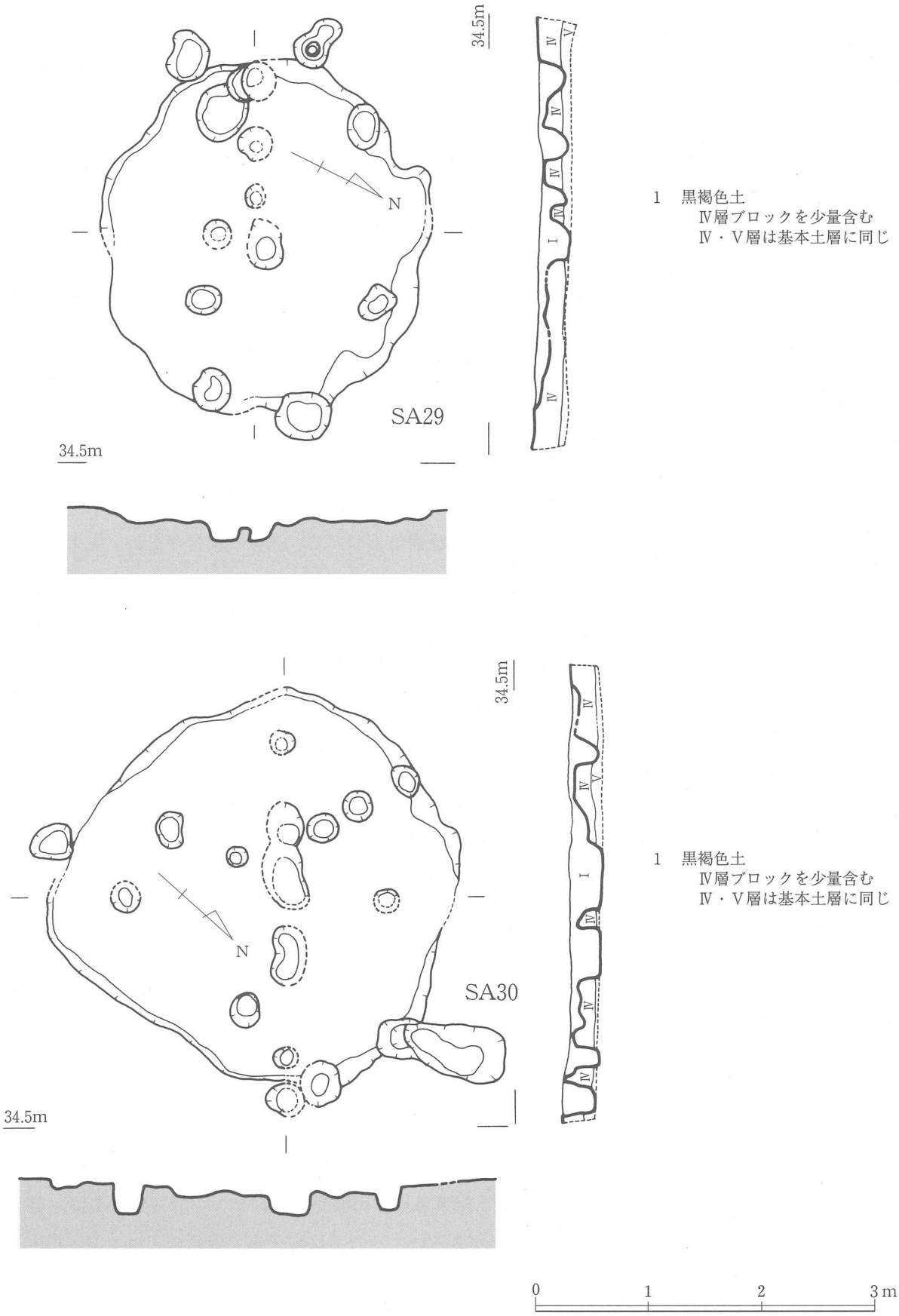
径が約3.6ｍほどの不正円形プランを呈する。検出面から床面までの深さは最も深い部分で15㎝程度である。埋土はアカホヤ火山灰層の粒子を多く含む黒褐色土のみで、アカホヤ火山灰層をそのまま床面として利用したとみられるが、床面はかなり起伏に富んでいる。竪穴内にある柱穴には遺物がみられず、埋土などから切り合いが判断できるものも少なかったため、竪穴と柱穴の相関関係は不明である。

遺物は少なく、床面から10㎝ほど浮いた状態で比較的大きな土器片が出土している。３・４・７は貝殻条痕文を地文として貝殻腹縁刺突文が施された市来式系の深鉢である。５は口唇部に条痕文が施された深鉢の口縁部、６は内外面に粗いナデ調整が施された深鉢の口縁部である。８・９は平底を呈する深鉢の底部である。

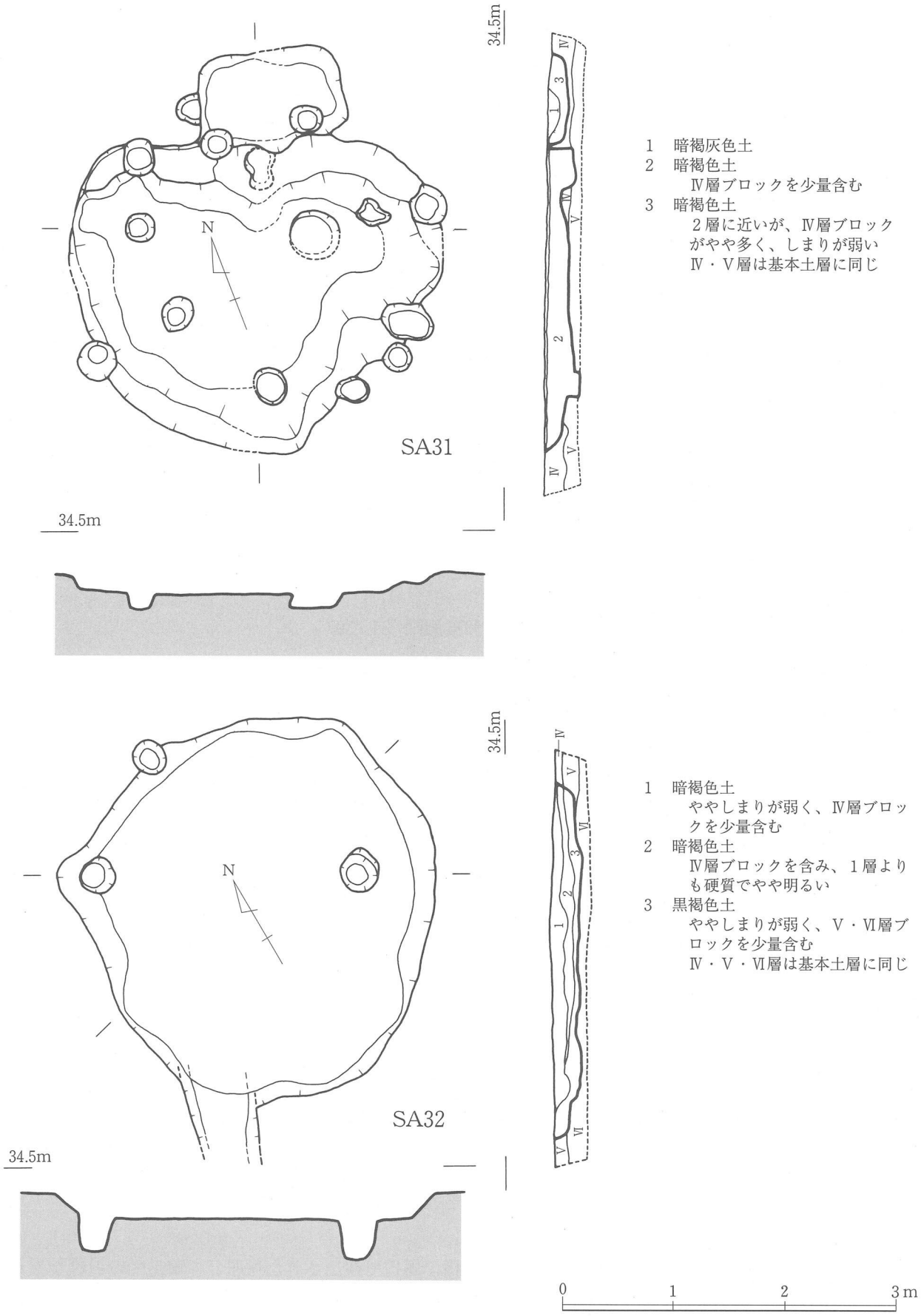
ＳＡ31（遺構：第７図、遺物：第９図10・11）

長軸3.4ｍ、短軸2.8ｍほどの不正円形プランを呈する。検出面から床面までの深さは最も深い部分で20㎝程度である。埋土は表面に薄く暗灰褐色土がみられ、その下は床面まで軟質のアカホヤ火山灰層の粒子を多く含む黒褐色土であった。床面は比較的平坦だが、床面積が狭い印象を受ける。この遺構についても竪穴と柱穴の相関関係は不明である。

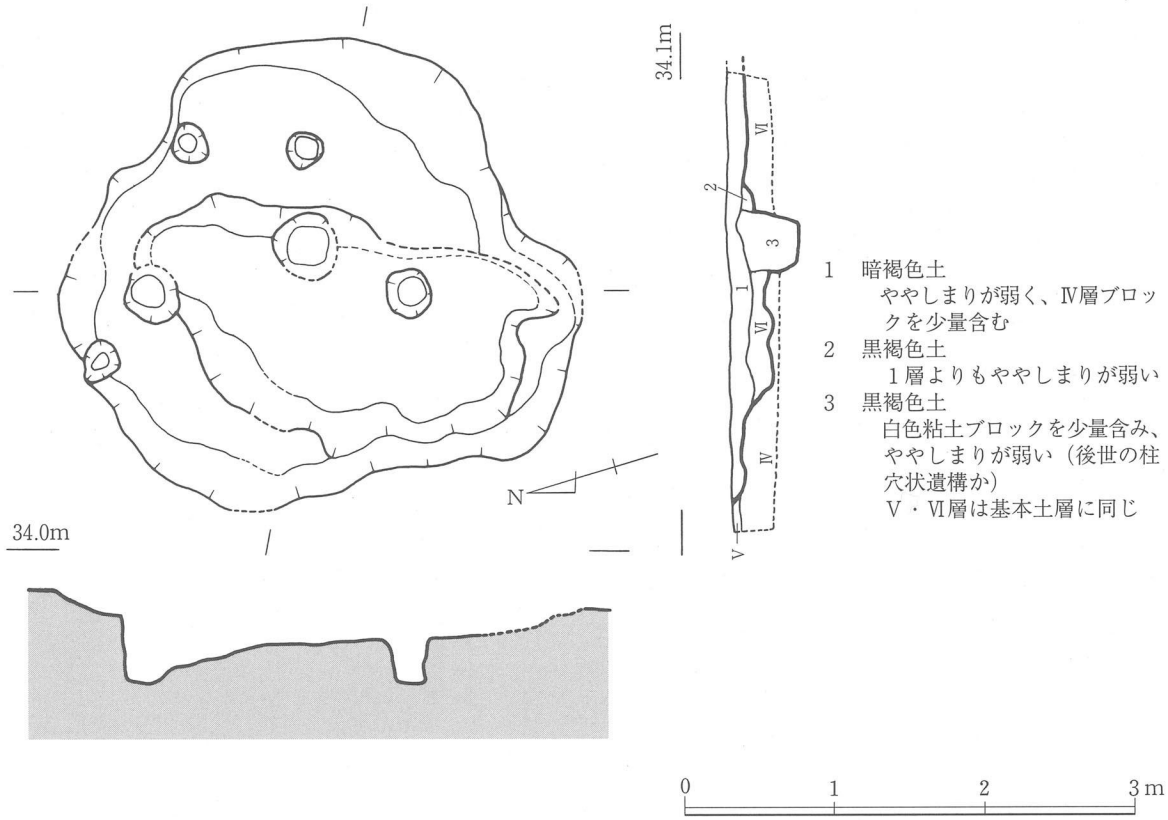
遺物は非常に少なく、数点の土器片が出土している。10はやや内湾気味に立ち上がる深鉢の口縁部で、口唇部は平坦に仕上げ、口縁部外面に沈線文が施されている。11は貝殻条痕文を地文として貝殻腹縁刺



第６図　ＳＡ29・30実測図（１/30）



第7図　ＳＡ31・32実測図（1/30）



第８図　ＳＡ33実測図（１/30）

突文が施された市来式系の深鉢である。

ＳＡ32（遺構：第７図、遺物：第９図12）

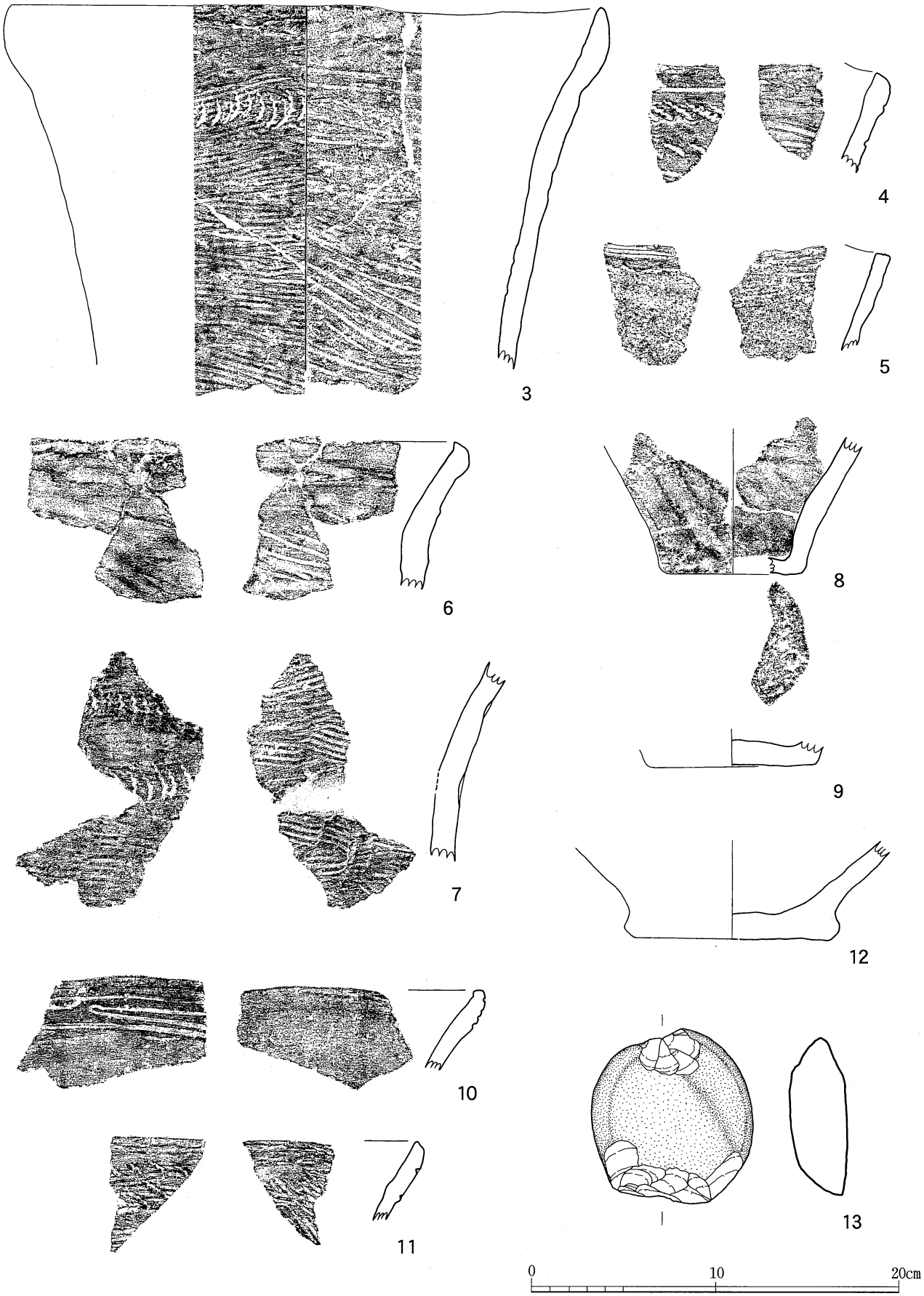
径約３ｍほどの不正円形プランを呈する。検出面から床面までの深さは最も深い部分で30㎝程度である。埋土は第７図のとおりで３層に分かれ、床面にはやや起伏がみられる。この遺構では竪穴内には２つの柱穴しかみられず、これが主柱穴と考えられる。

遺物はやはり少なく、数点の土器片が出土したのみである。12はやや外側に張り出した平底を呈する深鉢の底部である。

ＳＡ33（遺構：第８図、遺物：第９図13）

長軸3.5ｍ、短軸3.0ｍほどの不正円形プランを呈する。検出面から床面までの深さは最も深い部分で25㎝程度である。埋土は表面に暗褐色土がみられ、その下は床面まで軟質の黒褐色土であった。床面は北半部にテラスを伴う二段堀り状で起伏がみられる。この遺構についても竪穴と柱穴の相関関係は不明である。

遺物はほとんど検出されていないが、ＳＡ29と同様、周辺で検出された住居との構造的類似性などからここで扱った。13は偏平な円礫の端部を打ち欠いた石錘である。



第９図　ＳＡ30・31・32・33出土遺物実測図（１/３）

b　土坑

ＳＣ１（遺構：第10図、遺物：第10図14・15）

径約1.5mの円形プランを呈し、検出面から床面までの深さは最も深い部分で15cm程度を計る。遺構内にみられる４つの柱穴状遺構との切り合い関係は不明である。

遺物は遺構の中央部付近の床面に近い位置に集中して出土している。14はいわゆる孔列文土器の口縁部で、孔は内面まで貫通している。15は外方にやや張り出した平底を呈する底部である。

ＳＣ２（遺構：第10図、遺物：第10図16～18）

径約1.3mの不整円形プランを呈し、検出面から床面までの深さは最も深い部分で55cm程度を計る。埋土は黒色土のみで、床面の南半部がやや窪んでいる。

遺物は床面から40cmほど浮いた位置から数点の土器片と礫が出土している。16・17は深鉢の口縁部である。別固体と思われるが、ともに口縁部がやや幅広く肥厚する特徴を持つ。18はいわゆる孔列文土器の浅鉢で、外面から穿たれた孔は内面まで貫通していない。

ＳＣ３（遺構：第10図、遺物：第10図19・20）

長軸1.5m、短軸1.3mほどの不正形プランを呈し、西側はＳＥ10によって切られる。検出面から床面までの深さは最も深い部分で70cm程度を計る。

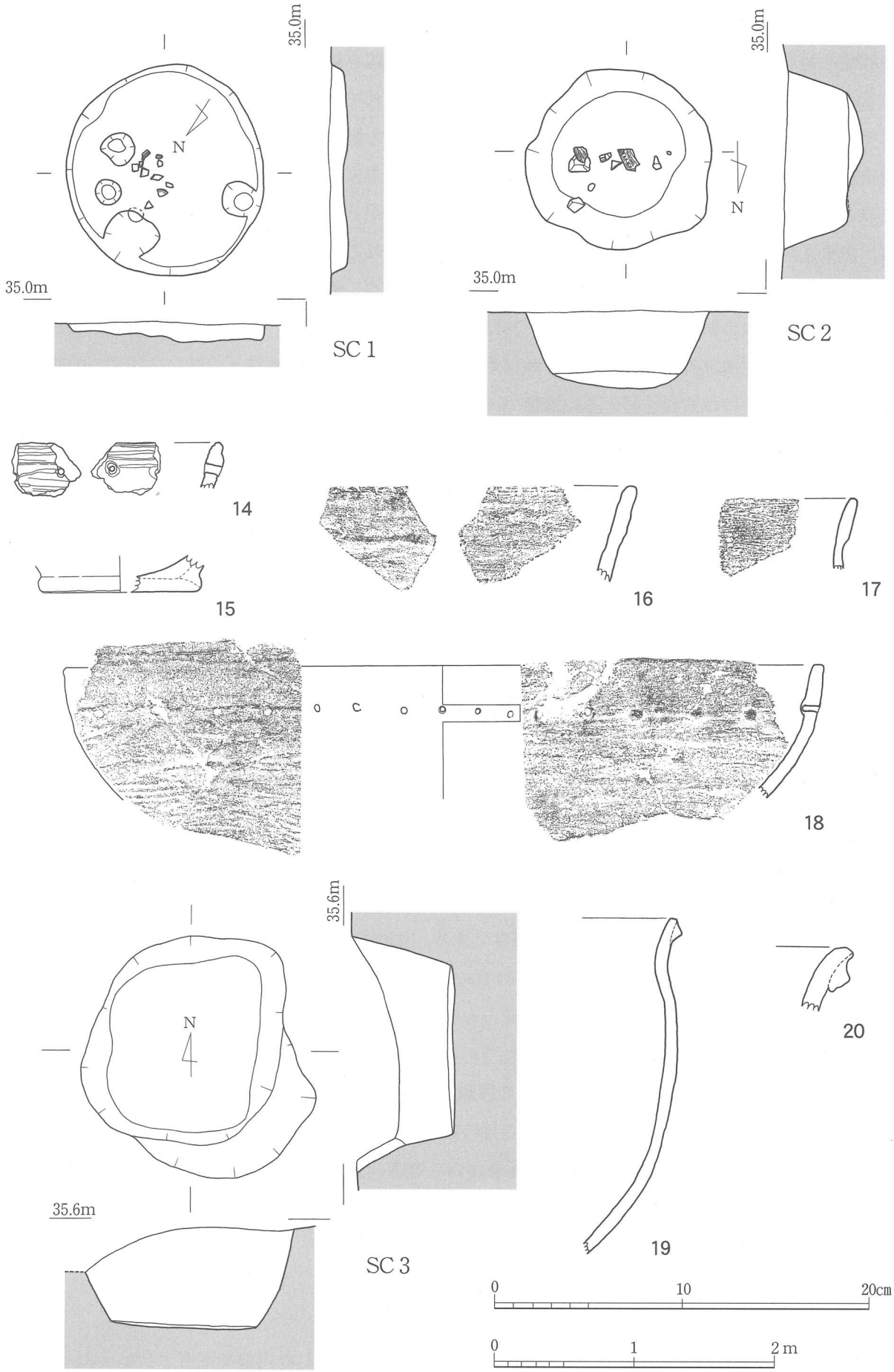
遺物は少なく、床面からやや浮いた状態で数点の土器片が出土している。19・20は深鉢形土器で、ともに口縁部外面に断面三角形の無刻目突帯が巡っている。

(2)　その他の遺物

(1)　土器（第11図～第20図）

土器はその大半が包含層からの出土であるが、他の時期と判断される遺構の埋土中からも出土している。それらについても、土器の特徴から縄文時代の所産と判断されたものについてはここで扱う。なお、出土した地点や土器の詳細な特徴については、観察表を参照されたい。

21はやや内傾する深鉢形土器の胴部片で、外面に縦方向のミミズ腫れ状の突帯が貼り付けられている。22・23は春日式の口縁部とみられる。24は口縁部の外面に貝殻腹縁による連続刺突文を巡らせ、その下に凹線文が施されたもので、岩崎式系の深鉢形土器とみられる。25～27は口縁部外面に縦もしくは斜め方向の沈線が施されるもので、口唇部に刺突文や沈線文がみられる。28は外反し肥厚する口縁部の外面に貝殻腹縁による連続刺突文が施されている。29・31は口縁部外面に縦方向の連続刺突文もしくは連続短沈線文が施されるもので、31は内面にも同様の施文がみられる。30は口縁部外面に、くの字状を呈する二段の短沈線文が施されている。32は斜め方向の沈線の端部を刺突し、口唇部にも刺突文がみられる。33・34は口縁部外面に貝殻腹縁による刺突文が施されるもので、34には口唇部にも施文がみられる。35は外面および口唇部に沈線文がみられる。36・37は口唇部に刺突文がみられる。38・39は口縁部外面に沈線文が施されたもので、38は口唇部が平坦に仕上げられており、39は波状口縁を呈する。40・41は口縁部の外面に横方向の連続刺突文がみられ、41は屈曲部下位に二段の同様な刺突文が施されている。42は口縁部の外面に二条の沈線とその間に刺突文が施されたもので、内面が大きく窪む。43・44は外面に



第10図　ＳＣ１～３実測図（１/40）及び出土遺物実測図（１/３）

複数段の刺突文が施された胴部片である。45は外面に短沈線を組み合わせた文様帯がみられる胴部片である。46は貝殻条痕を地文として、沈線文や刺突文が施されている。47は外面に凹線文がみられる口縁部で、波状を呈する。48は外面に沈線文や曲線文が施された胴部片で、指宿式とみられる。49～74は貝殻条痕文を地文として沈線文や貝殻刺突文などが施された市来式系の土器で、本遺跡から出土した縄文土器の大半を占めるものである。75は外反しながら立ち上がる口縁部で、やや幅広く肥厚した口縁部外面に沈線文が施され、波頂部には短沈線による施文がみられる。口縁部内面にも沈線文がみられるが、波頂部には縦方向に波状の曲線文が三列施されている。また、波頂部の口縁部下位から頸部にかけて刺突文を伴う橋手状の貼り付けがみられる。76は波状を呈する口縁部で、口唇部には連続刻目文が施されている。また、屈曲部外面と波頂部から垂下する刻目突帯を有し、口縁部との間には端部を刺突する沈線文がみられる。77は波状を呈する口縁部で、外面に沈線文と貼り付け突帯を伴う。この突帯は波頂部でやや高さを増し、その頂部に竹管状の工具による刺突文がみられる。78～80は頸部からやや外反しながら立上がる深鉢の口縁部である。３点ともに口縁部が内折し、その外面に連続刺突文（78・79）や沈線文（80）が施されている。81～84は口縁部外面に沈線文や曲線文が施されたもので納曽式に含まれる可能性がある。85～103はいわゆる磨消縄文系の土器で出土量としては少なかったが、小池原上層式や平城上層式（片粕式）、鐘崎式、北久根山式、西平式など多く土器形式がみられる。104は外面に六条の沈線文が巡る口縁部である。105・106は内外面に条痕文が施された口縁部で、106は波状を呈する。107～111は粗製の深鉢の口縁部で、107は外面に浅い刺突文、111は口唇部に刺突がみられる。112～115は口縁部が帯状に肥厚する粗製深鉢で、115は口唇部が窪む。116・117は口縁部下の外面に突帯が一条巡る粗製の深鉢で、116は波状口縁を呈する。118は粗製深鉢の胴部で、屈曲頂部に連続する刻目が施されている。119・120は粗製深鉢の胴部で、外面に刻目突帯を伴う。121～131はいわゆる孔列文土器で、口縁部は内傾するものと外傾するものがみられる。また、口縁部が肥厚するもの（121）、無刻目突帯を伴うもの（122・123）、刻目突帯を伴うもの（124・126）、胴部の屈曲部に刻目が施されたものなど豊富なバリエーションがみられる。また、刺突（孔）が内面まで貫通しない点が共通の特徴と言える。132～143はミガキ調整が施された精製の深鉢・浅鉢である。沈線を伴うもの（135）や口縁部にヒレ状の突起を伴うもの（133・134・136）など器形が多彩である。なお、140は内外面に赤色顔料の塗布がみられる。144～156は粗製深鉢の平底の底部で、網代底のもの（145・152～154）もみられる。157は高台状を呈する上底の底部で、内面にミガキ調整が施されている。158～161は台付の皿もしくは鉢形土器の口縁部である。158・159は口縁部内面にそれぞれ貝殻腹縁・竹管状の工具による刺突文が施されており、161は口唇部に連続押圧がみられる。162～164は台付の皿もしくは鉢形土器の口縁部波頂部の装飾部分とみられ、164には内外面に赤色・白色の顔料の付着がみられる。165～177は台付の皿もしくは鉢形土器の脚台部で、沈線文や刺突文が施されるものや透かしがみられるものなど様々である。なお、175の外面はミガキ調整であり、他と異なる。

(2)　土器片加工品（第21図178～183）

178・180は土器片の側縁を打ち欠き、円形に近い平面形に整形した円盤である。179・181～183は土器片の側縁を平滑に調整して楕円形に近い平面形に整形し、端部に紐状のものを掛けるための調整が施されたもので、土器片錘とみられる。また、179・181は比較的大きめで側縁調整が丁寧であるのに対し

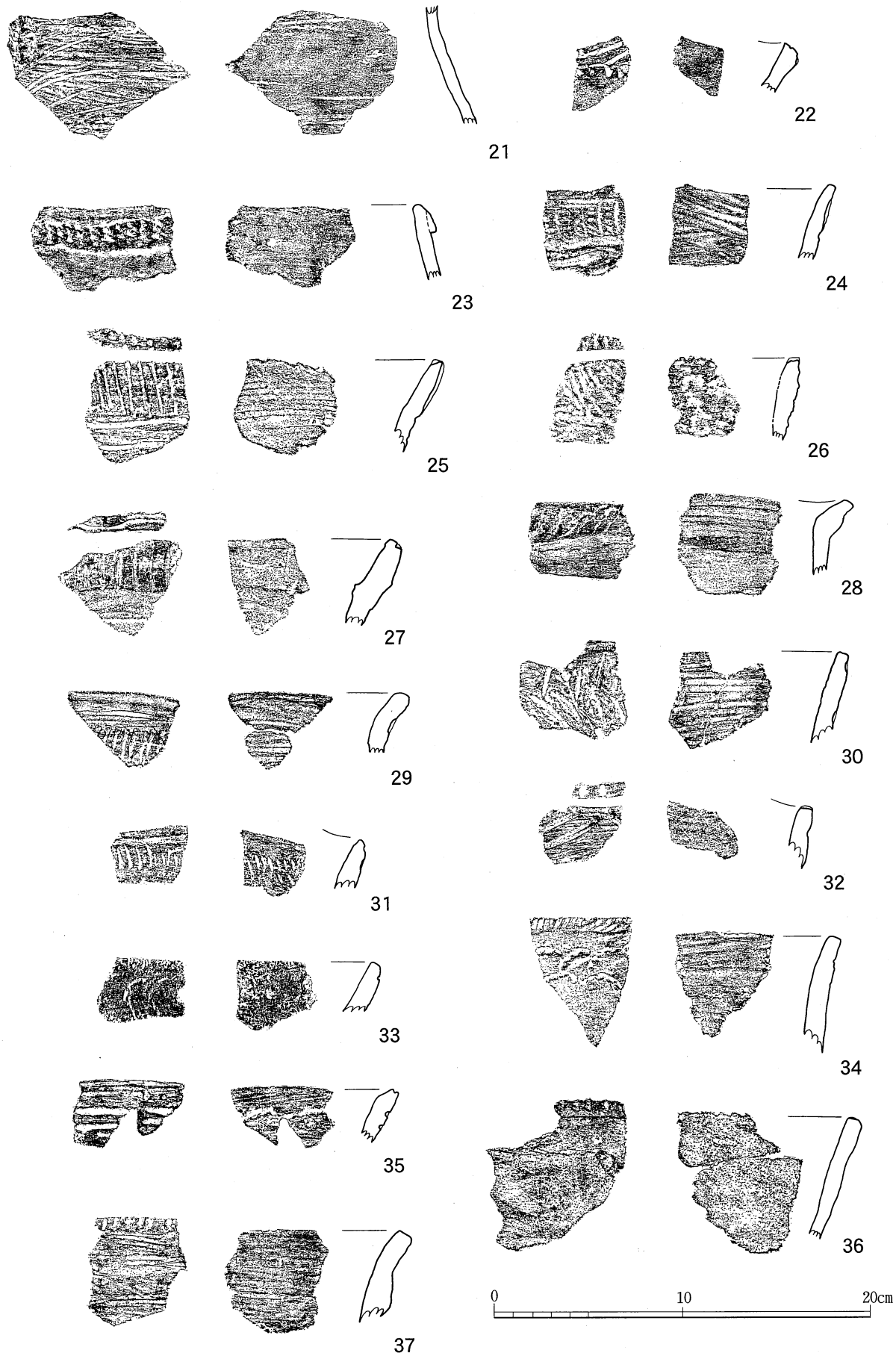
て、182・183は小さめで側縁調整が粗く、端部の紐状のものを掛けるための調整が大きい点で異なる。

(3) 石器（第21図184～194）

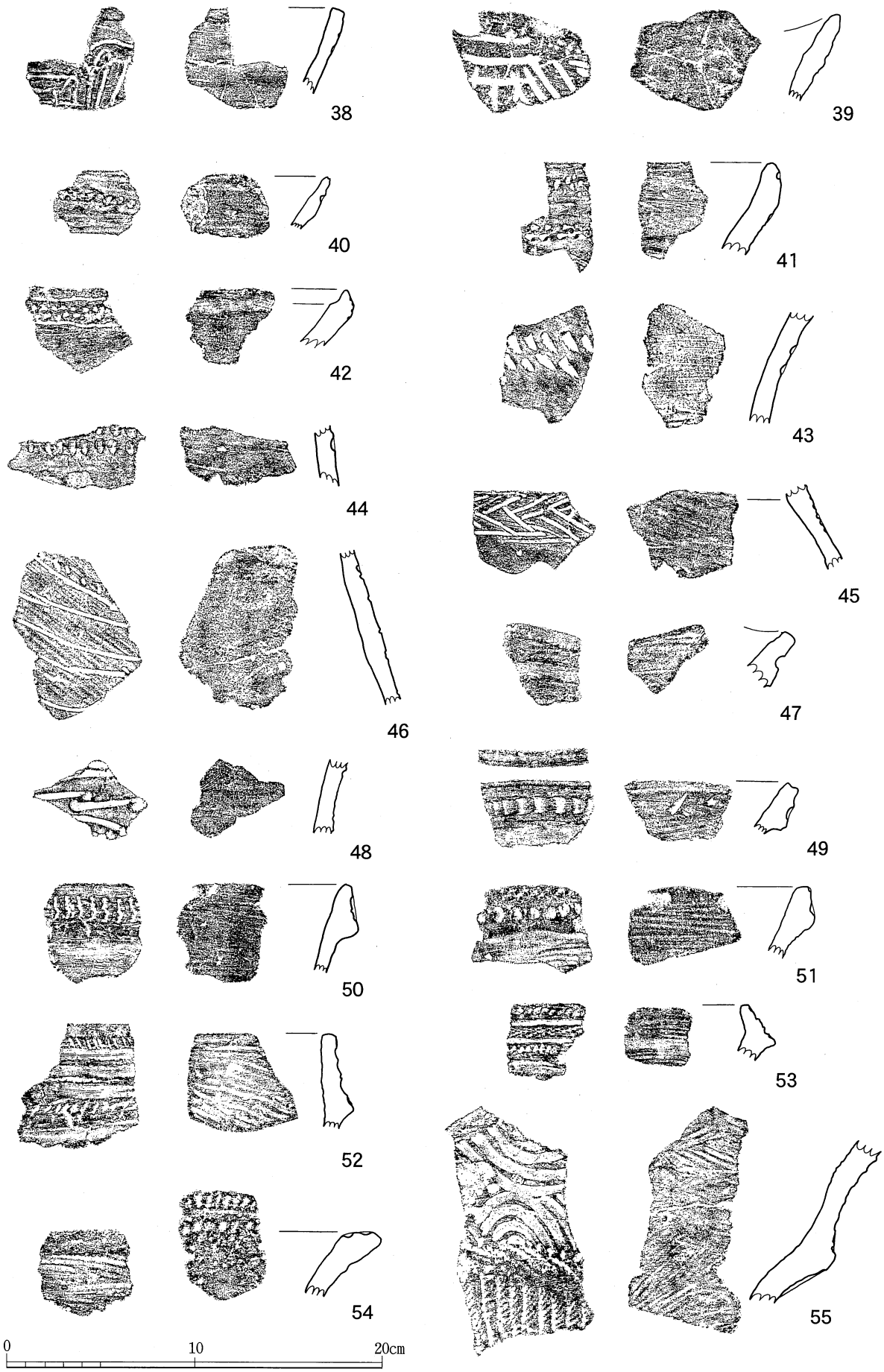
184・185は打製石鏃で、鏃身の中位からやや上で先端に向けて細くなる五角形に近い平面形に整形されている。186は石錐で、先端部を欠く。187は石皿、188は石錘である。189～193は石斧で、193には部分的に擦痕がみられる。194は長方形の偏平な石材の短側縁をうち打ち欠いて刃部を成形したもので、両面に擦痕がみられる。

第１表　西下本庄遺跡出土土器観察表(1)

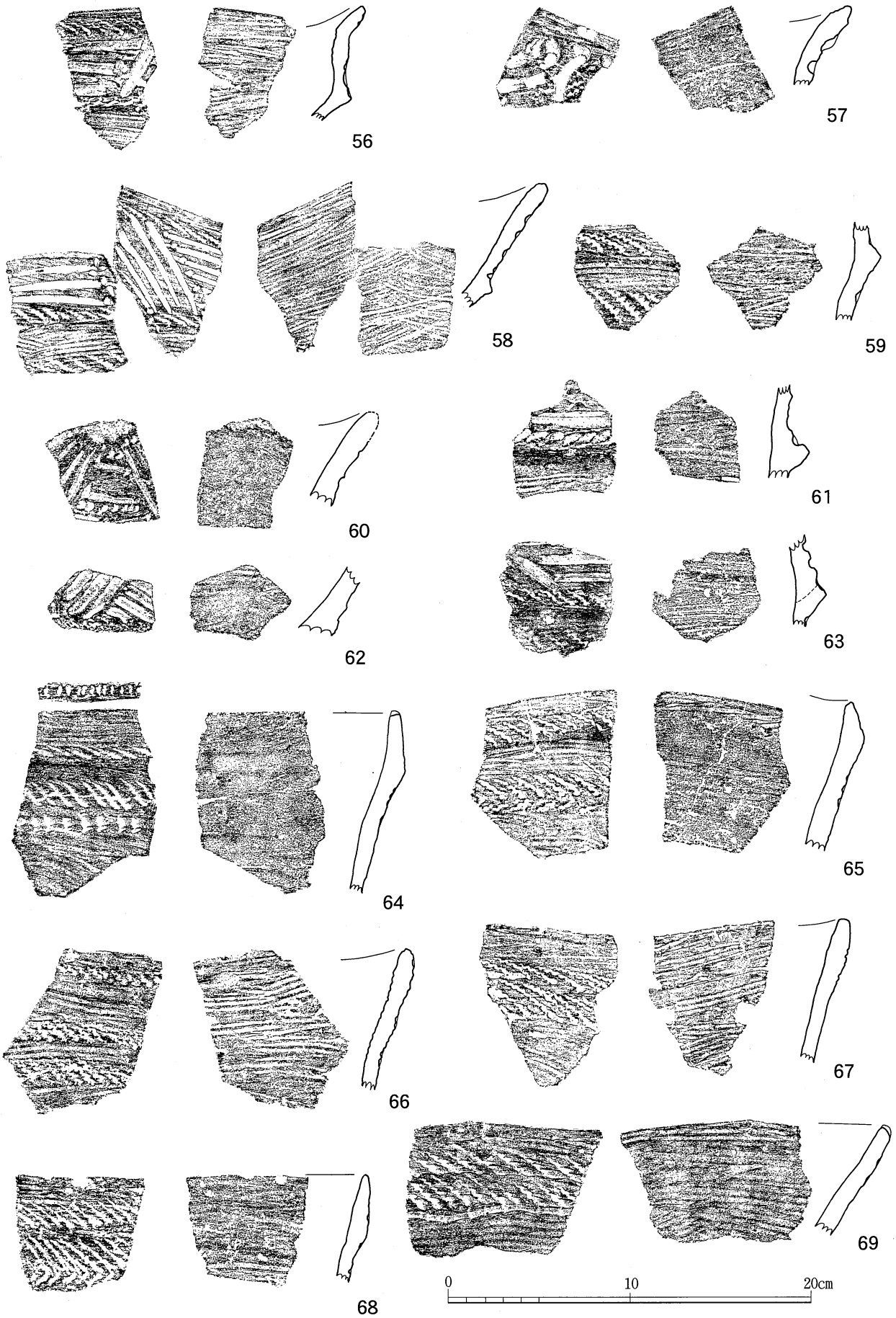
遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				撚糸紋、刻目突帯文、刺突文、ナデ	ミガキ	浅黄、黄灰	浅黄 にぶい黄橙	2㎜以下の灰白・褐灰・橙・赤褐色粒・透明光沢粒	妙見式
2	縄文土器	深鉢 頸部	包含層				撚糸紋、刻目突帯文、ナデ	ミガキ	浅黄	にぶい黄橙	2㎜以下の灰白・褐灰・橙色粒	妙見式
3	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	SA30	(32)			貝殻条痕、貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	橙 褐灰浅黄	橙	1㎜以下の白・黒色粒	外面にスス付着
4	縄文土器	深鉢 口縁部	SA30				ナデ 貝殻腹縁刺突文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	3㎜以下の褐色粒、繊細な淡黄色粒	波状口縁
5	縄文土器	深鉢 口縁部	SA30				ナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	3㎜以下の淡黄・灰・茶・褐色粒	口唇部に条痕文、波状口縁
6	縄文土器	深鉢 口縁部	SA30				ナデ	条痕、ナデ	にぶい褐 灰褐	にぶい褐	2㎜以下の白い黒色粒	外面にスス付着
7	縄文土器	深鉢 胴部	SA30				貝殻条痕、ナデ、貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	褐灰、橙	にぶい橙 褐灰	2㎜以下の灰・黒色粒	外面にスス付着
8	縄文土器	深鉢 胴部～底部	SA30		(7.4)		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙 にぶい褐	2㎜以下の褐・黒色粒、透明光沢粒、微細な淡黄色粒	
9	縄文土器	深鉢 底部	SA30		(9.0)		不明	不明	明赤褐 にぶい赤褐	明赤褐 にぶい黄橙	5㎜大の灰色粒、2㎜以下の淡黄・茶色粒	
10	縄文土器	深鉢 口縁部	SA31				ミガキ、沈線文	ミガキ	黒褐、黄褐	にぶい黄褐 黒褐	1㎜以下の灰・橙色粒、透明光沢粒	
11	縄文土器	深鉢 口縁部	SA31				貝殻条痕 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	橙 にぶい褐	にぶい赤褐 灰オリーブ	1㎜以下の白・黒色粒	
12	縄文土器	深鉢 底部	SA32		(10.5)		ナデ	ナデ	浅黄	浅黄、黄灰 明黄褐	5㎜以下の茶色粒、1㎜以下の黄緑色粒	
14	縄文土器	深鉢 口縁部	SC1				条痕、孔列文	条痕	黒褐	にぶい黄橙	1㎜以下の灰白・褐・にぶい赤・黒色粒、灰白光沢粒	
15	縄文土器	深鉢 底部	SC1		(11.2)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	2㎜以下の褐・灰色粒、半透明粒	
16	縄文土器	深鉢 口縁部	SC2				ナデ	ナデ	灰黄	灰白	2㎜以下の赤褐・黒色粒	
17	縄文土器	深鉢 口縁部	SC2				工具によるナデ	工具によるナデ	浅黄橙	にぶい橙	4㎜以下の褐灰色粒、透明光沢粒	
18	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	SC2	(54.2)			条痕、ナデ 孔列文	ナデ	暗灰黄	浅黄	1㎜以下の透明光沢粒を多量	
19	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	SC3				ナデ、突帯	ナデ	橙 にぶい黄橙	灰黄	2㎜以下の灰白・灰・褐・黒色粒を多量、1㎜以下の透明光沢粒を少量	内外面にスス付着
20	縄文土器	深鉢 口縁部	SC3				ナデ、突帯	ナデ	黒褐	黒褐	2㎜以下の灰白・黄白・褐色粒を多量	
21	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				工具によるナデ 貼付突帯	条痕、ナデ	にぶい黄褐	黒	1㎜以下の灰白・浅黄色粒、透明光沢粒を多量	
22	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、沈線文 刺突文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	微細な淡黄色粒、透明光沢粒	外面にスス付着、波状口縁
23	縄文土器	深鉢 口縁部	SE7				ナデ、貝殻腹縁刺突を伴う貼付突帯	ナデ	黒褐	灰黄褐、橙	2㎜以下の乳白・白色粒、透明・黒色光沢粒	
24	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				凹線文 貝殻腹縁刺突文	条痕	橙	にぶい黄橙	3㎜以下の黒色粒、1㎜以下の白・褐色粒、透明光沢粒	
25	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、短沈線文 口唇部に刺突文	条痕	にぶい黄橙	灰黄褐	3㎜以下の褐色粒、1㎜以下の乳白・茶色粒、透明・黒色光沢粒	
26	縄文土器	深鉢 口縁部	SE4				沈線文 口唇部に刺突文	不明	浅黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の透明・黒色光沢粒	
27	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、短沈線文 口唇部に沈線文	ナデ	にぶい黄橙	橙	2㎜以下の茶色粒、灰色光沢粒	
28	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ 貝殻腹縁刺突文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3㎜以下の灰・褐色粒	
29	縄文土器	深鉢 口縁部	SE5				ナデ、条痕 短沈線文	ナデ	にぶい褐 明褐	にぶい褐	微細な淡黄・橙・黒色粒を少量	
30	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、短沈線文	条痕	褐	にぶい黄橙	3㎜以下の褐・灰・茶色粒	
31	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、刺突文	ナデ、刺突文	にぶい褐	にぶい黄褐	1㎜以下の乳白色粒	波状口縁
32	縄文土器	深鉢 口縁部	SE4				条痕、端部を刺突する沈線文、口唇部に刻目	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3㎜以下の白・褐色粒	波状口縁
33	縄文土器	深鉢 口縁部	SA10				ナデ 貝殻腹縁刺突文	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	3㎜以下の褐色粒、1㎜以下の赤褐色粒	



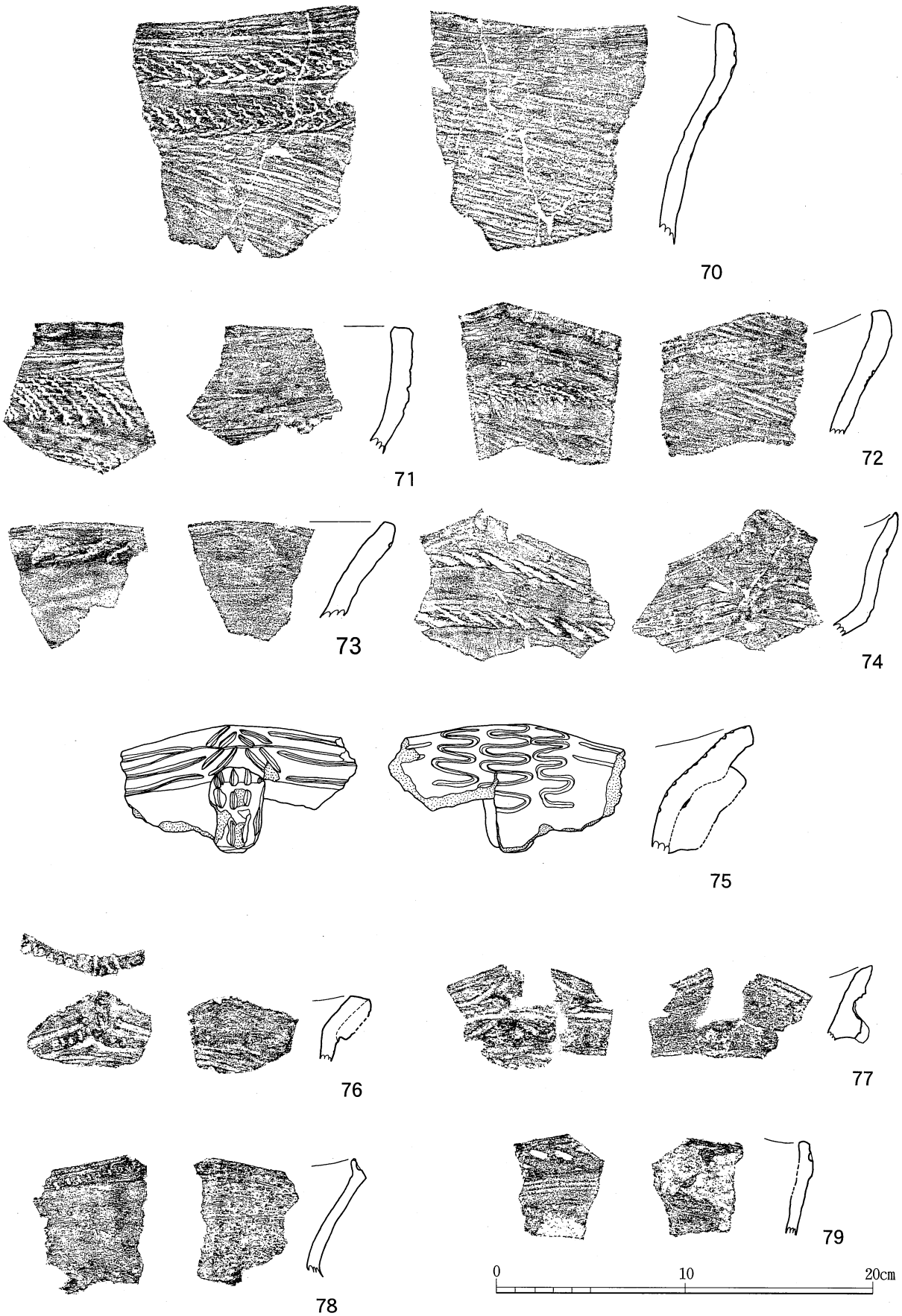
第11図　縄文土器実測図①（1／3）



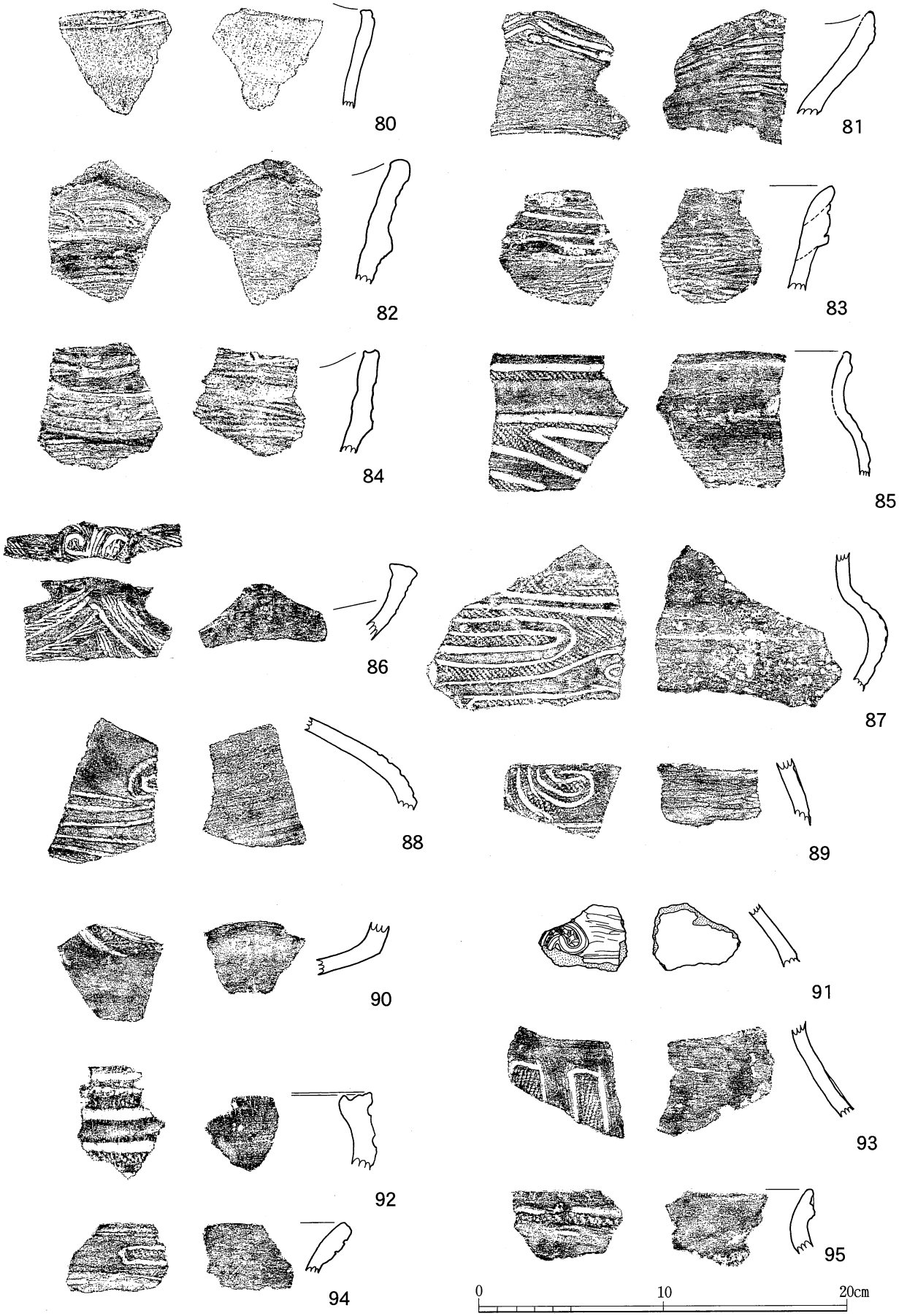
第12図　縄文土器実測図②（1／3）



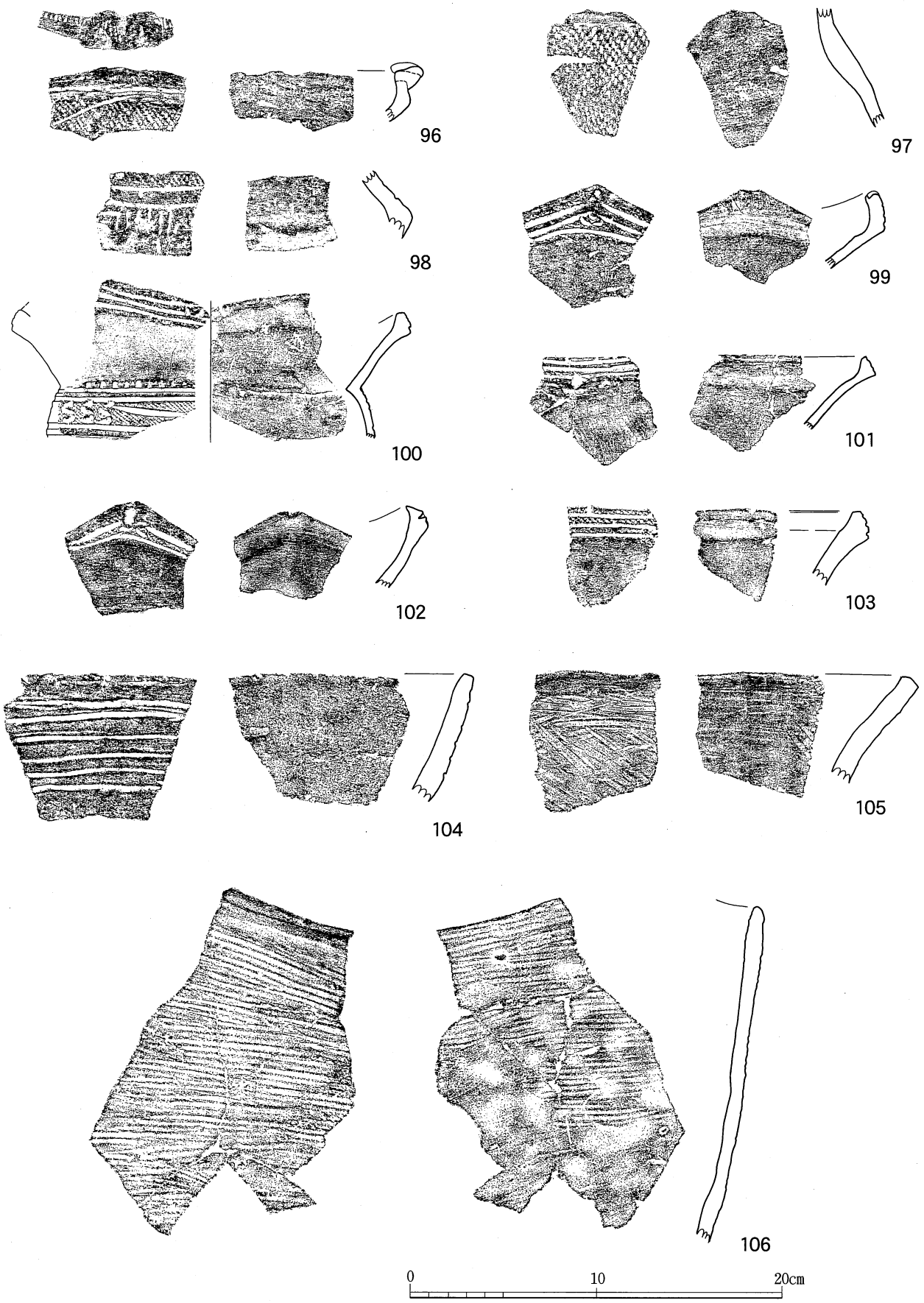
第13図　縄文土器実測図③（1／3）



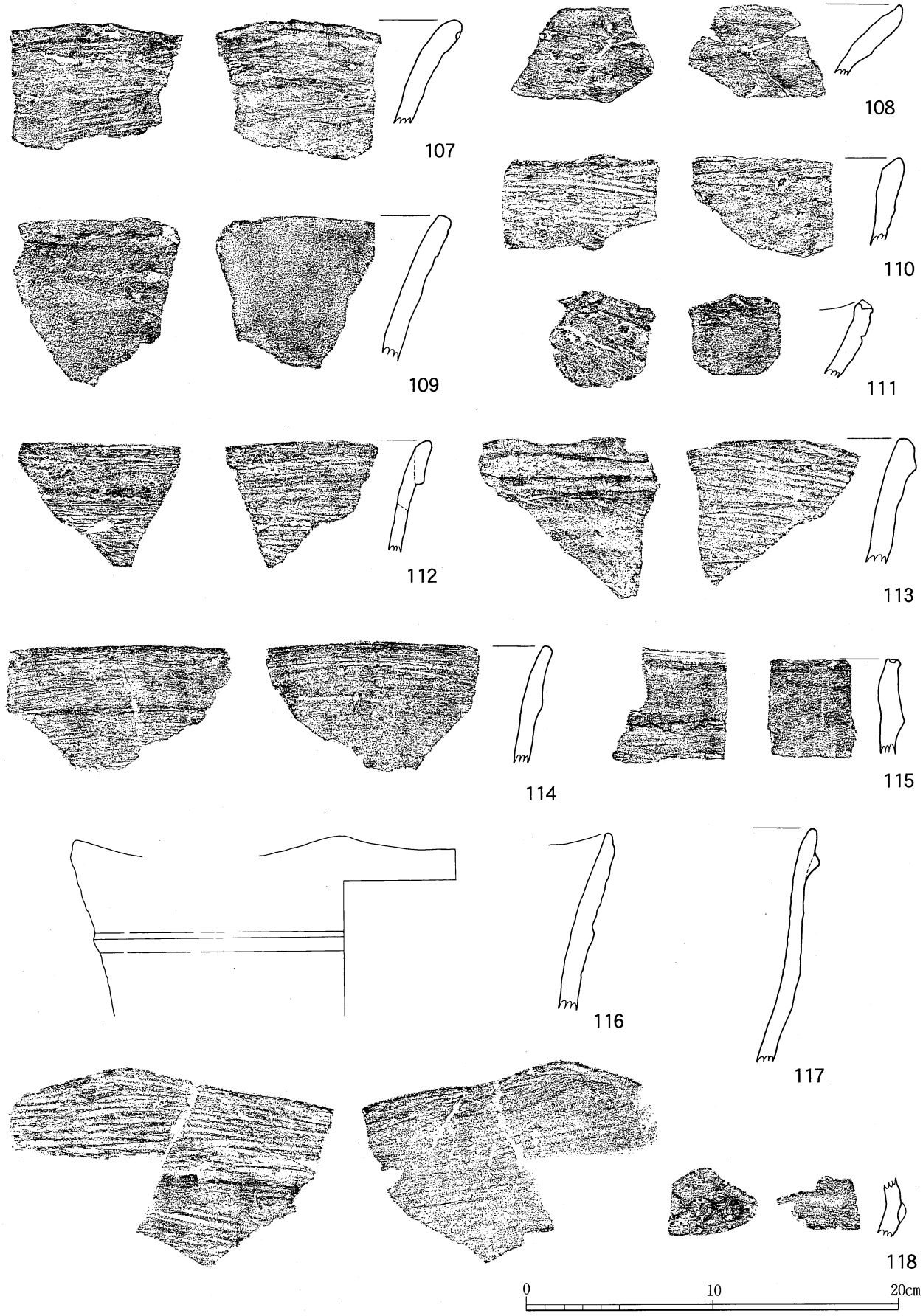
第14図　縄文土器実測図④（1／3）



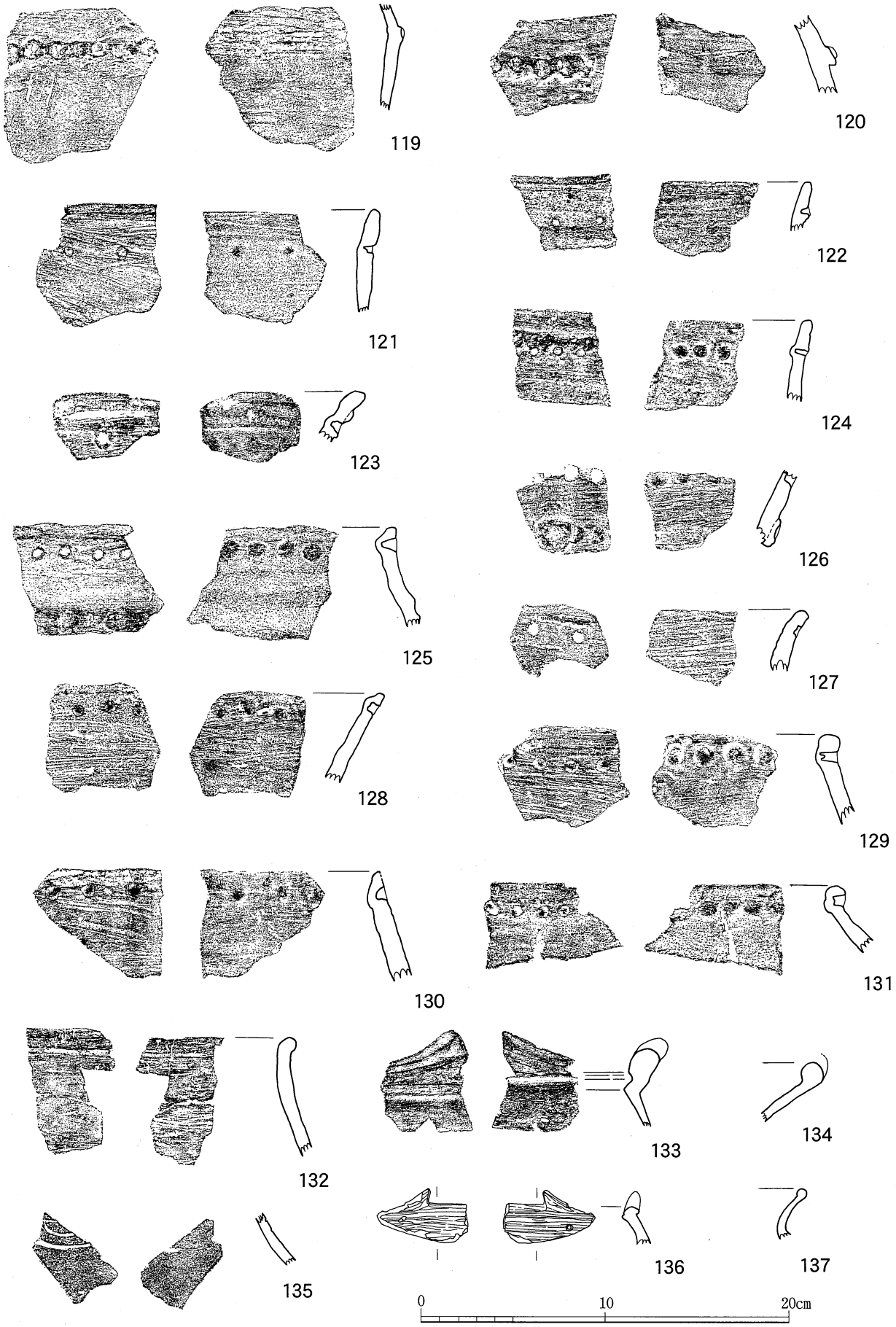
第15図　縄文土器実測図⑤（1／3）



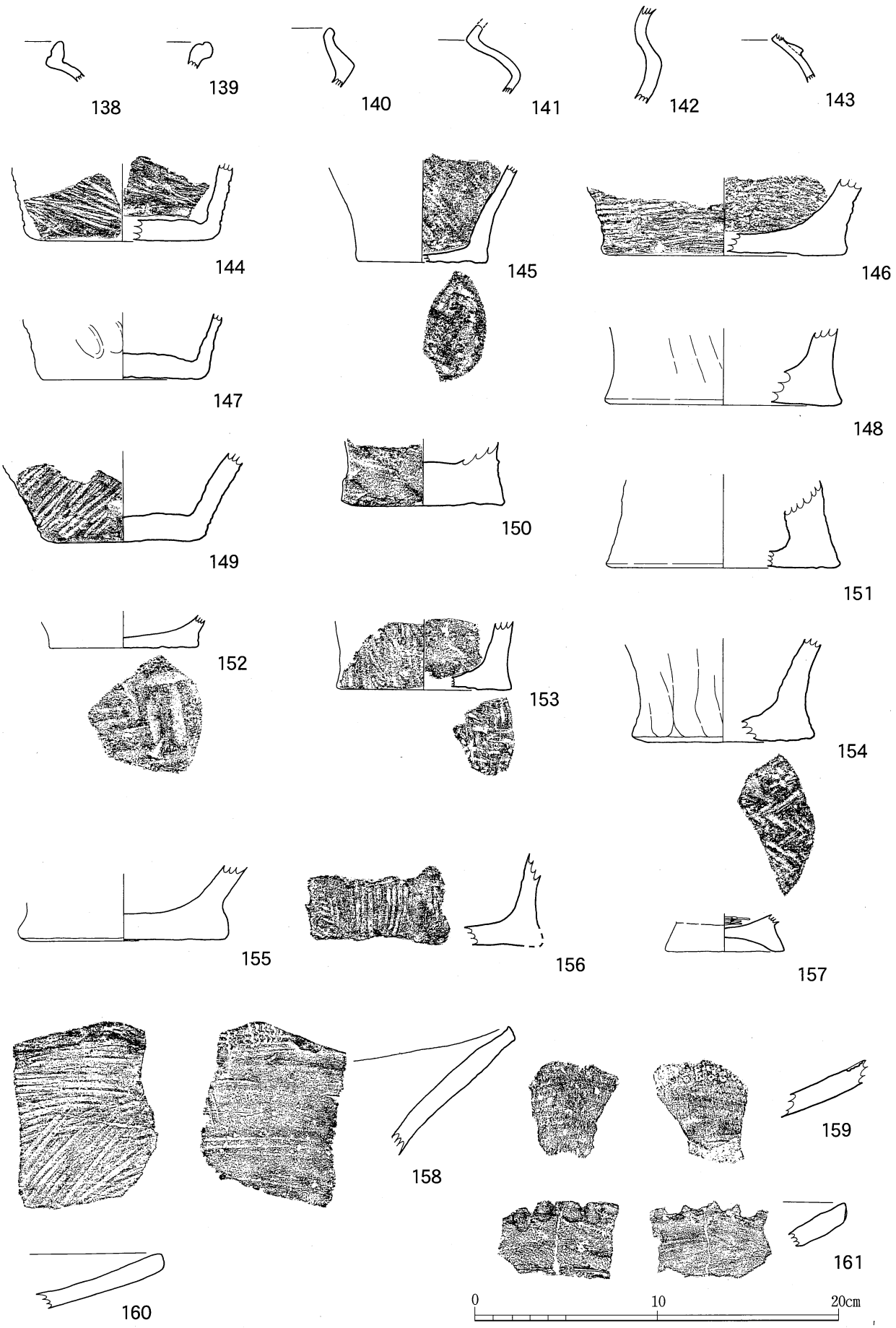
第16図　縄文土器実測図⑥（1／3）



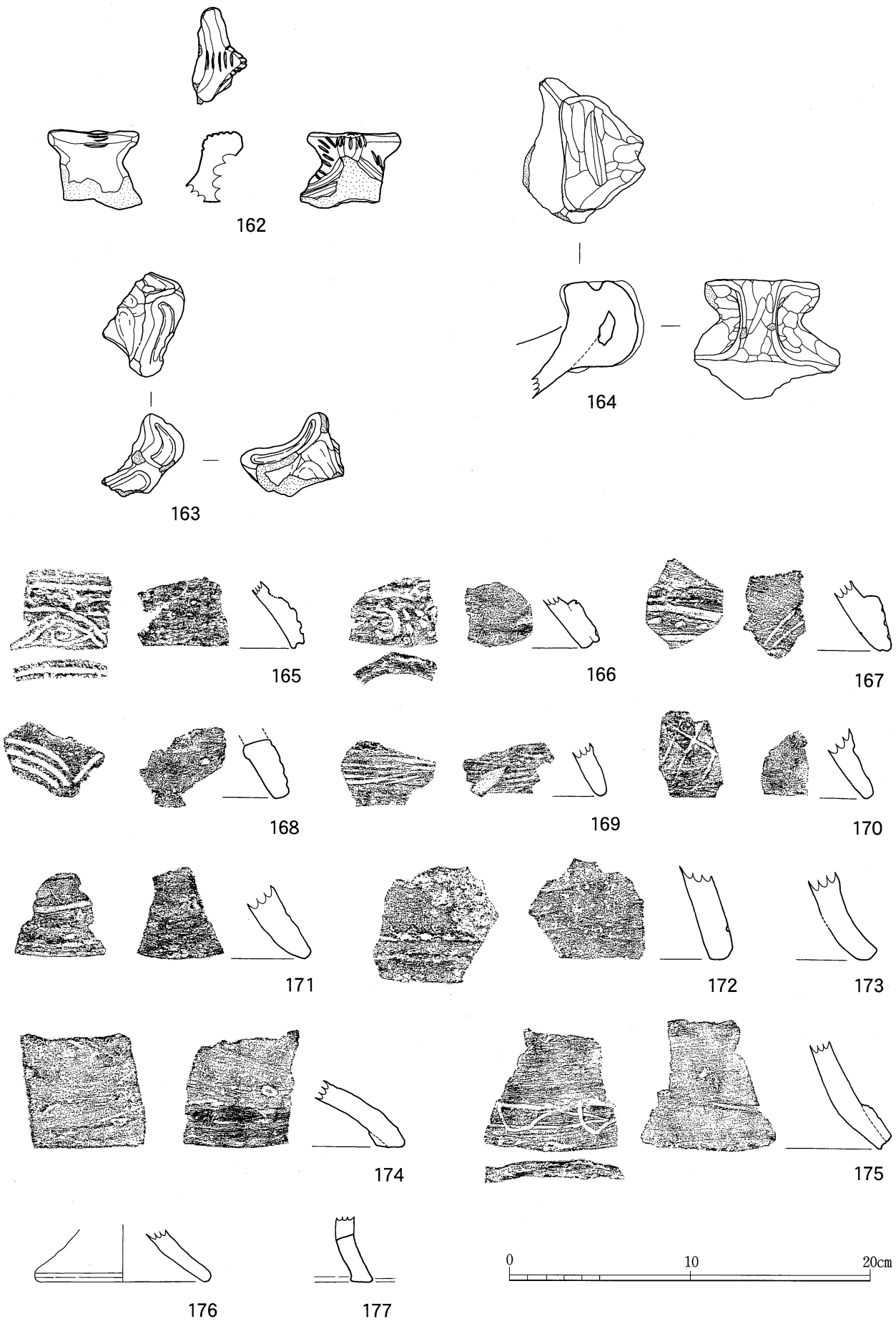
第17図　縄文土器実測図⑦（1／3）



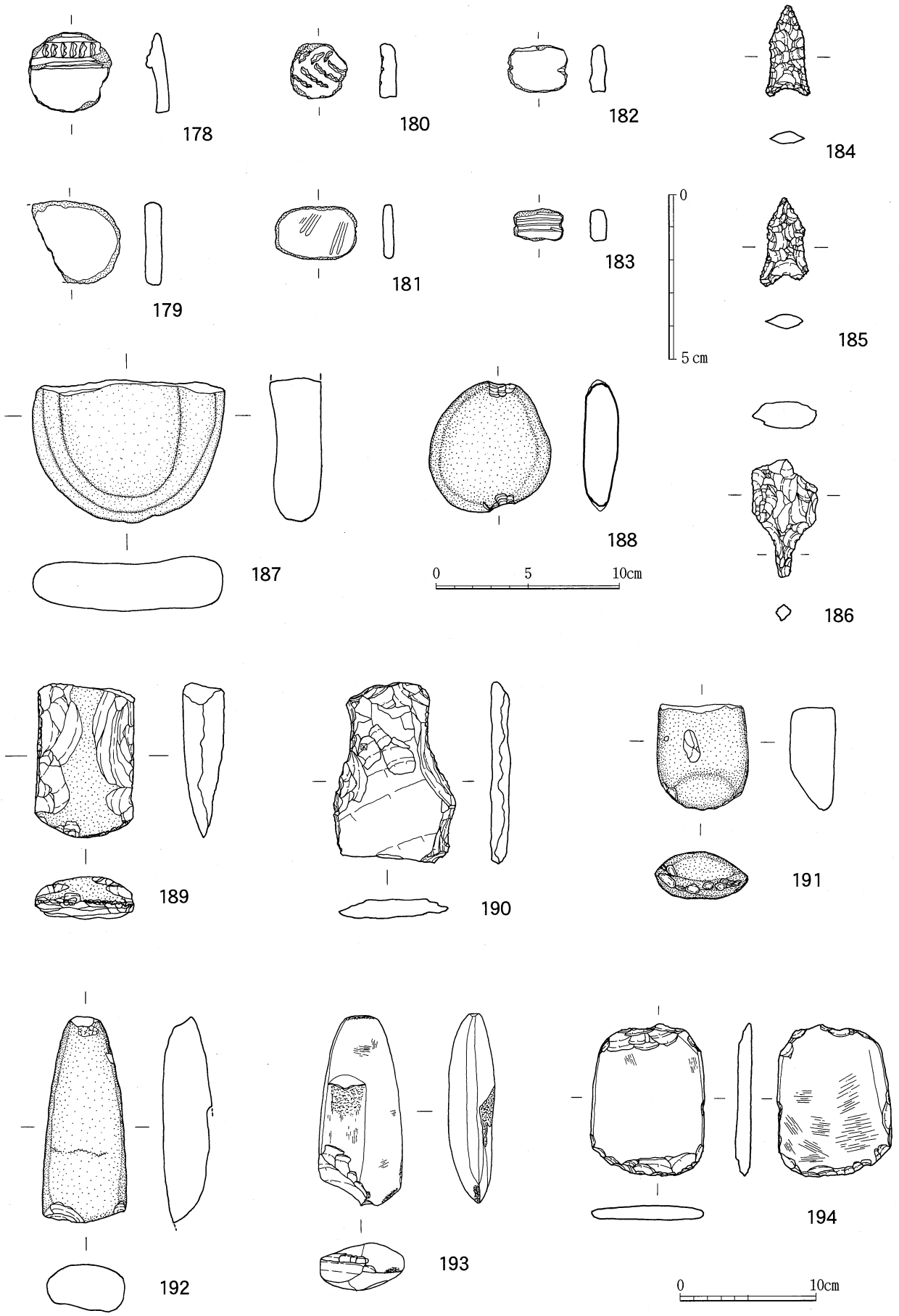
第18図　縄文土器実測図⑧（1／3）



第19図　縄文土器実測図⑨（1／3）



第20図　縄文土器実測図⑩（1／3）



第21図　土器片加工品及び石器実測図（184～186は３／５、188は１／３、その他は１／４）

第２表　西下本庄遺跡出土土器観察表

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
34	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、口唇部に連続押圧文、貝殻腹縁刺突文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	４㎜以下の茶色粒、２㎜以下の白・褐色粒	
35	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、沈線文 口唇部に沈線	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	２㎜以下の茶色粒を多量	
36	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ 口唇部に刺突文	ナデ	褐灰	にぶい橙 灰黄褐	３㎜以下の灰白・茶・褐・黒褐色粒	
37	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕、ナデ 口唇部に刻目	貝殻条痕	橙 にぶい黄橙	橙 にぶい黄橙	５㎜以下の灰褐色粒、２㎜以下のにぶい黄橙・灰白・黒色粒を少量	
38	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、沈線文	ナデ	褐灰	明赤褐	１㎜以下の灰褐・灰白・灰黄色粒	
39	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	３㎜以下の白色粒、１㎜以下の透明・黒色光沢粒	波状口縁
40	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、刺突文 口唇部に沈線	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	微細な淡黄・灰色粒を少量	
41	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、刺突文	ナデ	橙	橙	２㎜以下の淡黄・褐色粒、透明・黒色光沢粒	
42	縄文土器	深鉢 口縁部	SE8				ナデ、沈線文 刺突文	ナデ	橙	灰褐、橙	１㎜以下の灰・茶・黒色粒、透明光沢粒	
43	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				ナデ、刺突文	ナデ	褐	褐	１㎜以下の灰白・乳白色粒、透明・黒色光沢粒	
44	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				ナデ、刺突文	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	３㎜以下の茶・褐色粒	
45	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				ナデ、沈線文	ナデ	橙	明赤褐 浅黄	３㎜以下の灰褐色粒、１㎜以下の灰黄色粒、透明・黒色光沢粒	
46	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				条痕後ナデ 沈線文、刺突文	ナデ	橙	にぶい橙	４㎜以下の灰・茶・茶・褐色粒	
47	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、凹線文	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	１㎜以下の褐・黒色粒	波状口縁
48	縄文土器	深鉢 胴部	表土中				沈線文、刺突文	ナデ	明赤褐	にぶい赤褐	微細な灰色粒、１㎜以下の透明光沢粒	
49	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、刺突文 口唇部に凹線	ナデ	橙	にぶい黄橙	１㎜以下の灰色粒	
50	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ 貝殻腹縁刺突文	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	１㎜以下の乳白色粒	
51	縄文土器	深鉢 口縁部	柱穴状遺構				貝殻条痕、ナデ、刺突文、貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい褐	３㎜以下の黄白・灰色粒、１㎜以下の透明光沢粒	
52	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				条痕、凹線文、刺突文、貝殻腹縁刺突文	条痕	にぶい黄橙	にぶい黄褐	３㎜以下の茶色粒、１㎜以下の透明・黒色光沢粒	
53	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、沈線文 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	灰褐、黒褐	褐	２㎜以下の黄橙色粒、微細な透明光沢粒	
54	縄文土器	深鉢 口縁部	SC14				貝殻条痕	口唇部に沈線刺突文、貝殻腹縁刺突文	にぶい橙 橙	にぶい橙 灰褐	１㎜以下の白・灰・褐色粒	
55	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	包含層				凹線文 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕、ナデ	明赤褐 にぶい赤褐	明赤褐	２㎜以下の白・灰・褐色粒、金色光沢粒	波状口縁
56	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕、凹線文、刺突文、貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	にぶい褐	赤褐	３㎜以下の褐色粒、１㎜以下の透明・黒色光沢粒	波状口縁
57	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、凹線文、刺突文、貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	にぶい褐	明赤褐	１㎜以下の白・灰色粒、透明光沢粒	波状口縁
58	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕、沈線文、刺突文、貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	２㎜以下の黄白・灰・黒色粒、１㎜以下の透明光沢粒	波状口縁
59	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕、沈線文、貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	橙	橙	５㎜以下の茶色粒、１㎜以下の透明・黒色光沢粒	
60	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				凹線文、刺突文	ナデ	にぶい黄橙	褐	１㎜以下の白色粒、透明・光沢粒	波状口縁
61	縄文土器	深鉢 口縁部	柱穴状遺構				貝殻条痕、凹線文、刺突文	貝殻条痕	暗赤褐	にぶい赤褐 にぶい黄褐	微細な灰白・灰色粒、透明光沢粒	
62	縄文土器	深鉢 口縁部	柱穴状遺構				凹線文、刺突文	ナデ	黒褐	にぶい黄褐	４㎜以下の乳白色・灰白・黄褐色粒、微細な透明光沢粒	
63	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕、凹線文 貝殻腹縁刺突文	荒いナデ	にぶい褐	明赤褐	２㎜以下の茶色粒、１㎜以下の白色粒、透明・黒色光沢粒	
64	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕後ナデ、刺突文、口唇部に貝殻腹縁刺突文	ナデ	明赤褐 黒褐	明赤褐	５㎜以下の茶色粒、１㎜以下の透明・黒色光沢粒	
65	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	明赤褐	１㎜以下の褐色粒、透明・黒色光沢粒を多量	波状口縁
66	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	褐	赤褐	１㎜以下の白・灰色粒、微細な透明・黒色光沢物	波状口縁
67	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕後ナデ 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	６㎜以下の白色粒、１㎜以下の透明光沢粒	波状口縁
68	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕後ナデ 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	明赤褐	３㎜以下の白・茶色粒、２㎜以下の透明・黒色光沢粒	
69	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕、貝殻腹縁刺突文、口唇部の一部粘土貼付	貝殻条痕	黒褐	赤褐	５㎜以下の茶色粒、２㎜以下の透明・黒色光沢粒	
70	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	包含層				貝殻条痕 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕 ナデ	橙、灰褐	明赤褐	１㎜以下の白・灰色粒、透明光沢粒	波状口縁
71	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕後ナデ 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕後ナデ	橙	橙	５㎜以下の黄褐色粒、３㎜以下の茶色粒、２㎜以下の透明・黒色光沢粒	
72	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕後ナデ 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕後ナデ	橙	橙	微細な褐・黒褐色粒、透明光沢粒	波状口縁
73	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ 貝殻腹縁刺突文	ナデ	橙、灰褐	明赤褐 にぶい橙	２㎜以下の白・黄白・黒褐色粒、１㎜以下の透明光沢粒	
74	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				貝殻条痕後ナデ 貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	明赤褐	３㎜以下の褐色粒、１㎜以下の透明光沢粒	波状口縁
75	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、短沈線文、沈線文、刺突文を伴う橋手状の貼付文	ナデ、沈線文 波状の曲線文	明褐	橙、灰黄褐	２㎜以下の白色粒、１㎜以下の灰・褐色粒、透明光沢粒	波状口縁

第３表　西下本庄遺跡出土土器観察表

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
76	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				条痕、ナデ、沈線文、刻目突帯、口唇部に刻目	条痕後ナデ	明黄褐	にぶい黄橙	2㎜以下の乳白・茶色粒、透明光沢粒	波状口縁
77	縄文土器	深鉢 口縁部	SA14-P6				ナデ、沈線文、貼付突帯、刺突文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3㎜以下の灰・褐・黒褐色粒	波状口縁
78	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、刺突文	ナデ	灰黄褐	にぶい橙 褐灰	2㎜以下の灰褐・黄褐・黒褐色粒	波状口縁
79	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、刺突文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の乳白・灰色粒	波状口縁
80	縄文土器	深鉢 口縁部	SE７				ナデ、沈線文	ナデ	にぶい黄	暗灰黄	3㎜以下の褐・黒色粒	波状口縁
81	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ 沈線文、刺突文	条痕	黒褐	黒褐、褐	1㎜以下の乳白色粒、透明光沢粒	波状口縁
82	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				条痕、ナデ 凹線文	ナデ	黒褐	にぶい橙	3㎜以下の白・灰・褐・赤褐色粒、微細な透明光沢粒	波状口縁
83	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				条痕後ナデ 沈線文	条痕、ナデ	にぶい褐	褐	1㎜以下の白色粒、透明・黒色光沢粒	
84	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				条痕、凹線文 口唇部に凹線	条痕後ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙 褐灰	5㎜大の赤褐色粒、1㎜以下の白・褐色粒、微細な透明光沢粒	波状口縁
85	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	包含層				ナデ 縄文、凹線文	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	2㎜以下の乳白・茶・黒色粒、透明光沢粒	
86	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、沈線文 擬縄文	ナデ	褐灰	暗灰黄	2㎜以下の乳白・灰色・茶・黒色粒、1㎜以下の金色・透明光沢粒	
87	縄文土器	深鉢 頸部～胴部	包含層				ナデ、磨消縄文 沈線文	ナデ	黒褐	にぶい黄褐	2㎜以下の乳白・黄白・茶色粒、黒色光沢粒	
88	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				丁寧なナデ、磨消縄文、沈線文	丁寧なナデ	暗灰黄	黒褐 暗灰黄	4㎜以下の灰褐・黒褐色粒、2㎜以下の黒色光沢粒	内外面に炭化物付着
89	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				磨消縄文 沈線文	ミガキ	にぶい黄	灰黄褐	1㎜以下の乳白色粒	
90	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				ミガキ、磨消縄文、沈線文	ミガキ	暗灰黄 にぶい黄橙	灰黄褐	1㎜以下のにぶい黄橙・茶・黒色粒、透明光沢粒を少量	
91	縄文土器	深鉢 胴部	SA12				ミガキ、縄文 沈線文	ミガキ	にぶい赤橙	にぶい赤褐	2㎜以下の黄白色粒	
92	縄文土器	深鉢 口縁部	柱穴状 遺構				丁寧なナデ、縄文、凹線文、口唇部に沈線、刺突文	丁寧なナデ	明赤褐	明赤褐	1㎜以下の灰色・褐色粒、透明光沢粒	
93	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				ミガキ、磨消縄文、沈線文	ミガキ	褐灰	褐灰	2㎜以下の灰色・茶褐色粒を少量、微細な透明光沢粒を多量	
94	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ミガキ、磨消縄文、沈線文	ミガキ	灰褐 にぶい黄橙	黄灰	2㎜以下の灰白色粒を多量	
95	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、縄文 沈線文、刺突文	丁寧なナデ	橙	橙	2㎜以下の乳白・灰白色粒	
96	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ミガキ、磨消縄文、口唇部に刺突及び粘土貼付	ナデ	暗灰黄	暗灰黄	1㎜以下の白色粒、透明光沢粒	
97	縄文土器	深鉢 胴部	包含層				ナデ、縄文	ナデ	褐	にぶい赤褐	2㎜以下の乳白・淡黄・黒色粒、1㎜以下の金色・透明光沢粒	
98	縄文土器	深鉢 胴部	P-846				磨消縄文、沈線文	ミガキ？	にぶい黄橙 黄灰	黒	1㎜以下の明赤褐粒	
99	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ミガキ、磨消縄文、沈線文、刺突文	ミガキ	にぶい褐 明赤褐	灰褐 にぶい黄褐	2㎜以下の灰白・褐・黒色粒を少量	波状口縁
100	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	包含層	(20.5)			ミガキ、磨消縄文、沈線文、刺突文	ミガキ	明赤褐	赤褐	1㎜以下の黄灰・灰・褐・黒色粒、微細な黒・金色・透明光沢粒	波状口縁
101	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ミガキ、沈線文	ミガキ	橙 にぶい黄橙	明赤褐 赤橙	1㎜以下の灰・褐・黒色粒を少量	
102	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ミガキ、磨消縄文、沈線文、刺突文	ミガキ	褐灰	褐灰	2㎜以下の灰白・黄褐色粒、黒色光沢粒	波状口縁
103	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、磨消縄文 沈線文	ナデ	黒褐	暗褐	微細な透明光沢粒	
104	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、沈線文	ナデ	黄灰	黄灰	2㎜以下の白・褐色粒、2㎜以下の透明・黒色光沢粒	
105	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				条痕、ナデ	ナデ	暗赤褐	にぶい赤褐 灰褐	2㎜以下の黄褐、茶褐、褐色粒、透明光沢粒	
106	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	包含層				条痕	条痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な灰白・褐色粒、透明光沢粒	外面にススト付着、波条口縁
107	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				条痕後ナデ 刺突文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	5㎜大の茶褐色粒、1㎜以下の褐色粒、微細な透明光沢粒	外面にススト付着、波条口縁
108	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4㎜以下の灰白・灰褐・茶褐色粒	
109	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ	ナデ	黒褐	暗灰黄	1㎜以下の灰白色粒、透明光沢粒	
110	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				条痕	荒いナデ	浅黄	黄灰、浅黄	1㎜以下の褐灰・黒褐色粒	
111	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ 口唇部に刺突	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の乳白・灰白・黒褐色粒、透明光沢粒	波状口縁
112	縄文土器	深鉢 口縁部	SE2				条痕	条痕	淡黄	にぶい黄橙	5㎜以下の赤褐色粒、2㎜以下の透明光沢粒	
113	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、突帯	条痕後ナデ	橙 にぶい褐	橙、 にぶい黄	6㎜以下の褐色粒、1㎜以下の透明光沢粒	
114	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、突帯	条痕後ナデ	浅黄	黒	1㎜以下の乳白色粒、透明光沢粒	
115	縄文土器	深鉢 口縁部	SC14				ナデ、突帯 口唇部に凹線	ナデ	にぶい橙 黒褐	橙	1㎜以下の白・灰色粒	
116	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	包含層	(28.5)			条痕、突帯	ナデ	浅黄	浅黄、灰黄褐 にぶい褐	2㎜以下の灰白・褐・にぶい黄橙色粒、1㎜以下の透明光沢粒	波状口縁
117	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	柱穴状 遺構				荒いナデ、突帯	条痕	黄褐 にぶい黄褐	にぶい黄褐 灰黄褐	3㎜以下の灰白・黄褐・褐色粒、微細な透明・黒色光沢粒	

第４表　西下本庄遺跡出土土器観察表

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
118	縄文土器	深鉢 胴部	SE5				ナデ 刻目	ナデ	にぶい黄橙	淡黄	２㎜以下の灰・褐・茶色粒	
119	縄文土器	深鉢 胴部	柱穴状遺構				ナデ、刻目突帯	条痕後ナデ	にぶい褐 にぶい黄橙	オリーブ褐	１㎜以下の灰褐・黄褐・褐色粒	
120	縄文土器	深鉢 胴部	SE5				ナデ、刻目突帯	ナデ	灰黄褐	褐灰	１㎜以下の淡黄・灰色粒、透明光沢粒	
121	縄文土器	深鉢 口縁部	柱穴状遺構				ナデ、孔列文	条痕後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 褐灰	３㎜以下の乳白・灰褐・茶褐色粒を多量、微細な透明光沢粒	
122	縄文土器	深鉢 口縁部	柱穴状遺構				ナデ、孔列文 突帯	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	３㎜以下の灰白・灰褐・黄褐色粒、１㎜以下の黒色光沢粒	
123	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、孔列文 突帯	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	２㎜以下の乳白・茶褐・黒色粒、微細な透明光沢粒	
124	縄文土器	深鉢 口縁部	SE5				ナデ、孔列文 刻目突帯	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	３㎜以下の淡黄・褐・黒色粒、１㎜以下の黒色光沢粒	
125	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、孔列文 刻目突帯	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	２㎜以下の暗褐・褐灰色粒、微細な透明光沢粒	
126	縄文土器	深鉢 頸部	包含層				ナデ、孔列文 刻目突帯貼付文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	２㎜以下の褐色粒、１㎜以下の透明光沢粒	
127	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、孔列文	条痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙 橙	２㎜以下の灰白・褐灰・黒色粒、透明光沢粒	
128	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、孔列文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	３㎜以下の乳白・灰色粒	
129	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、孔列文	ナデ	明黄褐	にぶい黄橙	２㎜以下の褐灰・灰褐色粒、１㎜以下の白色粒、黒色光沢粒を少量	
130	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、孔列文	ナデ	浅黄	暗黄灰	２㎜以下の乳白・灰色粒	
131	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ナデ、孔列文	ナデ	浅黄橙	浅黄 にぶい黄橙	２㎜以下の褐灰・灰褐・茶褐色粒を多量	
132	縄文土器	深鉢 口縁部	包含層				ミガキ	ミガキ	黒	黒	３㎜以下の赤褐色粒、２㎜以下の灰白色粒	
133	縄文土器	浅鉢 口縁部	包含層				ミガキ	ミガキ	黄灰	黄灰	微細な乳白・黄灰色粒、透明光沢粒	口縁部にヒレ状の突起
134	縄文土器	浅鉢 口縁部	SE10				ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	橙	微細な灰白色粒、透明光沢粒	口縁部にヒレ状の突起
135	縄文土器	深鉢 胴部	SE5				ミガキ、沈線文	ミガキ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	微細な淡黄色粒を少量	
136	縄文土器	浅鉢 口縁部	SE8				ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	微細な淡黄色粒を少量	口縁部にヒレ状の突起
137	縄文土器	浅鉢 口縁部	SA23				ミガキ	ミガキ	にぶい橙 褐灰	褐灰 にぶい黄褐	微細な灰白色粒を少量	
138	縄文土器	浅鉢 口縁部	SE10				不明	ミガキ、ナデ	明黄褐	明黄褐	１㎜以下の褐色粒、黒色光沢粒を少量	
139	縄文土器	浅鉢 口縁部	柱穴状遺構				ミガキ	ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	２㎜以下の灰・にぶい橙色粒	
140	縄文土器	浅鉢 口縁部	包含層				ミガキ	ミガキ	黄灰	灰	１㎜以下の乳白色粒	内外面に赤色顔料付着
141	縄文土器	浅鉢 頸部～胴部	柱穴状遺構				ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐 橙	明赤褐 灰黄褐	１㎜以下の白色粒	
142	縄文土器	浅鉢 頸部～胴部	包含層				ミガキ	ミガキ	にぶい橙	灰褐	１㎜以下の乳白色粒	
143	縄文土器	浅鉢 頸部～胴部	SE8				ミガキ、突帯？	ミガキ	黄灰	黄灰	１㎜以下の黄白色粒、微細な透明光沢粒	
144	縄文土器	深鉢 底部	包含層		(9.2)		条痕、ナデ	条痕、ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	１㎜以下の乳白・黄褐・褐色粒、透明光沢粒	
145	縄文土器	深鉢 底部	包含層		(7.1)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	５㎜大の茶褐色粒、３㎜以下の灰・褐・茶・黒褐色粒	網代底
146	縄文土器	深鉢 底部	包含層		(11.6)		条痕、ナデ	条痕、ナデ	にぶい黄橙	灰黄	３㎜以下の灰白・茶褐・黒褐色粒	
147	縄文土器	深鉢 底部	包含層		(8.8)		指ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	３㎜以下の灰・褐色粒、微細な淡黄色粒	鯨底？
148	縄文土器	深鉢 底部	包含層		(12.8)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄褐	にぶい褐	４㎜以下の灰・褐・茶・黒褐色粒	
149	縄文土器	深鉢 底部	包含層		(9.0)		条痕	ナデ	明赤褐	にぶい赤褐	３㎜以下の灰・茶褐・黒色粒	
150	縄文土器	深鉢 底部	包含層		9.0		工具による荒いナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐 にぶい黄橙	３㎜以下の淡黄・灰・褐色粒	
151	縄文土器	深鉢 底部	包含層		(11.3)		ナデ	ナデ	暗灰黄	にぶい黄褐	４㎜以下の灰白・褐・黒褐色粒、透明光沢粒	
152	縄文土器	深鉢 底部	SA26		(10.8)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	２㎜以下の灰白・褐・黒色粒	網代底
153	縄文土器	深鉢 底部	包含層		(9.6)		条痕	ナデ	橙 にぶい黄橙	にぶい橙	６㎜以下の乳白・茶褐・黒褐色粒	網代底
154	縄文土器	深鉢 底部	SA10		(10.0)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	３㎜以下の褐・灰褐色粒	網代底
155	縄文土器	深鉢 底部	SE10		11.1		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄褐	にぶい黄橙	３㎜以下の黄白・赤褐・黒褐色粒、１㎜以下の透明・黒色光沢粒	
156	縄文土器	深鉢 底部	SA16				条痕、ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	４㎜以下の灰褐色粒、１㎜以下の透明光沢粒	
157	縄文土器	？ 底部	SE7		6.5		ナデ	ミガキ	浅黄	黄灰	１㎜以下の白色粒、透明・黒色光沢粒	
158	縄文土器	台付皿形土器 口縁部～胴部	包含層				貝殻条痕、ナデ	ナデ、波状部に貝殻腹縁刺突	にぶい赤褐	赤褐	２㎜以下の赤褐・黒色粒、１㎜以下の透明光沢粒	波状口縁
159	縄文土器	台付皿形土器 口縁部	包含層				ナデ	丁寧なナデ 刺突文	にぶい褐	にぶい褐	２㎜以下の灰・茶・黒色粒	

第５表　西下本庄遺跡出土土器観察表

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
160	縄文土器	台付皿形土器 口縁部	SA20				丁寧なナデ	丁寧なナデ	黒褐、褐	にぶい黄褐 赤褐	１㎜以下の灰白色粒、透明光沢粒	
161	縄文土器	台付皿形土器 口縁部	柱穴状遺構				ナデ 口唇部の刻目	ナデ	灰褐	にぶい黄褐 にぶい橙	１㎜以下の乳白・橙色粒を少量	
162	縄文土器	台付皿形土器 口縁部	包含層				凹線文、刺突文	ナデ	明赤褐	橙	１㎜以下の灰黄・黒色粒	
163	縄文土器	台付皿形土器 口縁部	包含層				ナデ、凹線	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	４㎜以下の灰白・茶褐色粒を多量	
164	縄文土器	台付皿形土器 口縁部	包含層				ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐 にぶい黄橙	１㎜以下の黄白・褐・赤褐色粒、透明光沢粒	内外面に白色、赤色顔料付着
165	縄文土器	台付皿形土器？ 脚・裾部	包含層				沈線文	ナデ	明赤褐	にぶい黄褐	２㎜以下の透明光沢粒	
166	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				ナデ、沈線文 刺突文	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	２㎜以下の褐色粒、１㎜以下の透明・黒色光沢粒	
167	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				ナデ、沈線文 刺突文	ナデ、沈線文	黒褐	灰黄褐	１㎜以下の白・灰黄・黒色粒、透明光沢粒	
168	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				ナデ、沈線文 円形透し	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐 橙	２㎜以下の乳白・灰白・淡黄茶褐・黒色粒、透明光沢粒、柱状の黒色光沢粒	
169	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				条痕 貝殻腹縁刺突文	条痕	黒褐	褐	１㎜以下の黄灰・黒色粒を少量	２つの穿孔有り
170	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				ナデ、沈線文	ナデ	赤褐	にぶい赤褐	１㎜以下の白色粒、透明光沢粒	
171	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	SE10				ナデ、沈線文 刺突文？	ナデ	明赤褐	明赤褐	４㎜大の橙色粒、微細な白・黄白色粒	
172	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				ナデ 貝殻腹縁刺突文	丁寧なナデ	明赤褐	明赤褐	１㎜以下の白・褐色粒、透明・黒色光沢粒を多量	
173	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				ナデ	ナデ	赤褐	にぶい赤褐 黒褐	２㎜以下の乳白・黒色粒、透明光沢粒	
174	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				荒いナデ	荒いナデ	橙	橙	１㎜以下の乳白・黒色粒、透明光沢粒	天地逆の可能性有り
175	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				ミガキ、貼付突帯、沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄褐 暗灰黄	にぶい黄褐 黒褐	８㎜大の褐色粒、５㎜以下の灰・茶・褐色粒、１㎜以下の淡黄色粒、黒色光沢粒	
176	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	SA2		(12.0)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 橙	にぶい黄橙 橙	１㎜以下の黄白・褐色粒、透明光沢粒	
177	縄文土器	台付皿形土器 脚・裾部	包含層				ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	１㎜以下の灰白・褐・黒褐色粒、黒色光沢粒	透し有り

第６表　西下本庄遺跡出土土製品計測表(1)

遺物番号	器種	出土地点	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	備考
178	土器片加工円盤	包含層	5.8	6.0	1.4	42.0	市来式系
179	土器片加工円盤	包含層	6.0	6.3	1.2	48.0	
180	土器片加工円盤	柱穴状遺構	4.2	4.2	1.2	24.0	市来式系
181	土器片錘	包含層	3.9	6.0	0.8	22.0	
182	土器片錘	包含層	3.4	4.3	1.2	20.0	
183	土器片錘	包含層	2.4	3.9	1.2	12.0	

第７表　西下本庄遺跡出土石器計測表

遺物番号	器種	出土地点	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材	備考
13	石錘	SA33	9.6	8.9	3.1	340.0	砂岩	
184	石鏃	撹乱中	2.8	1.3	0.4	1.2	チャート	
185	石鏃	SA8	2.7	1.5	0.4	1.5	チャート	
186	石錐	表土	3.6	2.0	0.8	5.5	チャート	先端部欠損
187	石皿	包含層	10.5	14.0	3.8	850.0	砂岩	
188	石錘	包含層	7.2	6.7	1.9	120.0	砂岩	
189	石斧	SC15	11.2	7.2	3.1	320.0	砂岩	
190	石斧	包含層	13.3	8.8	1.4	220.0	頁岩	
191	石斧	包含層	7.7	6.7	3.7	240.0	砂岩	
192	石斧	柱穴状遺構	15.0	6.2	3.5	460.0	砂岩	
193	石斧	包含層	13.8	6.2	3.4	380.0	砂岩	擦痕あり
194	石斧？	包含層	11.1	8.3	1.1	160.0	頁岩	擦痕あり

第２節　古墳時代の遺構と遺物

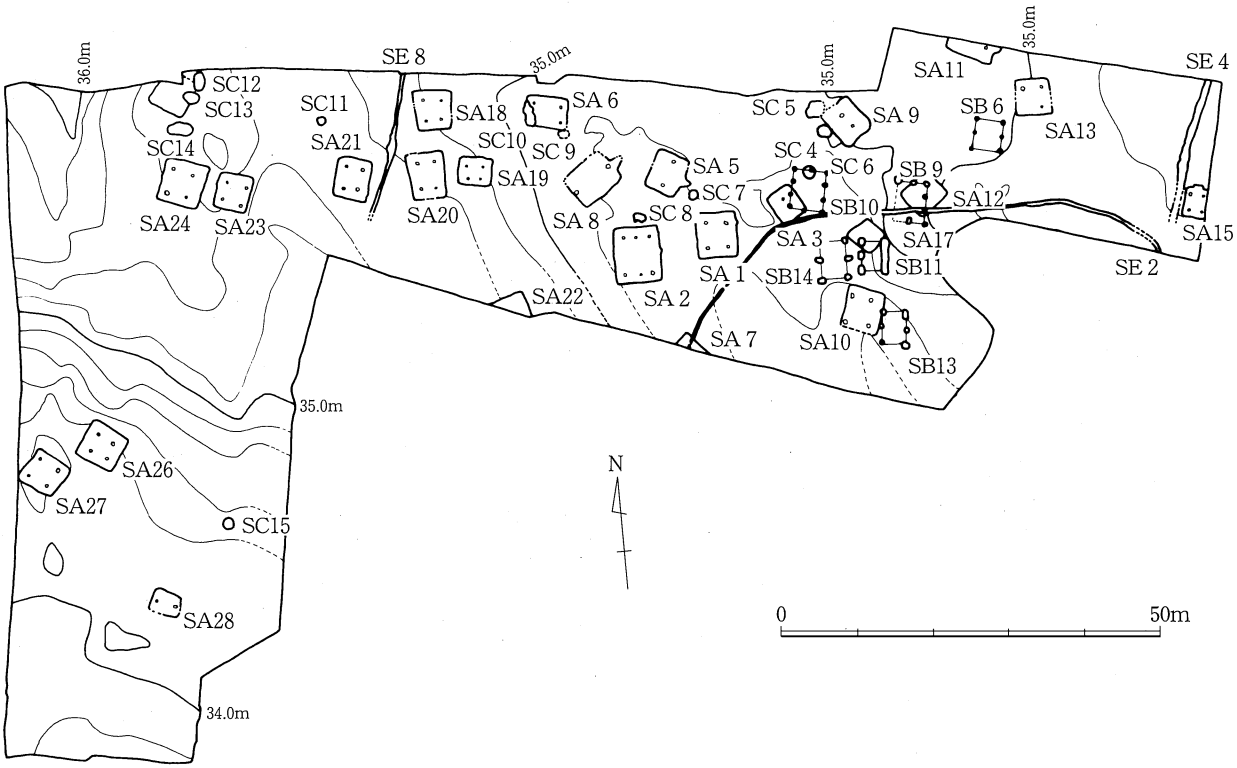
古墳時代の遺構として確認されたものは、竪穴住居25軒、掘立柱建物６棟、土坑11基、溝状遺構３条である（第22図）。遺構内及び包含層中から多くの土器、石器、鉄器が出土しているが、前期～後期におよぶ時期差が伺われる。

(1)　遺構及び出土遺物

a　竪穴住居

ＳＡ１（第23図）

ＳＡ１は調査区のほぼ中央に位置し、ＳＢ15によって切られる。南北方向がやや長い方形プランを呈し、南北約5.8m、東西約5.3mを計る。床は遺構構築時の堀底から５～10cmほどアカホヤ火山灰粒子を多く含む黒色土によって整地されたいわゆる貼り床である。主柱穴は４本とみられ、その距離は長軸方向が約3.3m、短軸方向が約2.6m、床面からの深さは約50～60cmである。床面中央部のやや南東よりに径40cm、深さ20cmほどの掘り込みがみられ、その中に胴部上半を欠いた甕が置かれていた。この甕の周囲の土は焼けており、甕内部の土には多くの炭化物が含まれていたことから火所として利用された可能性が高い。また、東側壁面の中央やや北よりに10～20cm大の石が径30cm、高さ40cmほどに積み上げられたものが30cmの間隔を置いて２カ所みられた。この石組の間にも炭化物がみられたことから、ここも火所として利用された可能性が考えられる。



第22図　古墳時代遺構分布図（１/1000）

遺物の出土は少なかったが、北西隅で須恵器の甕破片、北東隅の石組周辺で礫の出土が多くみられた。195～197・199・200は土師器の甕である。胴部で最大径を計るものが多く、胴部上半の内面に粘土帯の接合痕跡を残すものがみられる。200には穿孔がみられる。198は底部に単孔を有する甑の底部で甕と類似した胴部形状を呈する。201～203は土師器の壺の底部か。204～206は土師器の坏で、204・206は器形や内外面のミガキ調整など類似する点がみられるが、器壁の厚さや胎土が異なる。205はやや小型で胎土・調整とも粗く、底部が明瞭な平底を呈する。207は須恵器の坏蓋で、口縁部内面に段を有し、口縁部と天井部の境に浅い凹線状の窪みがみられる。208は外面に格子目タタキがみられる須恵器の甕で、内面の当て具痕が上位と下位で異なる。209は長頸鏃、210は軽石製の石器で、丸みを帯びた側面が摩耗のためか滑らかである。

ＳＡ２（第24図）

ＳＡ２はＳＡ１の５ｍほど西側に位置し、主軸方向がほぼ一致する。南北方向に長い長方形プランを呈し、長軸方向で約7.3ｍ、短軸方向で約6.2ｍを計る。遺構構築時の堀底の直上には基本土層のＶ・Ⅵ層ブロックを多く含む土の堆積が10cmほどみられ、貼床の可能性も考えられるが、表面の硬化は認められなかった。主柱穴は長軸方向に２本、短軸方向に３本の６本柱とみられ、柱間は長軸方向で約５ｍ、短軸方向で1.7～2.1ｍを計る。床面からの主柱穴の深さは70～80cmほどとかなり深い。床面中央部のやや南よりに長軸１ｍ・短軸50cm・深さ15cmほどの不正形な堀込みを有し、その中央部には胴部上半を欠いた甕がみられた。この甕周辺の土は焼けており、火所として利用された可能性が高い。

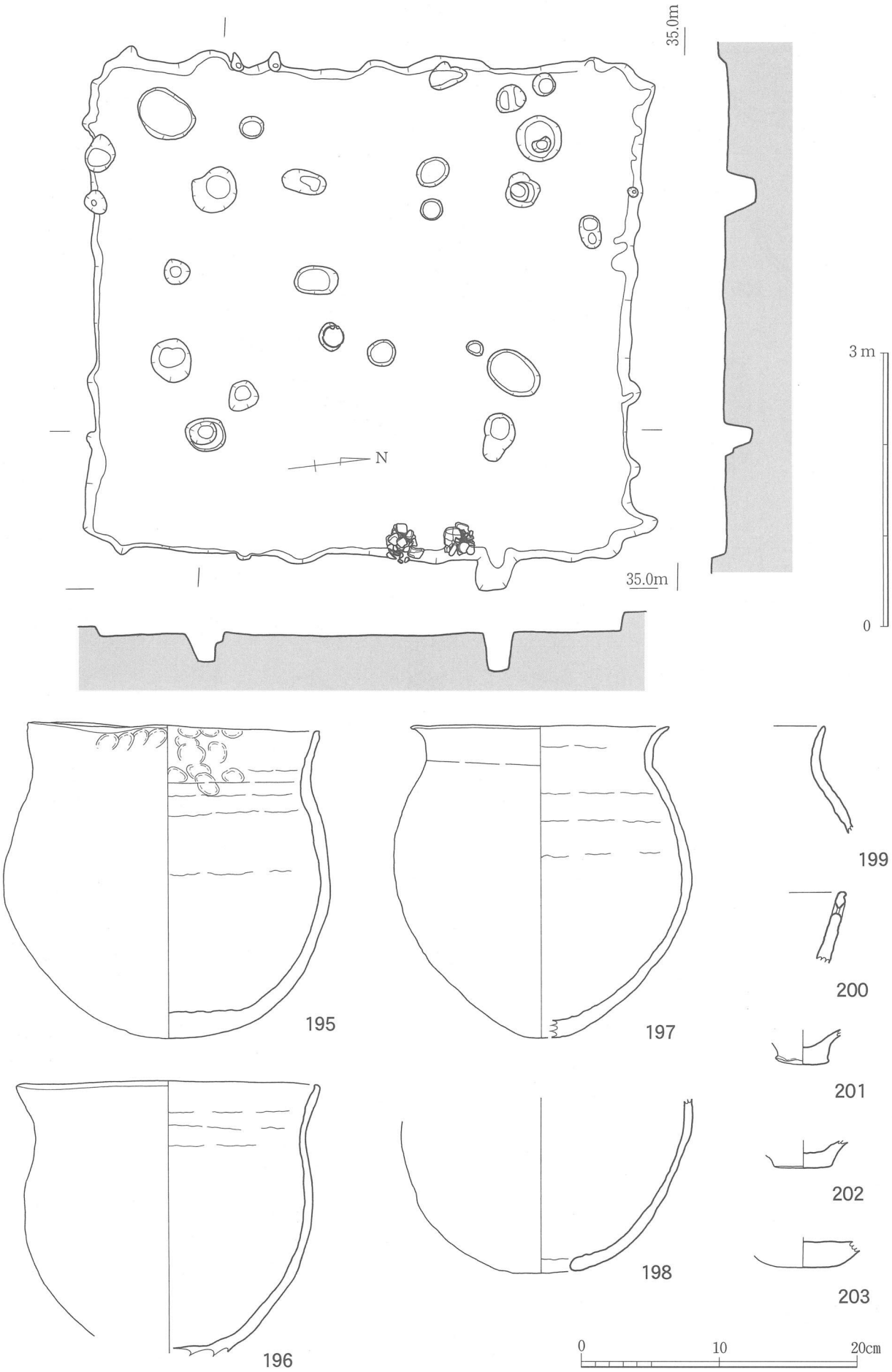
この住居は本遺跡において検出されたものとしては最も大型であり、構造的にも短軸方向に多くの柱を配している点で他の住居と異なる。

遺物は礫が多く、土器も細片で全体にまばらに出土している。

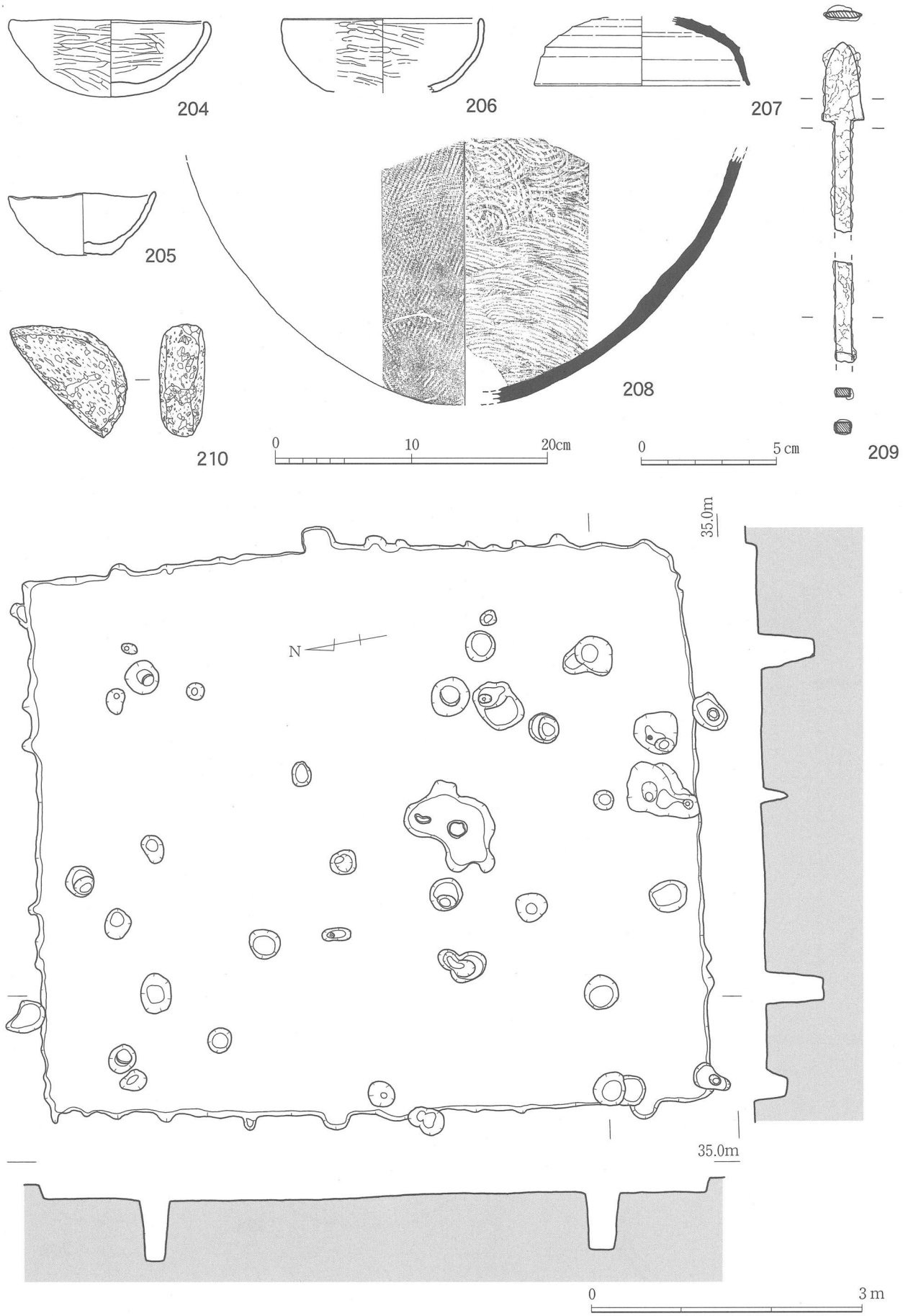
211～227は土師器である。211～214は甕で、211・213は器形や口縁部から頸部付近の外面に粘土帯の接合痕跡を明瞭に残す共通した特徴がみられる。215は口縁部が屈曲して注ぎ口状になる可能性があり、鉢とみられる。216は直線的に立ち上がるやや外傾した口縁部で、甕もしくは甑の可能性がある。217は内傾する口縁部で、無頸の壺の可能性がある。218～220は甕の底部、211は高坏の脚柱部である。222～224は坏蓋で、口縁部と天井部の境に段を持ち、内外面に丹塗りとミガキ調整がみられる。225は坏身で内外面に丹塗りとミガキ調整がみられる。226は壺の口縁部で、頸部に布状の圧痕を残す刻目が施された貼付突帯が巡る。227は卵倒形の胴部からやや外反しながら立ち上がる頸部をもつ長頸壺である。228はやや肥厚する口縁部をもつ須恵器の甕で、胴部外面に平行タタキ後カキメ調整、内面に同心円状の当て具痕がみられる。229は土師器の底部に穿孔して紡錘車として転用したものとみられる。230は偏平な円形の砂岩の縁辺を両面から敲打調整して刃部を造出したもので、刃部は使用によりつぶれている。

ＳＡ３（第26図）

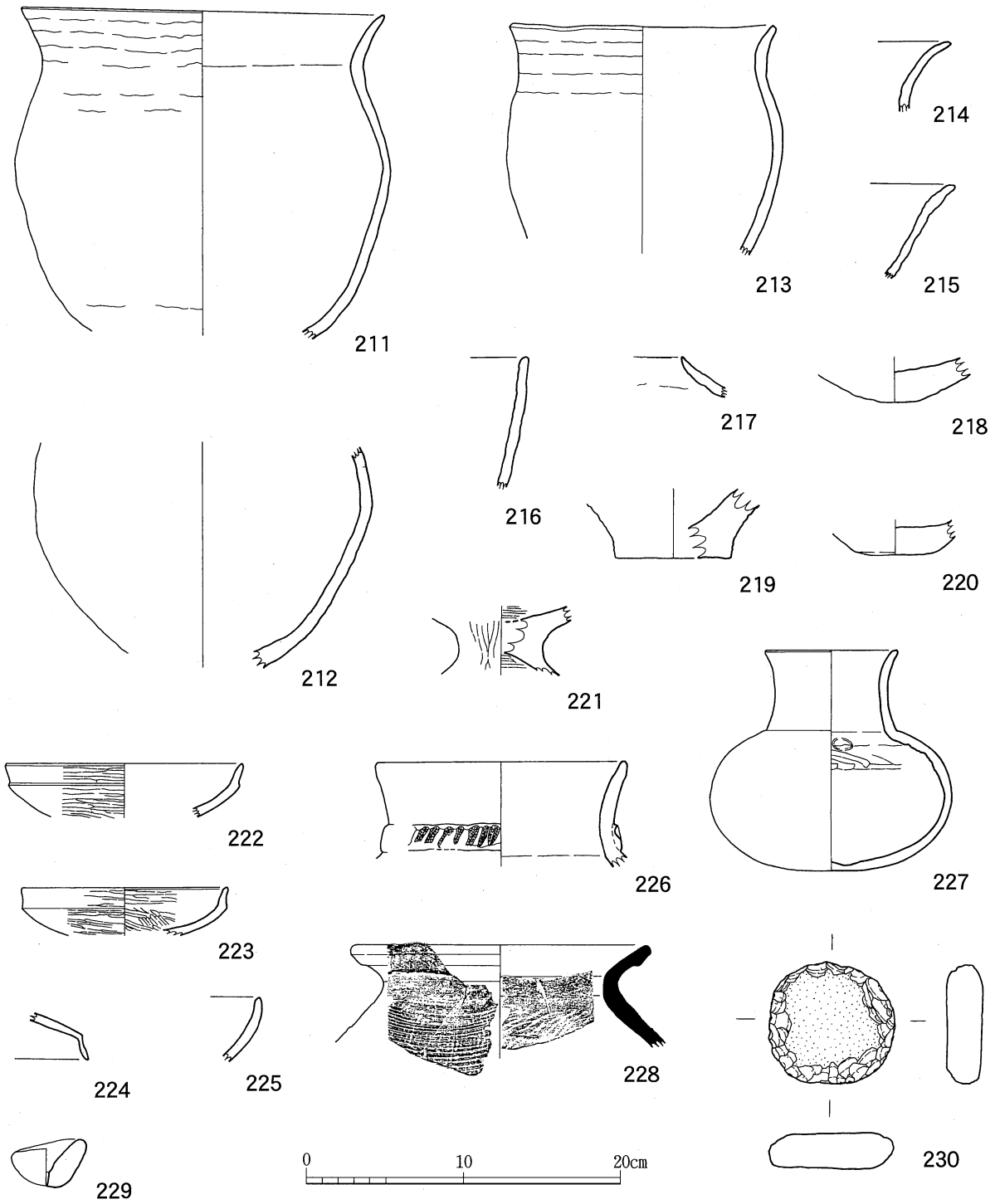
ＳＡ３はＳＡ１から北東に約５ｍほど離れて位置し南の隅をＳＥ２およびＳＢ10によって切られる。主軸が南北からやや西に振れる長方形プランを呈し、長軸方向で約4.5ｍ、短軸方向で約3.7ｍを計る。主柱穴は長軸方向に並んだ２本とみられ、その柱間は約1.7ｍ、床面からの深さは共に約60cmほどである。竪穴部の埋土最下層は褐色土ブロックを多く含む暗褐色土で、その上面が一部硬化していたことか



第23図　ＳＡ１及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）



第24図　ＳＡ１出土遺物②及びＳＡ２実測図（遺物：１/４、209は１/２、遺構：１/60）



第25図　ＳＡ２出土遺物実測図（１／４）

ら、この住居も貼り床であったと考えられる。主柱穴の間やや南側寄りに焼土の広がりがみられたが、ＳＢ10の柱穴によって切られているため、土坑が伴っていたかどうか不明である。

遺物は主柱穴の間およびその東側に集中して出土している。

231～235は甕で、頸部の屈曲が甘く胴部に最大径をもつもの（231・232）と頸部の屈曲が強く比較的長い口縁部をもつもの（233～235）の２タイプがみられる。236～240は甕の底部で、239の外面には平行タタキ調整がみられる。241は小さな平底を呈する壺の底部である。242～257は高坏である。坏部には明瞭な段がみられる浅いもの（242・243）と屈曲部に明瞭な稜がみられず外反しながら立ち上がる深いもの（245～248）がある。脚部にはやや内湾して直立する脚柱部から屈曲して内湾しながら開くもの（244・256）、直線的に広がり屈曲して開くもの（249～255）、なだらかに外反しながら開くもの（257）がある。258・259は坏もしくは鉢の口縁部とみられる。260・261は坏で、266は内外面にミガキ調整が施されている。262は三方に方形の透かしをもつ器台で、裾部に２段の櫛描波状文がみられる。263は口縁部外面に櫛描波状文が施された鉢である。264は古代の土師器坏蓋である。265は磨製石鏃である。

ＳＡ５（第28図）

ＳＡ５はＳＡ１・２の間から約５ｍほど北へ離れて位置し、ＳＥ１によって切られる。主軸が南北からやや東に振れる長方形プランを呈し、長軸方向で約5.3ｍ、短軸方向で約4.5ｍを計る。主柱穴は長軸方向に並んだ２本とみられ、その柱間は約3.4ｍ、床面からの深さは共に約40㎝ほどである。東側壁面のほぼ中央に約１ｍほど突出した掘込みを有し、それに接して竪穴部中央まで延びる長径約2.3ｍ、短径約1.8ｍ、深さ10㎝ほどの浅い落ち込みがみられた。この突出部分は住居外へ緩やかに上り、立上がり付近で段状になっていることから入り口の可能性も考えられる。また、この住居では貼り床と考えられる痕跡や火の使用が伺われる施設は検出されなかった。

遺物は前述の浅い落ち込み内を中心として出したが、その量は概して少なかった。

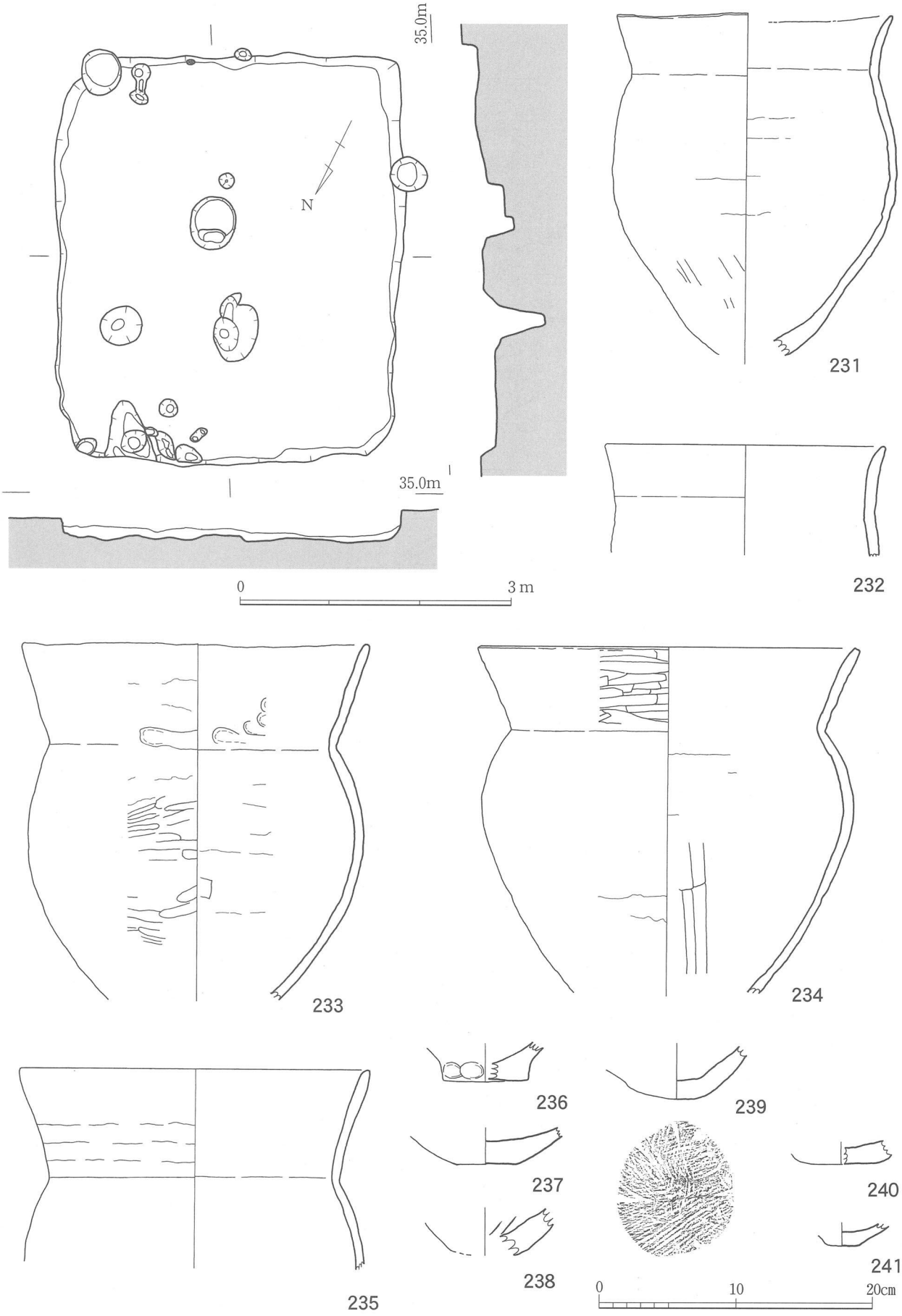
266～268は土師器の甕で、底部は小さな平底を呈する。269～272・277～279は土師器の壺である。272の外面にはミガキ調整がみられる。273～276は土師器の高坏である。273・274は坏部で、稜をもって屈曲し口縁部が外反するもので、外面がハケメ、内面がミガキ調整である。276は脚柱部と裾部にそれぞれ４つの透かしがみられ、裾部が内湾している。280はミニチュアの手捏土器である。281は鉢、282・283は坏で、283の内外面には丹塗りとミガキ調整がみられる。284は方形の透かしを有する器台である。

ＳＡ６（第29図）

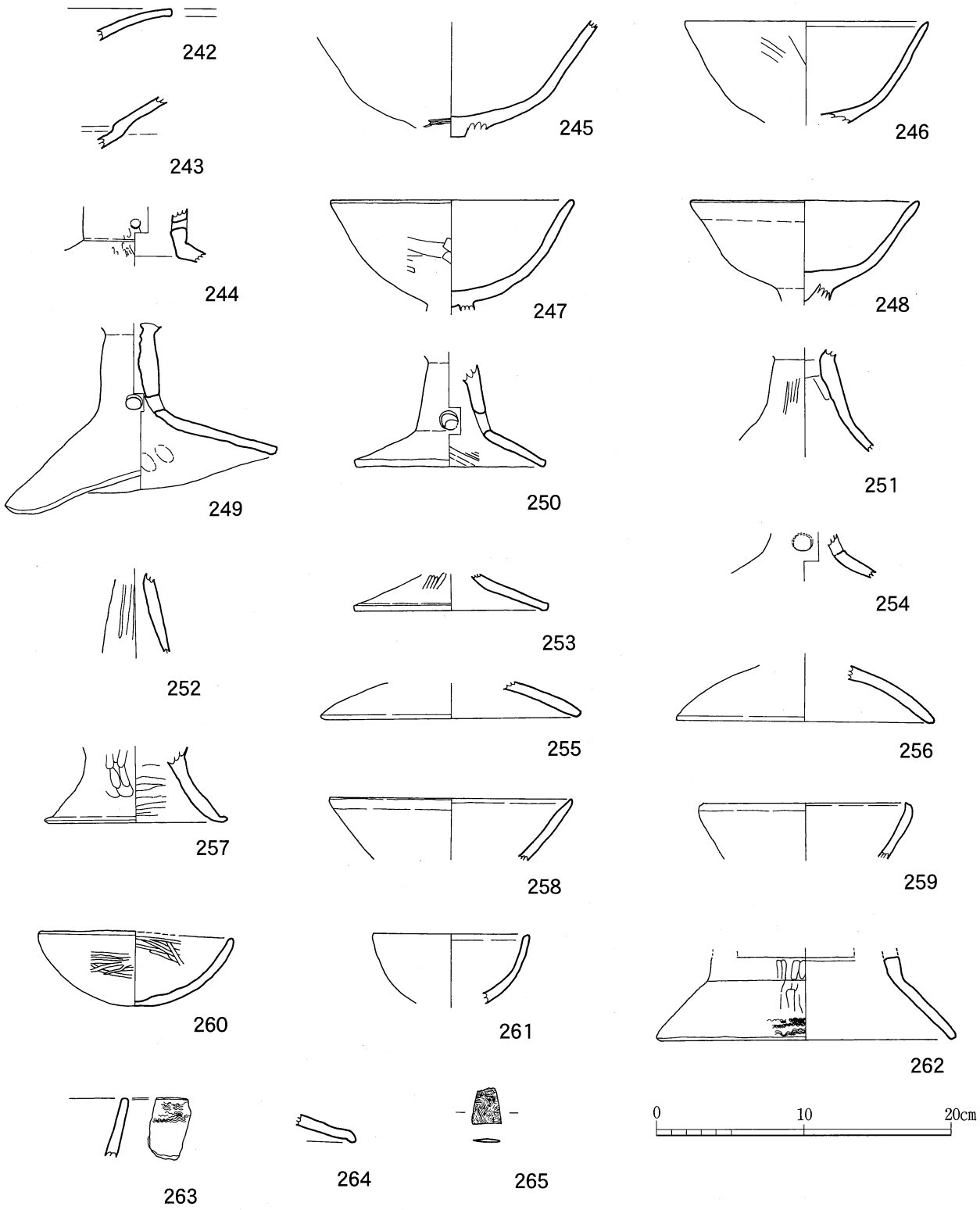
ＳＡ６はＳＡ８から北西に約８ｍ、ＳＡ19から北東に約10ｍ離れて位置し、西側をＳＣ10や複数の柱穴によって切られる。プランは東西方向に長い長方形で主柱穴は４本とみられるが、南西側の１本を欠く。長軸方向で3.6ｍ、短軸方向で2.1ｍを計り、床面からの深さは50㎝前後である。床面はその硬化面の在り方や埋土の状況から貼り床とみられ、アカホヤ火山灰層と硬質の黒色土ブロックの混合土により、掘底から20㎝ほど嵩上げされている。

遺物の出土量は比較的少なかった。

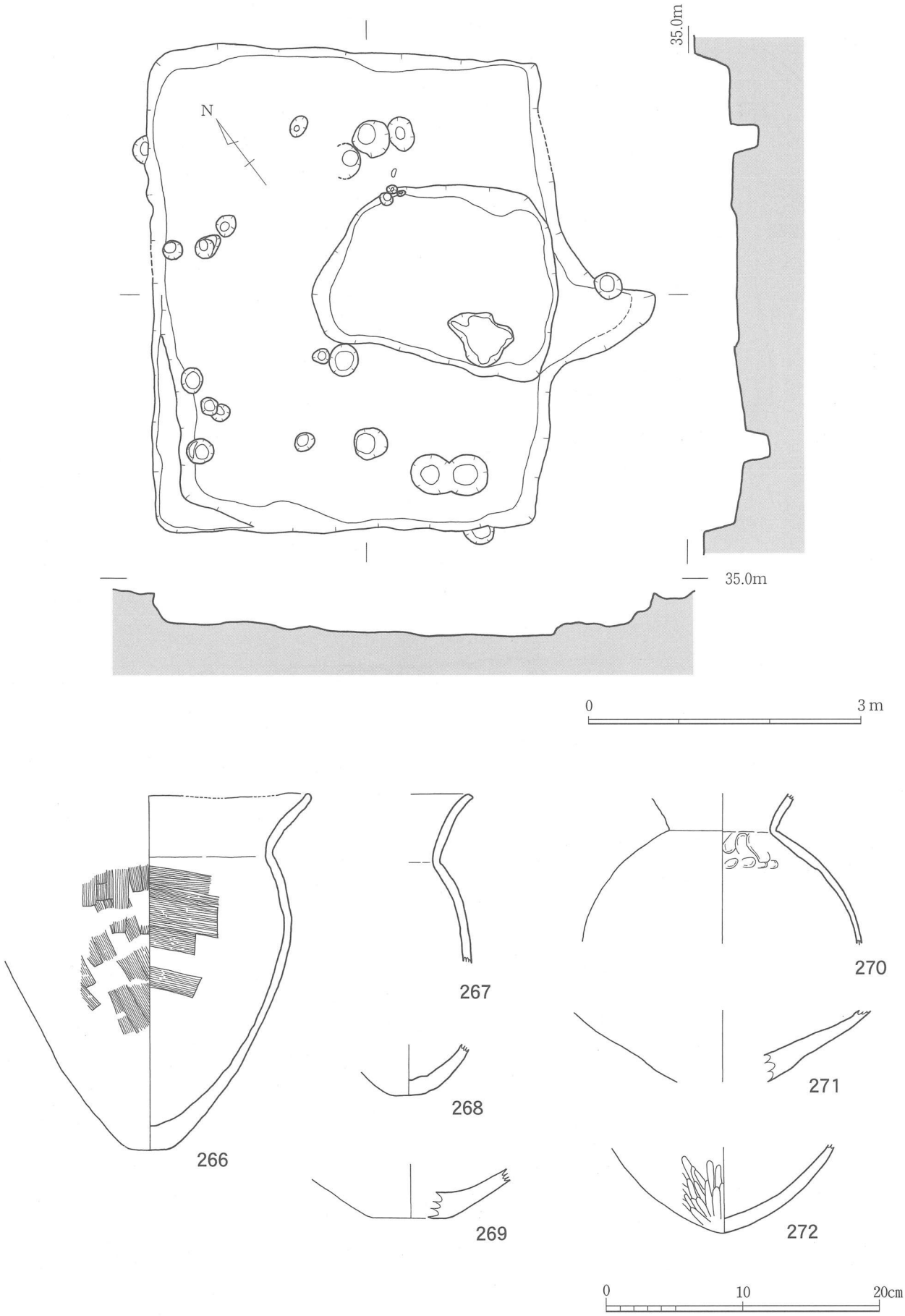
285～288は土師器の甕である。286は器壁も厚く、器面調整がほかの３点と異なる。289・290は土師器の鉢で、289は胴部中位で屈曲し、290は小さな平底を呈する。291・292は土師器の壺である。292は



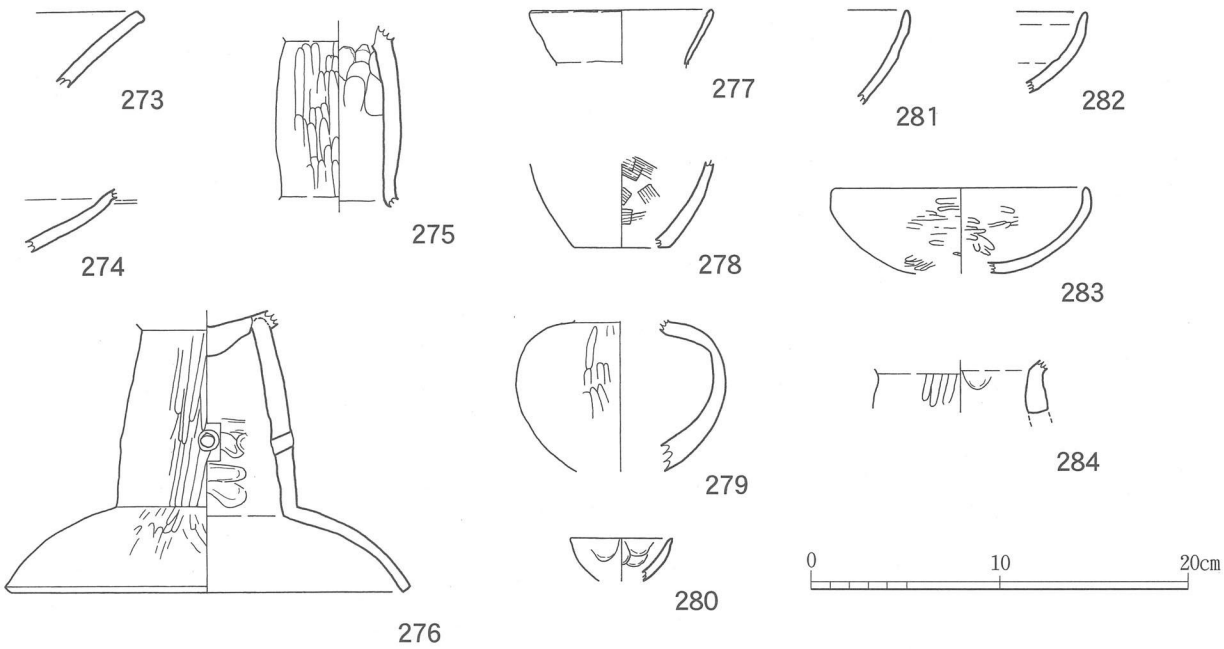
第26図　ＳＡ３及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）

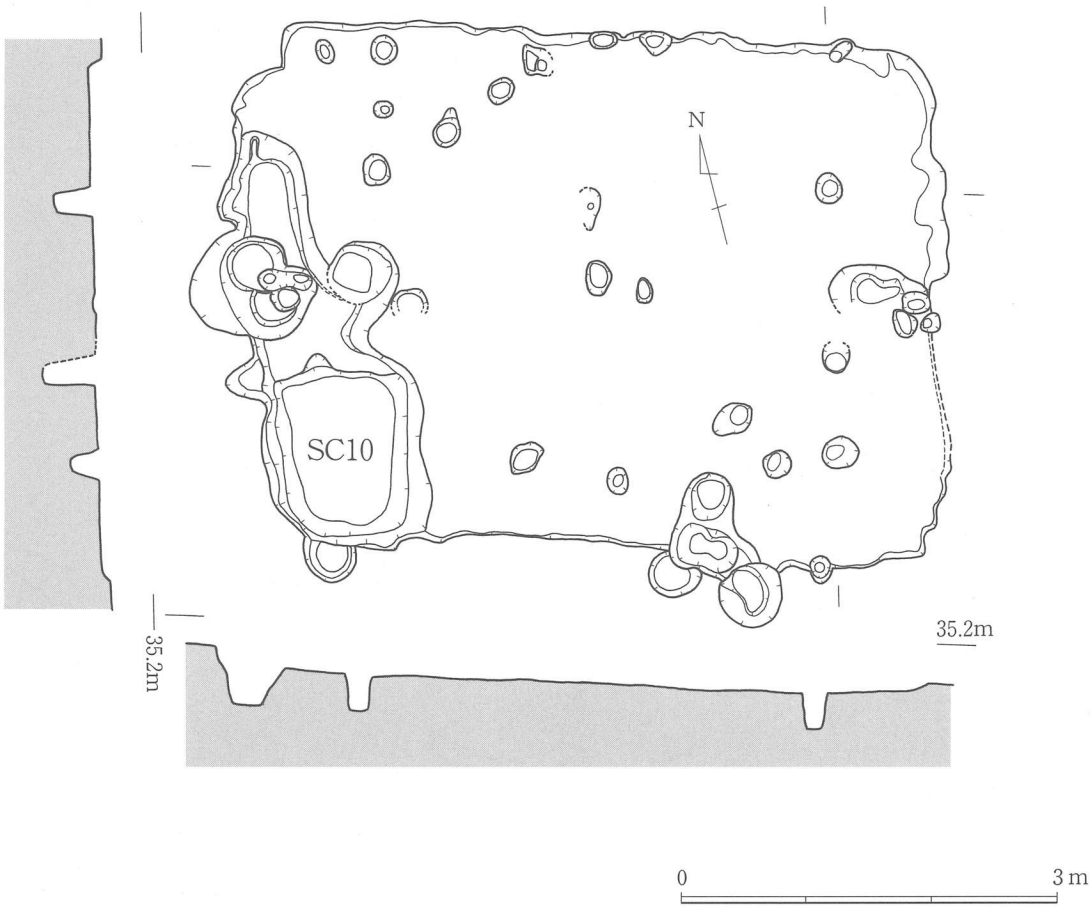


第27図　ＳＡ３出土遺物実測図②（１/４）

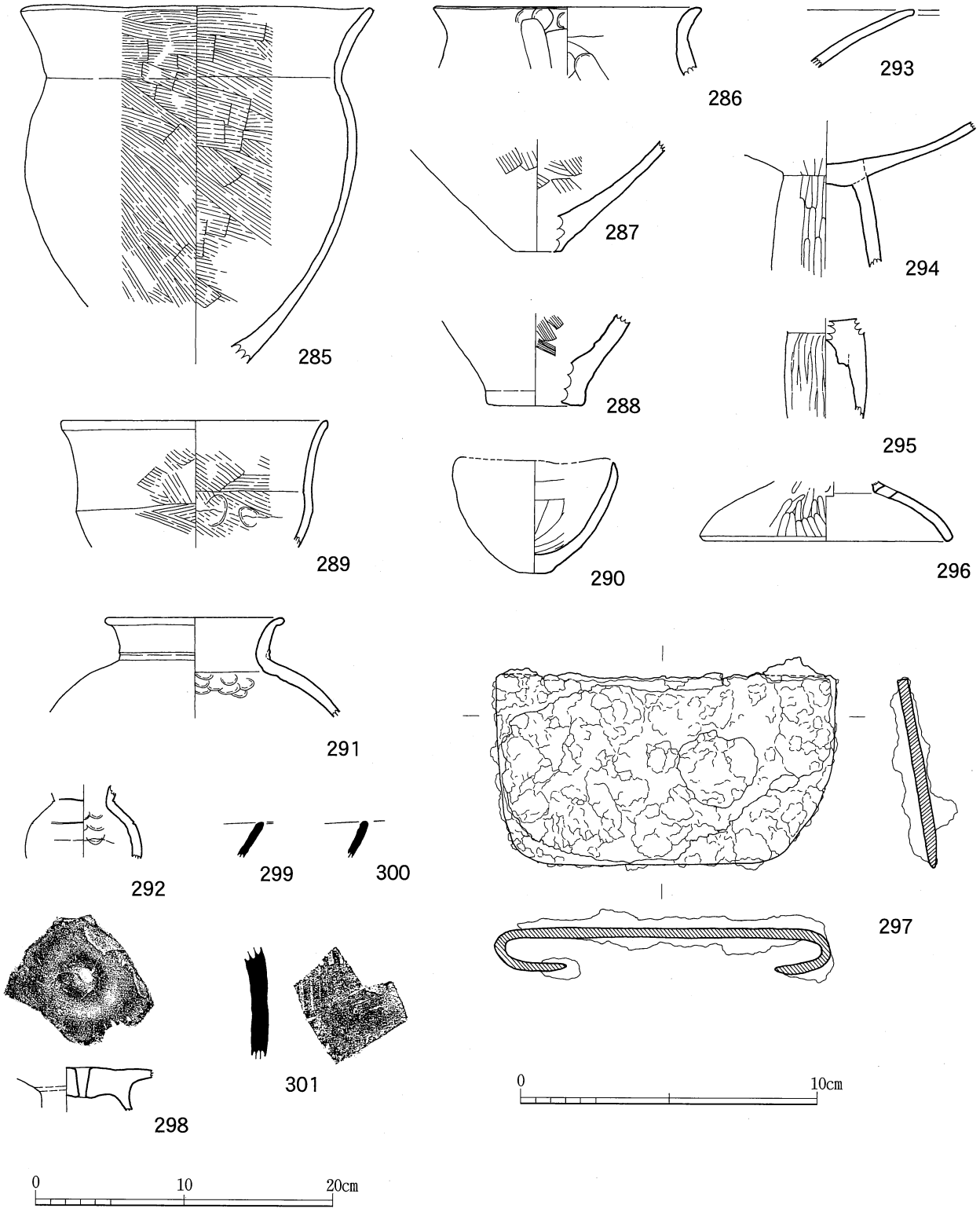


第28図　ＳＡ５及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）





第29図　ＳＡ５出土遺物②及びＳＡ６実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）



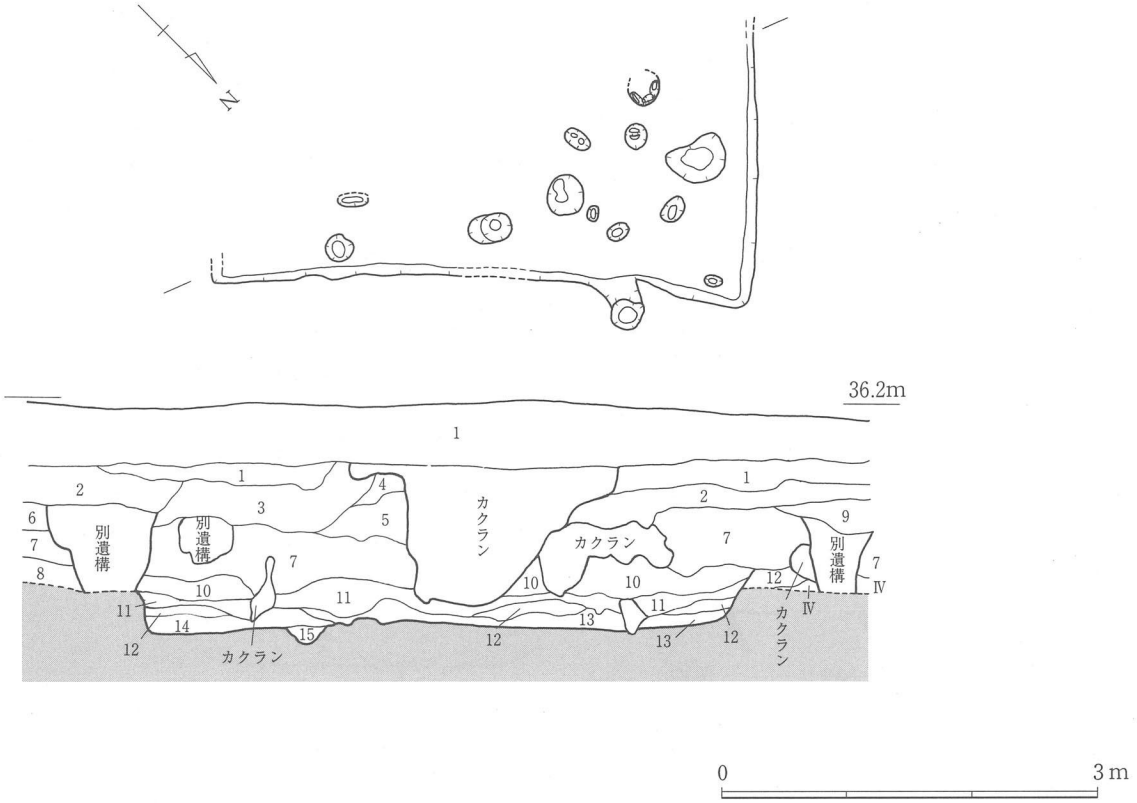
第30図　ＳＡ６出土遺物実測図（１／４、297のみ１／２）

小型で頸部および胴部の外面に１条の沈線がみられる。297は両側面を折り返した鉄製の鋤先である。298～301は古代以降の遺物である。298は脚付き皿で、内面に布状の圧痕、中央に穿孔がみられる。299は須恵器の坏、300は東播系の須恵器、301は常滑焼の甕胴部片で外面に格子条のタタキ目が帯状に巡っている。

ＳＡ７（第31図）

ＳＡ７は調査区中央の南端にその一部が検出され、大部分は既存のグランド造成時に消滅したと考えられる。東西方向の壁面が１面かろうじて残っており、その長さは4.2mを計る。主柱穴は不明である。

遺物は非常に少なく、小さな土師器の甕片等が出土しているにすぎない。



1　暗褐色土
　Ⅰ層よりもやや明るい
2　暗褐色土
　１層よりもしまっている
3　暗褐色土
　土器細片を多く含む
4　暗褐色土
　２層よりも更にしまっている
5　暗褐色土
　２層に近いが、ややしまりが弱い
6　暗褐色土
　２層よりもやや暗い
7　暗褐色土
　２層よりもしまりが弱く、Ⅳ層粒子を含む
8　暗褐色土
　２層に近いが、土器細片を含む
9　暗褐色土
　２層よりもやや明るい
10　暗黒褐色土
　しまりが弱く、Ⅳ層粒子及び土器細片を含む
11　黒褐色土
　しまりが強く、わずかにⅣ層粒子を含む
12　黒褐色土
　しまりが弱く、Ⅳ層粒子を含む
13　黒褐色土
　しまりがやや強く、Ⅳ層及び白色砂粒を少量含む
14　黒褐色土
　13層よりもやや明るく、しまりが弱い
15　黒褐色土
　Ⅵ層ブロックを含む
16　黒褐色土
　しまりが弱く、Ⅳ層粒子を含む
　Ⅰ・Ⅳ・Ⅵ層は基本土層に同じ

第31図　ＳＡ７実測図（1/60）

ＳＡ８（第32図）

ＳＡ８は調査区中央部北よりのＳＡ２とＳＡ６の間に位置し、ＳＣ14、ＳＥ１によって切られる。東北東に主軸をもち、長軸約６ｍ、短軸約５ｍの長方形プランを呈する。主柱穴は長軸方向に並んだ２本とみられ、その柱間は5.5ｍ、深さが南側のもので約70㎝、北側のもので約80㎝を計る。床面は堀底から10㎝ほどの厚さでアカホヤ火山灰ブロックを多く含む黒褐色土が堆積しており、その上面に硬化した部分がみられたことから貼り床であったと考えれれる。北側の壁面中央部には1.5m以上張り出す落ち込みがみられ、そこから竪穴部中央へ浅い堀込みが延びている。この構造はＳＡ５と類似しているが、張出部が短軸側に設けられている点や、主柱穴が張出部と平行の関係にある点で異なっている。

遺物は全体的に出土しているが、東半部でやや密度が高い状況であった。

302～307は土師器の甕である。口縁部と胴部の最大径がほぼ等しいものがみられ、底部はいずれも平底である。なお、306の底部中央には深いへこみがみられるが、製作時に意図的につくられたものか判断できない。308～314は土師器の壺である308・309はともに球形の胴部であるが、309は外面にミガキ調整が施されている。314は口縁部が屈曲し、その外面に櫛描波状文がみられる。315～320は土師器の高坏である。319は内湾する裾部で、円形の透かしがみられる。321～323は土師器の鉢の口縁部で、323には櫛描波状文がみられる。324は須恵器の甑で、円形の透かしと櫛描波状文がみられる。325は長軸側の端部を打ち欠いた石錘である。

ＳＡ９（第34図）

ＳＡ９は調査区中央部からやや北東の調査区が北側に10ｍほど拡張される角の部分に位置する。西側の壁面を３基の大きな土坑によって切られる。西北西に主軸をもち、長軸約5.2ｍ、短軸約4.5ｍの長方形プランを呈する。主柱穴は長軸方向に並んだ２本柱とみられ、その柱間は約２ｍ、深さが北西側のもので約25㎝、南東側のもので約50㎝を計る。床面は掘り底をそのまま利用したとみられる。また、東側の主柱穴から中央部にかけて長径90㎝、短径60㎝、深さ15㎝の楕円形プランの落ち込みがみられた。

遺物は東半部から集中して出土している。

326は土師器の甕である。胴部で最大径を計り、底部は丸底もしくは小さな平底とみられる。327～330は土師器の壺である。327は頸部に布目圧痕を残す刻目が施された貼付突帯が巡るもので、328と同一固体とみられる。331は土師器の鉢、331～338は高坏である。高坏の坏部には屈曲部に稜をもち深いもの、脚部には直線的に広がり屈曲して開くものがみられる。

ＳＡ10（第35図）

ＳＡ10は調査区中央部からやや東南でＳＡ17の南５ｍに位置し、ＳＢ13によって切られる。ほぼ南北方向に主軸を持ち、東西軸約5.0ｍ、南北軸は不明であるが主柱穴の在り方から長方形プランであるとみられる。主柱穴はプランに対して西側による４本柱とみられ、その柱間は東西方向で約2.5ｍ～3.2ｍ、南北方向で約3.2ｍ～3.5ｍ、深さが約50～60㎝を計る。検出状況が良好ではなかったため検出面から掘り底まで10㎝ほどしかなく、床面の認定は困難であるが、４本の主柱穴のほぼ中央で焼土が検出されていることから掘り底が床面であった可能性が高い。また、焼土の東側に隣接するかたちで径１ｍ以上、深さ10㎝程度の円形土坑がみられた。

前述のとおり検出状態が悪かったため、遺物の出土は少なかったが、焼土および焼土東側の土坑付近から数点検出されている。

339は土師器の甕で平底を呈し、口縁部で最大径を計る。胴部最大径は中位よりもやや上で計り、内外面にハケメ調整が施されている。340は内外面にハケメ調整が施された土師器の鉢で、平底を呈する。341は三方に方形の透かしがみられる器台である。342・343は小型の壺で342の外面には櫛描波状文がみられる。344は古代以降の羽釜もしくは置竈の一部とみられる。345は器種および用途不明の土製品である。346は中世の備前焼摺鉢の底部か。

ＳＡ11（第36図）

ＳＡ11はＳＡ９の北東に約14m、ＳＡ13の北西に約４m離れて位置し、その大部分は調査区外に向かって延びるかたちで検出された。プランはおそらく東西方向に長い長方形とみられ、主柱穴は長軸方向に並ぶ２本柱と考えられるが不明である。主柱穴は東側のものは検出できたが、西側が未検出であるため柱間は不明である。東側の主柱穴は深さが約40cmであった。床面は貼り床ではなく、掘底をそのまま利用したとみられる。この住居は東側壁面中央部が外側に張り出し、ＳＡ５・８と同様の構造と考えられる。

遺物は全体的に出土しているが、量的には少ない。

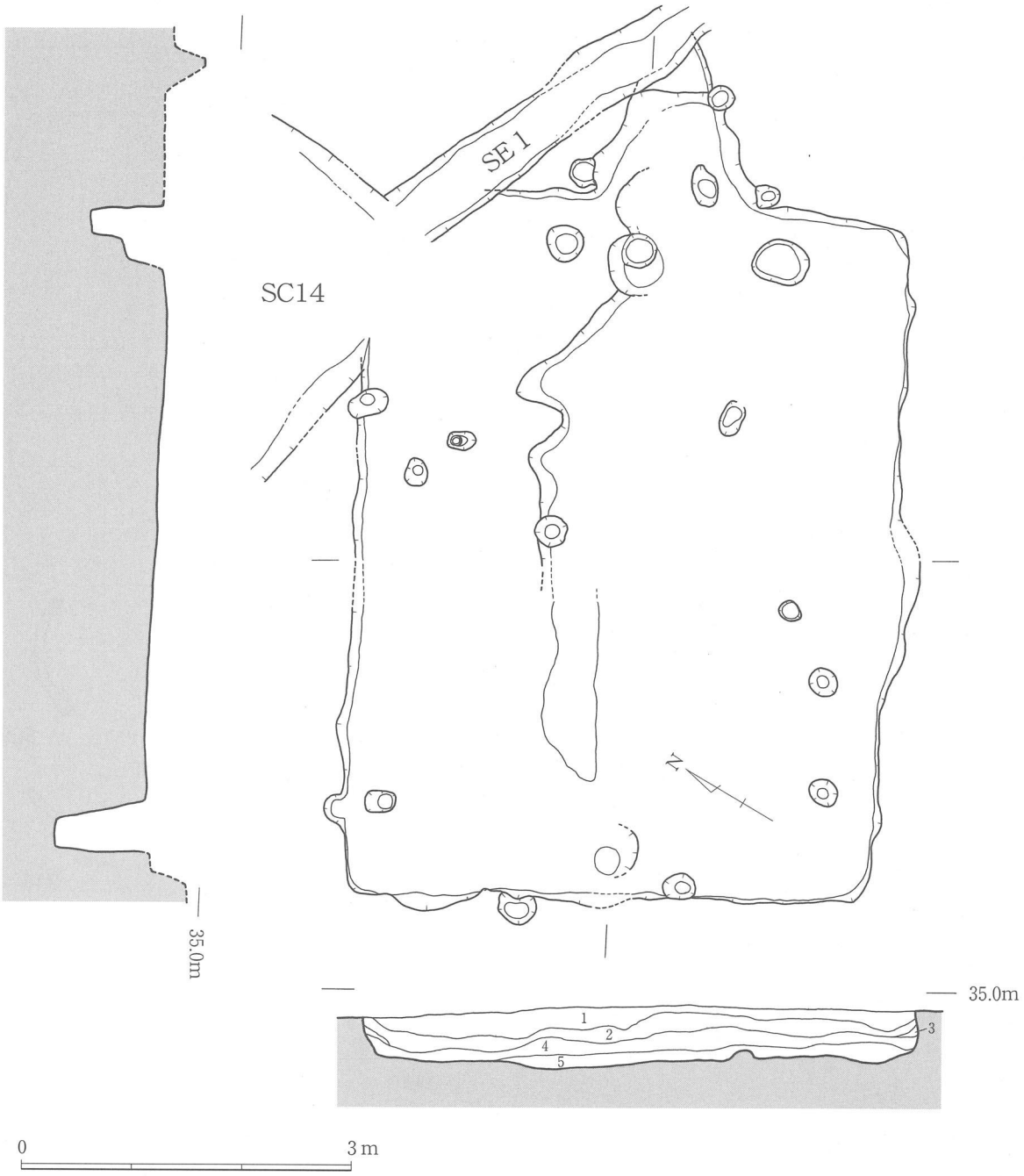
347は小さな平底を呈する土師器の甕で、胴部の外面にはタタキ調整がみられる。348・350は土師器の鉢、349は壺である。351は内外面にミガキ調整が施された古代の黒色土器椀である。

ＳＡ12（第37図）

ＳＡ12はＳＡ９の南東約８m、ＳＡ17の北東約４mに位置し、ＳＥ２、ＳＢ９によって切られる。北東方向に主軸をもち、長軸方向約4.5m、短軸方向に約4.0mの方形プランを呈する。主柱穴は長軸方向からややずれた２本とみられ、その柱間は約3.1m、深さは約30cmを計る。非常に多くの遺物が包含されていたため埋土の状況が判然としなかったが、床面は貼り床ではなく、堀底をそのまま利用したとみられる。

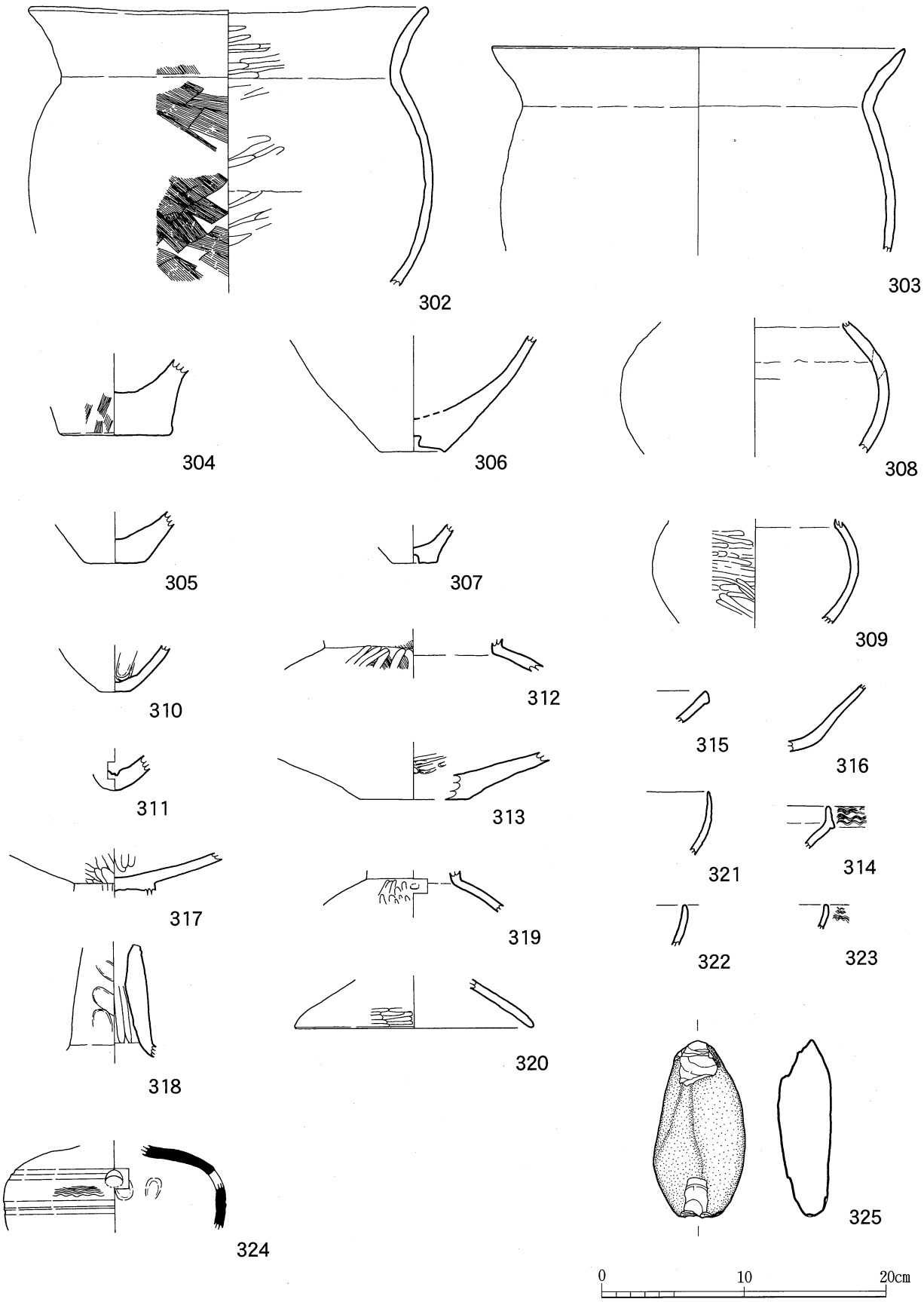
遺物は床面近くから多量に出土している。なお、364の壺、370の高坏、387の須恵器のはそうは、床面の直上からつぶれたような状態で折り重なって出土している。

352～362は土師器の甕である。最大径の位置や口縁部・底部形状にいくつかのタイプがみられる。354・360の外面にはそれぞれ平行、格子目のタタキ調整がみられる363～368は土師器の壺である。363・364は大型のもので、頸部に布目圧痕を残す刻目が施された貼付突帯がみられる。365～367は卵倒形の胴部をもつ小型の壺であるが、調整や口縁部形状が異なる。369～382は高坏である。坏部はその大きさや屈曲の位置などいくつかのタイプがみられる。脚部では脚柱部が直線的に広がるものと内湾するものがみられ、裾部にも直線的なものと内湾するものがみられる。383は土師器の坏で、内外面ともにナデ調整が施されている。384・385は土師器の鉢で内外面にミガキ調整が施されている。386・387は須恵器の瑤で、386の外面には櫛描波状文がみられる。388は鉄鏃の鏃身部、389は茎部で、388の表面には赤色顔料が付着している。

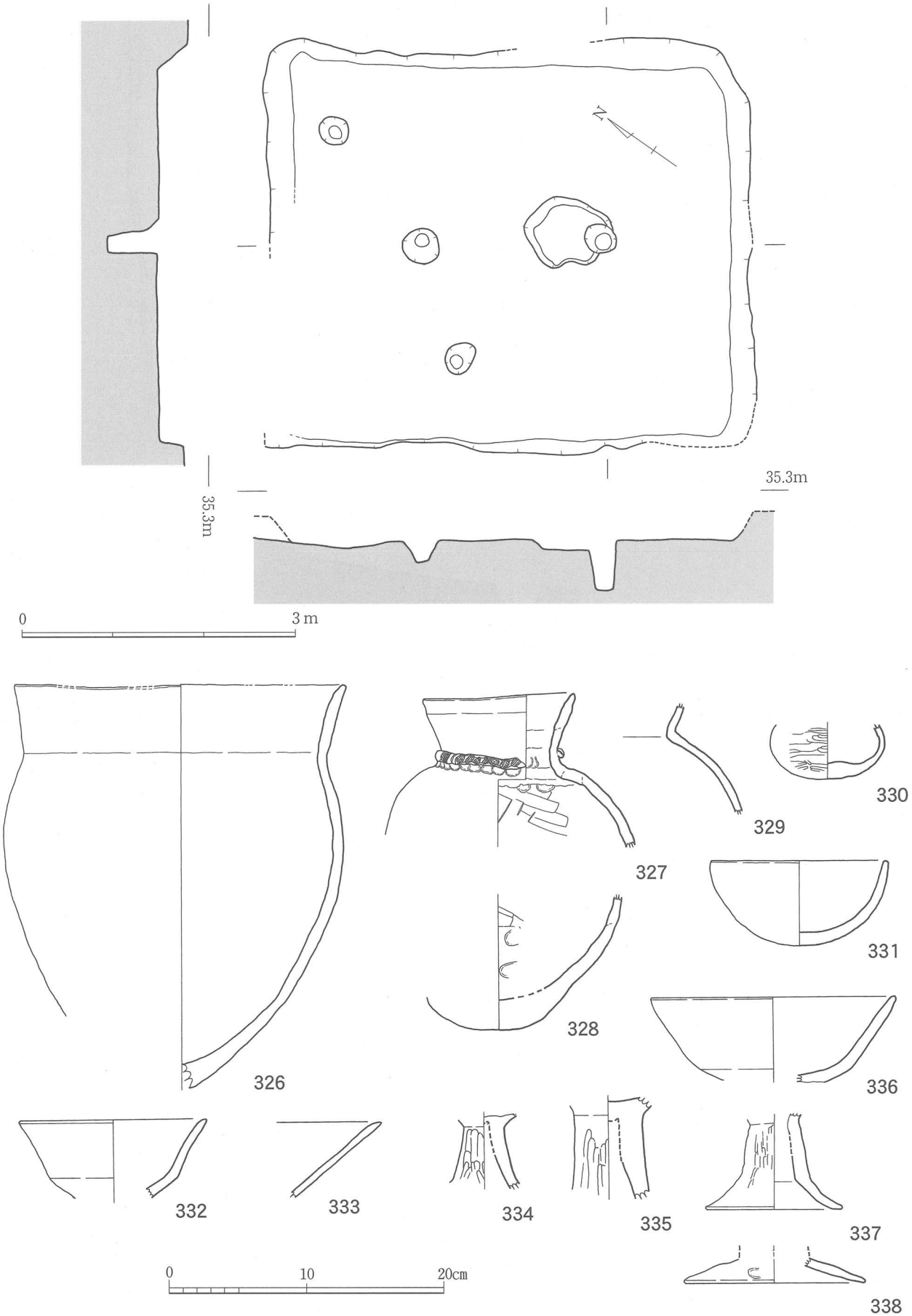


1　暗褐色土　　しまりが弱く、Ⅳ層粒子をわずかに含む
2　暗褐色土　　1層よりもやや暗い
3　暗褐色土　　Ⅳ層粒子を多く含む
4　暗褐色土　　Ⅳ・Ⅵ層ブロックを含み、しまりが強い
5　Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層ブロック混合土（上面が貼床面）

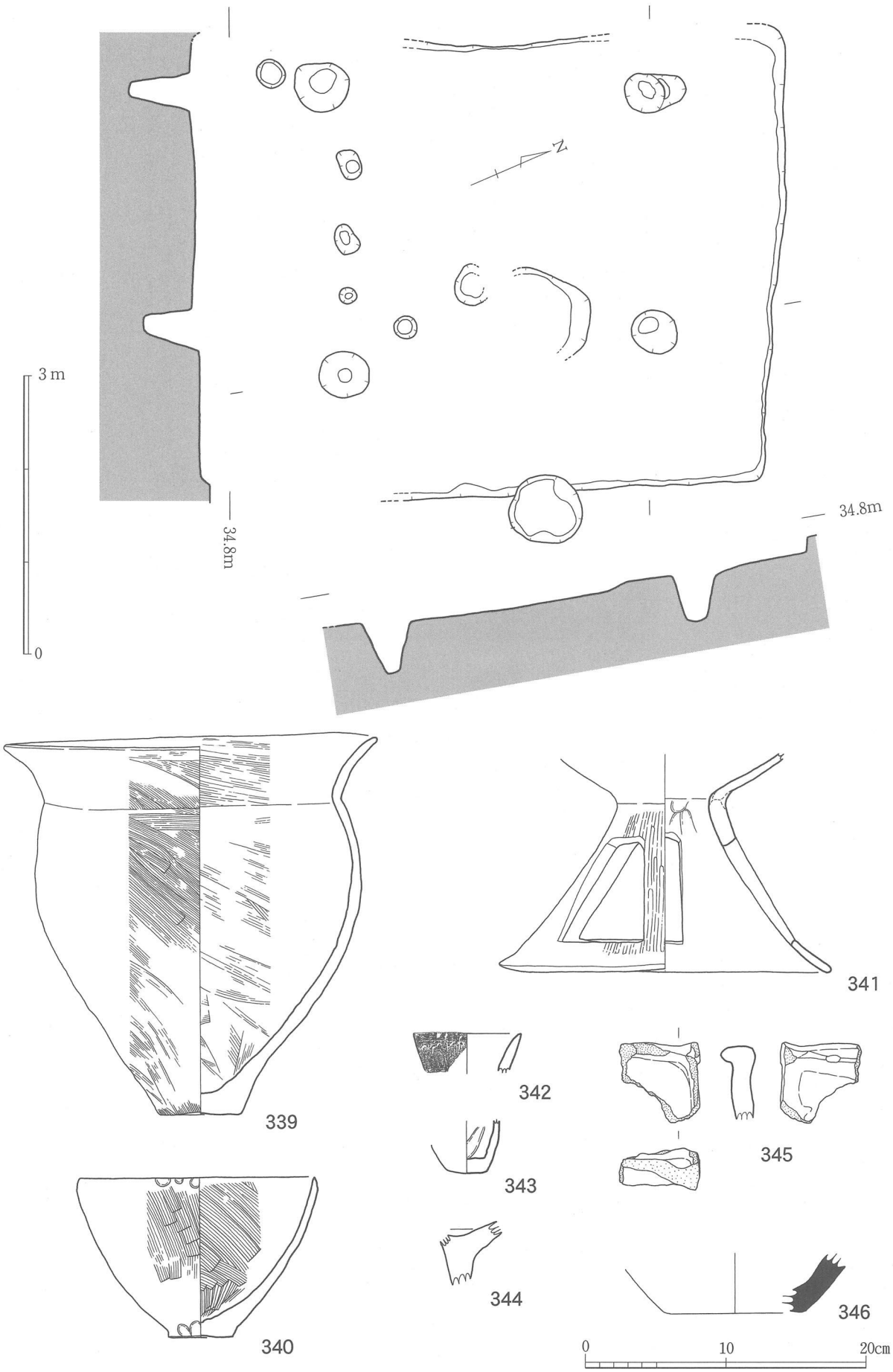
第32図　ＳＡ８実測図（1/60）



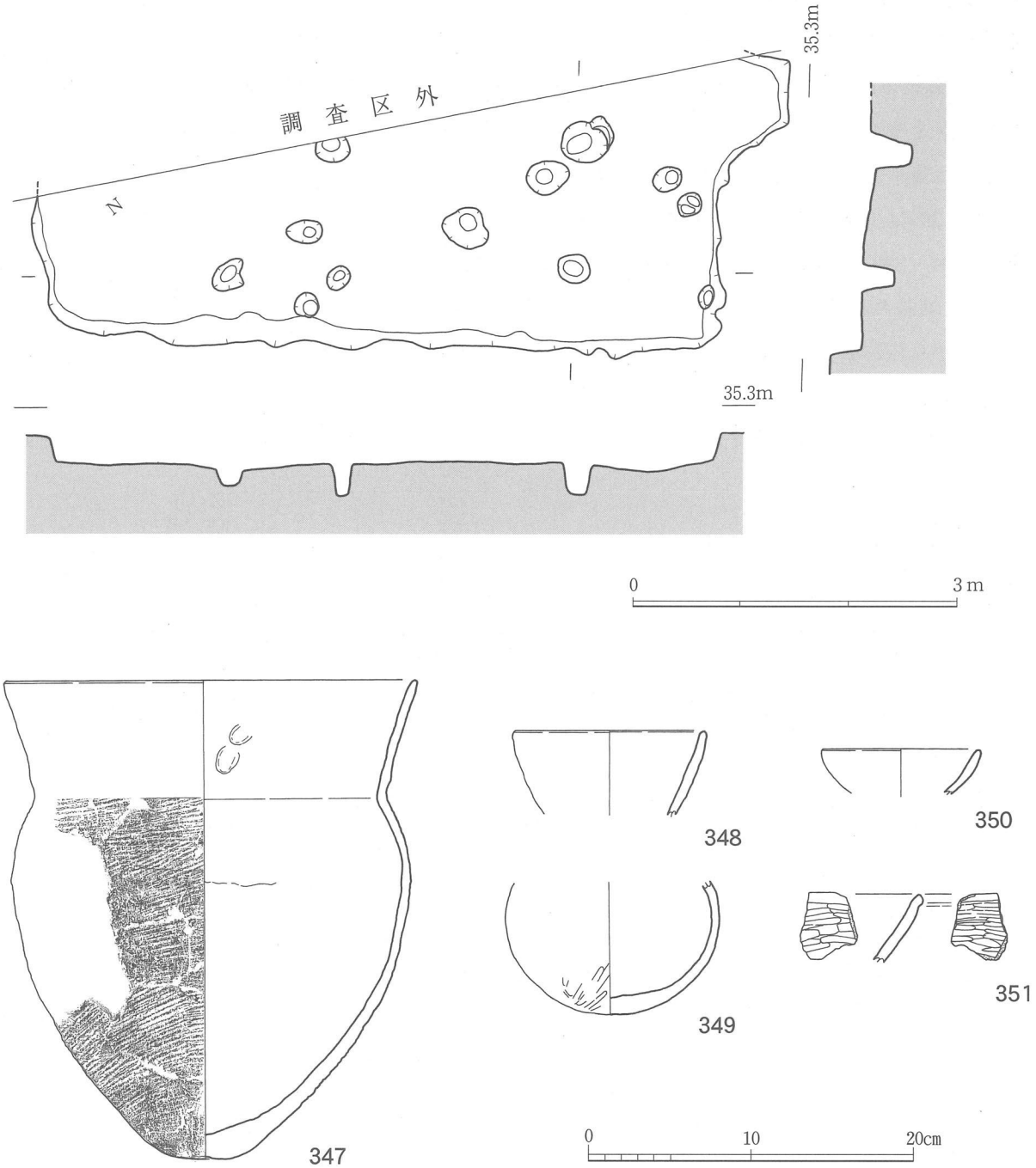
第33図　ＳＡ８出土遺物実測図（１/４）



第34図　ＳＡ９及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）



第35図　ＳＡ10及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）



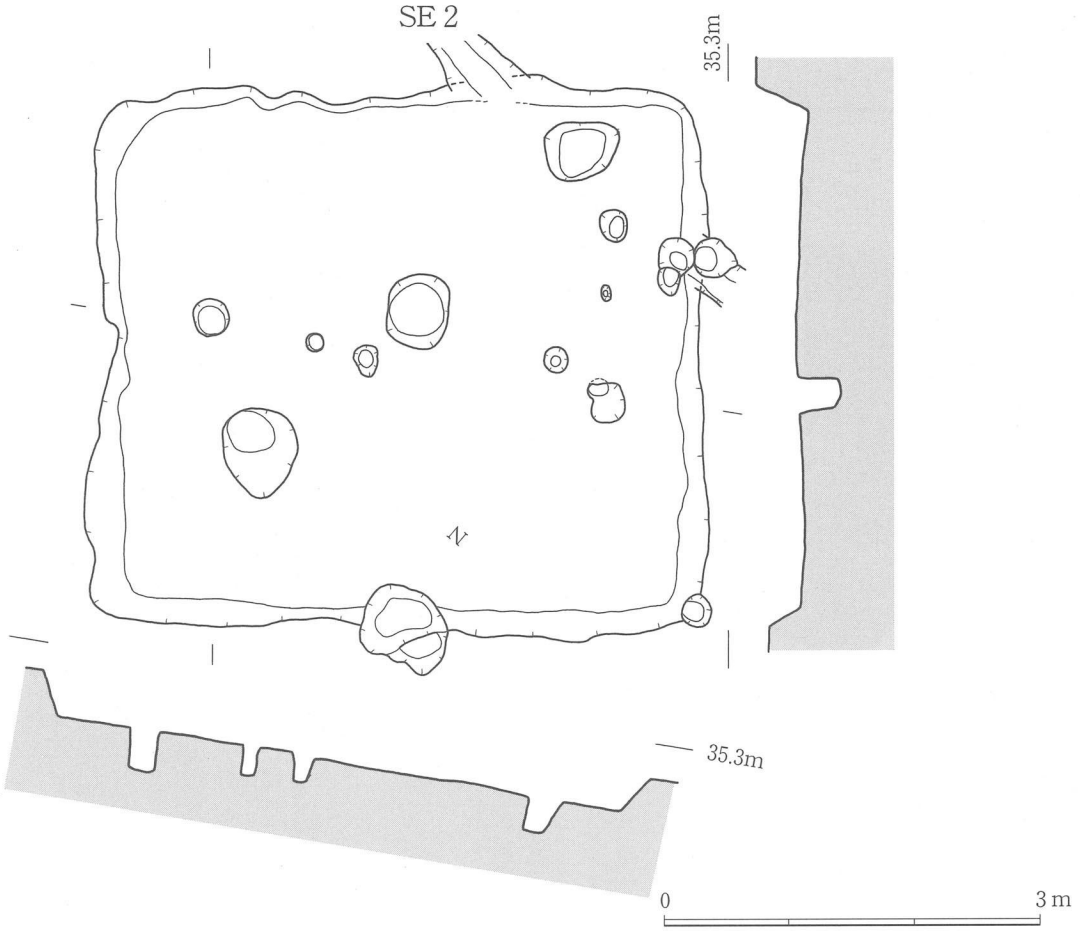
第36図　ＳＡ11及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）

ＳＡ13（第40図）

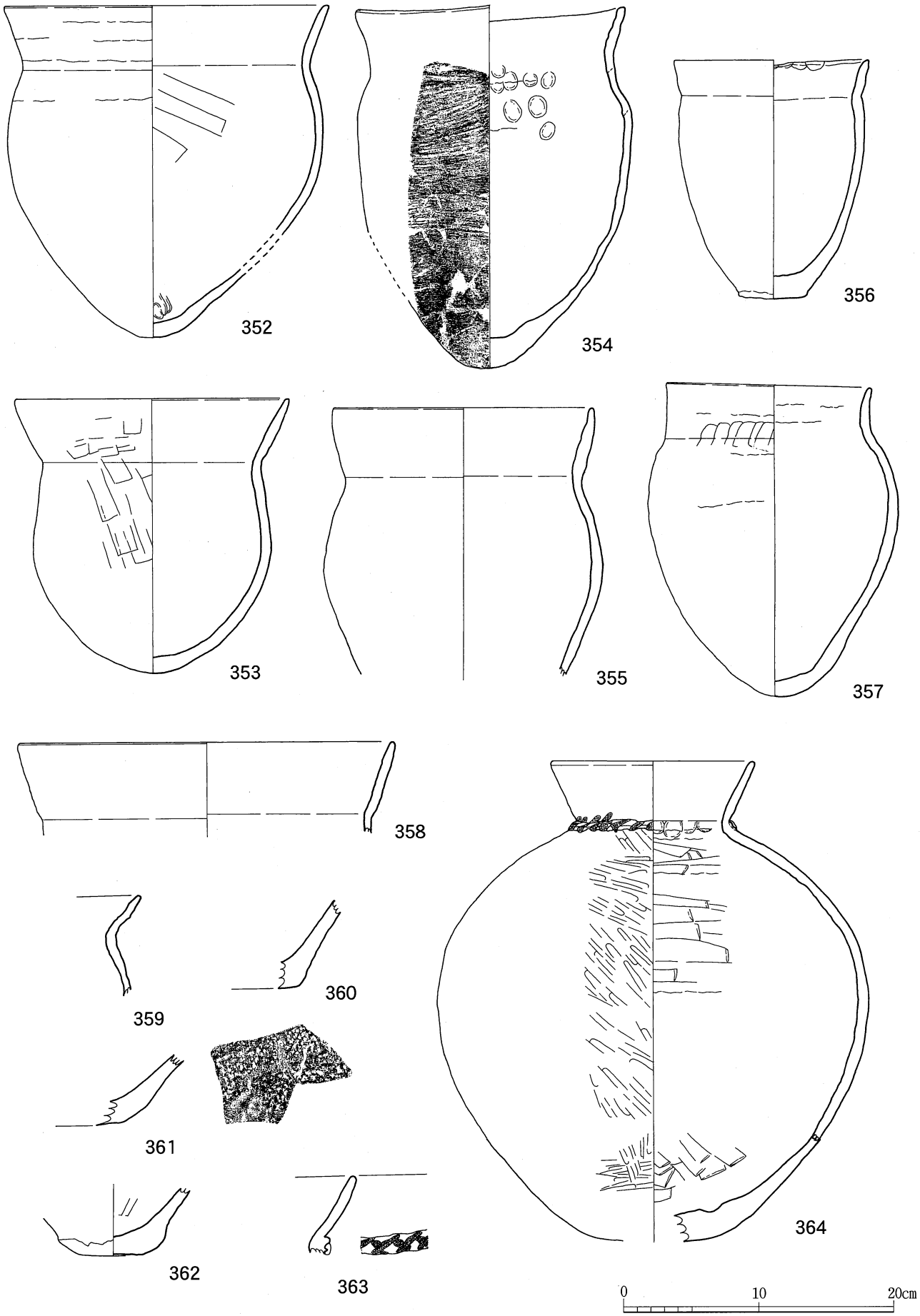
ＳＡ13はＳＡ11の南西約５ｍに位置し、その大部分をＳＥ５によって切られる。ほぼ南北に主軸をもち、長軸約4.7ｍ、短軸約4.2ｍの長方形プランを呈する。主柱穴は４本柱とみられるが、南西側の１本が検出されなかった点や、中央をＳＥ５に大きく切られるため確定ためできない。柱間は長軸方向で約2.6ｍ、短軸方向で約2.4ｍ、床面からの深さ30～50㎝を計る。床面は堀底から20㎝ほどアカホヤ火山灰ブロックを多く含む黒褐色土の堆積がみられたことから、貼り床であった可能性が高い。

遺物は南半部および北東隅で多く出土している。

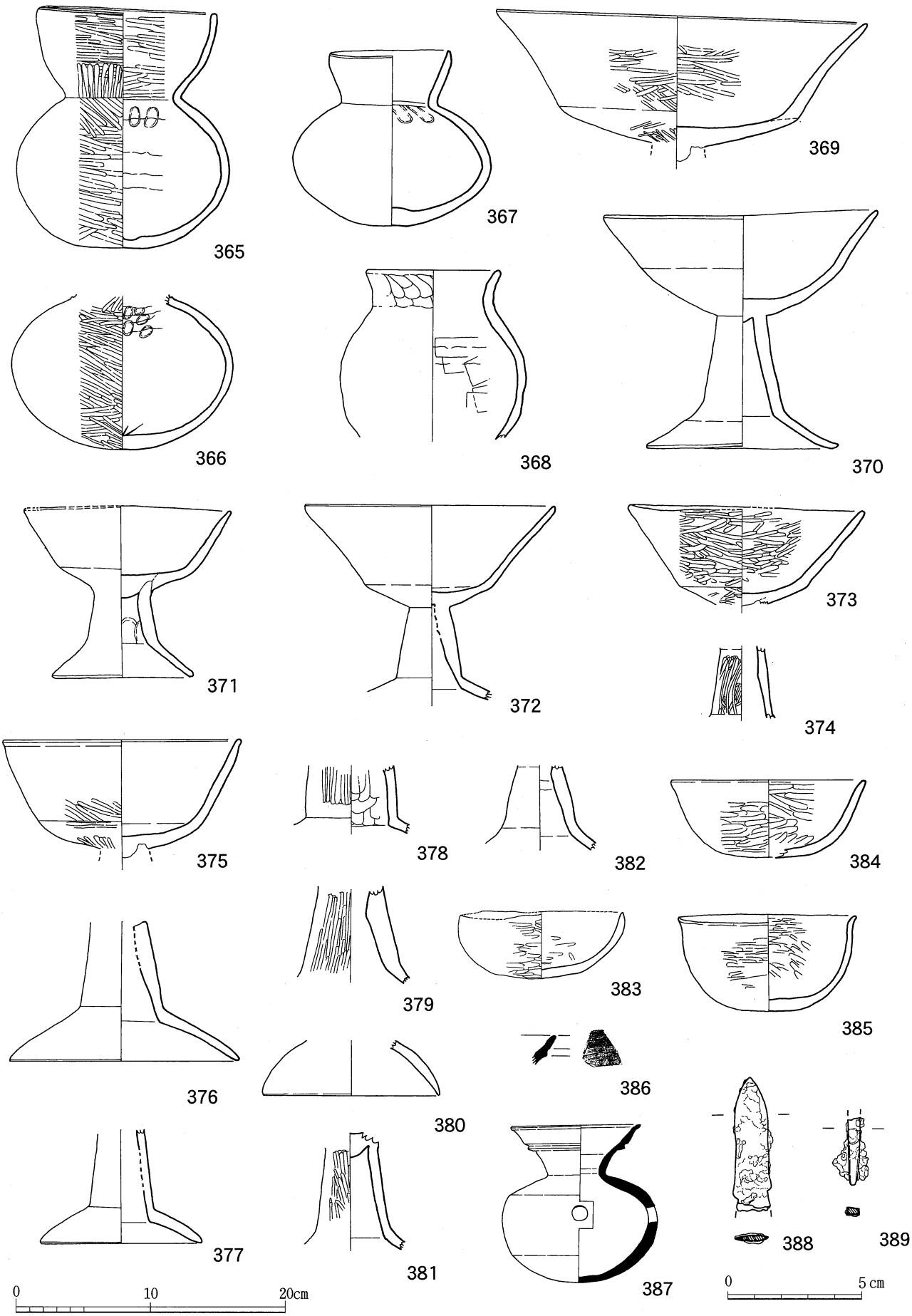
390～399は土師器の甕である。最大径を口縁部にもつもの（390・391）、胴部上位にもつもの（392・393・394・399）、胴部下位にもつもの（396～398）など形態的にいくつかのタイプがみられる。400～403は土師器の壺である。400・401は類似した形態とみられ、頸部に布目圧を残す刻み目が施された貼付突帯がみられる。403はＴＫ208段階の須恵器のはそうに類似した形態であるが、胴部の穿孔はみられない。404～413は土師器の高坏で、大きさや形状も様々である。414は小型の器台か。415は土師器の坏で、内外面ともにナデ調整である。416・417は小型で浅い精製の鉢、418・419は深い粗製の鉢である。



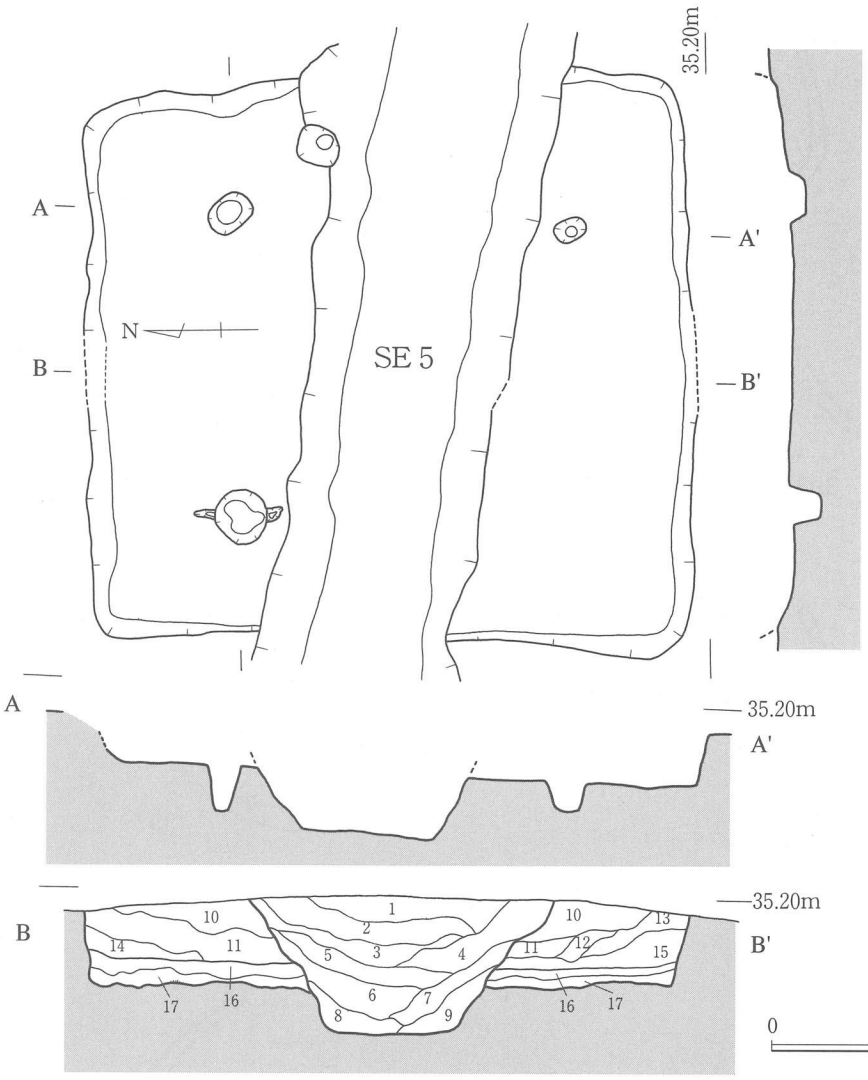
第37図　ＳＡ12実測図（１/60）



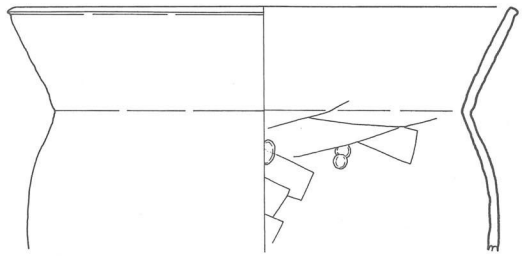
第38図　ＳＡ12出土遺物実測図①（１／４）



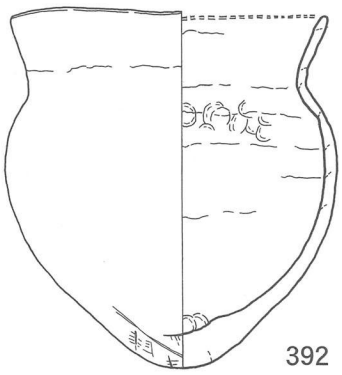
第39図　ＳＡ12出土遺物実測図②（１／４、388・389は１／２）



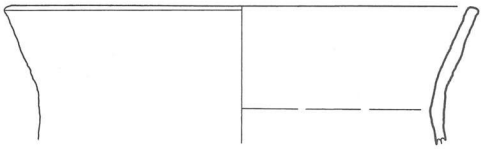
1　暗褐色土
　土器細片・炭化物・スコリア？を多く含む
2　黒褐色土
　土器細片・炭化物・スコリア？を多く含む
3　黒褐色土
　土器細片・炭化物・スコリア？を少量含む
4　暗褐色土
　土器細片・炭化物・スコリア？を少量含む
5　暗褐色土
　礫・土器細片を少量含み、炭化物・スコリア？を多く含む
6　暗褐色土
　土器細片・スコリア？を少量含む
7　暗褐色土
　土器細片・炭化物を多く含み、スコリア？を少量含む
8　暗褐色土
　スコリア？を少量含み、褐色土粒子を含む
9　暗褐色土
　スコリア？を少量含み、褐色土粒子を多く含む
10　暗褐色土
　土器片をわずかに含む
11　暗褐色土
　Ⅳ層粒子をわずかに含む
12　暗褐色土
　11層よりも大きなⅣ層粒子をわずかに含む
13　黒褐色土
14　黒褐色土
　Ⅳ層粒子をわずかに含む
15　黒色土
16　Ⅳ・Ⅴ層ブロックによる混合土（上面が貼床面）
17　Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層による混合土



390



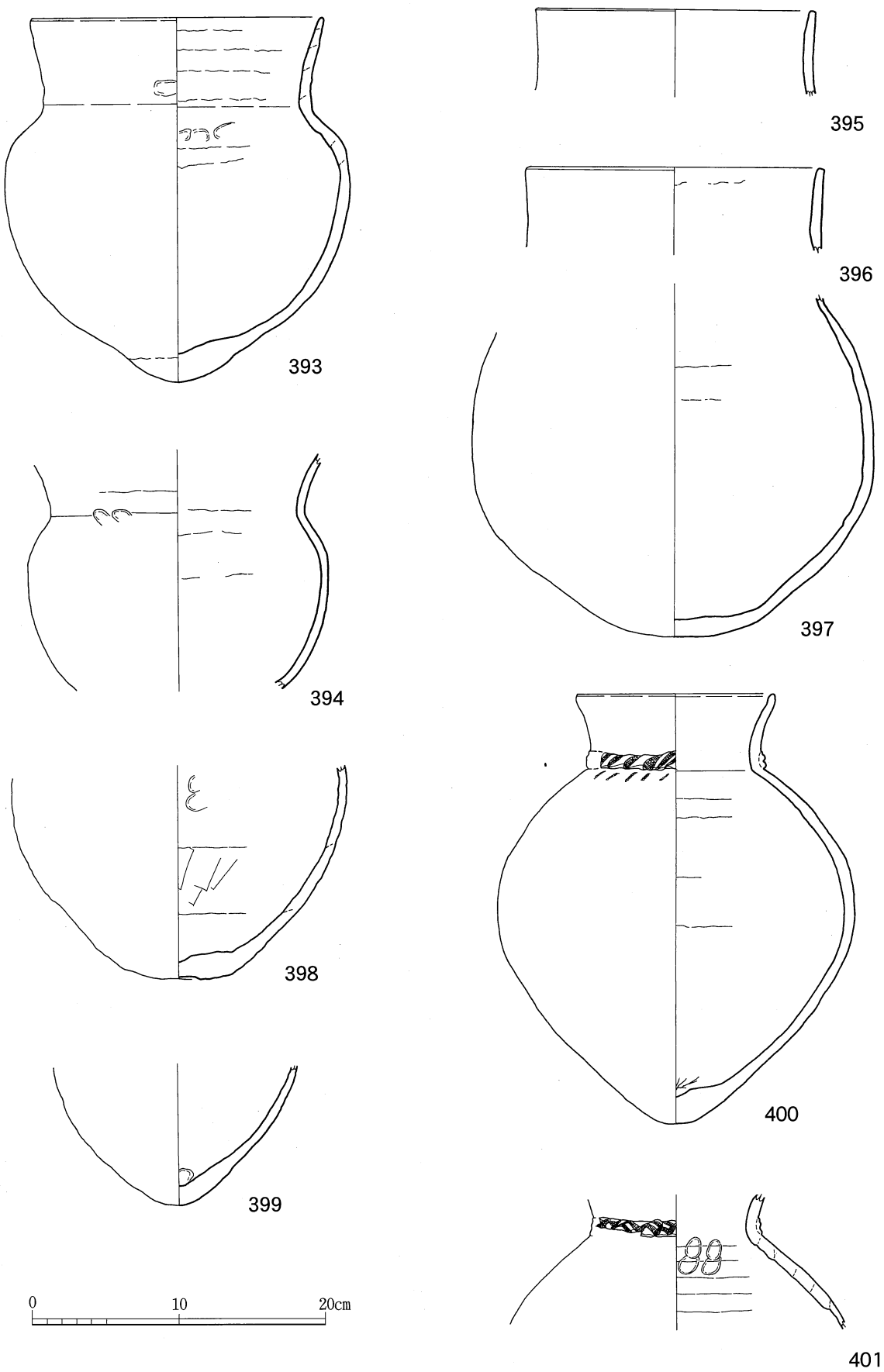
392



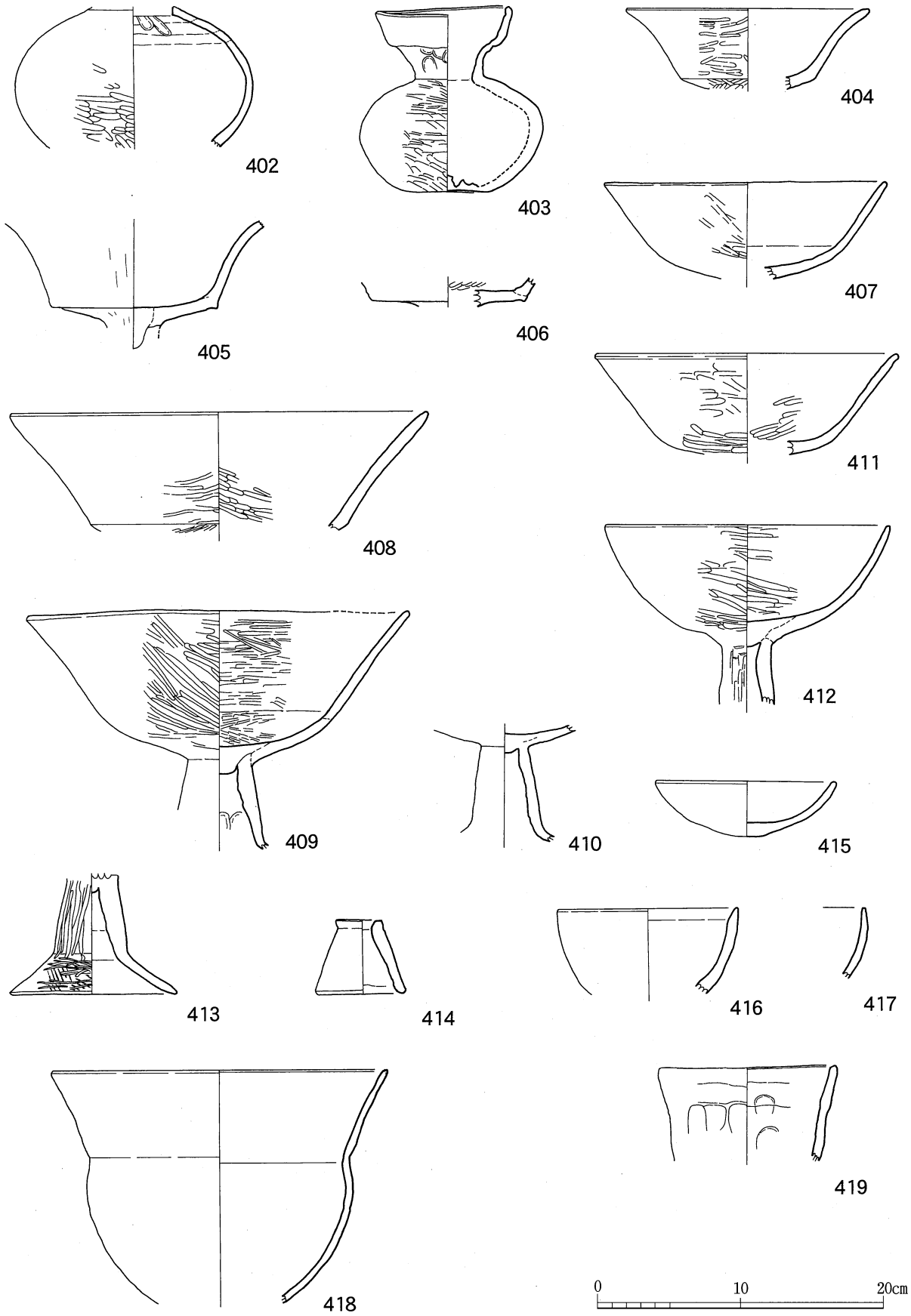
391

0　10　20cm

第40図　ＳＡ13及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）



第41図　ＳＡ13出土遺物実測図②（１／４）



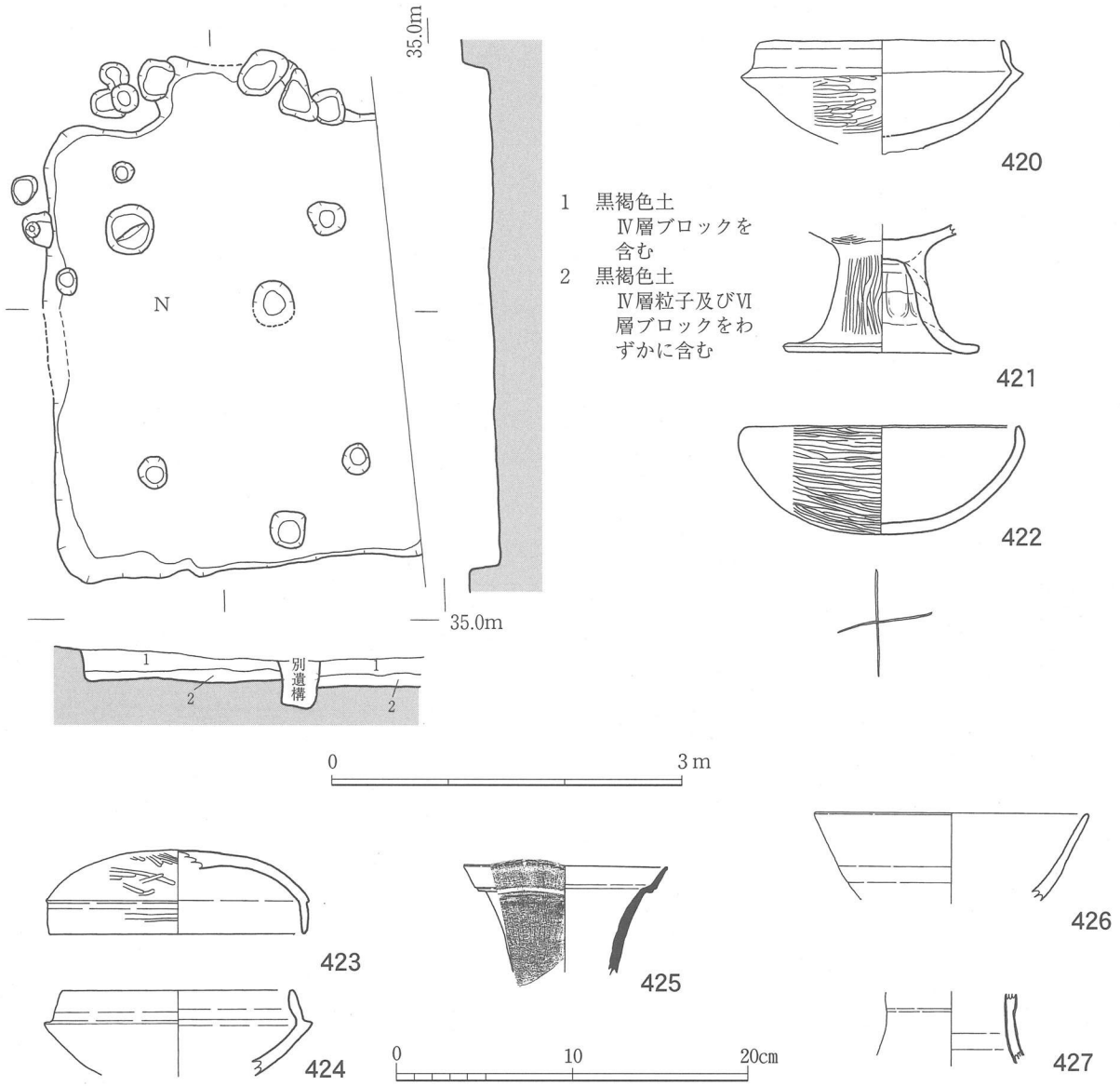
第42図　ＳＡ13出土遺物実測図③（１／４）

ＳＡ15（第43図）

ＳＡ15は調査区の東端に位置し、ＳＥ４に切られ、ＳＣ15に隣接する。主柱穴の在り方からほぼ南北方向に主軸を持つ長方形プランとみられ、南北軸約3.9ｍ、東西軸は推定で約2.9ｍを計る。主柱穴は４本とみられ、その柱間は東西方向で約1.7ｍ、南北方向で約2.2ｍ、深さ約20～30㎝を計る。床面は埋土の状況から掘り底がそのまま利用された可能性が高い。南東の主柱穴のやや北側で焼土が検出されている。

出土遺物は比較的少ない。

420・421は土師器の高坏である。420は口縁部が屈曲して受部をもつことから有蓋高坏の坏部とみられ、内外面に丹塗りとミガキ調整がみられる。421は坏部の形状は不明であるが、外方に広がりながら裾部付近で大きく開く脚部で、外面にミガキ調整がみられる。422は土師器の坏で、外面にはミガキ調整がみられ、底部にヘラ記号がみられる。423・424は土師器の蓋坏でともに内外面に丹塗りとミガキ調整がみられ、対をなす可能性がある。425は須恵器の瓶で、口縁部と頸部上半部外面に櫛描波状文がみられる。426は龍泉窯系青磁碗、427は白磁壺の頸部で、ともに後世の混入とみられる。



第43図　ＳＡ15及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）

ＳＡ17（第44図）

ＳＡ17は床面らしき痕跡が確認されたのみで、規模等は不明である。

上記のような検出状況であったため、出土遺物も少ない。

428は複合口縁をもつ壺で、口縁部外面に櫛描波状文がみられる。429は壺の頸部である。430は明瞭な平底をもつ底部である。431は内湾して直立する脚柱部から強く屈曲して内湾しながら開く形状をもつ高坏の脚部で、裾部には円形の透かし孔がみられる。

ＳＡ18（第44図）

ＳＡ18は調査区中央からやや北西でＳＡ19・ＳＡ20の北側に位置し、ＳＢ24、ＳＥ１によって切られる。平面プランは北東側にやや開く台形状で、主柱穴は長４本とみられる。主柱穴間は東西方向で2.0～2.5m、南北方向で2.5mを計り、深さはすべて50cmほどである。床面は掘底の直上に上面が硬化したアカホヤ火山灰ブロック等を多く含む黒褐色土の堆積がみられたことから貼り床と考えられる。住居の中央からやや南側によった位置に焼土が堆積した土坑がみられ、その中央から口縁部を欠く甕形土器が出土している。

遺物は埋甕の南側周辺と住居の北半部を中心として、数多く出土している。

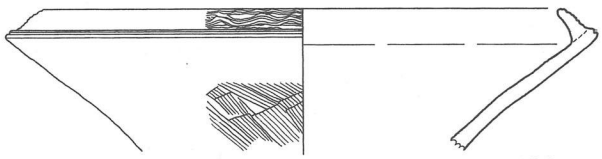
432～453は土師器の甕である。長胴のものと短胴のものに大きくわかれ、口縁部形状や最大径の位置にいくつかのバリエーションがみられる。また、器面調整の特徴として、胴部の下位にケズリに近い粗いナデ調整が施されているものが多くみられる。454～460は小型の土師器甕もしくは鉢で、前述の大型の甕と同様の器形を呈する。461は土師器の壺、462は単孔の土師器の甑である。463・464は土師器の高坏で、463は丹塗りがみられる。465～467は土師器の坏で、465・466には丹塗りとミガキ調整が施されているのに対して467はナデ調整のみである。また、467は蓋の可能性がある。468は土師器の鉢、469は手捏ねの土師器の鉢である。470は須恵器の高坏脚部で、三方に方形の透かしがみられる。

ＳＡ19（第50図）

ＳＡ19はＳＡ18の南東約４m、ＳＡ20の東約２mに位置する。ほぼ東西方向に主軸をもち、長軸方向約4.3m、短軸方向約3.5mの長方形プランを呈する。主柱穴は南側の東西方向の柱穴間が狭い４本とみられ、その柱間は東西方向北側で約2.3m、東西方向南側で約1.6m、南北方向で約1.6mを計り、床面からの深さは40～50cmを計る。床面は掘底の直上に上面が硬化したアカホヤ火山灰ブロック等を多く含む黒褐色土の堆積がみられたことから貼床と考えられる。住居の中央部北側壁面よりに長軸115cm、短軸55cm、深さ30cmほどの楕円形土坑がみられ、その土坑上を中心とした住居の北半部の貼床上面では多くの炭化物（材？）が出土している、

遺物は非常に少ない。

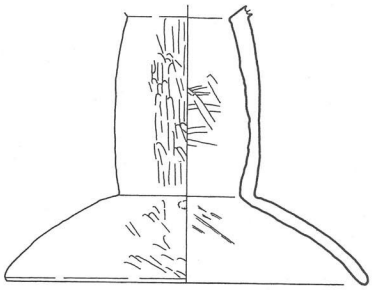
471は土師器の甕口縁部で、外面はハケメ調整、内面はナデ調整である。472は体部の中位で段をもって屈曲する土師器の高坏口縁部で、外面はハケメ調整、内面はミガキ調整がみられる。473は土師器の鉢で、外面下位に粗いナデ調整がみられる。



428

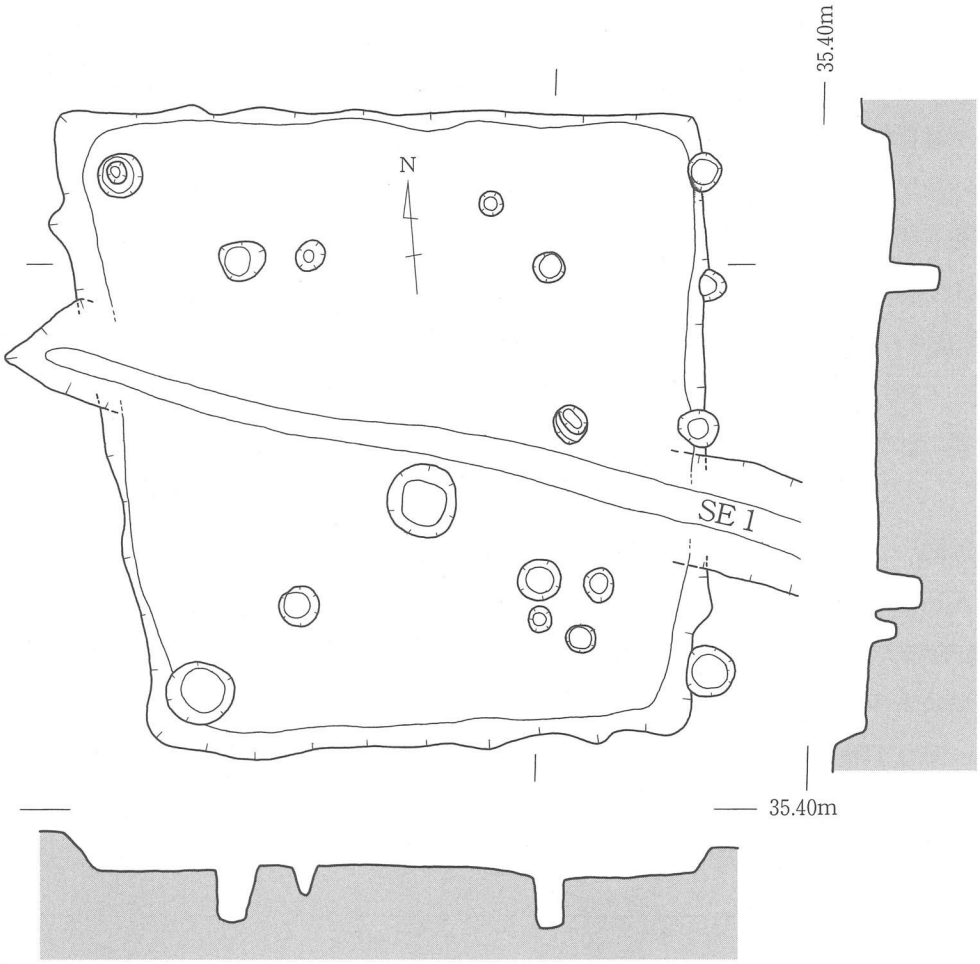
429

430



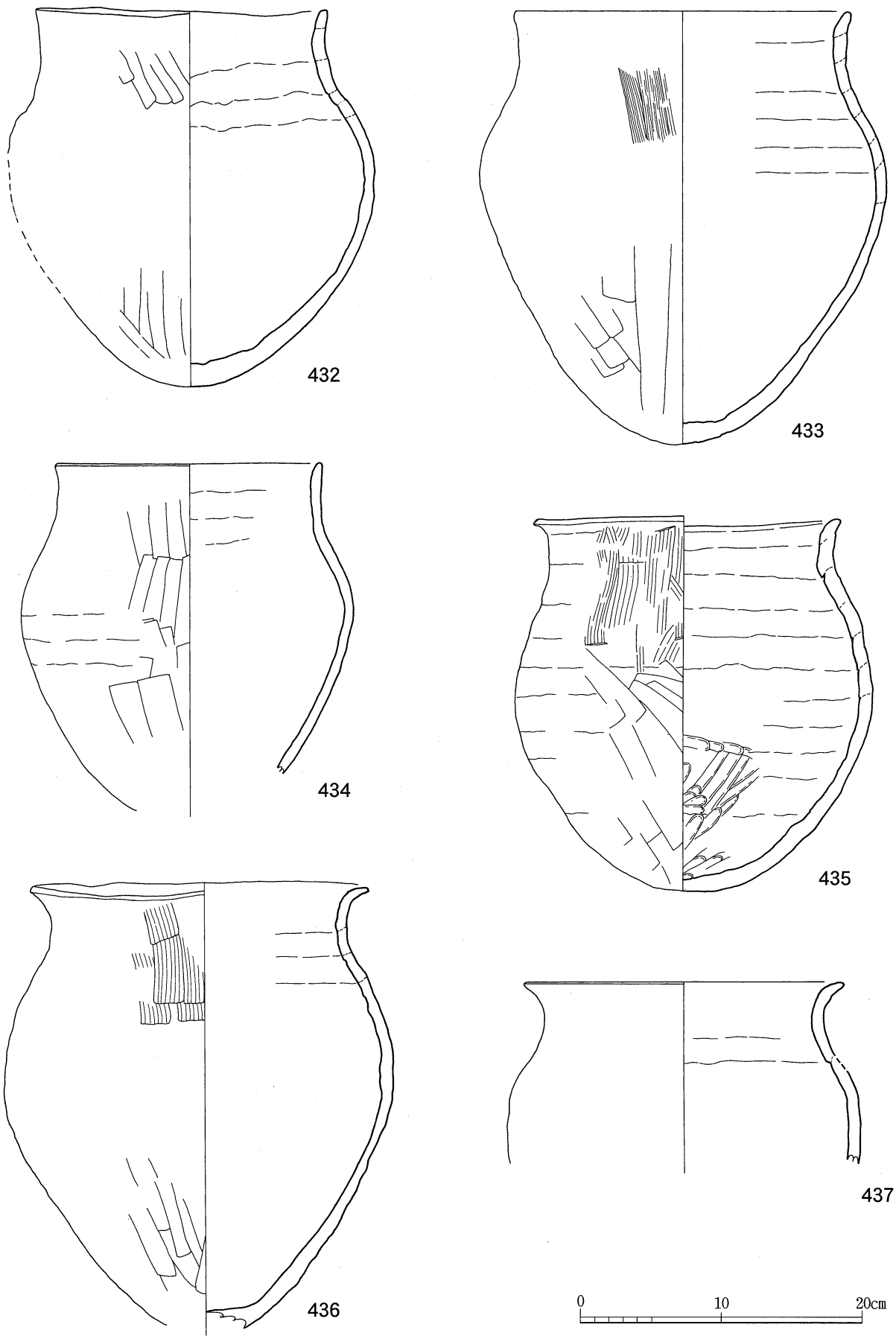
431

0 10 20cm

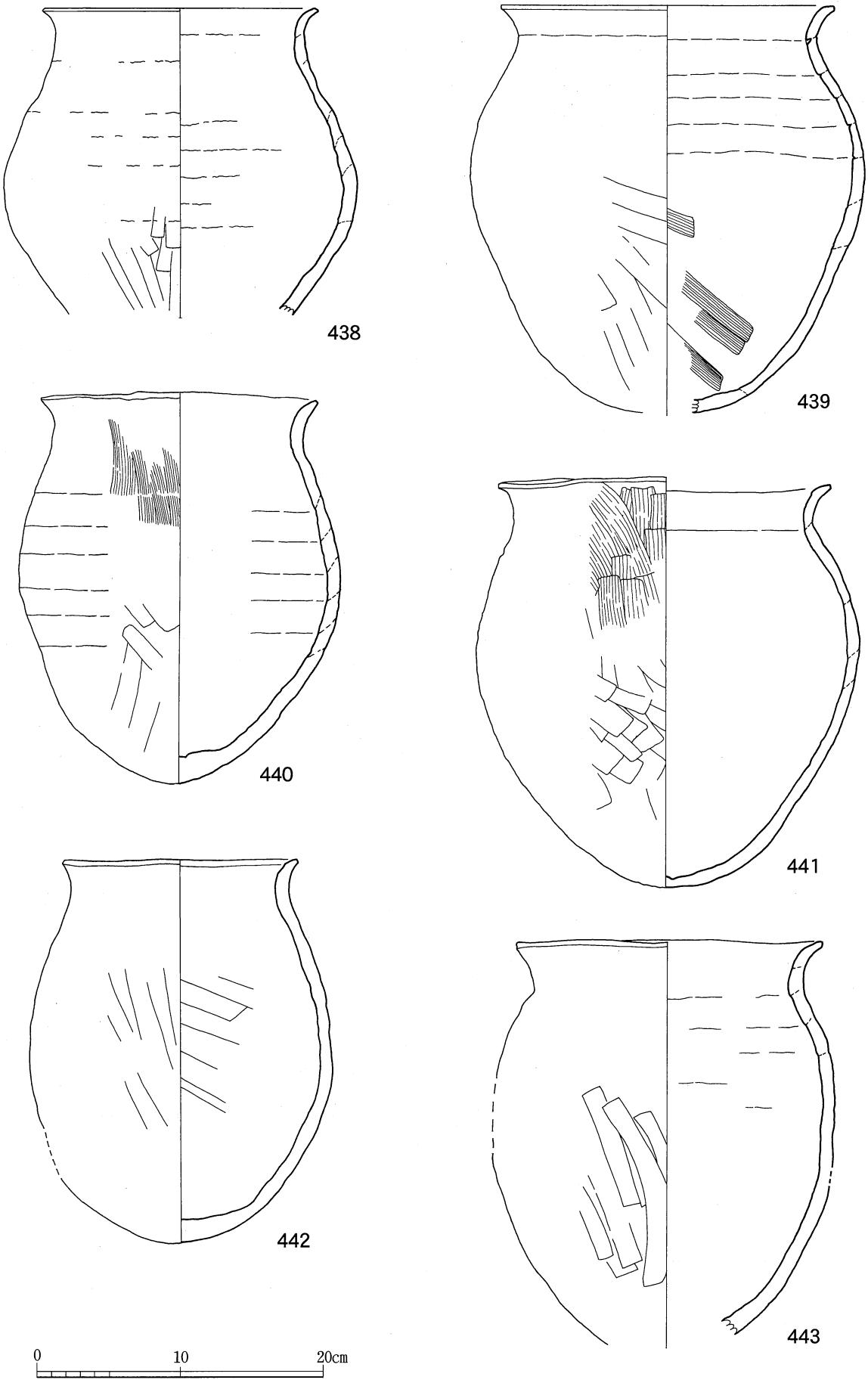


0 3m

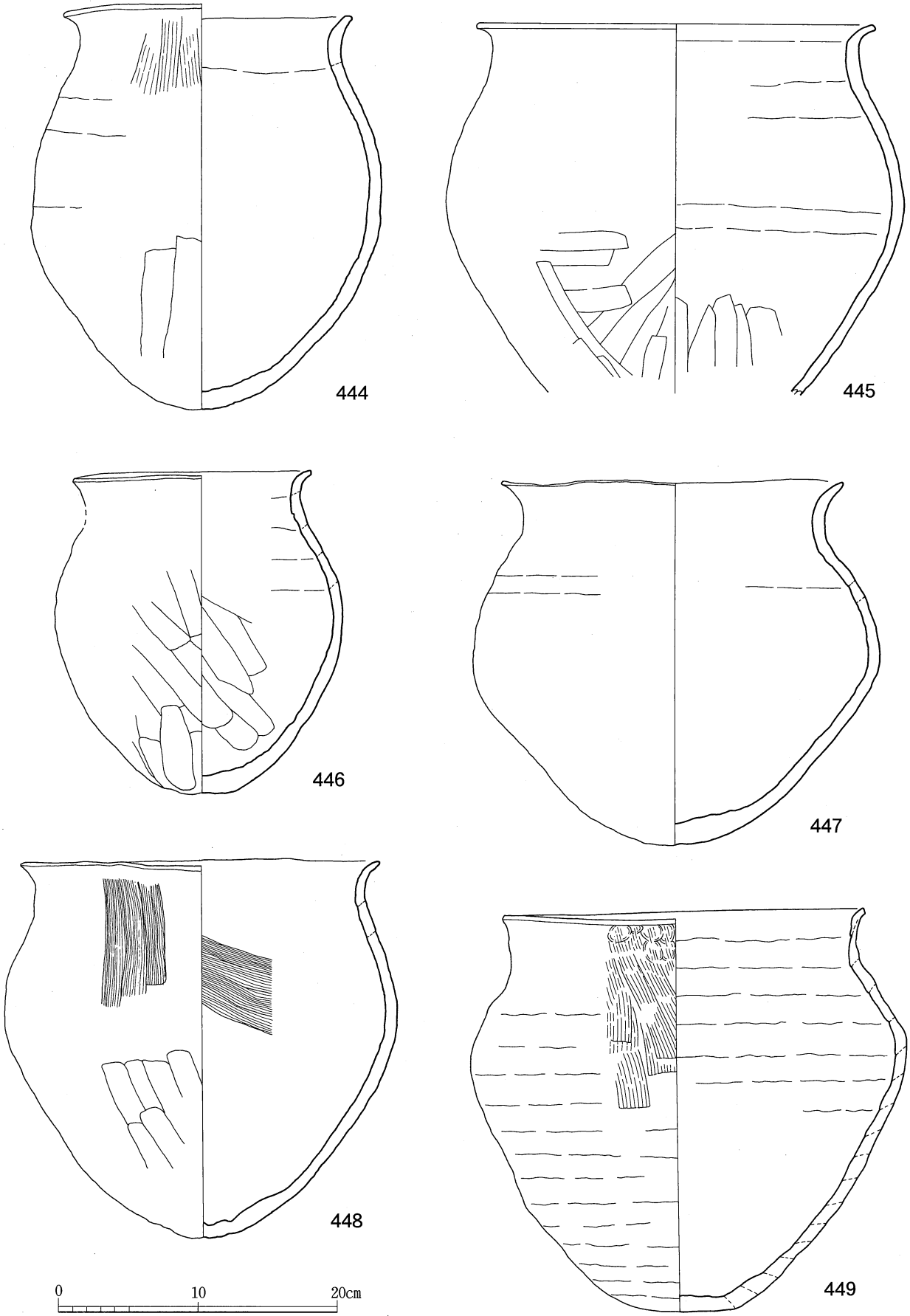
第44図　ＳＡ17出土遺物及びＳＡ18実測図（遺物：１/４、遺構：１/60）



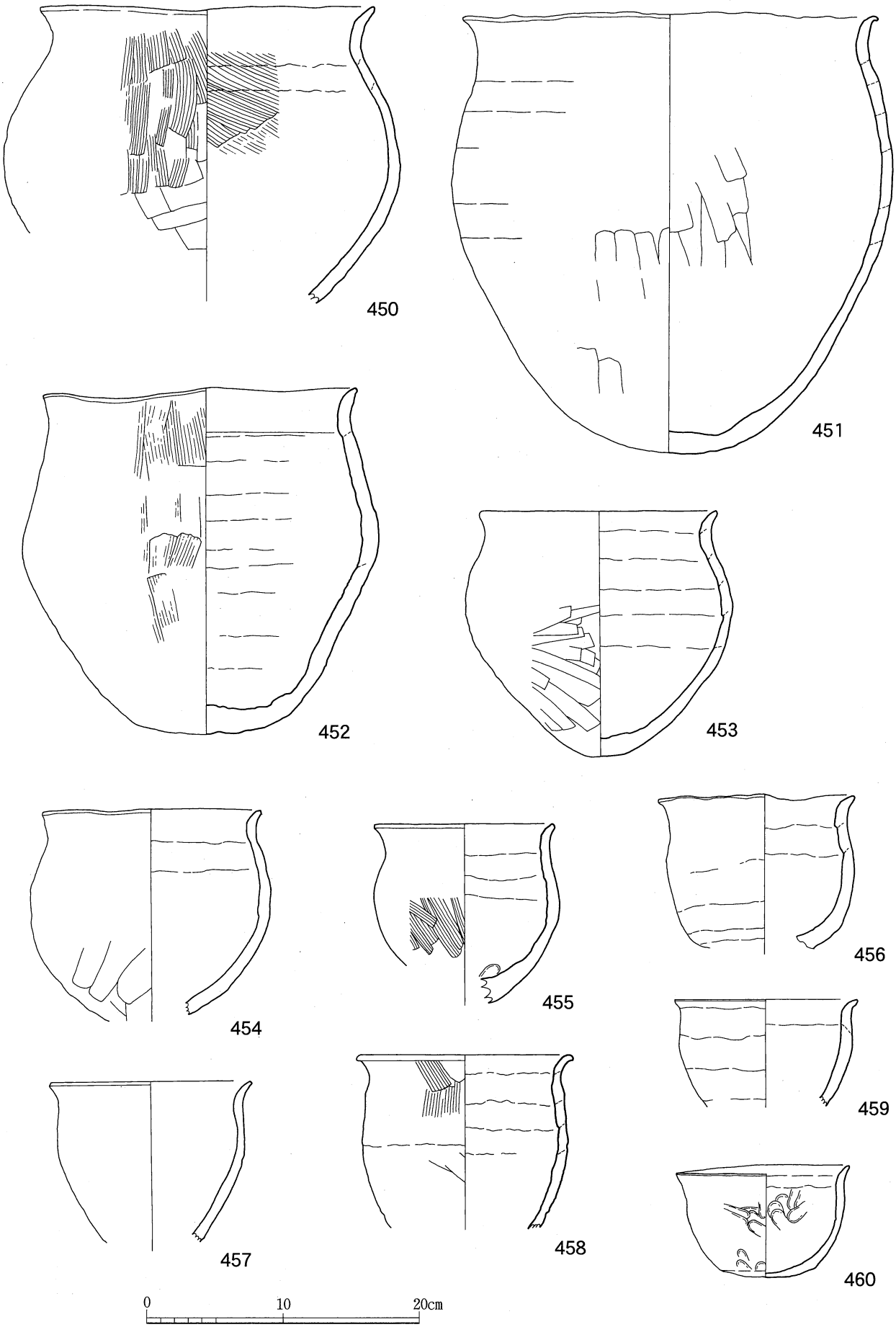
第45図　ＳＡ18出土遺物実測図①（１／４）



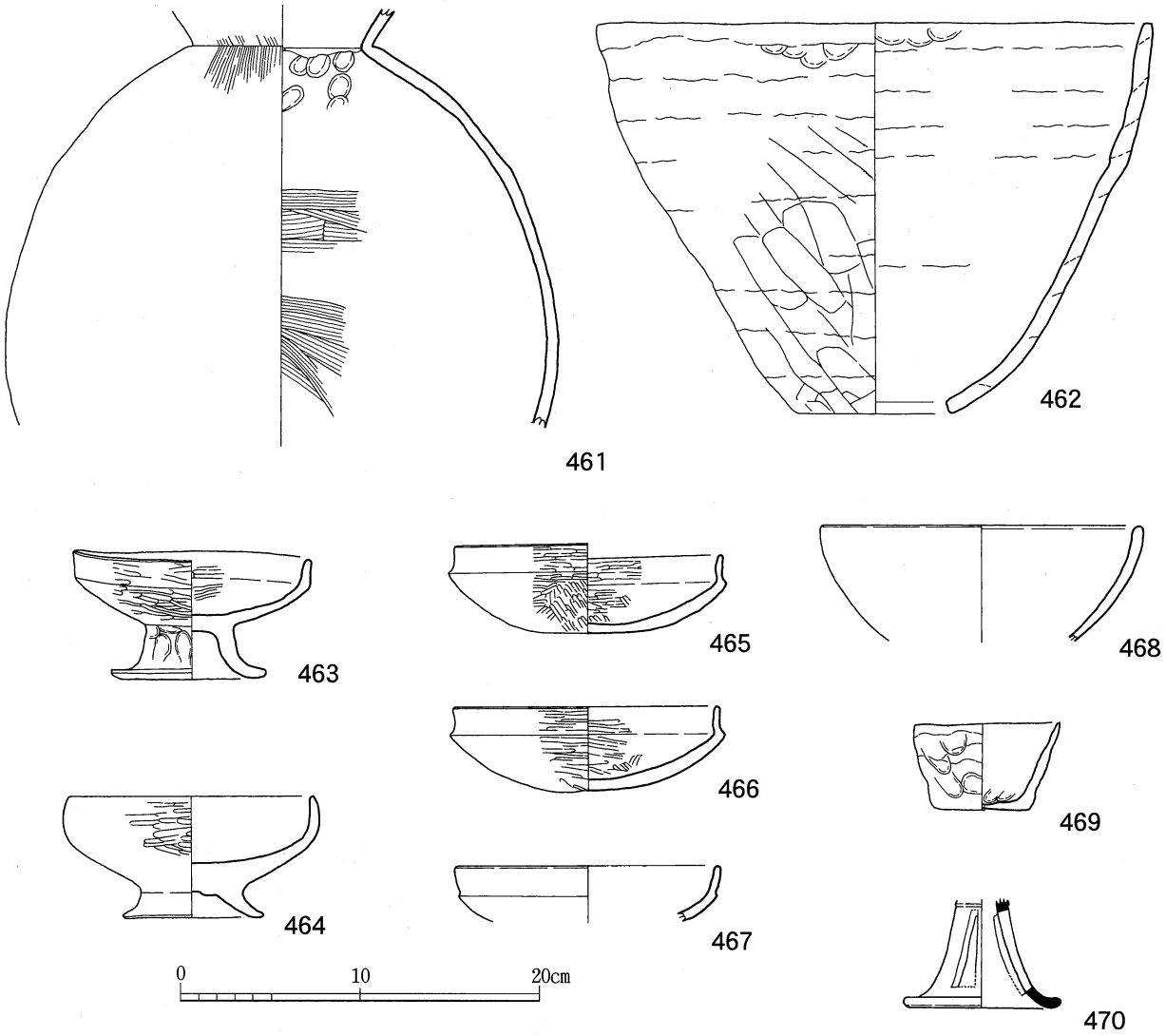
第46図　ＳＡ18出土遺物実測図②（１／４）



第47図　ＳＡ18出土遺物実測図③（１／４）



第48図　ＳＡ18出土遺物実測図④（１／４）



第49図　ＳＡ18出土遺物実測図⑤（１/４）

ＳＡ20（第50図）

ＳＡ20はＳＡ18の南約３ｍ、ＳＡ19の西約２ｍに位置し、ＳＣ17・18や多くの柱穴によって切られる。ほぼ南北方向に主軸をもち、長軸方向約6.0ｍ、短軸方向約4.7ｍの長方形プランを呈する。主柱穴間の距離は長軸方向で約3.4ｍ、短軸方向で約2.0ｍを計り、床面からの深さは50～70㎝である。床面は堀底から10㎝ほどの厚さで上面が硬化したアカホヤ火山灰ブロック等を多く含む黒褐色土の堆積がみられたことから貼床であったとみられる。中央部やや南側に長軸80㎝、短軸45㎝、深さ10㎝ほどの楕円形土坑がみられるが、甕の埋設や焼土などはみられなかった。

遺物は南半部および北東隅で多く出土している。

474～493は土師器の甕である。ＳＡ18出土のものと同様に長胴のものと短胴のものに大きくわかれ、口縁部形状や最大径の位置にいくつかのバリエーションがみられる。494～499は土師器の甑である。いずれも単孔で、大型のものと小型のものがみられる。500～502は土師器の鉢で、501は底部が平底である。503～505は土師器の壺で、いずれも丹塗りとミガキ調整がみられる。また、504は脚台を有する。506は土師器の大型の壺で、外面にはミガキ調整がみられる。507～513は土師器の高坏で、いずれもミ

ガキ調整がみられ、512以外は丹塗りである。坏部や脚部の形状が若干ことなり、時期差が伺われる。514～520は土師器の坏で518は平底を呈する。516・517・519は蓋の可能性もある。521は軟質の須恵器の坏蓋で口縁部と体部の境に段を有する。522は須恵器の坏で、やや歪んでいる。523は小型の須恵器の甕で、体部外面に平行タタキ痕がみられるが、内面の当て具痕はナデ消されている。524は断面三角形状の長い石の頂部を砥石として利用したものである。525は細長い石の側面の一部に敲打痕の集中がみられるものである。526は４つの側面に擦痕がみられる砥石である。527は長頸鏃の茎部とみられる。

ＳＡ21（第57図）

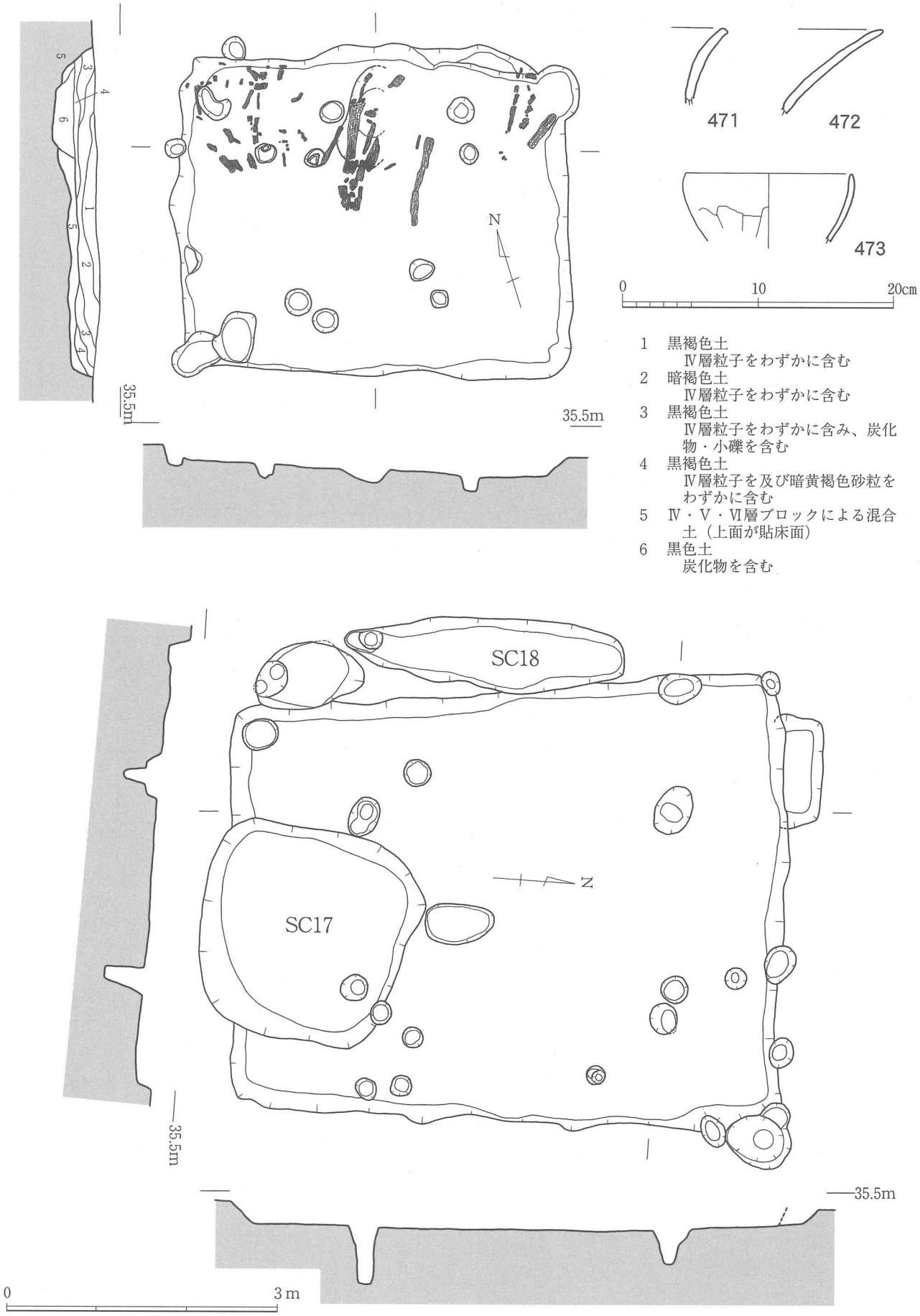
ＳＡ21はＳＡ20の西約５ｍに位置し、南側壁面中央部に大きな攪乱がみられる。若干東に傾いた南北に主軸をもち、長軸約5.5ｍ、短軸約4.5ｍの長方形プランを呈する。床面は埋土の状況から、掘り底上に10～20㎝程度盛土を施した貼床とみられる。主柱穴は４本とみられ、その柱間はＰ１－Ｐ２で2.9ｍ、Ｐ３－Ｐ４で2.6ｍ、Ｐ１－Ｐ４で1.8ｍ、Ｐ２－Ｐ３で2.1ｍを計る。床面からの柱穴の深さはＰ１が70㎝、Ｐ２が60㎝、Ｐ３が70㎝、Ｐ４が70㎝である。50㎝を計る。

遺物は東半部から集中して出土している。

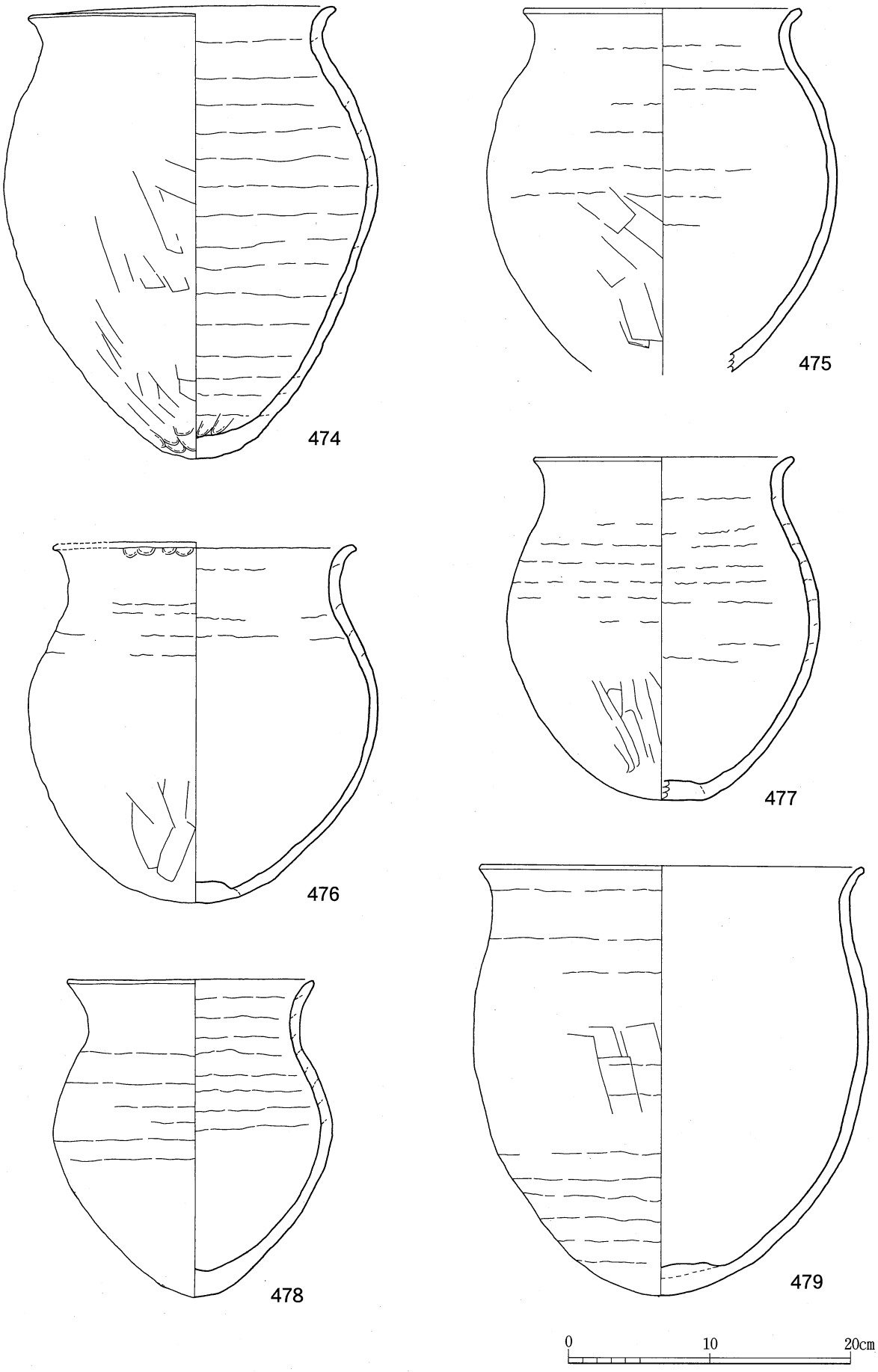
528～564は土師器の甕である。528・532・561が平底を呈する以外はすべて丸底で、口縁部形状や最大径の位置などに若干バリエーションがみられる。胴部の上半に粘土の繋目痕、外面の下半にケズリに近い粗いナデ調整が施されたものが多くみられる。565～569は土師器の甑である。すべて単孔であるが、やや内湾しながら口縁部に至るものと胴部上半で屈曲して外反する口縁部をもつものの２タイプがみられる。570～575は土師器の壺である。長頸壺には丹塗りでミガキ調整がみられるもの（572・573）と丹塗りがみられずナデ調整のもの（575）がある。576～585は土師器の高坏である。丹塗りとミガキ調整が施されたものが多く、器形的にも類似している。586～595は土師器の坏蓋である。口縁部から天井部との境に稜をもって屈曲する形状で丹塗りやミガキ調整が施されたものが多い。590・595の天井部外面にはヘラ記号がみられる。596～611は土師器の蓋坏の坏身である。口縁部と体部の境で段を持ち、口縁部がやや内傾する特徴を持つ。前述の坏蓋とセットをなすものとみられ、丹塗りやミガキ調整が施されたものが多い。612～615は土師器の坏である。612・613は内外面ともにナデ調整であるのに対して、614・615は強く屈曲する口縁部と丹塗り、ミガキ調整が施されている点で異なる。また、614の底部は平底気味で、その外面には木の葉の圧痕がみられる。616・617は前述の坏よりもやや深い器形を呈し、鉢か。618～620は土師器の鉢で、620は脚台を有する。621～632は須恵器である。621～628は蓋坏で、その形状や法量の違いからある程度の時期差が伺える。629は平底状を呈する底部で壺か。630は外反する口縁部をもつ壺の蓋である。631は短頸の壺、632は壺の胴部とみられる。633は長頸鏃の茎部である。634・635は偏平な楕円形状の礫の両端を打ち欠いた石錘である。636は長い礫の両端に敲打痕を残すことから敲石とみられる。

ＳＡ22（第66図）

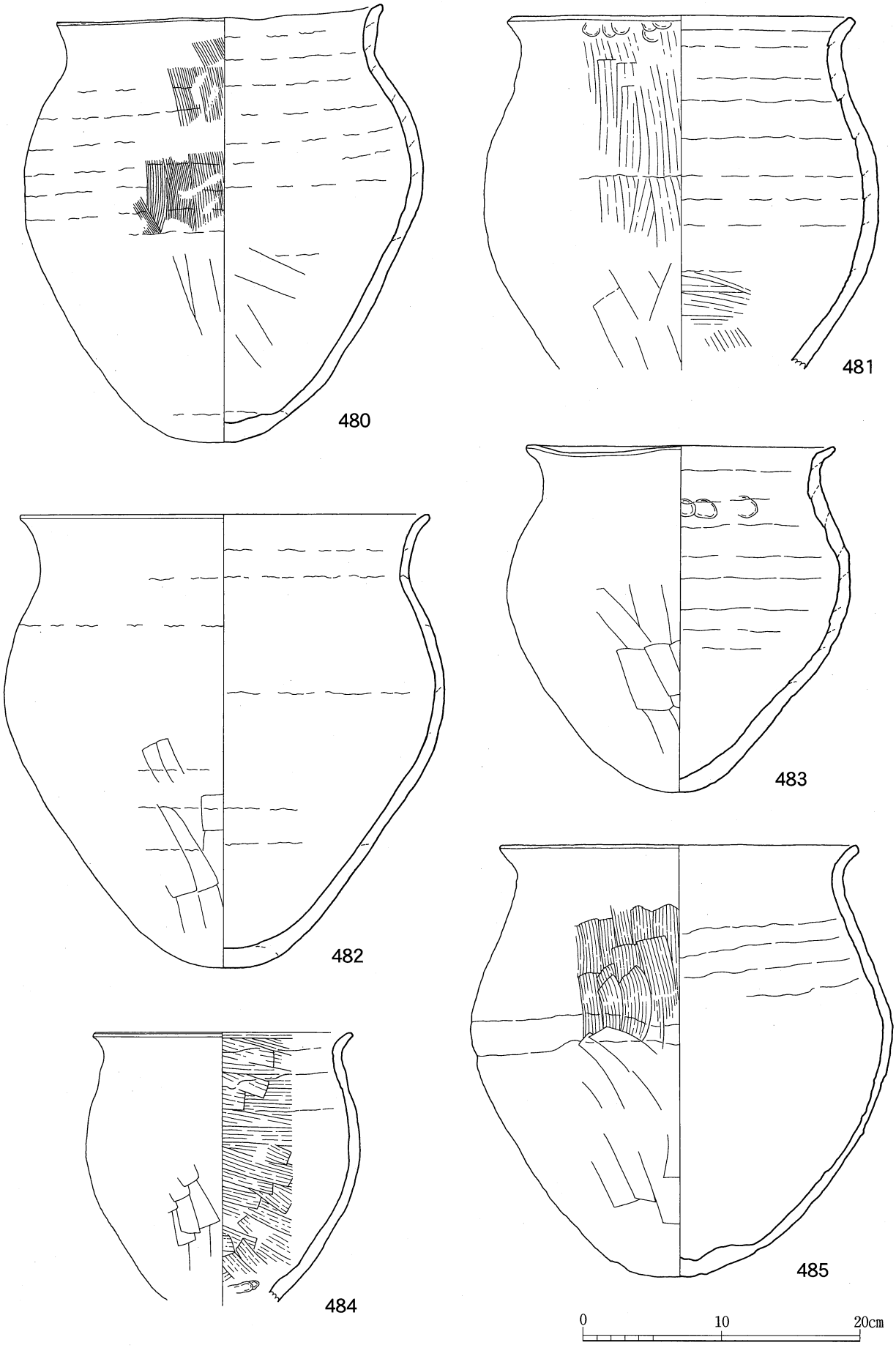
ＳＡ22はＳＡ２の南西約12ｍ・ＳＡ18の南約15ｍに位置し、調査区の境界上で部分的に検出された。主軸をやや北に振った東西方向に持つ長方形プランと考えられるが、規模および主柱穴については不明である。埋土の状況から、掘り底をそのまま床面として利用した可能性が高い。



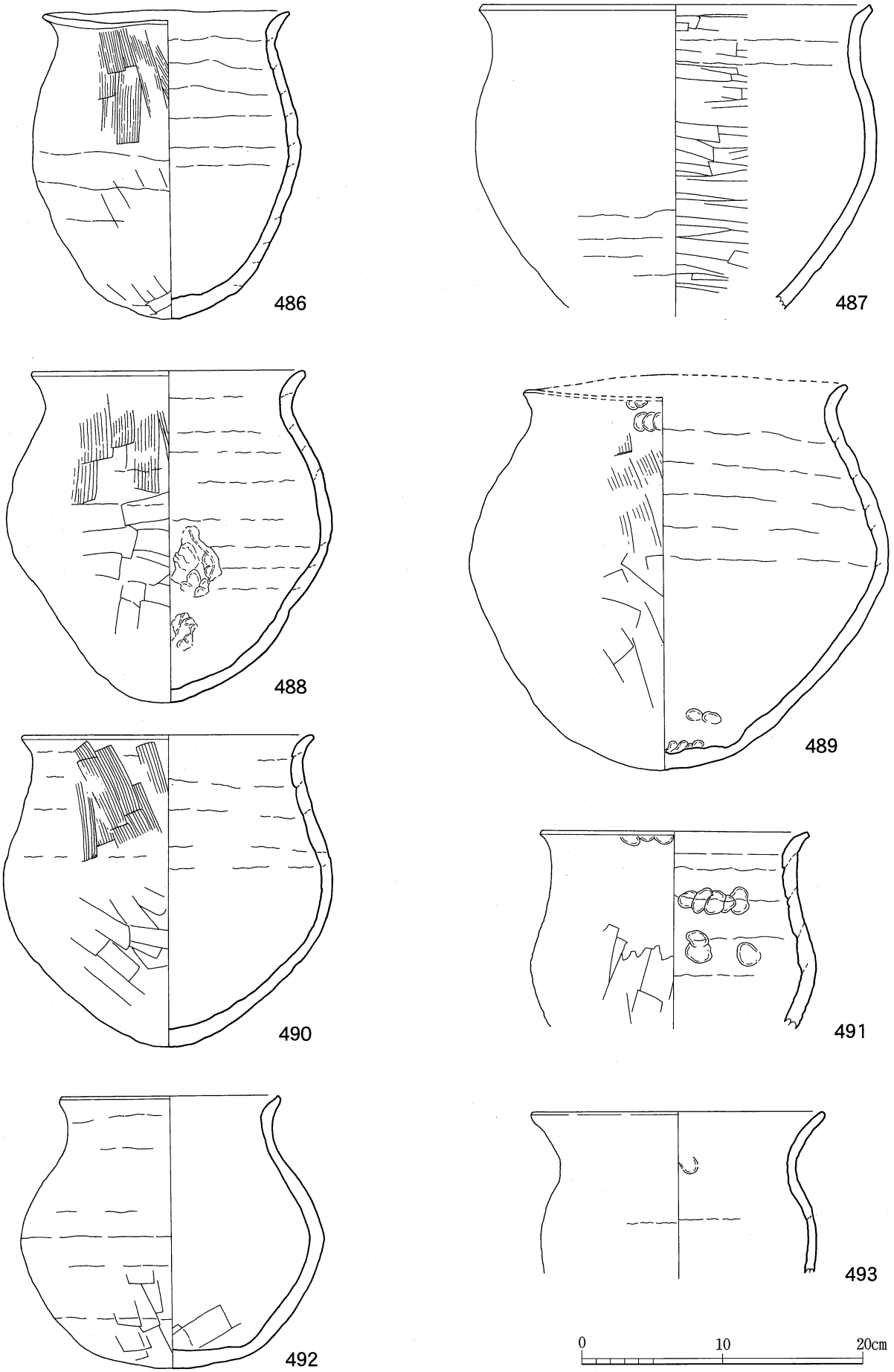
第50図　ＳＡ19及び出土遺物実測図、ＳＡ20実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）



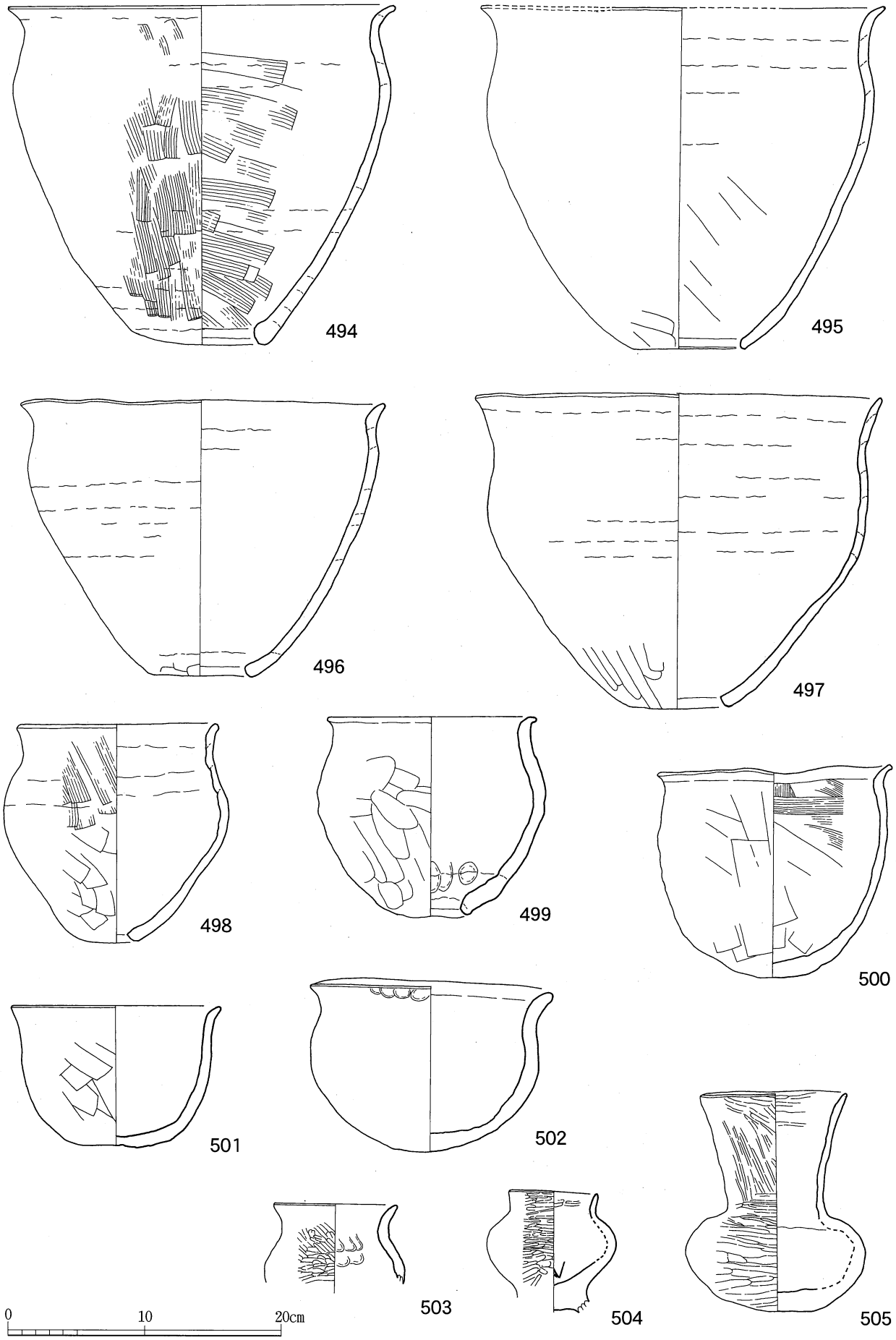
第51図　ＳＡ20出土遺物実測図①（１／４）



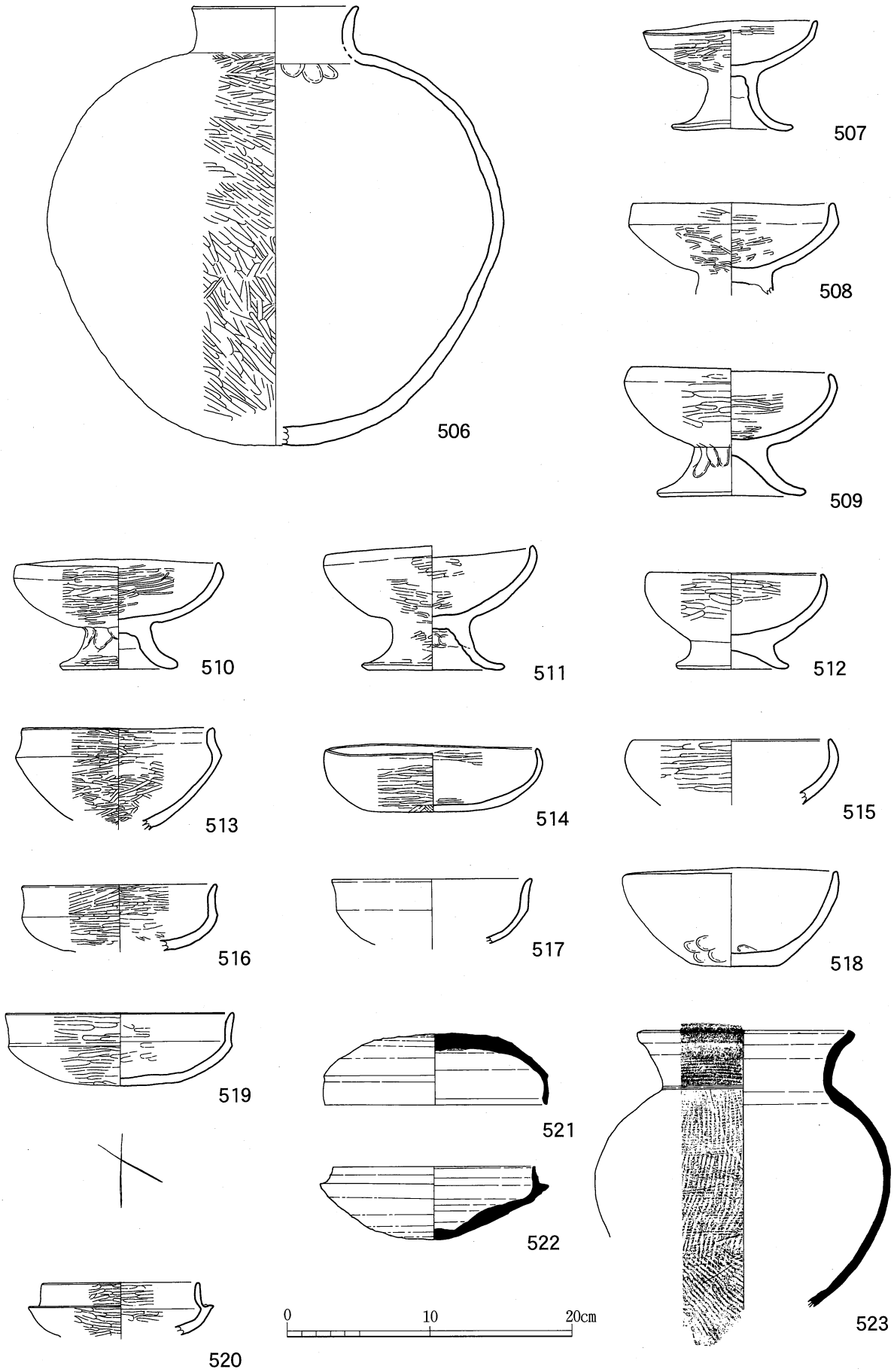
第52図　ＳＡ20出土遺物実測図②（１／４）



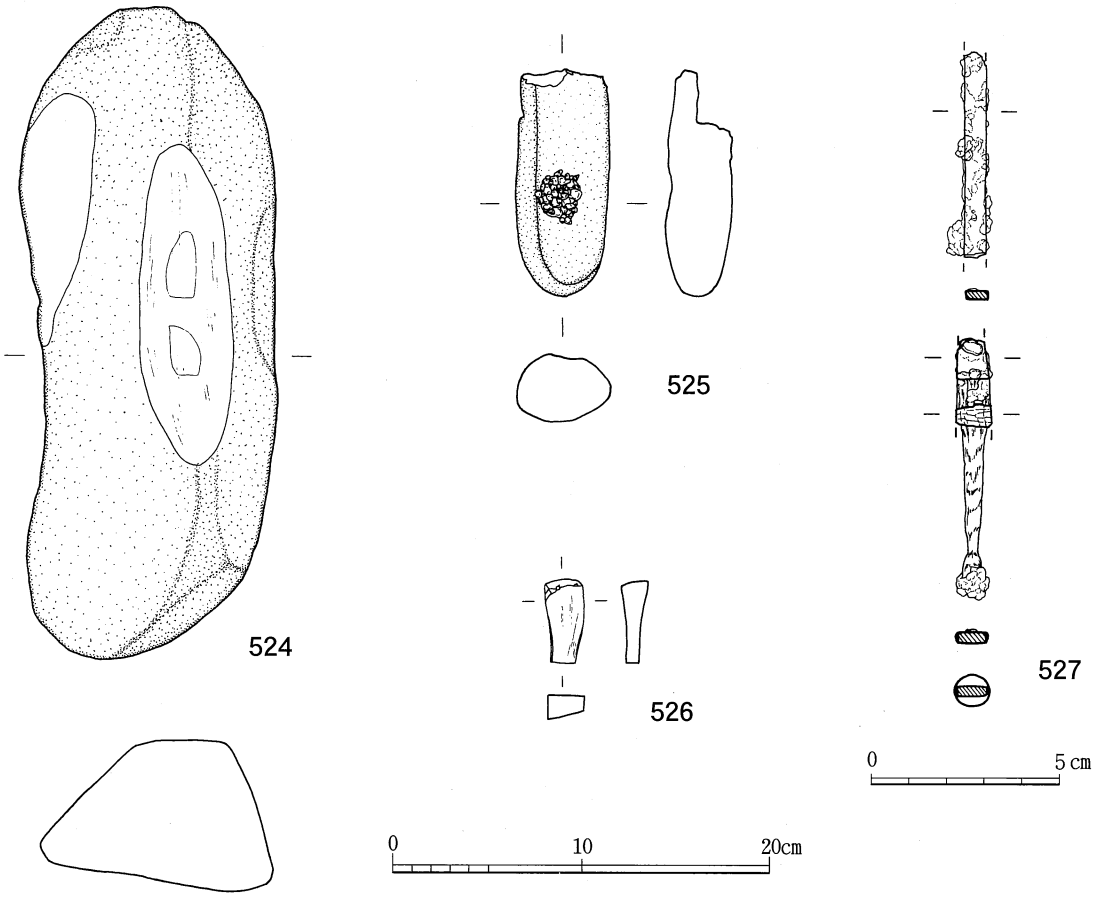
第53図　ＳＡ20出土遺物実測図③（１／４）



第54図　ＳＡ20出土遺物実測図④（１／４）



第55図　ＳＡ20出土遺物実測図⑤（１／４）



第56図　ＳＡ20出土遺物実測図⑥（１/４、527のみ１/２）

前述のとおり検出状態が悪かったため、遺物の出土は少なかったが、焼土および焼土東側の土坑付近から数点検出されている。

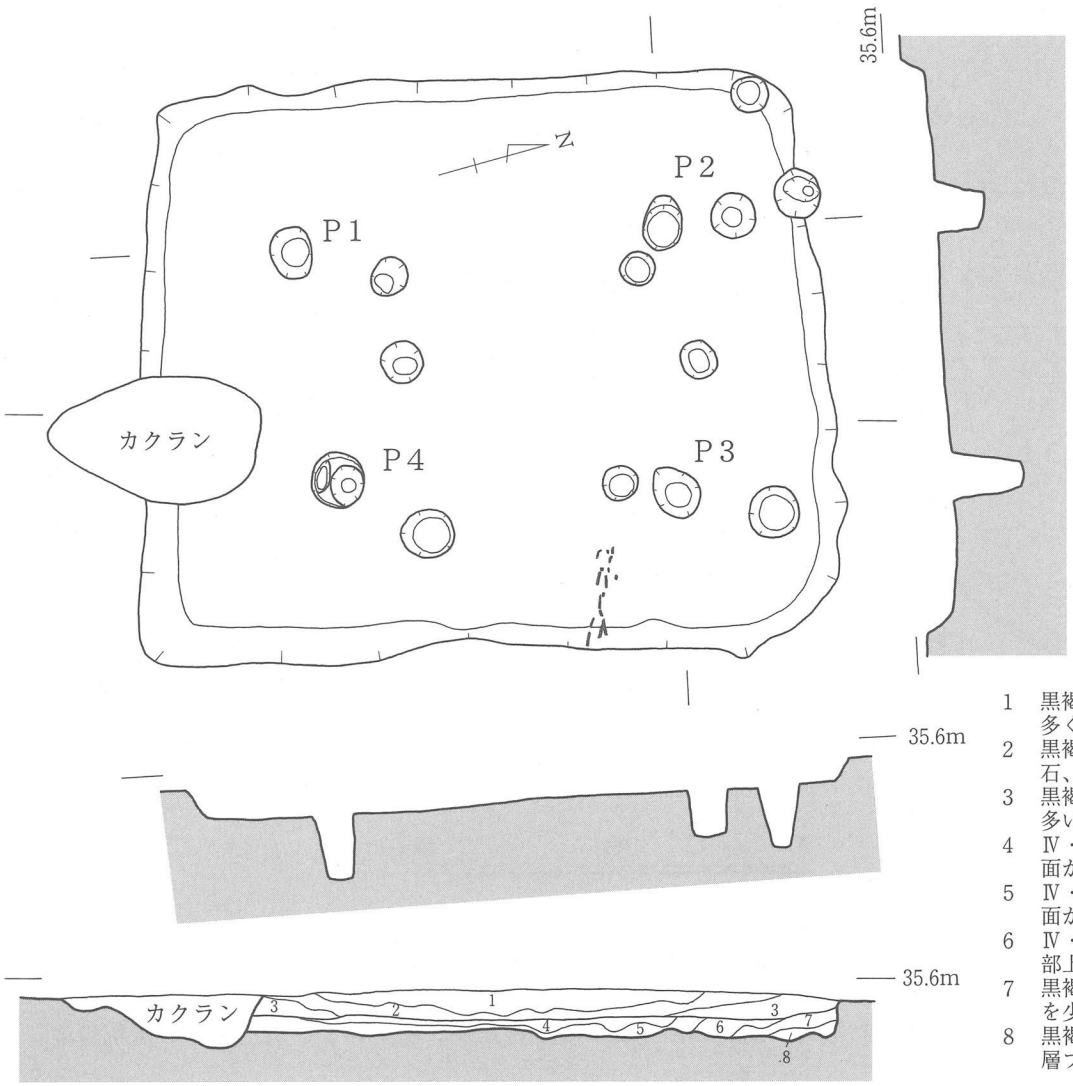
637は土師器の甕である。638・640～642は土師器の壺である。638は複合口縁を有し、口縁部外面には櫛描波状文がみられる。640は口縁部の形状は不明であるが長楕円形状の胴部をもち、尖底で頸部が外方に強く屈曲するものとみられる。641・642は小型丸底壺で、642の口縁部外面には櫛描波状文がみられる。639・643は土師器の鉢である。639は器壁も薄く外面にミガキ調整がみられる精製品であるのに対して、643は内外面にハケメ調整がみられ、口縁部付近に粘土の繋目痕を残すなど粗製品である。

ＳＡ23（第67図）

ＳＡ23はＳＡ24とＳＥ10の間に位置する。若干東に傾いた南北方向に主軸をもち、長軸4.7m・短軸4.5mのほぼ方形プランを呈する。床面は、掘底の直上に20cmほどの厚さでアカホヤ火山灰ブロック等を多く含む黒褐色土の堆積がみられ、その上面が硬化していたことから貼り床と考えられる。主柱穴は４本とみられ、Ｐ１－Ｐ２で2.4m、Ｐ３－Ｐ４で2.3m、Ｐ１－Ｐ４で2.5m、Ｐ２－Ｐ３で2.5mを計る。床面からの柱穴の深さは、Ｐ１が40cm、Ｐ２が65cm、Ｐ３が40cm、Ｐ４が50cmほどである。住居の北東隅に長軸2.0m・短軸1.2m・深さ20cmの楕円形土坑を伴い、その中央に胴部上半を欠く甕形土器の底部と焼土の広がりがみられた。

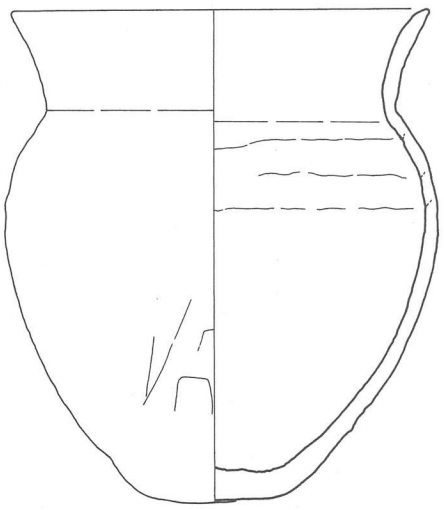
遺物は全体的に出土しているが、量的には少ない。

644は土師器の甕口縁部で直線的な胴部を呈し小型である。645は甕の胴部で平底を呈し、内面に粘土

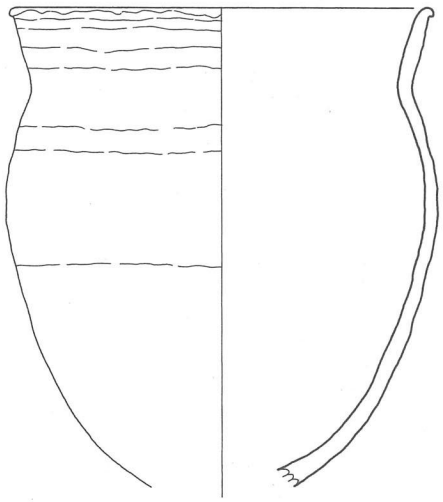


1　黒褐色土　炭化物、小礫、土器片を多く含み、白色軽石を少量含む
2　黒褐色土　炭化物、白色・淡黄色軽石、Ⅳ層粒子を少量含む
3　黒褐色土　２層よりも混入物の量が多い
4　Ⅳ・Ⅴ層ブロックによる混合土（上面が貼床面）
5　Ⅳ・Ⅴ層ブロックによる混合土（上面が貼床面）でややしまりがない
6　Ⅳ・Ⅴ層ブロックによる混合土（一部上面が貼床面）
7　黒褐色土　Ⅳ層粒子・Ⅵ層ブロックを少量含む（一部上面が貼床面）
8　黒褐色土　Ⅳ層粒子を少量含み、Ⅵ層ブロックを多く含む

0　3m



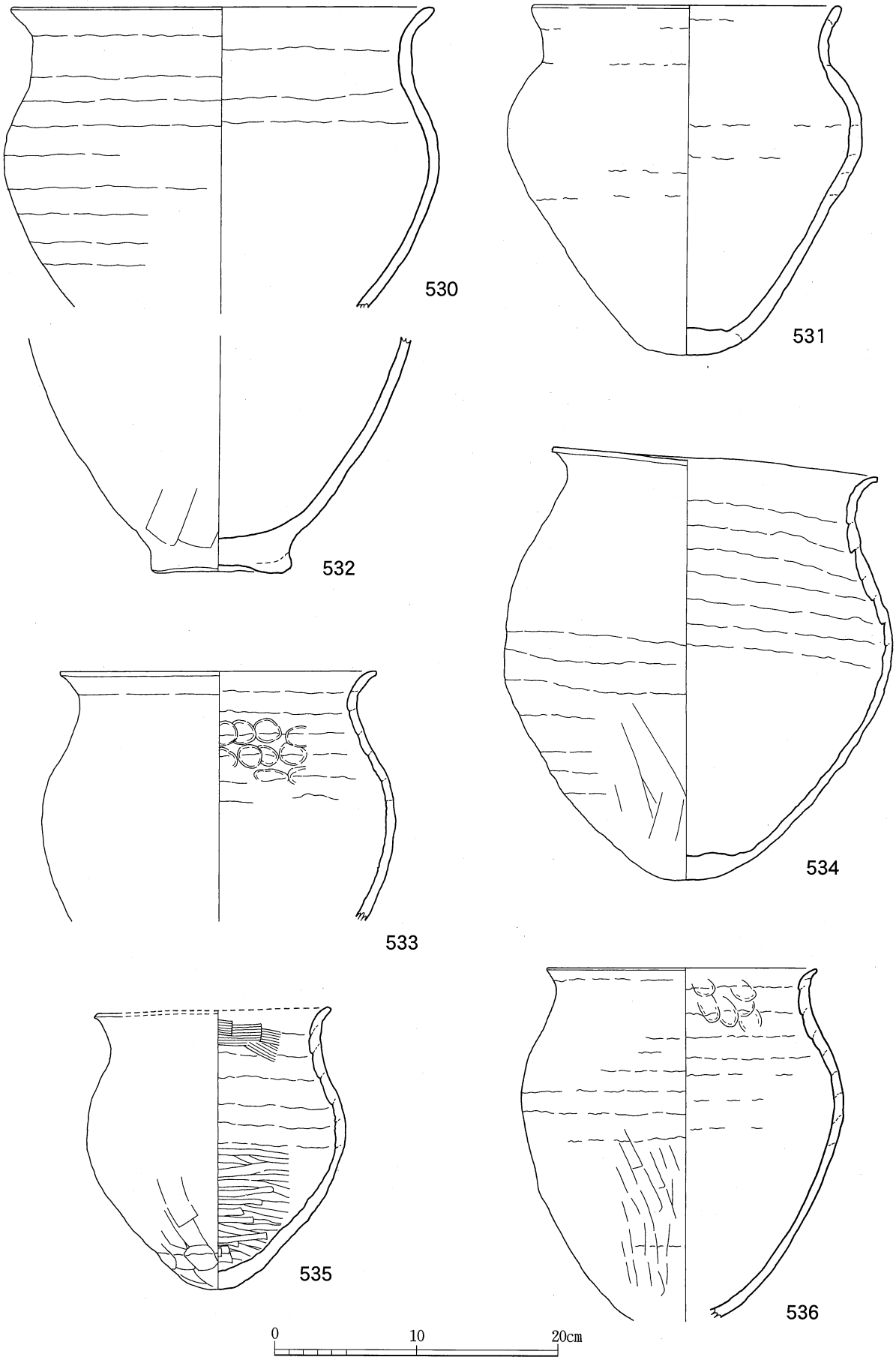
528



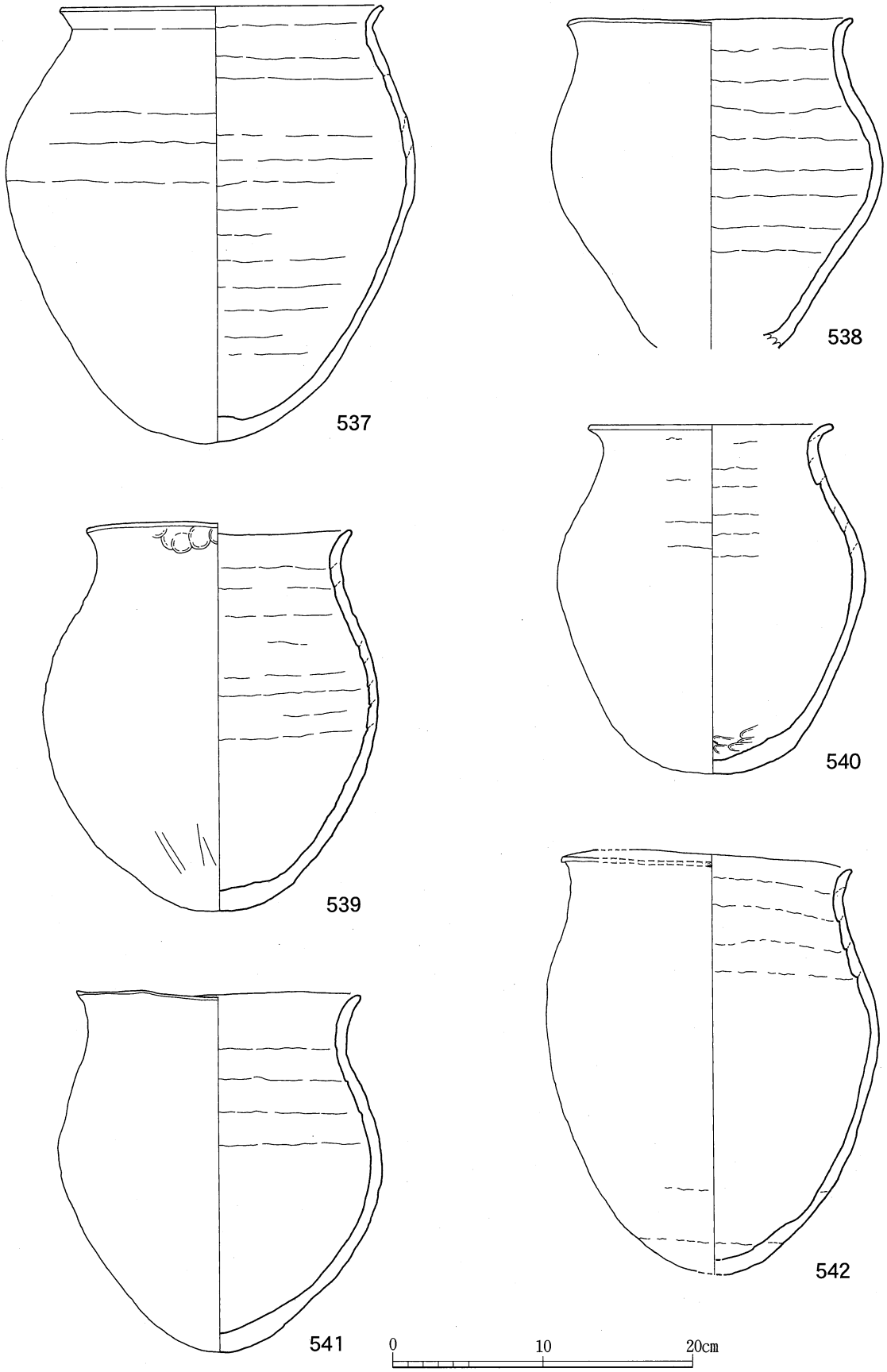
529

0　10　20cm

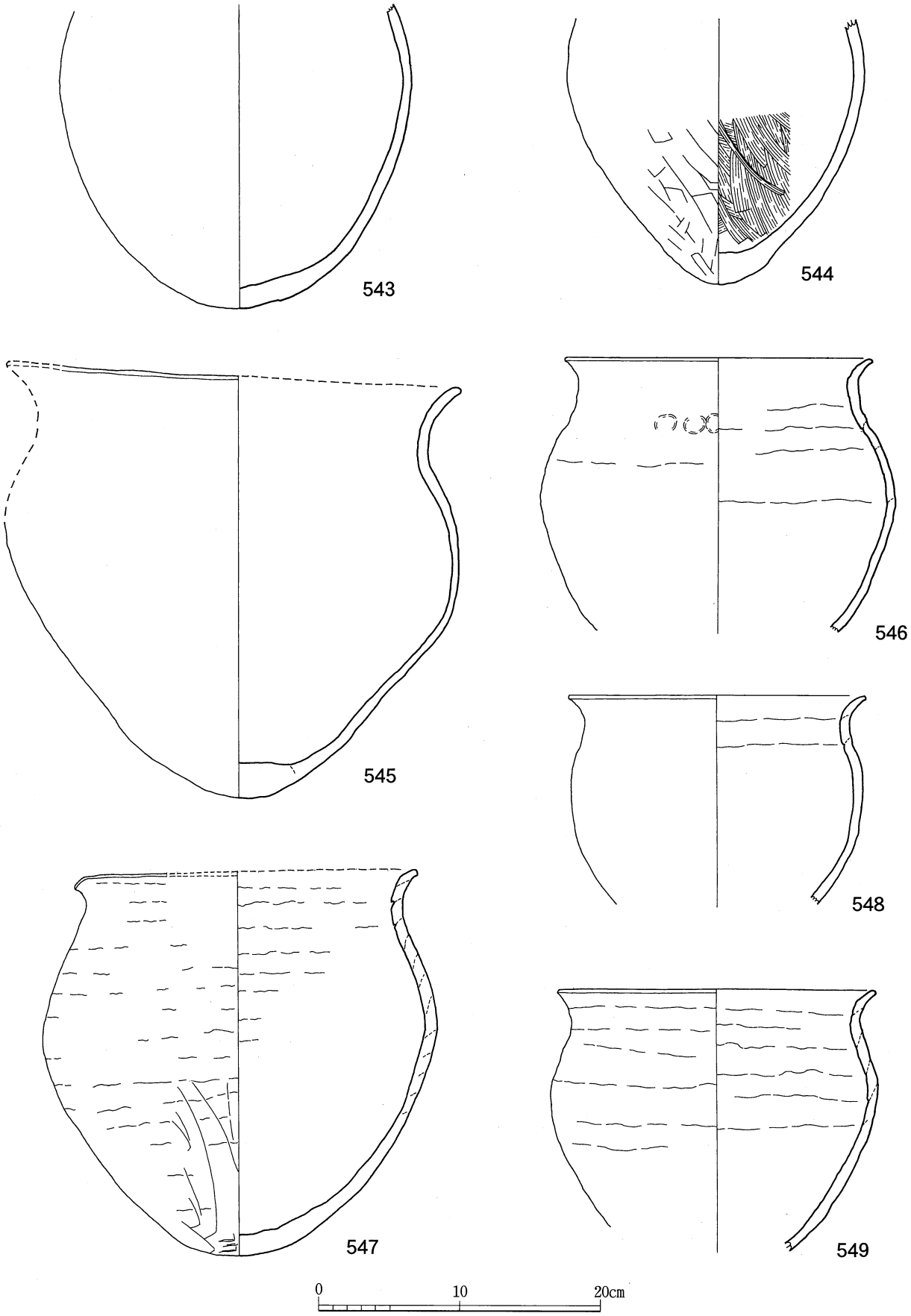
第57図　ＳＡ21及び出土遺物実測図①（遺構：１/60、遺物：１/４）



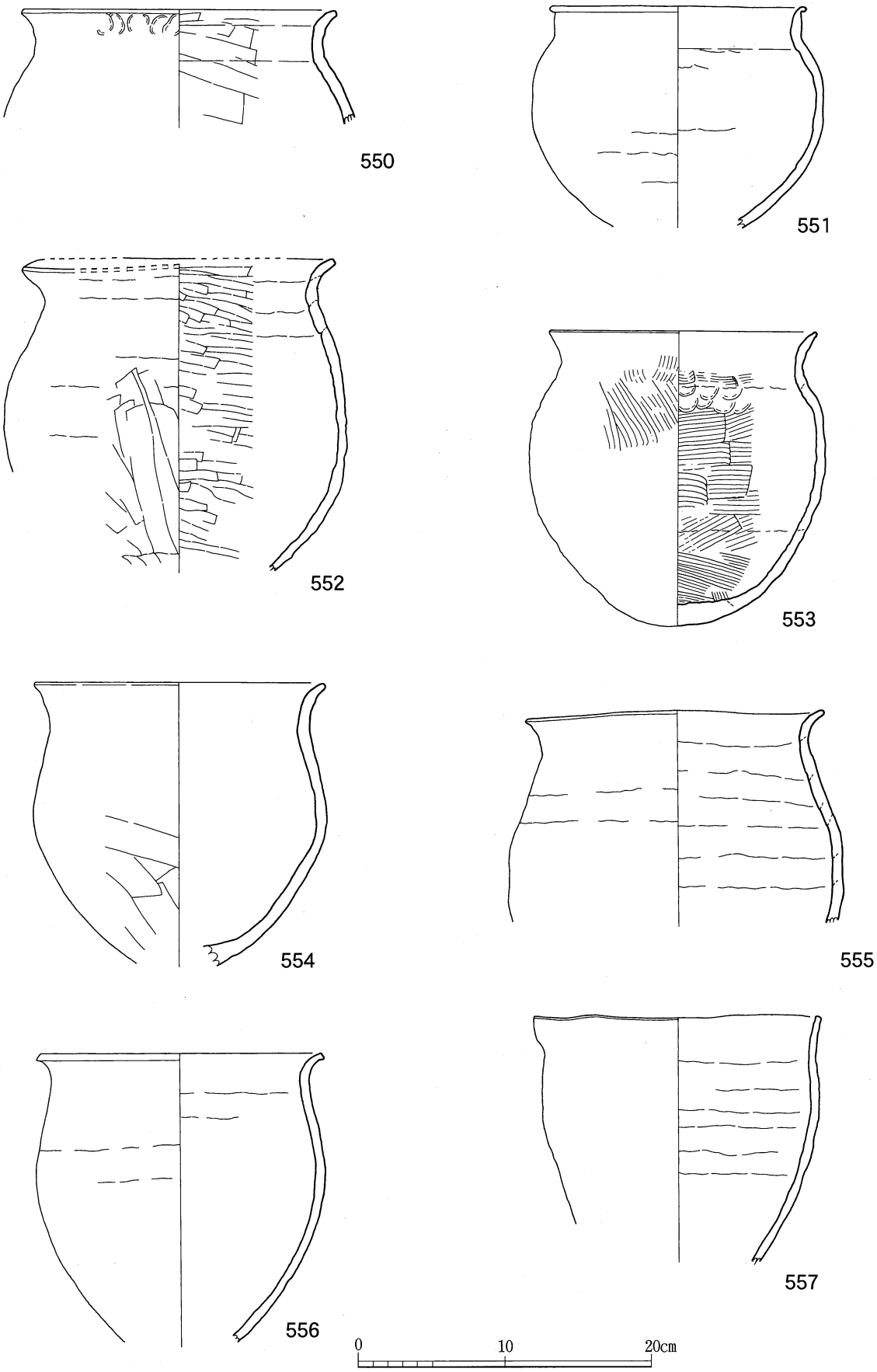
第58図　ＳＡ21出土遺物実測図②（１／４）



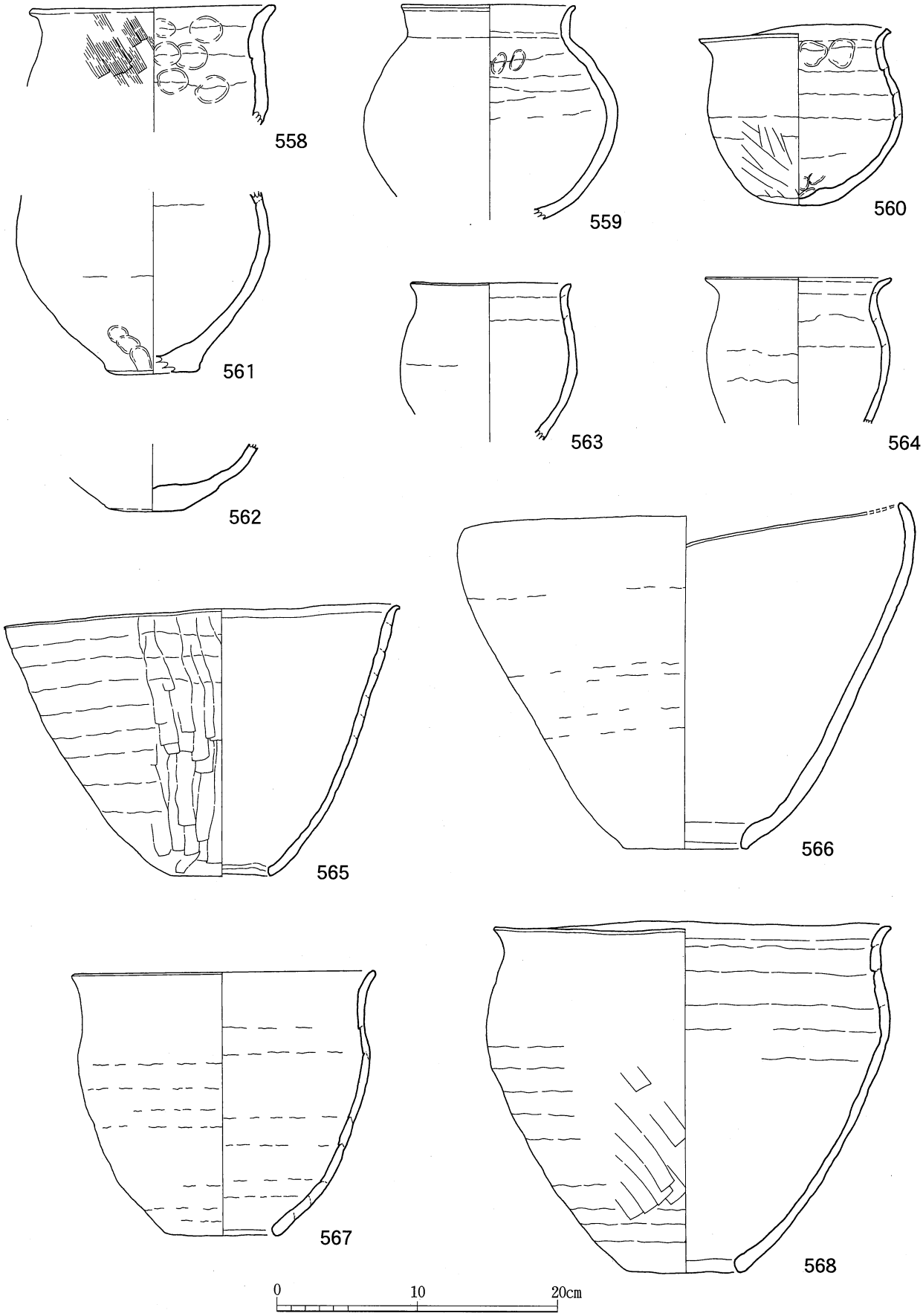
第59図　ＳＡ21出土遺物実測図③（１／４）



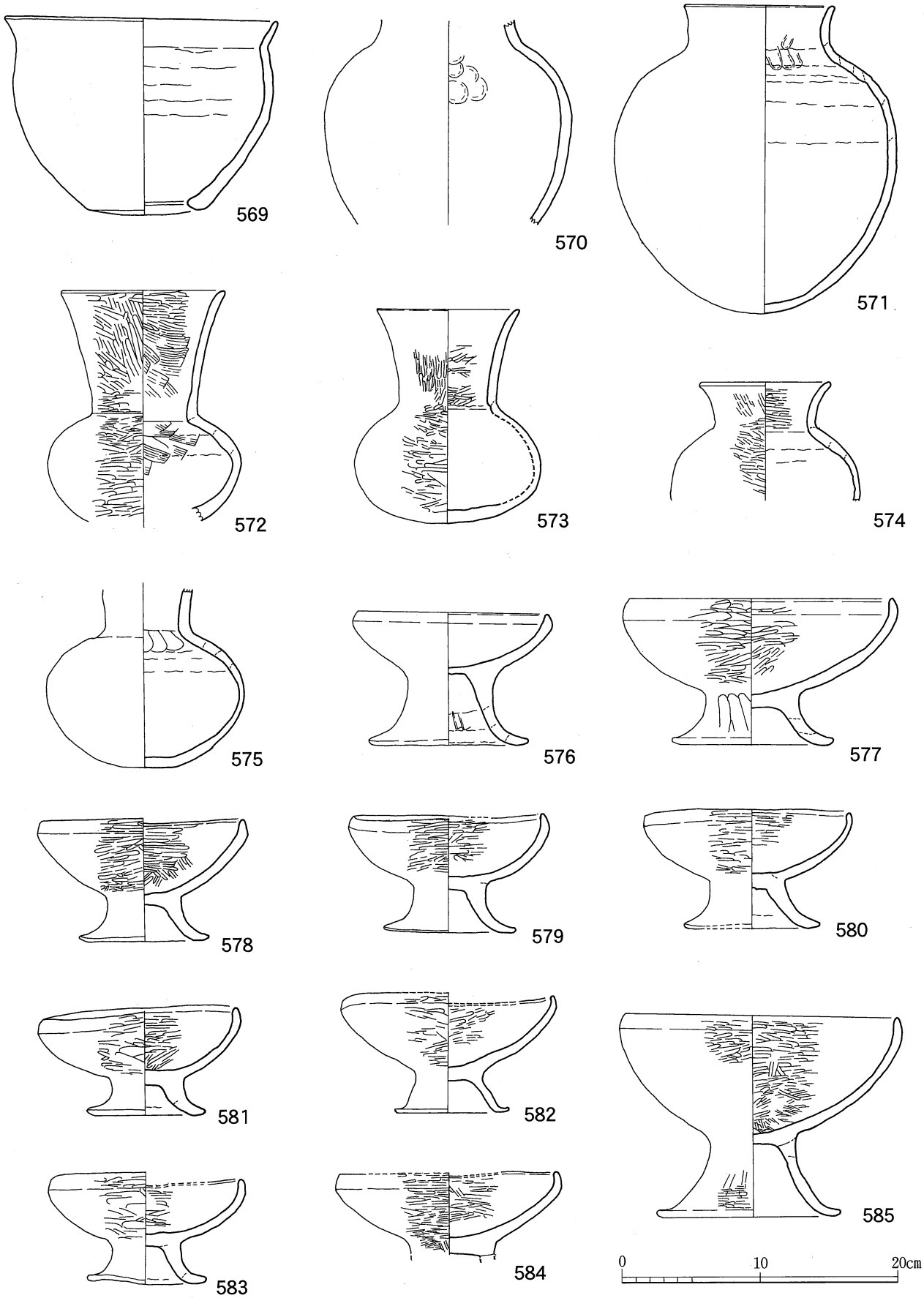
第60図　ＳＡ21出土遺物実測図④（１／４）



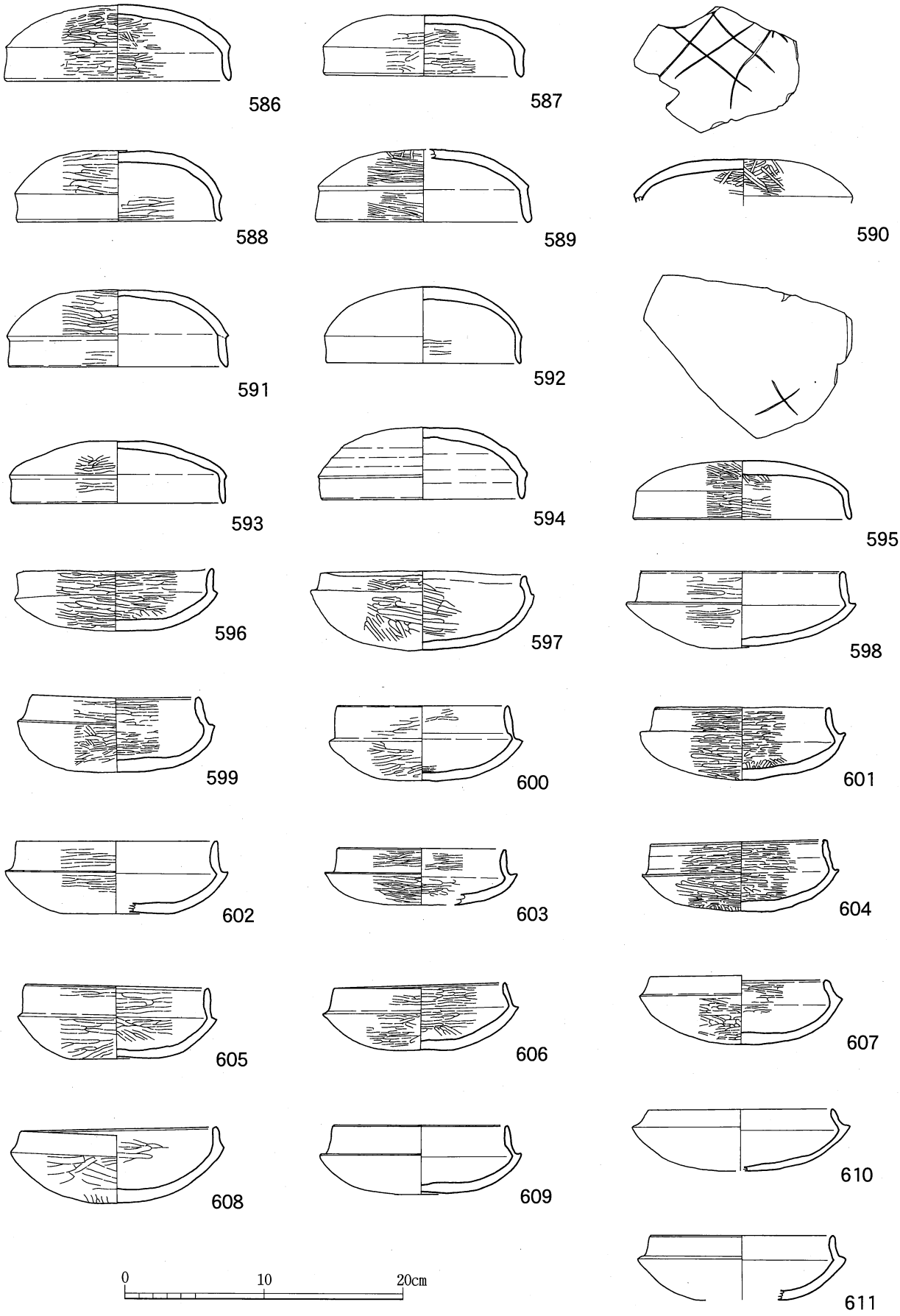
第61図　ＳＡ21出土遺物実測図⑤（１／４）



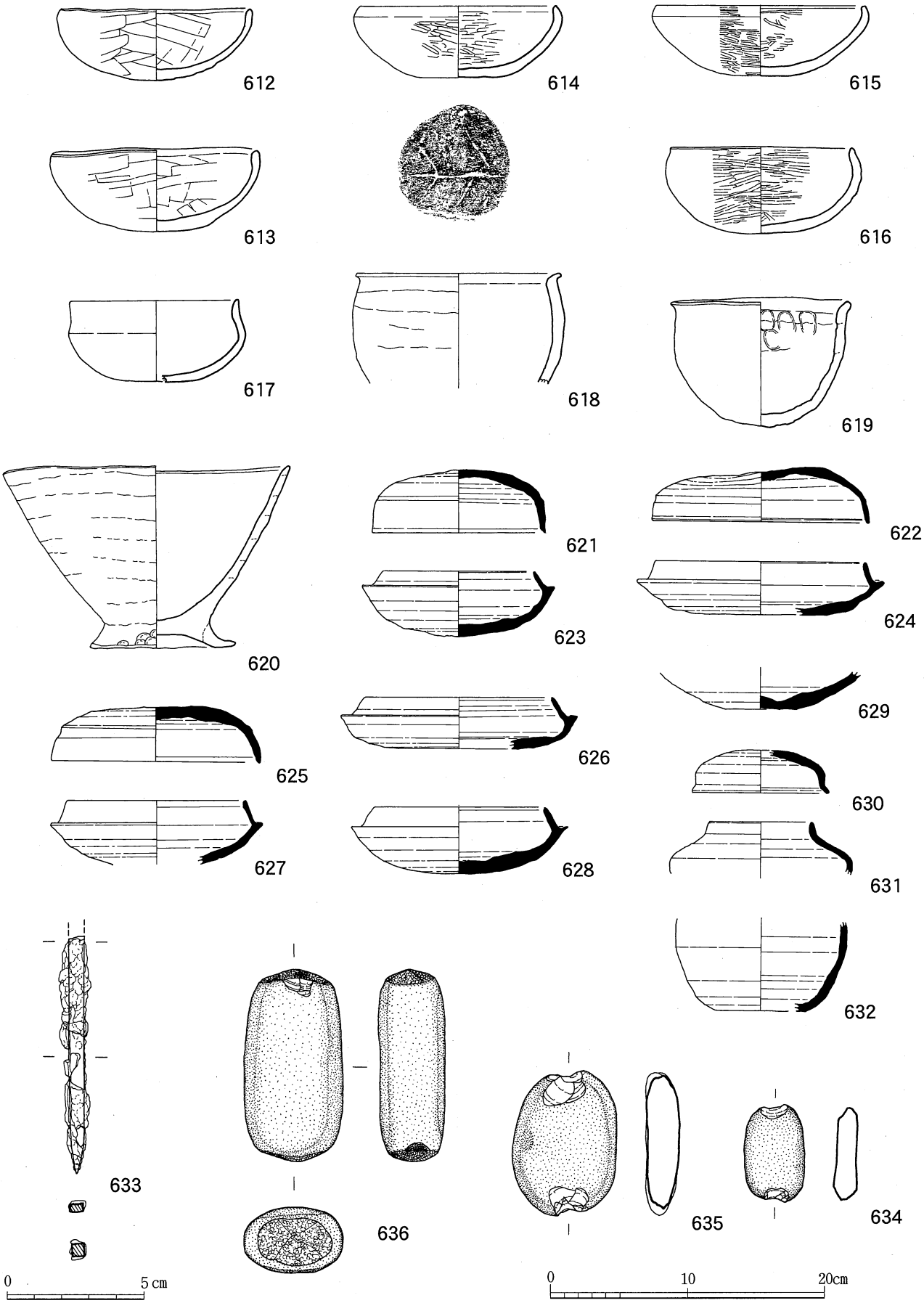
第62図　ＳＡ21出土遺物実測図⑥（１／４）



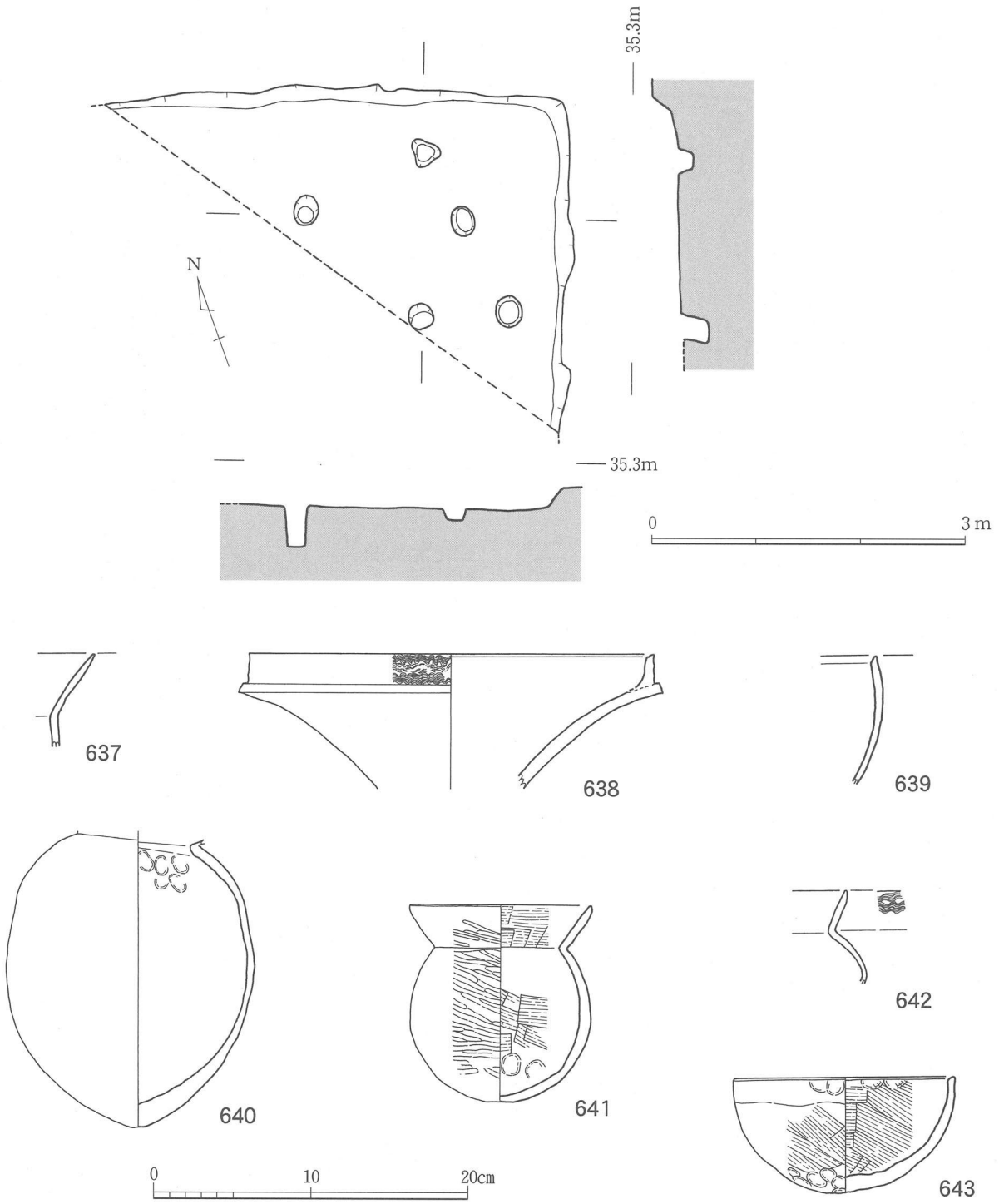
第63図　ＳＡ21出土遺物実測図⑦（１／４）



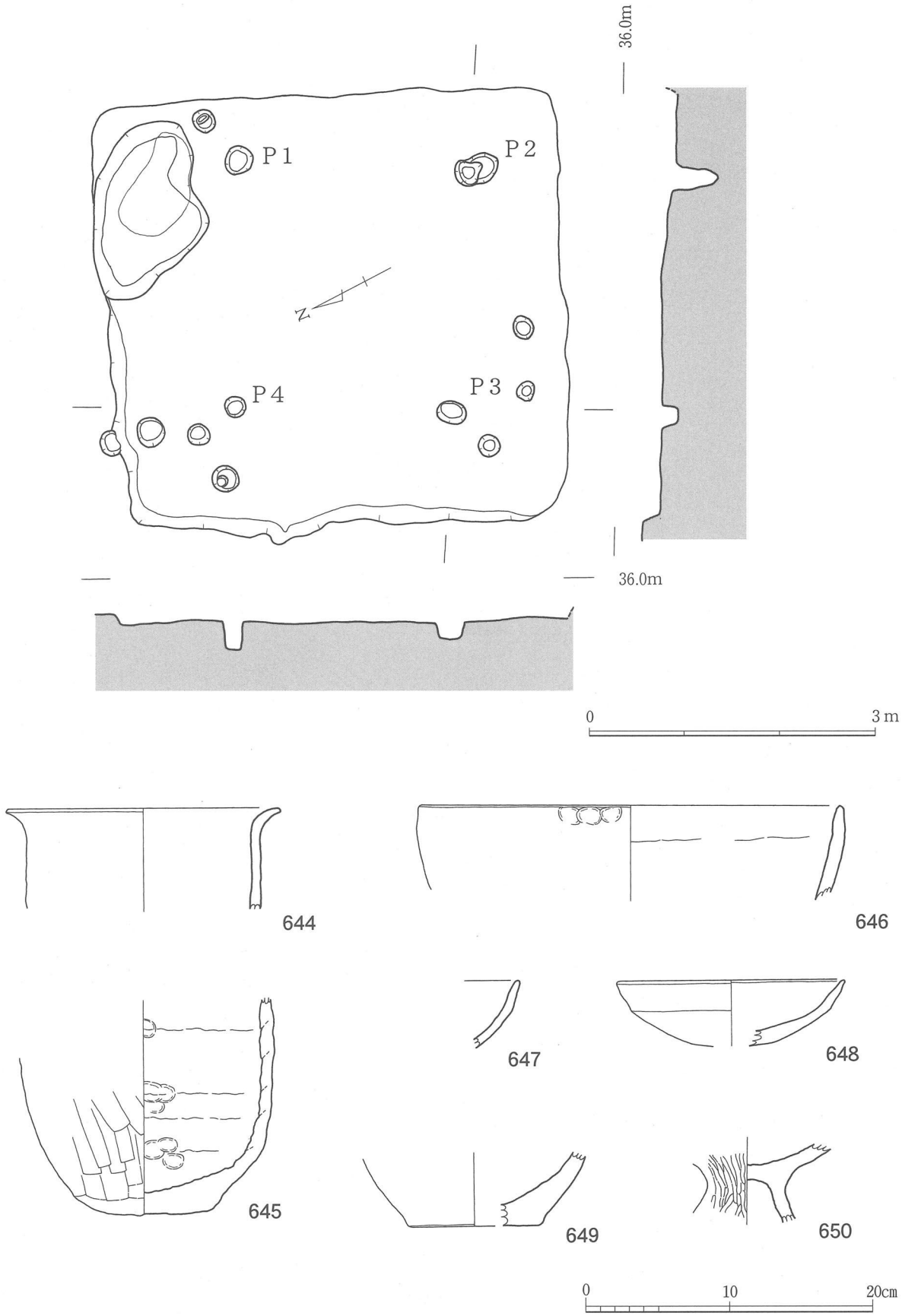
第64図　ＳＡ21出土遺物実測図⑧（１／４）



第65図　ＳＡ21出土遺物実測図⑨（１／４、633のみ１／２）



第66図　ＳＡ22及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）



第67図　ＳＡ23及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）

の繋目を多く残し、外面下位にケズリに近い粗いナデ調整が施されている。646は内面に粘土の繋目を多く残す口縁部で甑か。647・648は口縁部と体部の境で屈曲する土師器の坏である。647は内外面ミガキ調整であるが、648は内外面ナデ調整である649は平底の底部で645と類似した特徴を持つことから甕の可能性がある。650は高坏で、外面にミガキ調整が施されている。

ＳＡ24（第68図）

ＳＡ24はＳＡ23の西側に位置し、３号石組遺構によって切られる。ＳＡ23と主軸を同じくして長軸方向約5.8m、短軸方向に約5.5mの方形プランを呈する。床面は、掘底の直上に20cmほどの厚さでアカホヤ火山灰ブロック等を多く含む黒褐色土の堆積がみられ、その上面が硬化していたことから貼床と考えられる。主柱穴は４本とみられ、その距離はＰ１－Ｐ２で3.0m、Ｐ３－Ｐ４で3.0m、Ｐ１－Ｐ４で2.6m、Ｐ２－Ｐ３で2.7mを計る。床面からの柱穴の深さは、Ｐ１が40cm、Ｐ２が40cm、Ｐ３が40cm、Ｐ４が70cmほどである。住居の南東に長軸3.3m・短軸2.0m・深さ20cmの楕円形土坑を伴い、その埋土には焼けた淡黄白色粘土や炭化物が多く含まれていた。

遺物は少量出土している。

651～654は土師器の甕である。654の底部外面には木の葉の圧痕が残されている。655は土師器の甑の底部で、単孔である。656は土師器の坏で内外面に丹塗りとミガキ調整が施されている。657～658はミガキ調整が施された土師器の高坏で、657には丹塗りもみられる。

ＳＡ26（第69図）

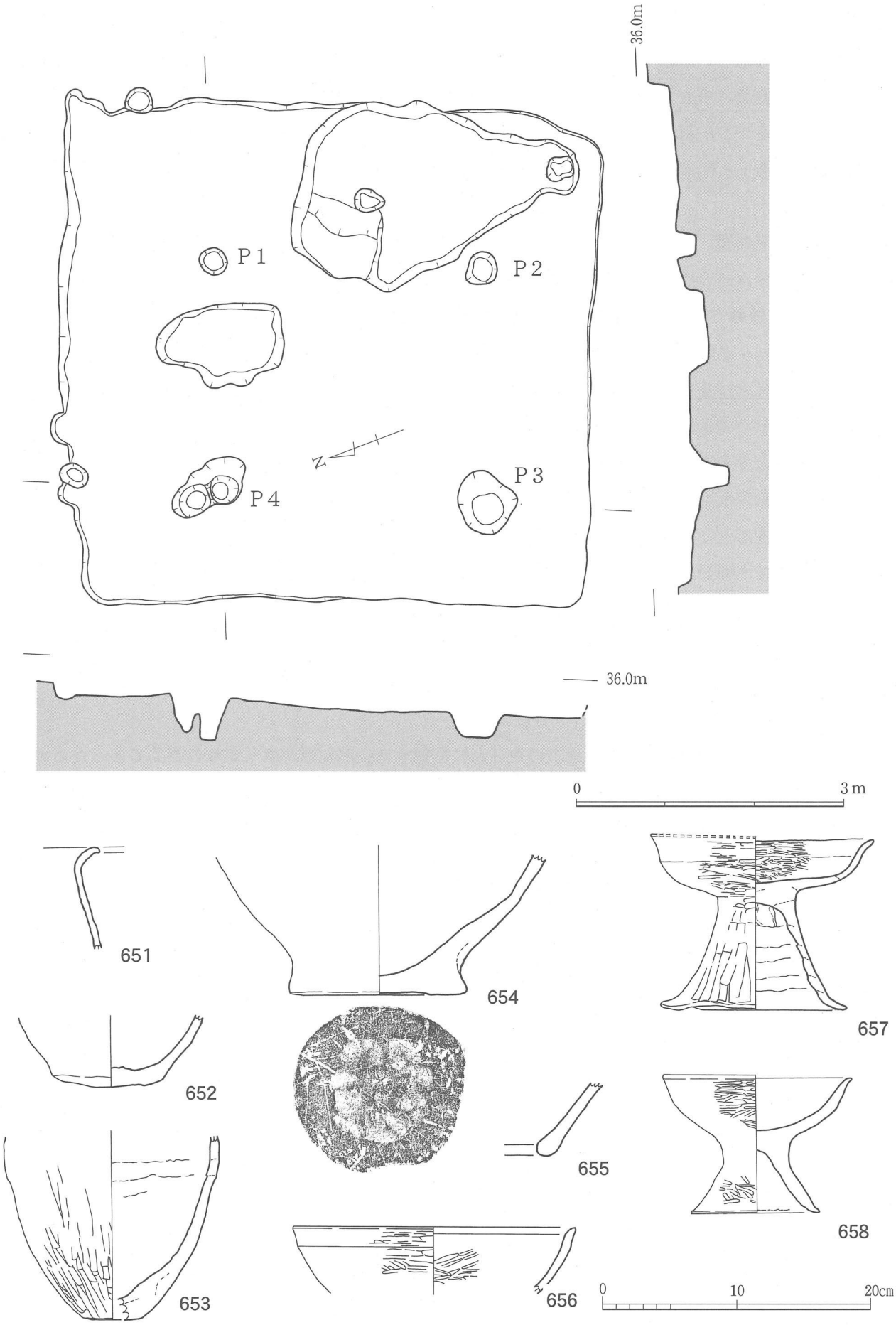
ＳＡ26はＳＡ24の南約30m、ＳＡ27の東２mに位置する。旧地形が南下がりの斜面であったため検出状況が非常に悪く、検出した面がほぼ床面に近い状態であった。西北西に主軸をもち、長軸約5.3m、短軸約5.0mの長方形プランを呈する。床面は、掘底の直上に10cmほどの厚さでアカホヤ火山灰ブロック等を多く含む黒褐色土の堆積がみられ、その上面が硬化していたことから貼床と考えられる。主柱穴は４本とみられ、その距離はＰ１－Ｐ２で2.2m、Ｐ３－Ｐ４で2.3m、Ｐ１－Ｐ４で2.2m、Ｐ２－Ｐ３で2.4mを計る。床面からの柱穴の深さは、Ｐ１が80cm、Ｐ２が70cm、Ｐ３が70cm、Ｐ４が70cmほどである。土坑等は伴わないが、住居の中央部の貼床埋土中には多くの焼土がみられたことから、ここを火所として利用していた可能性がある。

遺物は東半部から集中して出土している。

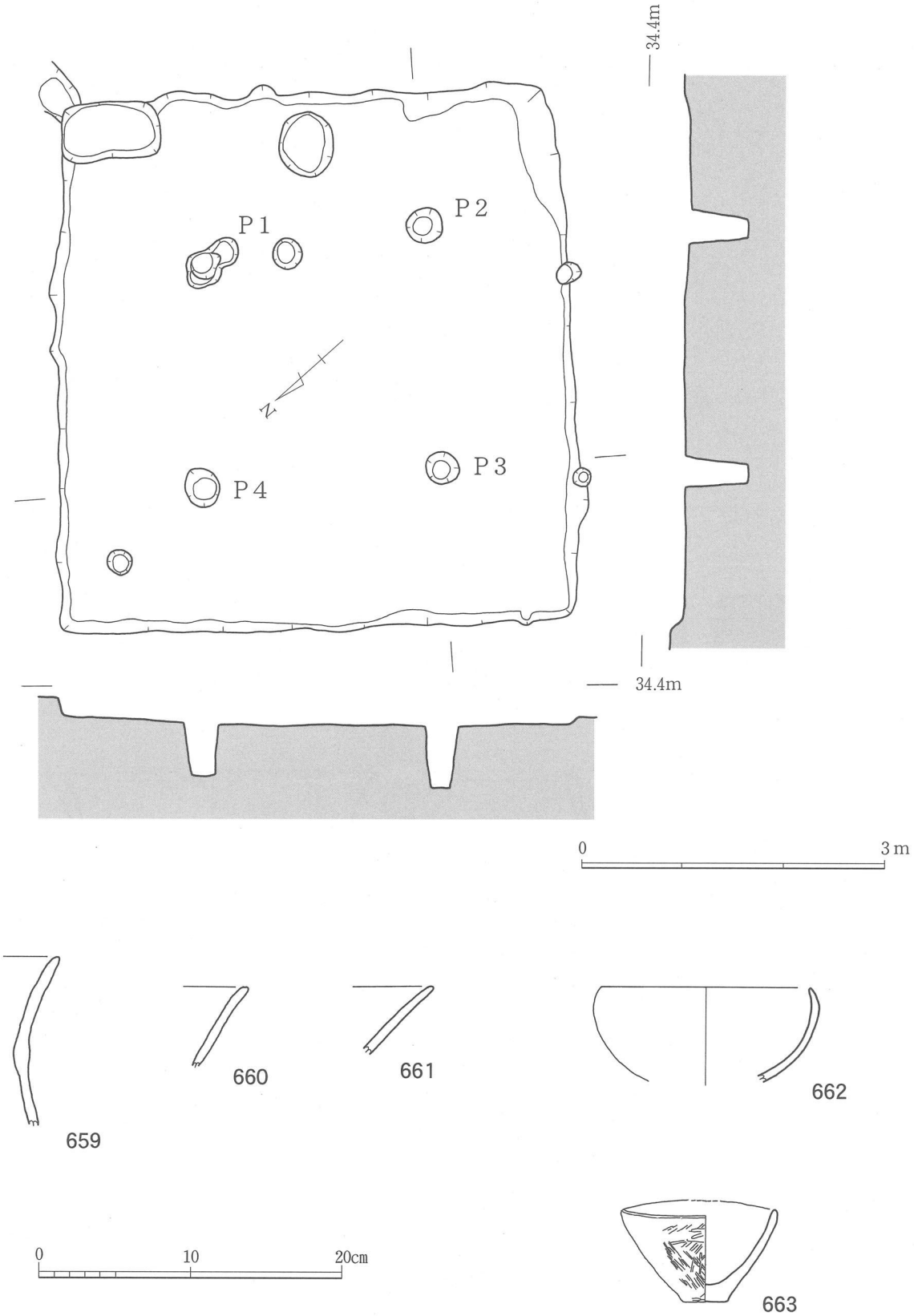
659は土師器の甕、660・661は高坏の口縁部の可能性がある。662・663は鉢で、663は小さな平底を呈する。

ＳＡ27（第70図）

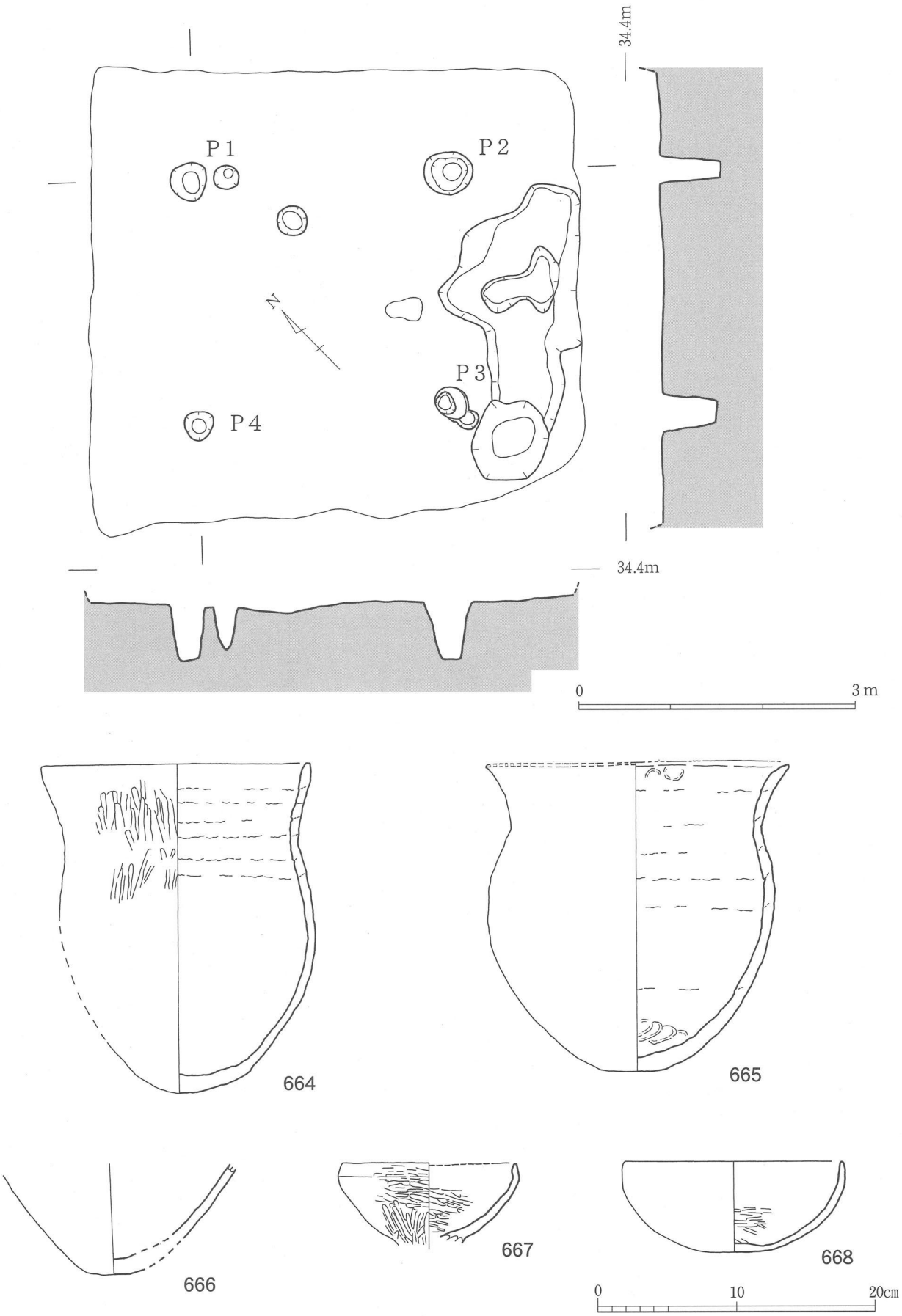
ＳＡ27はＳＡ26の西２mに位置する。立地的にＳＡ26と同様であったため検出状況が非常に悪く、検出した面が掘底に近い状態であった。ＳＡ26と同様に西北西に主軸をもち、長軸約5.3m、短軸約4.8mの長方形プランを呈する。床面は、掘底の直上にアカホヤ火山灰ブロック等を多く含む黒褐色土の堆積が部分的に確認されることから貼床と考えられる。主柱穴は４本とみられ、その距離はＰ１－Ｐ２で2.8m、Ｐ３－Ｐ４で2.7m、Ｐ１－Ｐ４で2.7m、Ｐ２－Ｐ３で2.5mを計る。掘底からの柱穴の深さは、



第68図　ＳＡ24及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）



第69図　ＳＡ26及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）



第70図　ＳＡ27及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）

Ｐ１が60cm、Ｐ２が60cm、Ｐ３が50cm、Ｐ４が70cmほどである。住居の南西側壁面沿いに不整形な土坑を伴い、Ｐ２とＰ３の間には焼土の広がりがみられた。

前述のとおり検出状態が悪かったため、遺物の出土は少なかったが、焼土および焼土東側の土坑付近から数点検出されている。

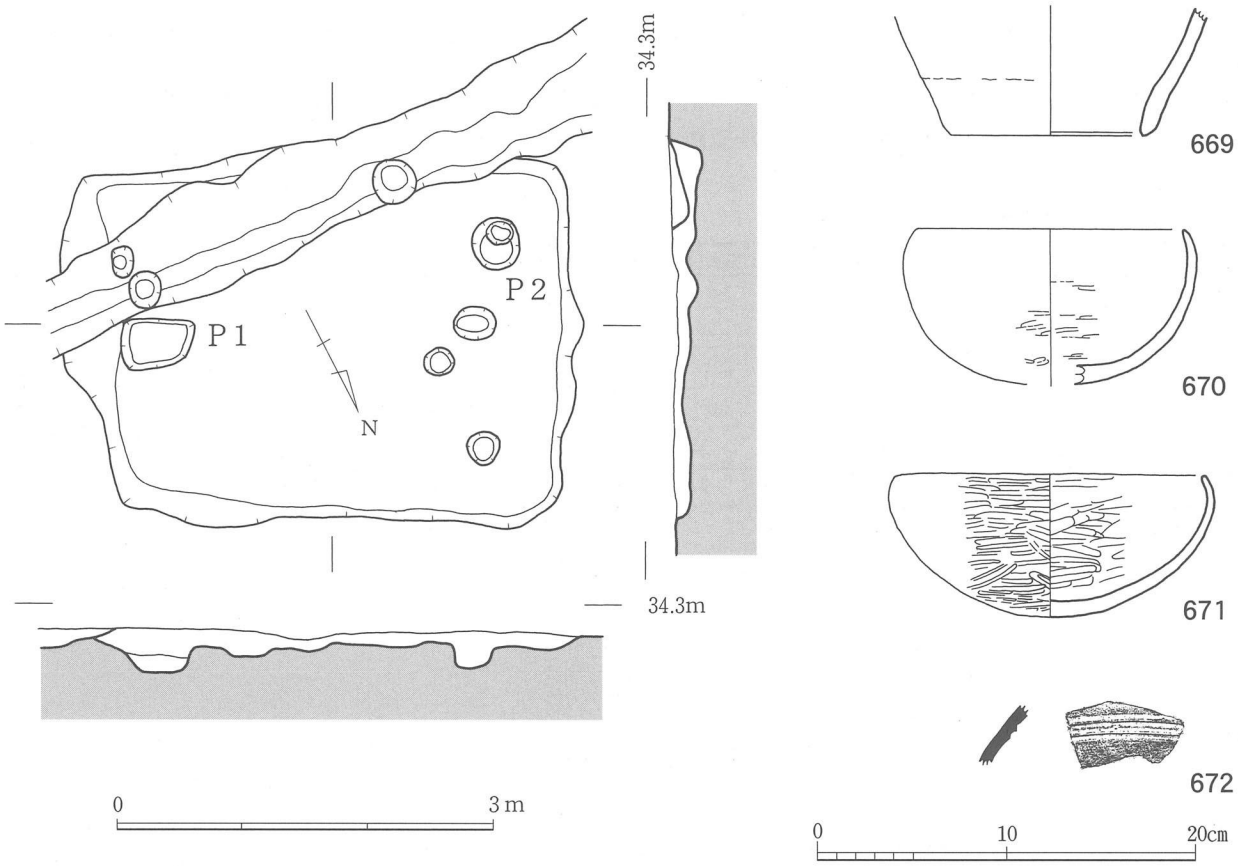
664～665は土師器の甕である。底部は丸底で口縁部で最大径を計り、胴部上位から口縁部付近に粘土の繋目痕を残す。667・668はそれぞれ土師器の高坏と坏でミガキ調整が施されており、668は丹塗りである。

ＳＡ28（第71図）

ＳＡ28は縄文時代の住居であるＳＡ32の東４ｍに位置し、時期不明の溝によって切られる。西北西に主軸をもち、長軸約4.0ｍ、短軸約3.0ｍの長方形プランを呈する。埋土の状況から掘底がそのまま床面として利用された可能性が高い。長軸方向に並ぶ２本とみられ、その距離は2.5ｍ、掘底からの柱穴の深さはＰ１が25cm、Ｐ２が20cmほどである。他の住居と比較すると規模的に小型で、土坑や焼土などの住居に付帯する遺構は確認できなかった。

出土遺物は少なく、すべて床面付近からの出土である。

669は土師器の甑で、単孔である。670・671は土師器の鉢で、内外面にミガキ調整が施されている。672は須恵器の甕の口縁部付近で外面に櫛描波状文がみられる。



第71図　ＳＡ28及び出土遺物実測図（遺構：１/60、遺物：１/４）

b　掘立柱建物

図化はしていないが、古墳時代のものと考えられる遺物が柱穴から出土している掘立柱建物をここで扱う（第72・73図）。建物の規模等については、第８表のとおり。

建物には２×３間のもの２軒（ＳＢ９・10）と１×２間のもの４軒（ＳＢ13・６・11・14）があり、ほぼ北もしくは北からやや東に傾く主軸方向をとる。

ＳＢ９はＳＡ12、ＳＢ10はＳＡ６及びＳＣ４、ＳＢ11はＳＡ17、ＳＢ13はＳＡ10を切り、ＳＢ14はＳＢ15に切られる。また、ＳＢ９・10はＳＥ２と切り合っているが、その前後関係は不明である。

c　土坑

掘立柱建物と同様に、図化しているものは少ないが、古墳時代のものと考えられる遺物が伴った土坑をここで扱う（第74～76図）。土坑の規模等については、第９表のとおり。

土坑の平面的な形状は様々であるが、円形に近いもの（ＳＣ６・９・11・15）、隅丸方形状のもの（ＳＣ４）、楕円形状のもの（ＳＣ12・13）などがある。

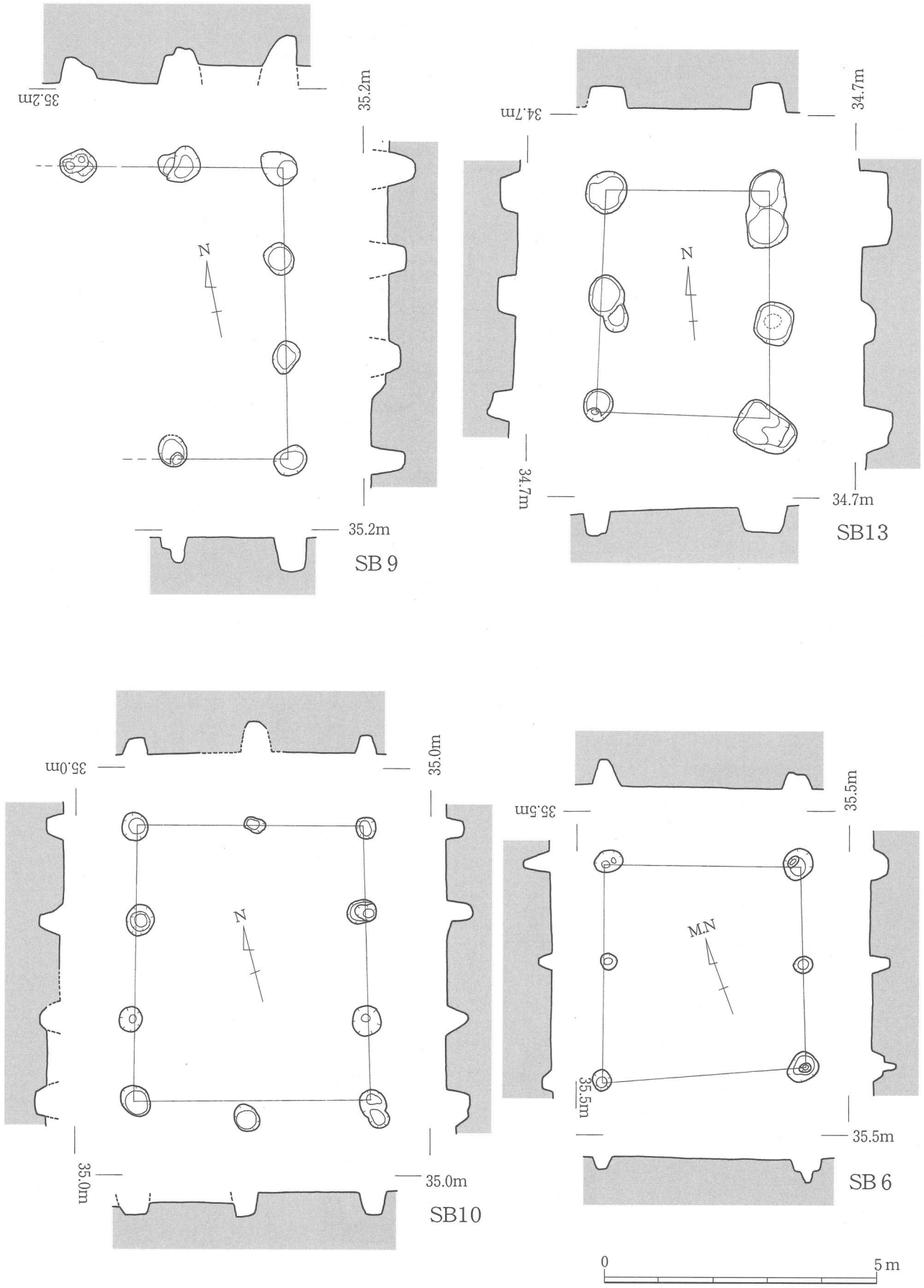
他遺構との切りあい状況では、ＳＣ10がＳＡ６を切っているほか、ＳＣ４とＳＣ９がそれぞれＳＡ９・６と近接している。

第77図は各土坑出土の遺物で、673・674はＳＣ４、675～683はＳＣ５、684はＳＣ14、685はＳＣ10、686はＳＣ13から出土している。

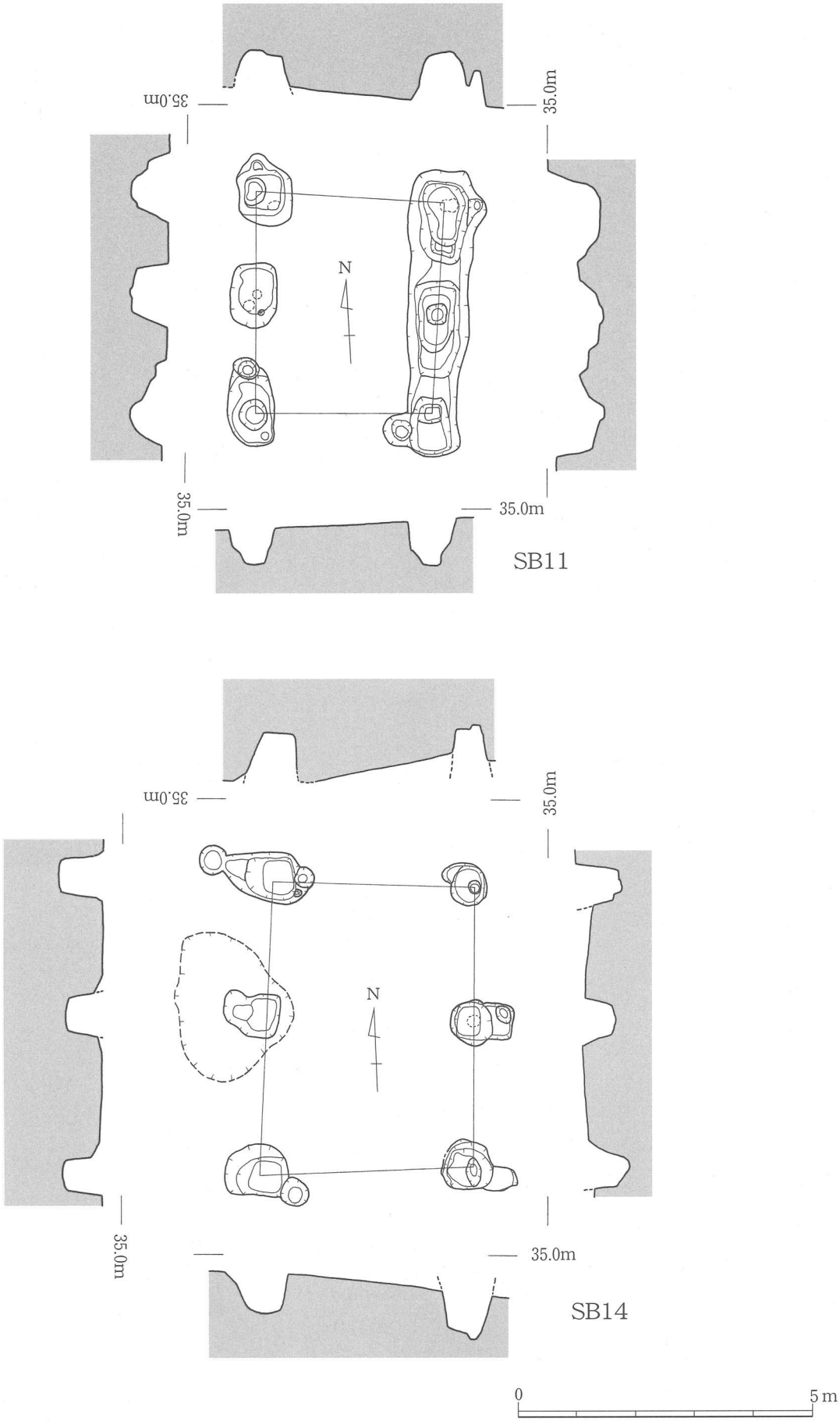
673は土師器の甕で平底を呈し、胴部及び底部外面に平行タタキがみられる。674は磨石で側面の一部に敲打痕がみられる。675・676は壺の口縁部で、複合口縁を呈する。677・679は平底を呈する壺の底部である。678は甕の底部か。680～683は高坏で、坏部（680）には明瞭な稜線がみられ、脚柱部（681）には円形の透かしがみられる。684は小さく突出した平底を呈する鉢である。685は須恵器の坏で、ＴＫ47期平行とみられる。686は用途不明の鉄板片である。

第８表　古墳時代掘立柱建物一覧表

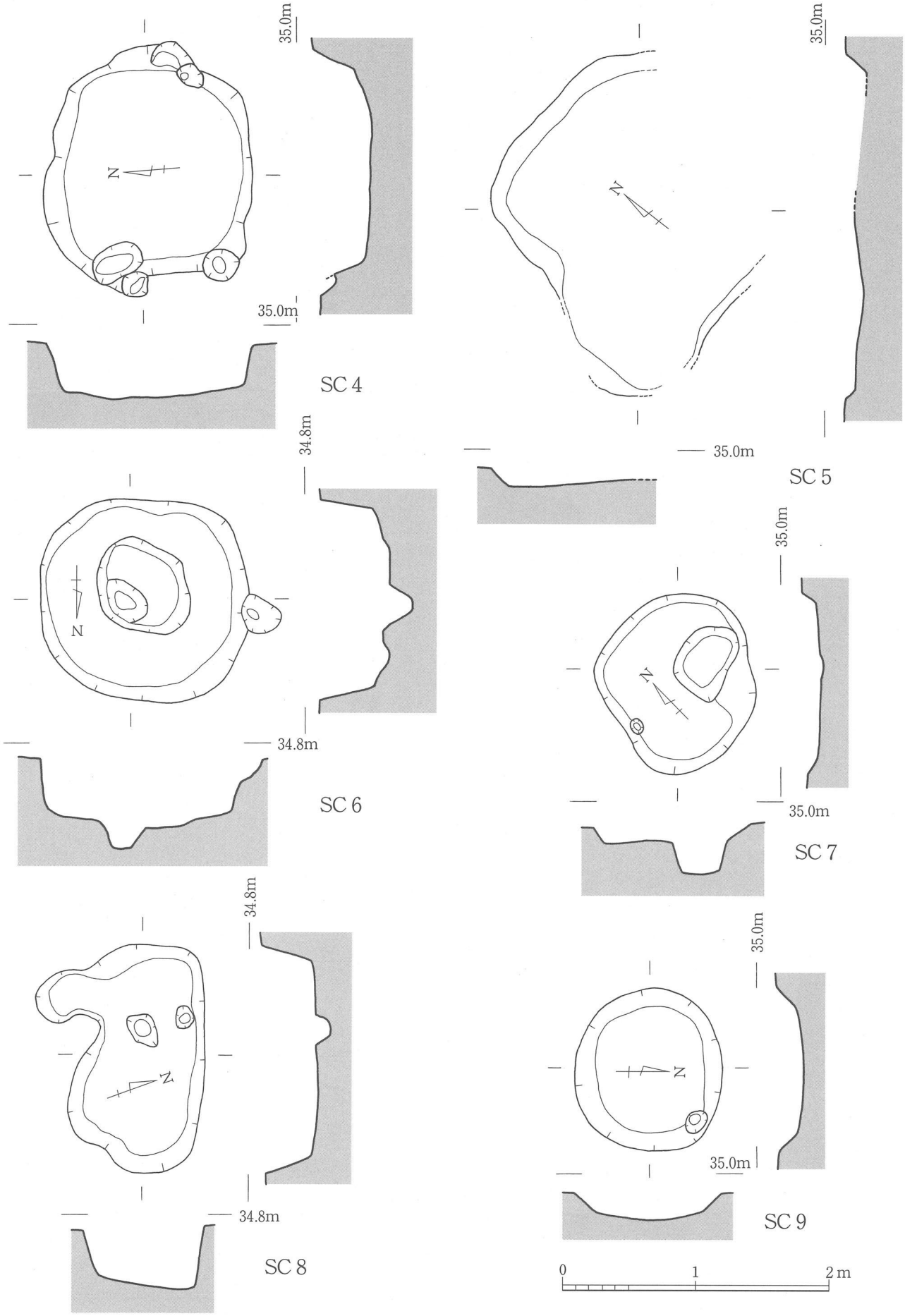
遺構名	時代	規模	庇	主軸方位	梁桁(実長)	梁桁(柱間)	桁桁(実長)	桁桁(柱間)	柱穴径	柱穴深	備　考
SB6	古墳？	1×2		N21°E	3.4～3.7	3.4～3.7	3.8～4.0	1.8～2.2	30～60	30～50	
SB9	古墳？	2×3		N11°E	4.0	1.9～2.1	5.4	1.7～2.0	50～60	50～70	
SB10	古墳？	2×3		N15°E	4.3	2.0～2.3	5.0	1.6～1.9	40～60	35～50	
SB11	古墳	1×2		N2°E	3.0～3.2	3.0～3.2	3.5～3.7	1.7～1.9	80～110	60～80	片方の柱穴は桁方向へ布掘。
SB13	古墳	1×2		N5°E	3.1	3.1	4.1～4.3	1.8～2.5	60～80	30～50	
SB14	古墳	1×2		N	3.5	3.5	4.8～5.1	2.3～2.7	70～100	60～80	



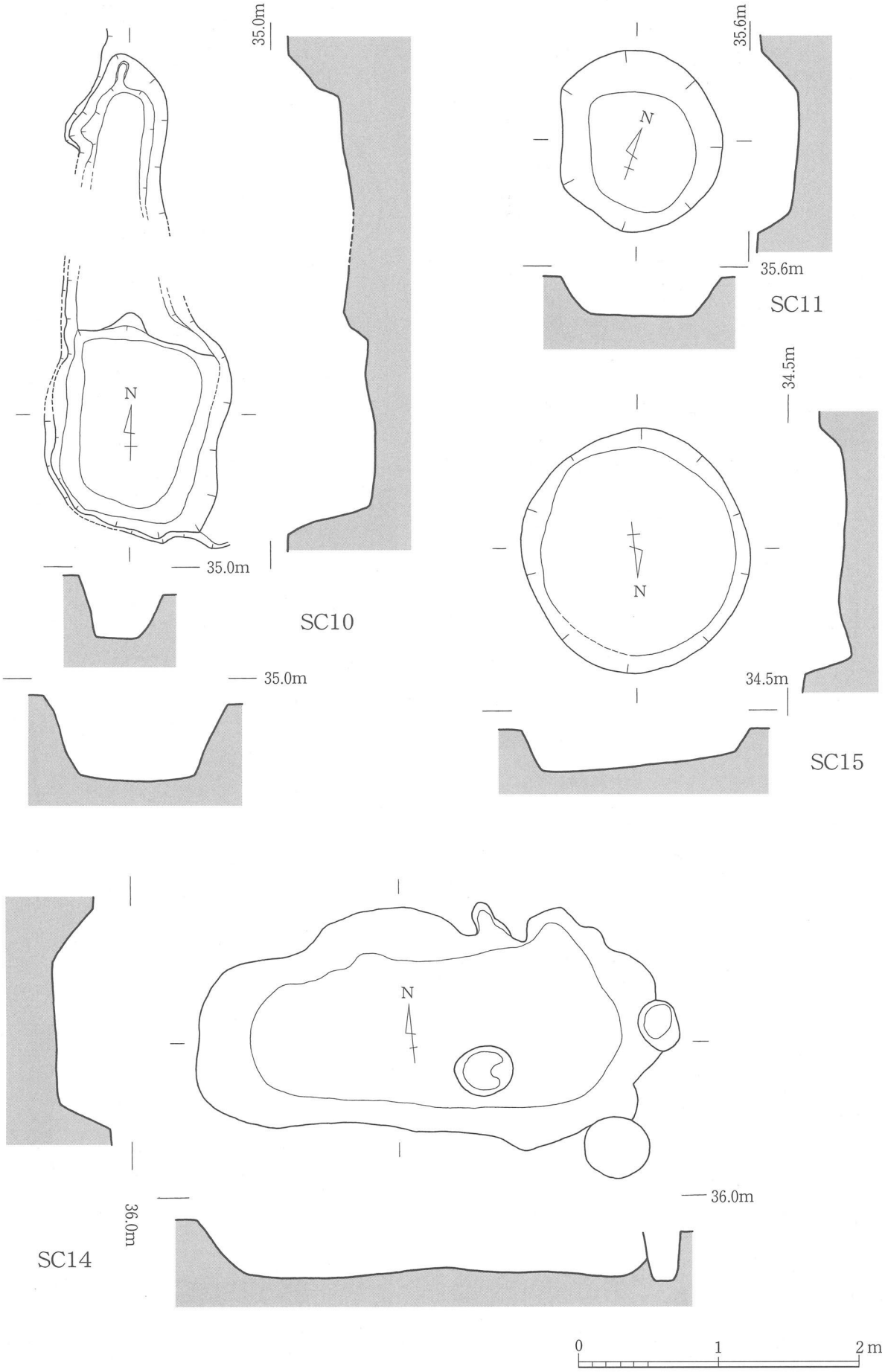
第72図　古墳時代掘立柱建物実測図①（1 /100）



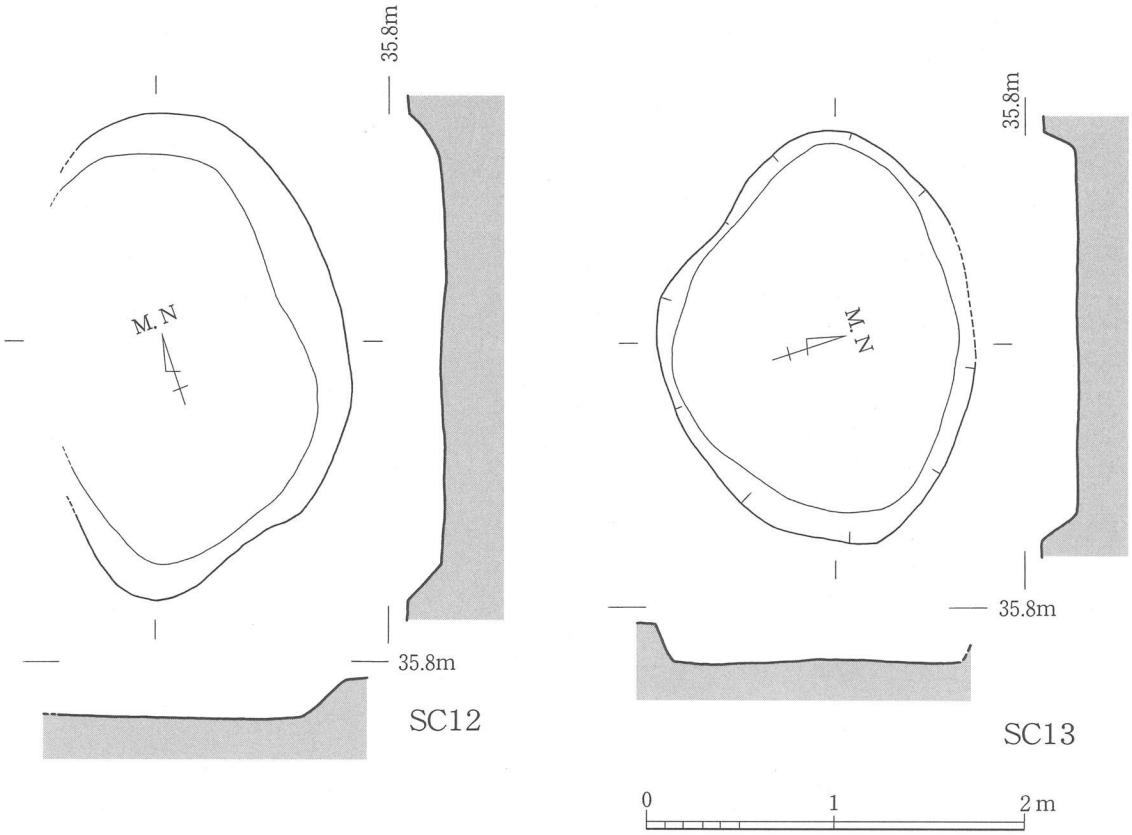
第73図　古墳時代掘立柱建物実測図②（1/100）



第74図　古墳時代土坑実測図①（1/40）



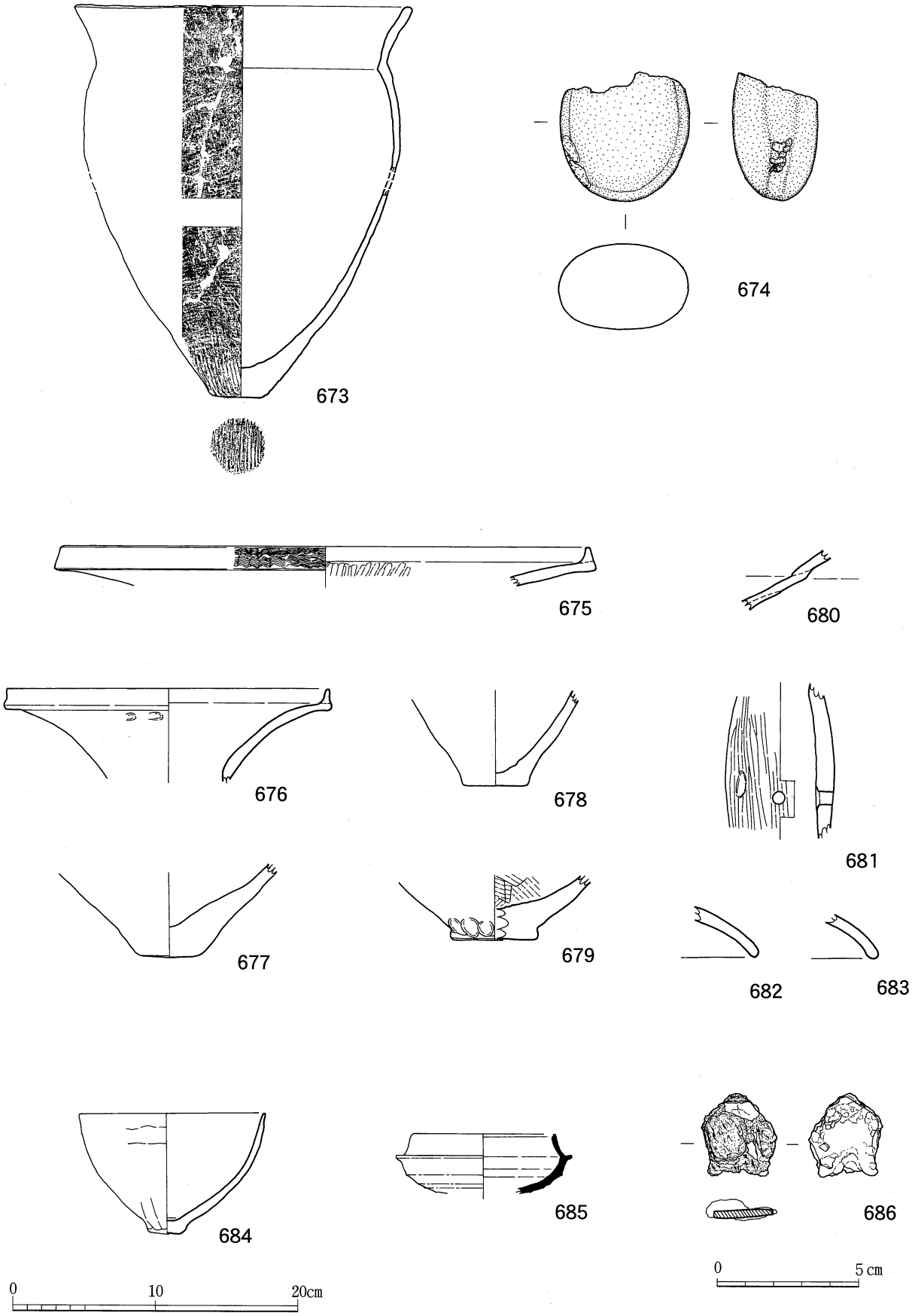
第75図　古墳時代土坑実測図②（1/40）



第76図　古墳時代土坑実測図③（1/40）

第９表　古墳時代土坑一覧表

遺構名	平面形態	規　模			出土遺物	備　考
		長径（m）	短径（m）	深さ（m）		
ＳＣ４	隅丸方形	1.8	1.6	0.4	673、674	ＳＡ９に近接
ＳＣ５	不明			0.1	675～683	
ＳＣ６	円形	1.6	1.5	0.7		
ＳＣ７	円形？	1.4	1.2	0.4		
ＳＣ８	不定形	1.7	1.1	0.4		
ＳＣ９	円形	1.2	1.1	0.2		ＳＡ６に近接
ＳＣ10	不定形	3.4	1.3	0.6	685	ＳＡ６を切っている
ＳＣ11	円形	1.3	1.1	0.3		
ＳＣ12	楕円形	2.6		0.2		
ＳＣ13	楕円形	2.1	1.7	0.2	686	
ＳＣ14	隅丸長方形？	3.3	1.6	0.4	684	
ＳＣ15	円形	1.8	1.6	0.3		



第77図　古墳時代土坑出土遺物実測図（1／4、686のみ1／2）

d　溝状遺構

古墳時代の溝状遺構として確認されたものは、３条ある。

ＳＥ２（第78図）

ＳＥ２は調査区東半部の南側から北東方向に延び、ＳＡ３の手前で東向きに向きを変えやや南向きに弧を描きながら調査区外へと続く形で検出された。ＳＡ３・７・12をきり、ＳＢ15、ＳＡ16によってきられる。アカホヤ火山灰での検出では広いところで幅100㎝、深いところで深さ20㎝を測り、本来の遺構構築面が更に上層であったとしても細くて浅い溝であったと考えられる。

遺物は土師器の甕、壺、甑、高坏、坏、鉢、須恵器の壺、刀子？等が出土している（第78図）。

甕は器形全体がわかるものが少ないが、長胴で胴部最大径を下位にもち、丸底気味のもの（687）や短胴で胴部最大径を中位にもち、平底気味のもの（689・690）がある。底部には平底のもの（691）や突出した明瞭な平底を呈するもの（692・693）があり、693の底部外面には木の葉の圧痕がみられる。甑には器形がわかるものはないが、694は取手部分、695は底部で単孔である。696は壺の胴部で、中位で最大径を測る。697・698は小型の壺か。699～702は高坏で、坏部の形状に異なる点がみられるものの、器高が低く脚部が外反しながら大きく外方に開く。703は器台か。704は模倣坏もしくは鉢で内外面にヘラミガキが施されている。705は鉢で外面に細い工具によるナデ調整がみられ、明瞭な平底を呈する。706は須恵器の俵壺の胴部とみられ、内面に同心円当て具痕、外面に平行タタキ及びカキメがみられる。707は細長く薄い鉄片で刃部ガ明瞭ではないが、刀子の可能性が考えられる。

ＳＥ４（第79図）

ＳＥ４は調査区の東端を南北に延びる溝状遺構である。ＳＡ15の西側に近接し、ＳＡ14によってきられる。検出面で幅約１ｍ、深さ約30㎝を測り、検出された長さは約18ｍである。

遺物は土師器の甕、甑、高坏、蓋、須恵器の蓋、壺、甕等が出土している（第80図）。708～710、712～714は甕である。器形全体がわかる708～710はすべて短胴で胴部中位から下位に最大径をもち、やや外反する口縁部をもつ。712・713も甕の口縁部だが、やや小型で前述の３点ほど外反が明瞭でない。714も甕の底部とみられるが、明瞭な平底を呈する。711、715～717は甑で、いずれも単孔である。718は坏蓋で内外面にミガキ調整がみられる。719は高坏で脚部は大きく外反しながら開くものとみられる。720～723は須恵器で、720は坏蓋、721は小型甕の口縁部、722は壺の胴部から底部、723は甕の胴部である。

ＳＥ８（第81図）

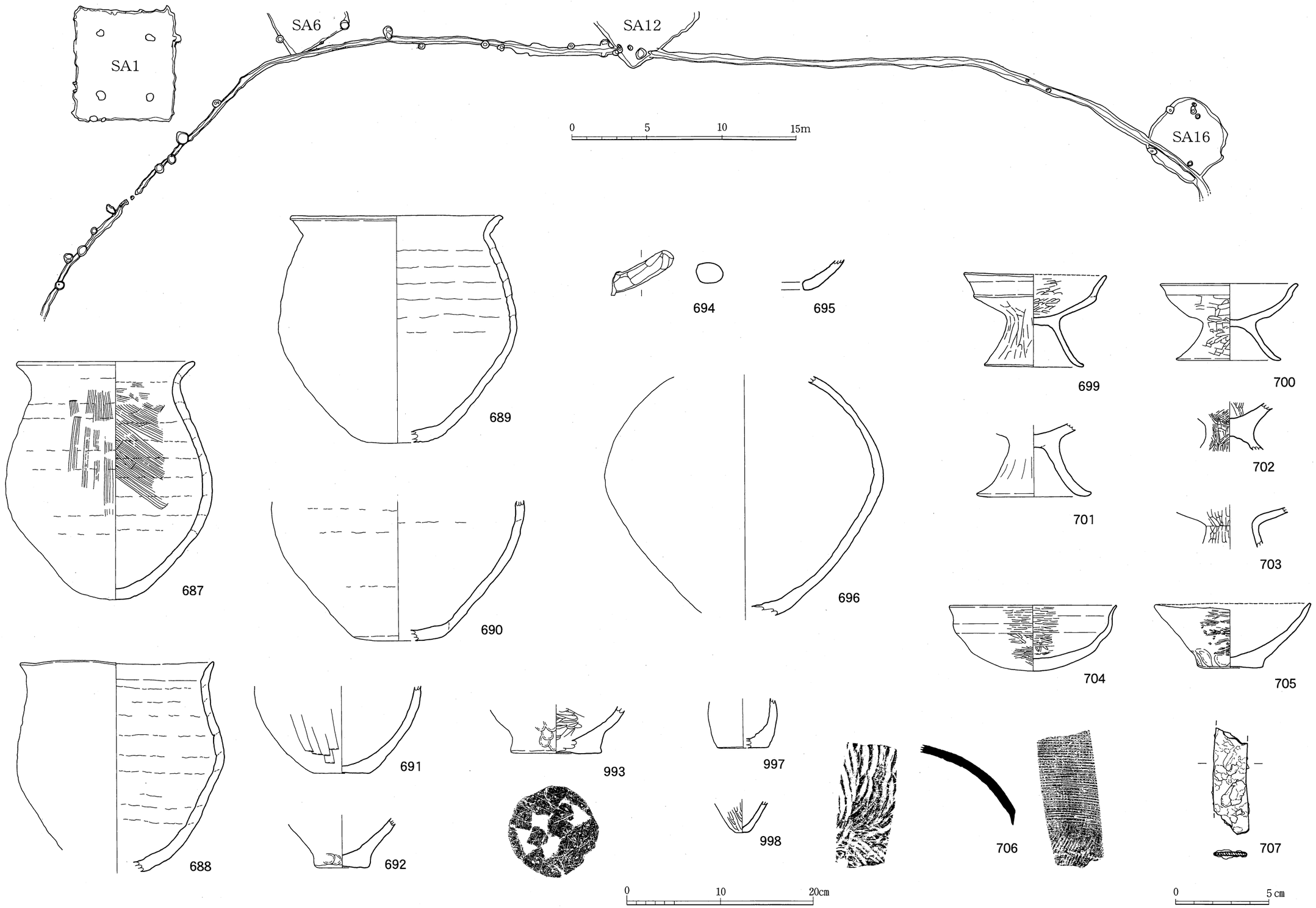
ＳＥ８は調査区の中央部やや西側に位置し、ちょうどＳＥ１とＳＥ９の間を南北に延びている。検出面で幅約40㎝、深さ約30㎝を測り、検出された長さは約10ｍである。中央部で幅1.3ｍとやや広くなり、南側は調査区内で消失する。検出面としたアカホヤ火山灰層が南に向かって傾斜していることから、本来は更に南側へ延びていた可能性もある。

遺物は土師器の甑、壺、模倣坏、高坏が出土している。724は単孔を有する甑の底部である。725は壺、726は模倣坏の口縁部である。727は高坏の脚部で外反しながら外方へ開く形状を呈する。728も高坏とみられるが、小型で浅い坏部を有する。

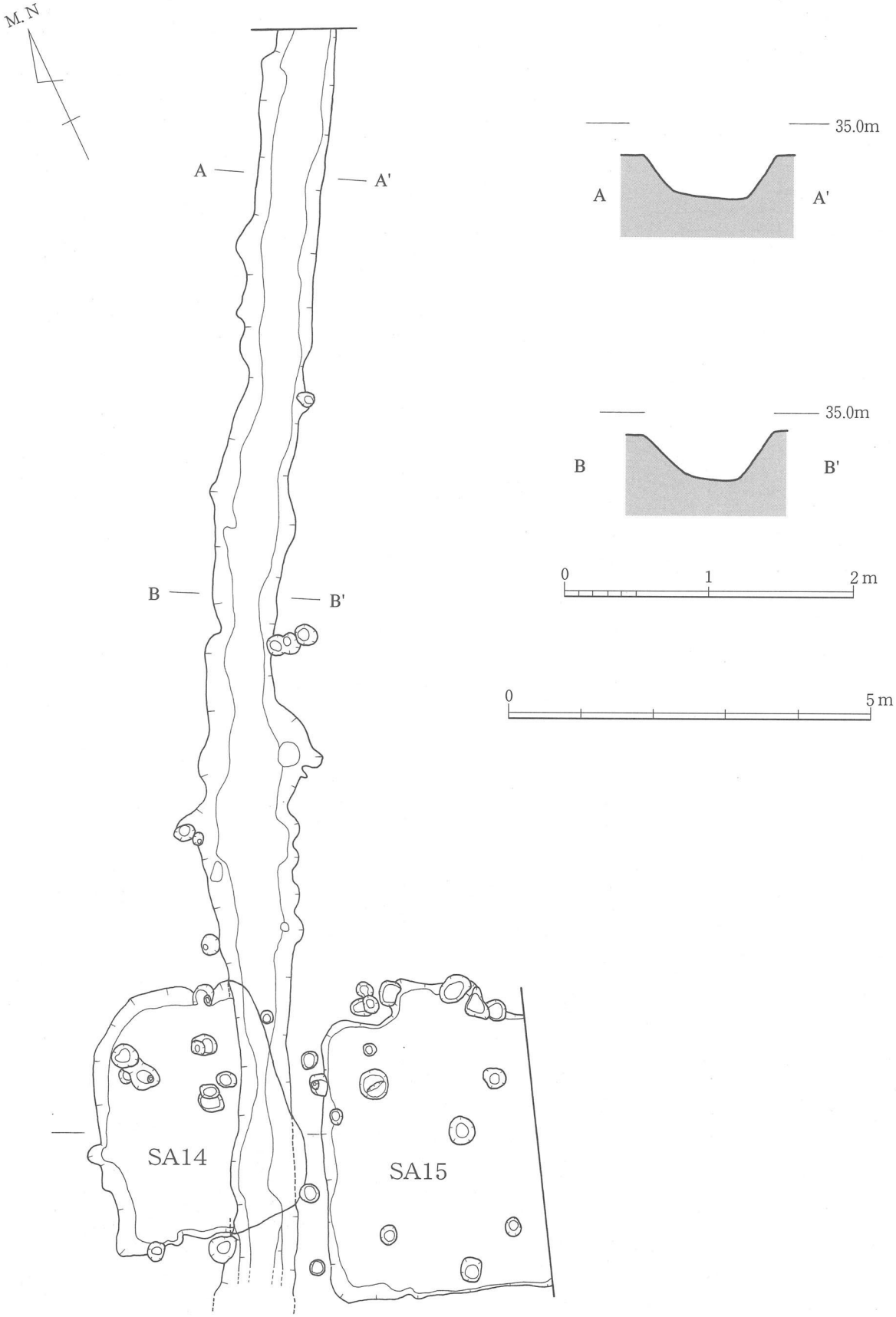
(2) その他の遺物

第82図は、掘立柱建物にはならなかった柱穴状遺構から出土した遺物である。729～737は土師器、738は須恵器、739・740は鉄製品である。729～731は甕である。729はくの字状の口縁部を有し、胴部上位で最大径を測る。730は平底の底部を有し、口縁部で最大径を測るものとみられる。731は丸底の底部から胴部が内湾し、強く外反する口縁部をもつ。胴部で最大径を測り、その位置は中位からやや下方である。732・733は小型の壺で、732の口縁部外面には櫛描波状文がみられる。734は外反しながら開く高坏の脚部である。735・736は鉢、737は坏で、736と737の内外面には細かいヘラミガキがみられる。738は壺もしくは瓻で、胴部に横方向の沈線が2条みられ、その間に櫛歯状の工具（ハケの可能性もある）による斜めの連続刺突文がみられる。739・740はともに鉄鏃で、739は長頸鏃の茎部、740は無頸鏃の鏃身部である。

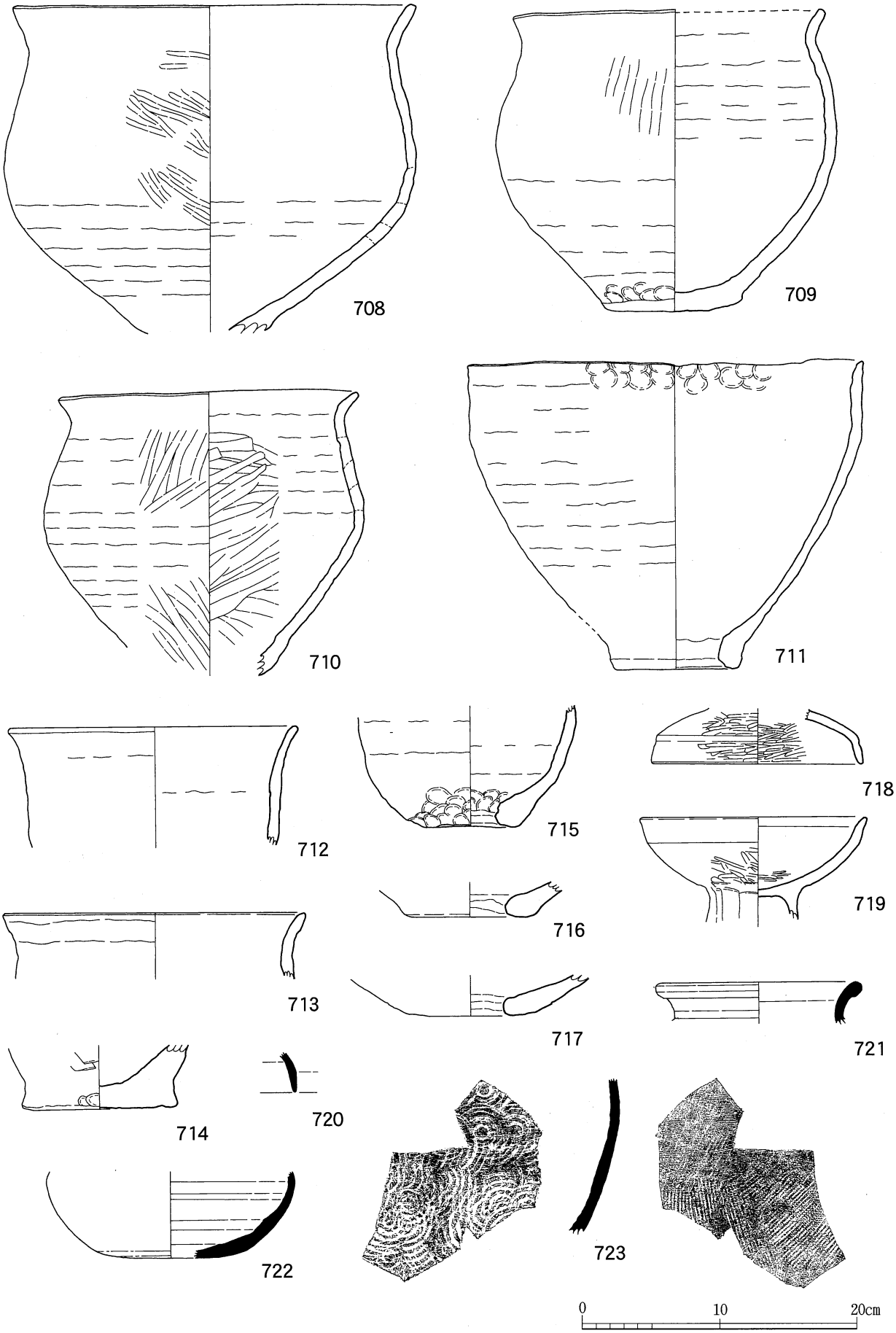
第83図は包含層出土の遺物である。741～750は土師器、751・752は土製品、753は鉄製品である。741・742は明瞭な平底の底部を有する甕で、口縁部で最大径を測る。743は単孔の甑で取手を有さない。744～746は壺である。744は強く屈曲いた頸部をもつもので、口唇部が上下方向張り出している。745は小型の壺口縁部で、外面のほぼ全体に櫛描波状文がみられる。746は丸底の底部から胴部上位で最大径を測り、頸部から直立してやや外反しながら口縁部へと続く形状を呈する。747は高坏の坏部で、屈曲部に刻目を有する貼付突帯がみられる。748は器形不明の脚部で、小さな透孔が横方向に3列並んで施されている。750は器台の脚部で、三方に台形状の大きな透孔がみられる。751は短い円柱状の土製品で、竈の支脚とみられる。752は土製の勾玉である。753は鉄斧で、刃部を欠く。



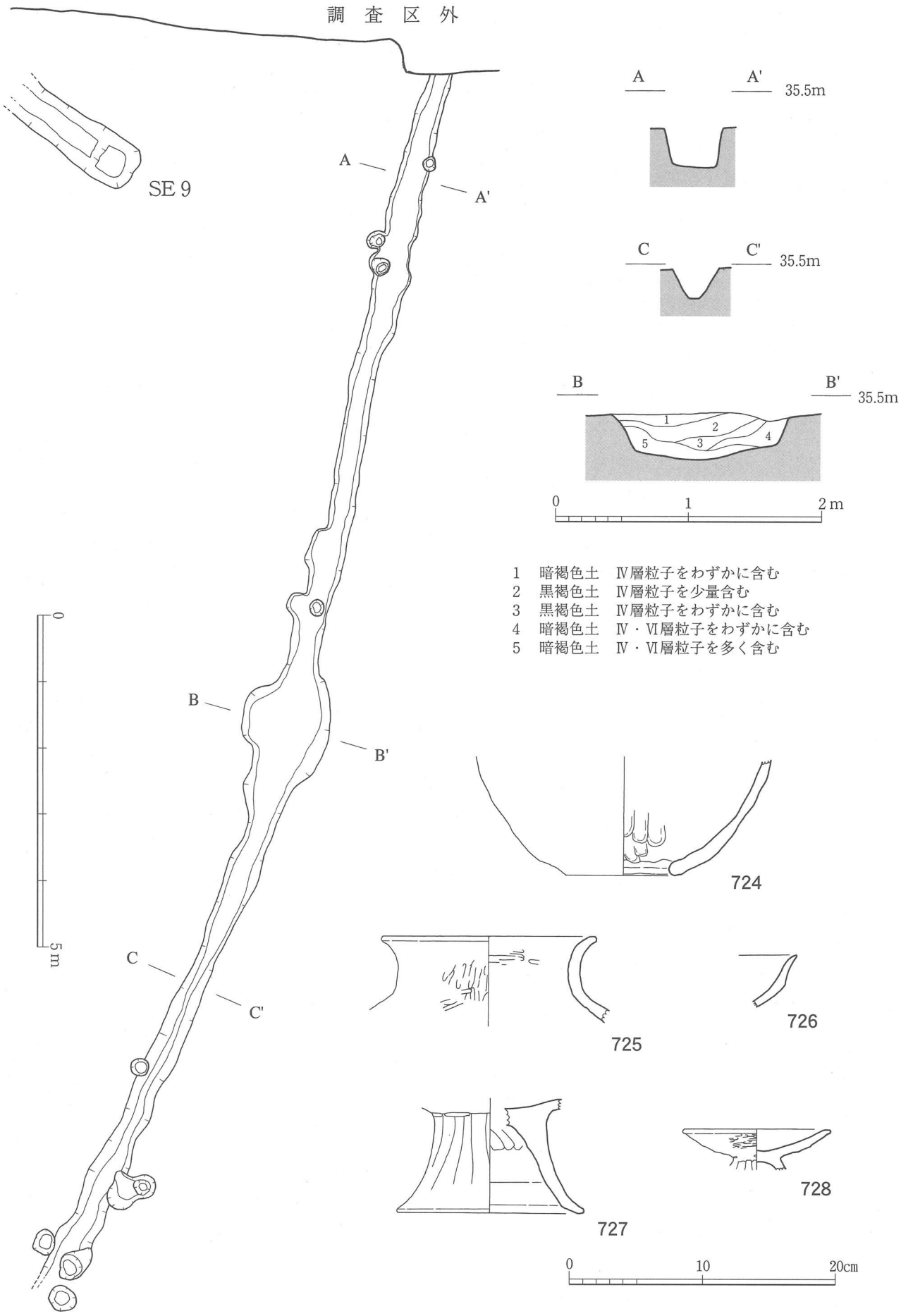
第78図　ＳＥ２及び出土遺物実測図（遺構：１/250、遺物：１/４、707のみ１/２）



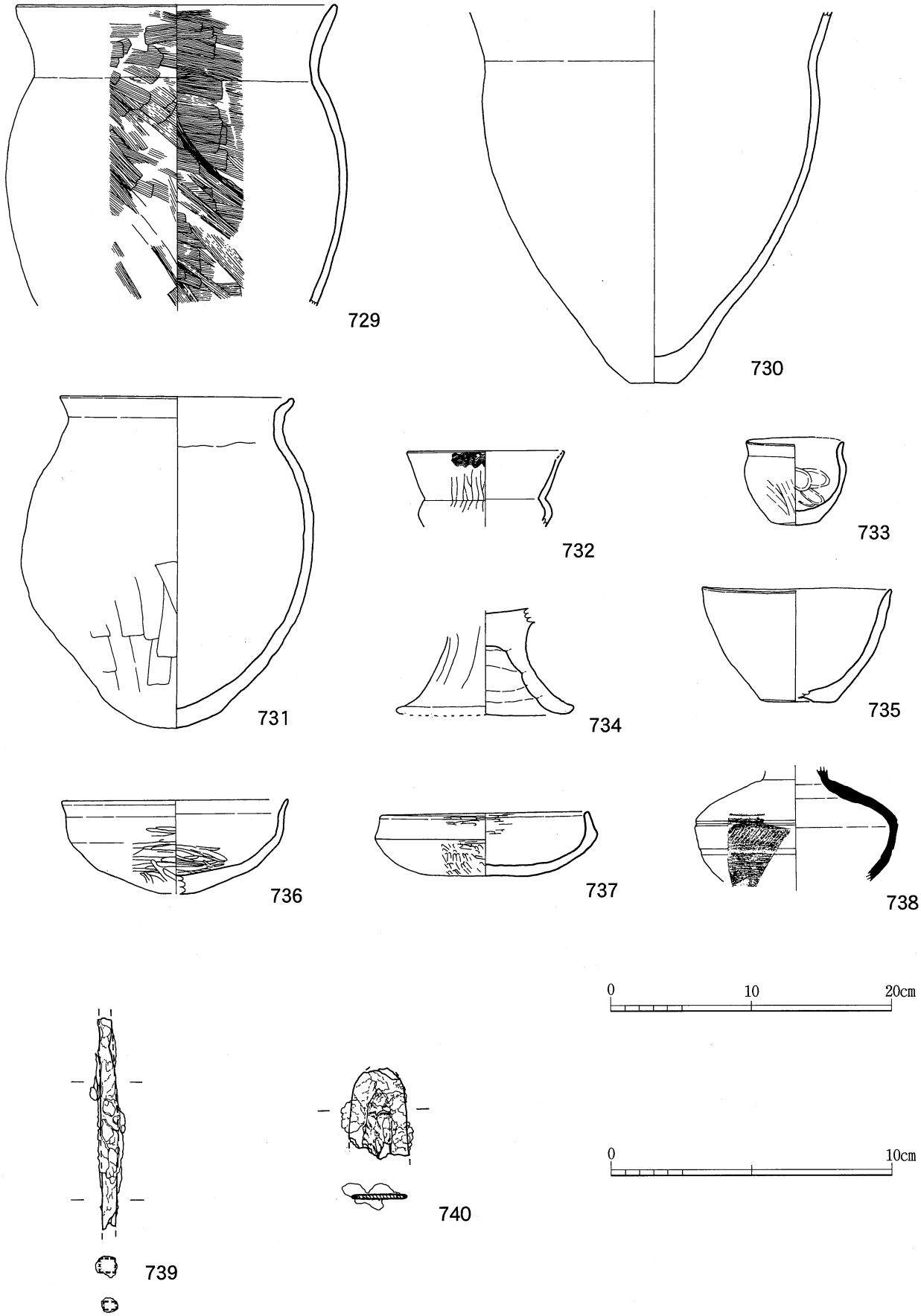
第79図　ＳＥ４実測図（平面：１/80、断面：１/40）



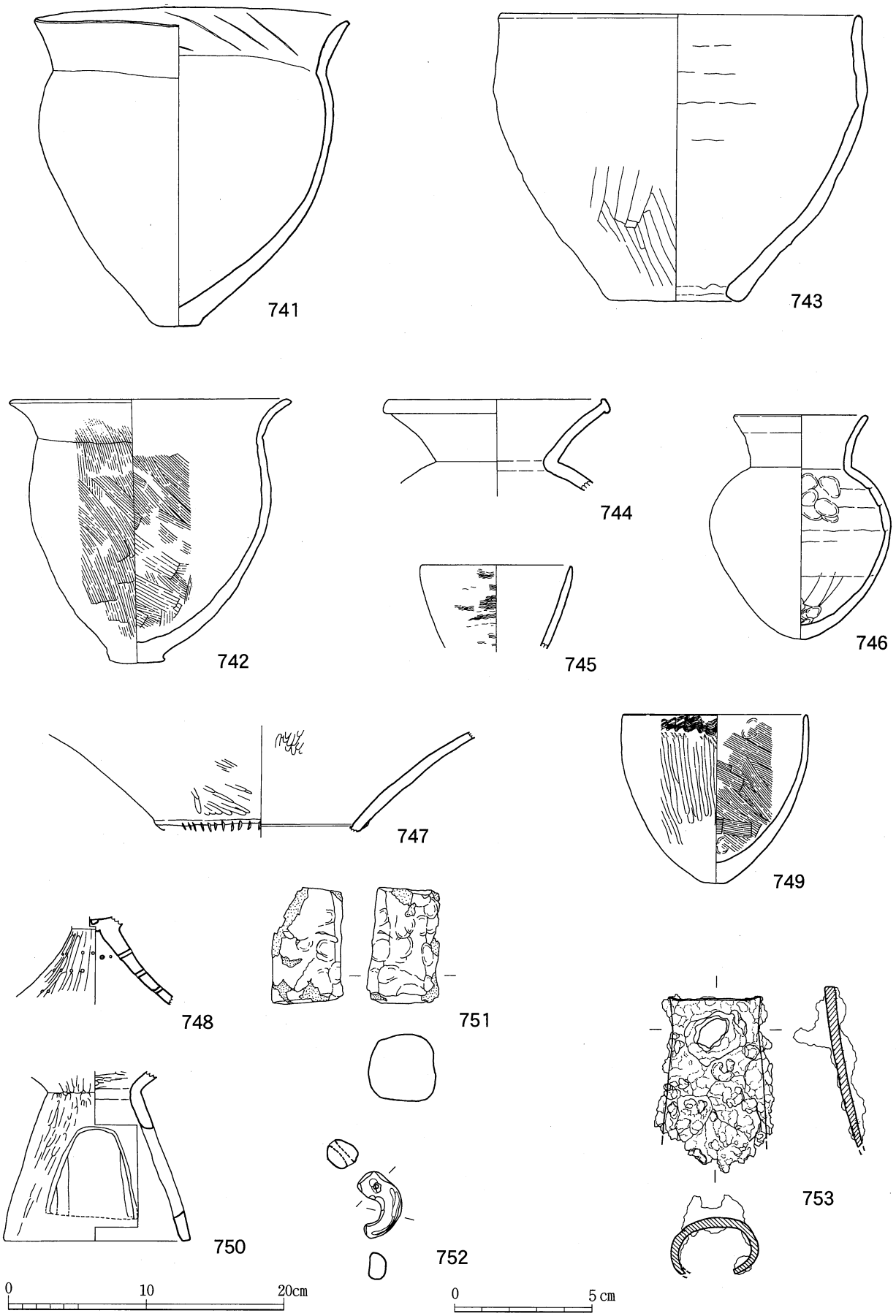
第80図　ＳＥ４出土遺物実測図（１／４）



第81図 ＳＥ８及び出土遺物実測図（遺構：平面１/80、断面１/40、遺物：１/４）



第82図　柱穴状遺構出土遺物実測図（1／4、739・740は1／2）



第83図　包含層出土古墳時代遺物実測図（1／4、753のみ1／2）

第10表　西下本庄遺跡出土土器観察表(6)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
195	土師器	甕 完形	SA1	21.1		23.1	ナデ、指押え	ナデ、指押え	にぶい橙、橙 にぶい黄褐	明褐 明赤褐	6㎜以下の褐色粒を多量、3㎜以下の白・灰色粒を少量	外面にスス付着
196	土師器	甕 完形	SA1	21.9			ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の乳白・灰・褐・茶色粒を多量	
197	土師器	甕 完形	SA1	18.5		22.6	ナデ	ナデ	橙	明褐	5㎜以下の灰褐・黒・灰色粒	
198	土師器	甑 胴部～底部	SA1		(4.4)		ナデ、工具ナデ	ナデ	浅黄	淡黄	4㎜以下の褐色粒を多量	
199	土師器	甕 口縁部～胴部	SA1				ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	4㎜以下の乳白・茶・黒色粒	外面にスス付着
200	土師器	甕 口縁部	SA1				ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	2㎜以下の乳白色粒	外面にスス付着、穿孔有り
201	土師器	壺 底部	SA1				ナデ、指押え	ナデ	橙	橙	5㎜以下の乳白・茶色粒	
202	土師器	壺？ 底部	SA1				ナデ	ナデ	明黄褐	明黄褐	4㎜以下の乳白・灰・茶色粒	
203	土師器	壺 底部	SA1				ナデ	ナデ	にぶい黄	暗黄灰	1㎜以下の乳白色粒、透明光沢粒	
204	土師器	坏 完形	SA1	14.2		5.7	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	精良	
205	土師器	坏 口縁部～底部	SA1	(10.8)			ナデ	ナデ	明黄褐	橙	5㎜以下の茶色粒	
206	土師器	坏 口縁部～底部	SA1	(14.4)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の乳白・灰・褐・茶色粒、透明光沢粒を多量	
207	須恵器	坏蓋 口縁部～天上部	SA1	(16.7)			回転ナデ 回転ヘラ切り	回転ナデ	灰白	灰	3㎜以下の灰白色粒、2㎜以下の褐灰・灰色粒を少量	
208	須恵器	甕 胴部～底部	SA1				格子目タタキ カキ目？	同心円当具痕	灰	灰	3㎜以下の乳白・灰白・褐灰・赤褐・浅黄色粒	
211	土師器	甕 口縁部～底部	SA2	(23.1)			ナデ、工具ナデ	ナデ	橙、褐灰	橙、黒	3㎜以下の褐・灰褐色粒	
212	土師器	甕 胴部～底部	SA2				ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	3㎜以下の灰・褐色粒を多量	外面にスス付着
213	土師器	甕 口縁部～胴部	SA2	(16.9)			ナデ、工具ナデ	ナデ	橙、灰黄褐	橙 にぶい褐	4㎜以下の褐灰・灰褐色粒	
214	土師器	甕 口縁部	SA2				ナデ、ハケ目	ナデ	明褐	橙	4㎜以下の灰白・褐・暗褐色粒を多量	外面にスス付着
215	土師器	鉢？ 口縁部	SA2				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4㎜以下の乳白・茶色粒	
216	土師器	甕又は甑 口縁部	SA2				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3㎜以下の茶色粒	
217	土師器	壺？ 口縁部	SA2				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4㎜以下の茶色粒	
218	土師器	甕 底部	SA2				ナデ	ナデ	浅黄	オリーブ褐	3㎜以下の黄灰・暗赤褐色粒	
219	土師器	甕 底部	SA2		7.3		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙、褐灰	2㎜以下の褐灰・褐色粒	
220	土師器	甕 底部	SA2				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	3㎜以下の暗赤褐・褐灰色粒、2㎜以下の灰白光沢粒を少量	
221	土師器	高坏 坏部～脚中部	SA2				ミガキ	ミガキ	橙	橙	2㎜以下の褐色粒を少量	
222	土師器	坏身又は蓋 口縁部～胴部	SA2	(15.0)			ミガキ	ミガキ	橙	橙、明赤褐	精良	内外面に丹塗り
223	土師器	坏身又は蓋 口縁部～胴部	SA2	(13.1)			ミガキ	ミガキ	明赤褐	明赤褐	精良	内外面に丹塗り
224	土師器	坏蓋 口縁部～天上部	SA2				ミガキ	ミガキ	明赤褐	明赤褐	精良	内外面に丹塗り
225	土師器	坏又は高坏 口縁部	SA2				ミガキ	ミガキ	赤褐、黄灰	にぶい赤褐	精良	内外面に丹塗り
226	土師器	壺 口縁部～頸部	SA2	(15.6)			ナデ、刺突を伴う貼付突帯	ナデ	明黄橙	橙	精良	
227	土師器	壺 口縁部～底部	SA2	(8.1)		14.1	風化の為不明	ナデ、指押え	橙	橙	精良	
228	須恵器	甕 口縁部～肩部	SA2	(18.5)			ナデ、格子目タタキ、カキ目	ナデ 同心円当具痕	灰白	灰白	2㎜以下の灰白色粒、1㎜以下の灰・褐色粒を少量	
229	土師器	紡錘車 転用	SA2						にぶい黄橙 黄灰	にぶい橙 褐灰	1㎜以下の褐・黒色粒を少量	穿孔有り
231	土師器	甕 口縁部～底部	SA3	(20.0)			ナデ、工具ナデ	ナデ	灰黄褐 黒褐	にぶい橙 黒褐	4㎜以下の灰褐・灰褐・黒色粒	
232	土師器	甕 口縁部	SA3	(20.4)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙 にぶい黄橙	3㎜以下の灰褐・灰黄色粒	
233	土師器	甕 口縁部～底部	SA3	25.0			ナデ、工具ナデ	ナデ、指押え	にぶい黄橙	にぶい黄橙 灰黄褐	4㎜以下の灰・暗褐・茶色粒	外面にスス付着
234	土師器	甕 口縁部～底部	SA3	(27.0)			ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 暗灰	明黄褐 暗灰	4㎜以下の褐色粒	
235	土師器	甕 口縁部～胴部	SA3	(25.4)			ナデ	ナデ	黄橙	黄橙	5㎜以下の灰・茶褐色粒	外面にスス付着
236	土師器	甕 底部	SA3		(6.2)		ナデ、指押え	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	7㎜以下の灰褐・褐・黒褐色粒	
237	土師器	甕 底部	SA3		(4.3)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	4㎜以下の褐・褐灰・黄褐色粒	
238	土師器	甕 底部	SA3				ナデ	ナデ	浅黄	灰黄	3㎜以下の褐色粒	
239	土師器	甕 底部	SA3				平行タタキ ナデ	ナデ	灰黄	にぶい黄橙	3㎜以下の褐色粒 1㎜以下の乳白色粒	

第11表　西下本庄遺跡出土土器観察表(7)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
240	土師器	甕 底部	SA3				ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	5㎜以下の灰褐・褐色粒、2㎜以下の白灰・茶色粒、黒色光沢粒	
241	土師器	壺 底部	SA3		2.6		ナデ	ミガキ	橙	橙	精良	
242	土師器	高坏 口縁部	SA3				ハケ目	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄褐 褐灰	微細な透明光沢粒	
243	土師器	高坏 坏部	SA3				ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の乳白・灰褐・黒色粒、微細な金色光沢粒	
244	土師器	高坏 脚中部	SA3				ミガキ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい橙	2㎜以下の乳白色粒を少量、微細な透明光沢粒を多量	円形透し孔有り
245	土師器	高坏 坏部	SA3				ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 にぶい黄橙	橙	1㎜以下の赤褐・灰白・透明光沢粒	
246	土師器	高坏 坏部	SA3	(16.5)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 にぶい黄橙	橙 明黄褐	1㎜以下の灰白光沢粒	
247	土師器	高坏 坏部	SA3	(18.3)			ナデ、ミガキ	ナデ	橙 にぶい黄橙	にぶい橙 橙	2㎜以下のにぶい赤褐色粒、1㎜以下の灰白光沢粒	
248	土師器	高坏 坏部	SA3	15.4			ナデ	ナデ	橙	黄橙 オリーブ黄	1㎜以下の灰褐・褐灰色粒を多量	
249	土師器	高坏 脚中部～裾部	SA3		18.6		ナデ、ミガキ	ナデ、指押え	黄橙	橙	3㎜以下の白・乳白・茶色粒	円形透し孔2つ有り
250	土師器	高坏 脚中部～裾部	SA3		(13.0)		ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明光沢粒を多量	円形透し孔2つ有り
251	土師器	高坏 脚部	SA3				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄橙	5㎜以下の橙色粒	
252	土師器	高坏 脚中部	SA3				ミガキ	工具ナデ	橙	橙	1㎜以下の透明光沢粒	
253	土師器	高坏 裾部	SA3		(13.2)		ミガキ	ナデ	橙	橙	2㎜以下の淡黄・茶褐・黒色粒、微細な金色光沢粒	
254	土師器	高坏 脚部	SA3				ミガキ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙 にぶい黄橙	1㎜以下の灰色粒を少量、微細な透明光沢粒を多量	円形透し孔有り
255	土師器	高坏 裾部	SA3		(17.6)		ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2㎜以下の白・灰白・茶褐色粒、微細な金色光沢粒	
256	土師器	高坏 裾部	SA3		(17.4)		ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 褐灰	にぶい黄橙	1㎜以下の灰褐・にぶい橙色粒、透明光沢粒	
257	土師器	高坏 脚部	SA3		(12.4)		ナデ、ケズリ	ケズリ、ナデ	橙	橙	2㎜以下の乳白・茶黒色粒、微細な金色光沢粒	
258	土師器	坏？ 口縁部	SA3	(16.3)			ナデ	丁寧なナデ	橙	橙	1㎜以下の灰白・褐灰色粒、灰白光沢粒	
259	土師器	坏？ 口縁部	SA3	(13.4)			ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	1㎜以下の灰白・淡黄色粒、透明光沢粒	
260	土師器	坏 完形	SA3	12.8		5.1	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	橙 灰	橙	精良	
261	土師器	坏 口縁部～胴部	SA3	10.5			ナデ	ナデ	橙	明黄褐	精良	
262	土師器	器台 裾部	SA3		(20.2)		ミガキ 櫛描波状文	ナデ、ハケ目	橙	浅黄橙	3㎜以下の半透明光沢粒	方形透し有り
263	土師器	鉢 口縁部	SA3				ミガキ 櫛描波状文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の灰白・褐・黒色粒を少量	
264	土師器	坏蓋 口縁部	SA3				ナデ	ナデ	黄橙	黄橙	1㎜以下の灰白・灰褐・橙色粒	
266	土師器	甕 口縁部～底部	SA5		3.5	(26.2)	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	灰褐 明褐灰	にぶい黄橙 褐灰	5㎜以下の灰・黄灰・褐茶色粒	外面にスス付着
267	土師器	甕 口縁部～胴部	SA5				ナデ	ナデ、ハケ目	灰黄褐	にぶい黄橙	4㎜以下の褐・灰褐・黄褐色粒	外面にスス付着
268	土師器	甕 底部	SA5				ナデ	ナデ	橙	黄灰	3㎜以下の乳白・灰・黒色粒	
269	土師器	壺 底部	SA5		(6.2)		ナデ	ナデ	褐灰	褐灰	1㎜以下の灰褐・灰黄色粒、透明光沢粒	
270	土師器	壺 頸部～胴部	SA5				ナデ	ナデ、指押え	橙	にぶい橙	1㎜以下の灰色粒を少量、微細な透明光沢粒を多量	
271	土師器	壺 胴部～底部	SA5				ナデ	ナデ	橙	黄灰	1㎜以下の乳白・黒色粒、透明光沢粒	
272	土師器	壺 胴部～底部	SA5				ミガキ	ナデ	灰白	にぶい橙	1㎜以下の灰白灰粒、透明・黒色光沢粒	外面にスス付着
273	土師器	高坏 口縁部	SA5				ハケ目	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の灰白・淡黄・黒色粒、透明光沢粒	
274	土師器	高坏 坏部	SA5				ハケ目、ナデ	ミガキ	橙	橙	精良	
275	土師器	高坏 脚中部	SE1				ミガキ	ナデ	明赤褐 にぶい黄褐	橙	2㎜以下の灰白・灰黄・黒色粒、透明光沢粒	
276	土師器	高坏 脚部	SA5		(21.4)		ミガキ、ナデ	ナデ（指ナデ？） ミガキ	橙	橙	精良	脚中部・裾部にそれぞれ4つの円形透し孔有り
277	土師器	壺 口縁部	SA5	(9.6)			ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	微細な透明光沢粒を多量	
278	土師器	壺 底部	SA5		(5.2)		ナデ	ナデ（内ハケ目？）	橙	橙	1㎜以下の灰白色粒を少量	
279	土師器	壺 頸部～底部	SA5				ミガキ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3㎜以下の灰・茶褐・黒色粒、微細な金色光沢粒	
280	土師器	ミニチュア土器 口縁部～底部	SA5	(5.4)			指ナデ	指ナデ	黒褐	黒褐	精良	
281	土師器	鉢 口縁部～胴部	SA5				ナデ	ナデ	橙	橙	5㎜以下の茶褐色粒、3㎜以下の灰・黒褐色粒を多量、微細な金色光沢粒	
282	土師器	坏 口縁部～胴部	SA5				ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	2㎜以下の灰白・茶褐色粒、柱状の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒	

第12表　西下本庄遺跡出土土器観察表(8)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
283	土師器	坏 口縁部～底部	SA5	(13.2)			ミガキ	ミガキ	明赤褐	明赤褐	精良	内外面に丹塗り
284	土師器	器台 脚部	SA5				ミガキ	ナデ、指押え	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の白・茶褐・黒色粒、微細な金色光沢粒	方形透し孔有り
285	土師器	甕 口縁部～底部	SA6	23.6			ハケ目	ハケ目、ナデ	橙	橙	3㎜以下の褐灰・茶色粒、1㎜以下の灰・赤茶色粒	外面にスス付着
286	土師器	甕 口縁部～頸部	SA6	(17.9)			ナデ	ナデ	橙	橙	4㎜以下の灰・褐色粒、1㎜以下の赤褐色粒を多量	
287	土師器	甕 底部	SA6		(3.3)		ナデ	ハケ目、ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	4㎜以下の褐・灰褐・黒褐色粒	
288	土師器	甕 底部	SA6		(6.5)		ナデ	ハケ目、ナデ	橙	灰黄褐	4㎜以下の灰褐・褐・黄褐色粒、灰色光沢粒	
289	土師器	鉢 口縁部～胴部	SA6	(17.8)			ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目 指押え	明黄褐	明黄褐	1㎜以下の暗赤褐色粒	
290	土師器	鉢 完形	SA6	10.6	2.1	7.8	ナデ	ナデ	橙 黄灰	橙	精良	
291	土師器	壺 口縁部～胴部	SA6	(11.8)			ナデ	ナデ、指押え	橙	橙	1㎜以下の透明光沢粒を少量	
292	土師器	壺 頸部～胴部	SA6				ナデ、沈線	ナデ、指押え	にぶい黄橙	にぶい橙	1㎜以下の透明光沢粒を少量	
293	土師器	高坏 口縁部	SA6				ハケ目	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良	
294	土師器	高坏 坏部～脚部	SA6				ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙	浅黄	1㎜以下の透明光沢粒を多量	
295	土師器	高坏 脚中部	SA6				ミガキ	ミガキ、ナデ	橙 赤黒	にぶい黄褐	精良	
296	土師器	高坏 裾部	SA6				ミガキ	ナデ	浅黄	灰黄	1㎜以下の透明光沢粒を多量	円形透し孔有り
298	土師器	脚台付皿 皿部～脚部	SA6				回転ナデ	回転ナデ 布目圧痕ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙	3㎜以下の茶・黒褐色粒を少量	皿部中央に穿孔有り
299	須恵器	坏 口縁部	SA6				回転ナデ	回転ナデ	灰黄	灰黄	精良	
300	須恵器	埦？ 口縁部	SA6				ナデ	ナデ	灰黄	灰黄	精良	東播系
301	陶器	甕 胴部	SA6				ナデ 格子目タタキ	ナデ	灰	灰	精良	常滑
302	土師器	甕 口縁部～胴部	SA8	(27.7)			ナデ、ハケ目	丁寧なナデ	橙、浅黄橙	橙、黄灰	1㎜以下の透明光沢粒、微細な浅黄色粒	
303	土師器	甕 口縁部～胴部	SA8	(28.7)			ナデ	ナデ	にぶい赤褐 褐灰	にぶい赤褐	3㎜以下の灰褐・茶褐・茶・黒色粒、微細な透明光沢粒を少量	
304	土師器	甕 底部	SA8		7.8		ハケ目、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4㎜以下の茶褐・赤褐・黒褐色粒を多量	
305	土師器	甕 底部	SA8		(4.2)		ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい橙	3㎜以下の白灰・灰褐・褐・黄褐色粒を多量	
306	土師器	甕 胴部～底部	SA8		4.5		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 黄灰	橙	4㎜以下の灰褐・赤褐色粒	
307	土師器	甕 底部	SA8				ナデ	ナデ	暗灰黄	暗灰黄	2㎜以下の白灰・褐・黒褐色粒	内面に竹管状の刺突
308	土師器	壺 頸部～胴部	SA8				ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2㎜以下の灰白・褐・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を多量	
309	土師器	壺 頸部～胴部	SA8				ミガキ	ミガキ	橙	明赤褐	3㎜以下の乳白・暗褐色粒、透明光沢粒を少量	
310	土師器	壺 胴部～底部	SA8		(2.2)		ナデ	ナデ（指ナデ？）	橙	橙	精良	
311	土師器	壺 底部	SA8				ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい橙	明赤褐	2㎜以下の白色粒、透明光沢粒	円形の窪み有り
312	土師器	壺 頸部	SA8				ハケ目、ミガキ	ナデ	橙	橙 にぶい黄橙	精良	
313	土師器	壺 底部	SA8		(7.6)		ナデ	ナデ	橙 にぶい黄橙	灰	2㎜以下の乳白・灰白色粒	
314	土師器	壺 口縁部	SA8				ナデ 櫛描波状文	ナデ	橙	橙	2㎜以下の灰白・灰・褐色粒を少量	
315	土師器	高坏 口縁部	SA8				ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい橙	灰黄	2㎜以下の灰・灰褐・赤褐色粒	
316	土師器	高坏 坏部	SA8				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	3㎜以下の灰白色粒、透明光沢粒	
317	土師器	高坏 坏部	SA8				ミガキ	ミガキ、ナデ	橙、褐灰	にぶい黄橙 褐灰	2㎜以下の灰白・灰黄色粒、透明光沢粒	
318	土師器	高坏 脚中部	SA8				ナデ	工具ナデ	にぶい褐	にぶい橙	5㎜以下の褐色粒、2㎜以下の灰白・黒褐色粒、1㎜以下の透明光沢粒	
319	土師器	高坏 脚部	SA8				ミガキ	ナデ	橙	橙	精良	裾部に円形透し孔有り
320	土師器	高坏 裾部	SA8		(16.8)		ミガキ	ナデ	橙、黄灰	暗灰黄 黒褐	1㎜以下の灰黄・橙・黒色粒、透明光沢粒	
321	土師器	鉢 口縁部	SA8				ナデ	ナデ	黄褐	黄褐 明赤褐	3㎜以下の白・茶褐・黒褐色粒を多量	
322	土師器	鉢 口縁部	SA8				ナデ、ミガキ	ナデ	明赤褐	橙	1㎜以下の灰黄・灰色粒、透明光沢粒	
323	土師器	鉢 口縁部	SA8				ミガキ 櫛描波状文	ナデ	橙	橙	1㎜以下の灰白色粒、透明光沢粒	
324	須恵器	瓶 頸部～胴部	SA8				回転ナデ、沈線、櫛描波状文	回転ナデ 指押え	灰	灰	精良	円形透し孔有り
326	土師器	甕 口縁部～底部	SA9	(23.8)			ナデ	ナデ	にぶい褐 褐灰	橙	3㎜以下の灰褐・褐色粒を多量、2㎜以下の灰白・茶色粒	外面にスス付着

第13表　西下本庄遺跡出土土器観察表(9)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
327	土師器	壺 口縁部～胴部	SA9	(11.0)			ナデ、刺突を伴う貼付突帯	ナデ、ハケ目 指押え	にぶい橙 浅黄橙	灰黄 浅黄橙	2㎜以下の茶褐・黒褐色粒を多量、赤褐色粒を少量	328と同一個体か
328	土師器	壺 胴部～底部	SA9				ナデ	ナデ、指押え	にぶい橙 黒	灰黄 にぶい黄	2㎜以下の茶褐・黒褐色粒を多量、赤褐色粒を少量	
329	土師器	壺 頸部～胴部	SA9				ナデ	ナデ	明黄褐	明黄褐	2㎜以下の茶褐・黒褐色粒、1㎜以下の透明光沢粒を多量	
330	土師器	壺 胴部～底部	SA9				ミガキ	ナデ	橙	黄橙	1㎜以下の茶褐・黒褐色粒、微細な透明光沢粒を多量	
331	土師器	鉢 完形	SA9	12.7		6.2	ナデ	ナデ	橙、浅黄橙	橙	5㎜以下の灰・褐・赤褐色粒を多量、3㎜以下の灰白色粒	
332	土師器	高坏 坏部	SA9	(13.6)			ナデ	ナデ	橙	橙	1㎜以下の乳白・灰褐色粒、微細な透明光沢粒を多量	
333	土師器	高坏 坏部	SA9				ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 黄灰	にぶい黄橙	2㎜以下の白・淡黄・茶褐色粒、微細な金色光沢粒を多量	
334	土師器	高坏 脚部	SA9				ミガキ	工具ナデ	にぶい橙	橙	2㎜以下の褐色粒、微細な金色光沢粒	
335	土師器	高坏 脚中部	SA9				ミガキ	工具ナデ、ナデ	橙	橙	3㎜以下の白灰・褐・灰褐色粒、1㎜以下の透明光沢粒、微細な金色光沢粒	
336	土師器	高坏 坏部	SA9	17.6			ナデ	ミガキ	橙	にぶい黄橙	2㎜以下の白色粒、透明光沢粒	
337	土師器	高坏 脚部	SA9		10.0		ミガキ	ナデ	橙	橙	精良	
338	土師器	高坏 裾部	SA9		(13.2)		ミガキ	ナデ（指ナデ？）	橙	橙	2㎜以下の白・乳白・茶・黒褐色粒、微細な金色光沢粒	
339	土師器	甕 完形	SA10	26.5	5.5	27.5	ハケ目、ナデ	ハケ目 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の灰白・褐・黒褐色粒を多量	
340	土師器	鉢 口縁部～底部	SA10	(16.7)	4.6	11.2	ハケ目 ナデ、指押え	ハケ目	にぶい黄橙 褐灰	橙	3㎜以下の灰褐・赤褐・橙色粒	
341	土師器	器台 受部～脚部	SA10		23.6		ミガキ	ミガキ ナデ（指ナデ？）	橙	浅黄橙	精良	脚部に3箇所の方形透し孔有り
342	土師器	壺 口縁部	SA10	(7.5)			ナデ 櫛描波状文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の褐・茶褐色粒、透明光沢粒、微細な金色光沢粒	
343	土師器	ミニチュア土器 胴部～底部	SA10		2.8		丁寧なナデ	指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の灰褐・黒褐・黒色粒、微細な金色光沢粒	
344	土師器	不明 不明	SA10				ナデ	ナデ	黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の暗灰黄・褐色粒、半透明・黒色光沢粒を少量	
345	土師器	不明 不明	SA10				ナデ	ナデ	にぶい黄褐	橙	2㎜以下の灰白・褐・黒色粒を少量	
346	陶器	甕 底部	SA10		(9.2)		ナデ	ナデ、ハケ目？	暗灰	にぶい黄	精良	
347	土師器	甕 口縁部～底部	SA11	(25.1)	3.8	29.5	ナデ 平行タタキ	ナデ、指押え	にぶい黄橙 黒褐	にぶい黄橙、にぶい橙、黒褐	4㎜以下の灰褐・茶褐・黒色粒	外面にスス付着
348	土師器	甕 口縁部	SA11	(11.6)			ナデ	ナデ	橙	橙	2㎜以下の乳白・白灰・灰白色粒	
349	土師器	甕 胴部～底部	SA11				ミガキ	ナデ	にぶい橙、にぶい黄橙、暗灰黄	灰黄褐	微細な透明光沢粒	
350	土師器	鉢 口縁部	SA11	(9.8)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	1㎜以下の乳白・褐色粒を少量	
351	黒色土器	埦 口縁部	SA11				ミガキ	ミガキ	オリーブ黒	オリーブ黒	2㎜以下の灰褐・黄褐・褐色粒、微細な透明光沢粒	内外面黒色化
352	土師器	甕 口縁部～底部	SA12	(23.8)	2.0	26.3	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい黄 暗灰黄	明黄褐 にぶい黄橙	3㎜以下の灰・褐色粒を多量	外面にスス付着
353	土師器	甕 口縁部～底部	SA12	(20.1)		20.2	ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄褐 浅黄橙	にぶい黄橙 褐灰	6㎜以下の黒褐色粒、4㎜以下の灰褐色粒	外面にスス付着
354	土師器	甕 完形	SA12	19.8		26.9	ナデ 平行タタキ	ナデ、指押え	明黄褐	黄橙	6㎜以下の茶褐・黒褐色粒を多量	
355	土師器	甕 口縁部～胴部	SA12	(19.0)			ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	3㎜以下の灰白・灰褐・褐色粒を多量	外面にスス付着
356	土師器	甕 口縁部～底部	SA12	(14.3)	5.0	17.6	ナデ	ナデ 指押え	褐灰 にぶい黄橙	褐灰 にぶい黄橙	6㎜以下の灰褐・褐色粒	外面にスス付着
357	土師器	甕 完形	SA12	14.9		23.3	ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい赤褐、にぶい黄橙、灰黄褐	橙	5㎜以下の灰褐粒、4㎜以下のにぶい橙・明赤褐・褐灰色粒、透明光沢粒	外面にスス付着
358	土師器	甕 口縁部～頸部	SA12	(27.5)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 橙	にぶい黄橙	6㎜以下の灰褐・黄褐・褐色粒を多量	外面にスス付着
359	土師器	甕 口縁部～胴部	SA12				ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 暗灰黄	にぶい橙	4㎜以下の灰褐・黄褐・褐色粒、透明光沢粒	
360	土師器	甕 底部	SA12				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	黄灰	1㎜以下の灰白・灰褐・褐色粒	
361	土師器	甕 底部	SA12				格子目タタキ	ナデ	橙	橙	3㎜以下の暗灰黄色粒を少量	
362	土師器	甕 底部	SA12		4.7		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙	褐灰 にぶい橙	5㎜以下の褐・茶色粒を多量、3㎜以下の白色粒	
363	土師器	壺 口縁部～頸部	SA12				ナデ、刻目を伴う貼付突帯	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙	にぶい橙	2㎜以下の褐灰・暗褐色粒	
364	土師器	壺 口縁部～底部	SA12	(14.7)			ナデ、ミガキ、刻目を伴う貼付突帯	ナデ、工具ナデ 指押え	浅黄、黒褐 にぶい橙	黄灰、橙	5㎜以下の赤褐色粒、3㎜以下の白灰・褐・浅黄・黒色粒を少量、微細な透明光沢粒を多量	
365	土師器	壺 完形	SA12	12.9	3.4	17.9	ミガキ	ミガキ、ナデ 指押え	にぶい黄橙 橙、黒褐	橙 にぶい黄橙	3㎜以下の白・灰褐・にぶい橙・黒色粒、微細な金色光沢粒を多量	
366	土師器	壺 頸部～底部	SA12		1.6		ミガキ	ナデ、指押え	にぶい黄橙	明黄橙	精良	
367	土師器	壺 完形	SA12	8.8	2.4	13.0	ナデ、ミガキ	ナデ、指押え	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良	
368	土師器	壺 口縁部～胴部	SA12	(9.8)			ナデ、指ナデ	ナデ	にぶい黄橙 黒褐	にぶい黄橙	2㎜以下の乳白・灰白・茶褐・黒色粒、1㎜以下の透明光沢粒	外面にスス付着

第14表　西下本庄遺跡出土土器観察表(10)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
369	土師器	高坏 坏部	SA12	(27.3)			ミガキ	ミガキ	橙	橙	2㎜以下の乳白・白坏・褐色粒を少量	
370	土師器	高坏 完形	SA12	20.1	14.2	17.7	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	灰白、褐灰	浅黄橙	4㎜以下の赤褐色粒、微細な透明光沢粒	
371	土師器	高坏 坏部～裾部	SA12	15.0	(10.4)	12.7	ナデ、ミガキ	ナデ	橙	橙	2㎜以下の乳白色粒を少量	
372	土師器	高坏 坏部～脚部	SA12	(18.3)			ミガキ	ナデ、工具ナデ	橙	にぶい橙 灰白	2㎜以下の乳白・黄褐・褐色粒を少量	
373	土師器	高坏 坏部	SA12	17.2			ミガキ	ミガキ	橙 にぶい橙	橙 にぶい黄褐	1㎜以下の褐・黒色粒、透明光沢粒を少量	内外面に丹塗り
374	土師器	高坏 脚中部	SA12				ミガキ	工具ナデ	橙 にぶい橙	橙 にぶい黄褐	1㎜以下の褐・黒色粒、透明光沢粒を少量	373と同一個体か
375	土師器	高坏 坏部	SA12	(17.4)			ミガキ	ミガキ	にぶい橙	橙	2㎜以下の灰白・灰黄・黒色粒、透明光沢粒	
376	土師器	高坏 脚部	SA12		(16.9)		ミガキ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な黒色粒、透明光沢粒を少量	
377	土師器	高坏 脚部	SA12		(12.0)		ミガキ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	4㎜の柱状の赤褐色粒、2㎜以下の赤褐色粒を少量	
378	土師器	高坏 脚部	SA12				ミガキ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	黄灰	2㎜以下の灰白・灰黄・橙色粒、透明光沢粒	
379	土師器	高坏 脚中部	SA12				ミガキ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の灰・褐色粒を少量	
380	土師器	高坏 裾部	SA12		(13.0)		ナデ	ナデ	橙	明黄橙	3㎜以下の乳白色粒、2㎜以下の透明・黒色光沢粒	
381	土師器	高坏 脚部	SA12				ミガキ	ミガキ、ナデ 工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の半透明光沢粒を多量	
382	土師器	高坏 脚部	SA12				ミガキ	ナデ、工具ナデ	黄橙	黄橙、黄褐	3㎜以下の茶・黒色粒、1㎜以下の透明光沢粒	
383	土師器	坏 完形	SA12	12.0		5.0	ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の灰・褐・黒褐色粒を多量	
384	土師器	鉢 口縁部～底部	SA12	(14.3)		5.7	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の褐灰・黄橙色粒、透明光沢粒	
385	土師器	鉢 完形	SA12	12.8		7.3	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	明黄褐 明赤褐	明黄褐	5㎜以下の白・茶色粒	
386	須恵器	甕 口縁部	SA12				回転ナデ 櫛描波状文	回転ナデ	灰	灰	精良	
387	須恵器	甕 完形	SA12	9.4		11.9	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	黄灰、灰白	黄灰	精良、1㎜以下の灰色粒を少量	
390	土師器	甕 口縁部～胴部	SA13	(27.0)			ナデ	ナデ、工具ナデ 指押え	浅黄	にぶい黄橙	3㎜以下の暗灰・褐灰色粒	外面にスス付着
391	土師器	甕 口縁部	SA13	(25.0)			ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	4㎜以下の赤褐・暗褐色粒、2㎜以下の白色粒	
392	土師器	甕 完形	SA13	16.7		18.9	ナデ	ナデ、指押え	橙 にぶい黄橙	橙	4㎜以下の赤褐色粒を多量、3㎜以下の灰白・黒褐色粒を少量	外面にスス付着、木の葉底
393	土師器	甕 口縁部～底部	SA13	(19.6)		24.9	ナデ	ナデ、指押え	灰黄	にぶい黄橙	4㎜以下の灰褐・褐・赤褐色粒、微細な透明光沢粒	外面にスス付着
394	土師器	甕 頸部～胴部	SA13				ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄 黄褐	5㎜以下の褐・黒色粒を少量	外面にスス付着
395	土師器	甕 口縁部	SA13	(19.0)			ナデ	ナデ	灰黄褐 にぶい橙	にぶい黄橙	3㎜以下の褐色粒	396・397と同一個体か
396	土師器	甕 口縁部	SA13	(20.2)			ナデ	ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	にぶい褐	5㎜以下の褐色粒、3㎜以下の乳白色粒	外面にスス付着
397	土師器	甕 頸部～底部	SA13				ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	にぶい褐	5㎜以下の褐色粒、3㎜以下の乳白色粒	
398	土師器	甕 胴部～底部	SA13				ナデ、工具ナデ	ナデ、指押え	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5㎜以下の茶褐色粒、3㎜以下の灰褐色粒	
399	土師器	甕 胴部～底部	SA13				ナデ	ナデ、指押え	灰黄褐	にぶい黄橙	5㎜以下の灰黄褐・黄褐・赤褐・黒色粒	外面にスス付着
400	土師器	壺 口縁部～底部	SA13	(13.2)	2.7	29.5	ナデ、丁寧なナデ、刻目を伴う貼付突帯	ナデ、工具ナデ	橙	橙	4㎜以下の褐色粒を多量	
401	土師器	壺 頸部～胴部	SA13				ナデ、刻目を伴う貼付突帯	ナデ、指押え	にぶい黄橙	橙	3㎜以下の灰白粒	
402	土師器	壺 頸部～胴部	SE5				ミガキ	ナデ、指押え	にぶい橙	にぶい黄橙	1㎜以下の褐・黒色粒、微細な透明光沢粒を少量	
403	土師器	壺 完形	SA13	9.2		13.1	ナデ、ミガキ 指押え	ナデ	橙、黒	橙	精良、微細な透明光沢粒を多量	
404	土師器	高坏 坏部	SA13	(16.8)			ミガキ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	微細な透明光沢粒	
405	土師器	高坏 坏部	SE5				ミガキ	ミガキ	橙	橙	2㎜以下の灰・浅黄橙色粒を少量、1㎜以下の透明光沢粒を多量	
406	土師器	高坏 坏部	SA13				ナデ	ミガキ	橙	橙	2㎜以下の白色粒、透明光沢粒	
407	土師器	高坏 坏部	SA13	19.7			ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5㎜以下の赤褐色粒、2㎜以下の茶・黒色粒、1㎜以下の透明光沢粒	
408	土師器	高坏 坏部	SA13	(30.0)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の灰白色粒を少量、微細な透明光沢粒を多量	
409	土師器	高坏 坏部～脚部	SA13	26.5			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ 指押え	にぶい黄橙 にぶい橙、橙	橙 にぶい黄橙	精良、微細な透明光沢粒を少量	
410	土師器	高坏 坏部～脚部	SA13				ミガキ、ナデ	ミガキ 工具ナデ	にぶい橙 にぶい黄褐	にぶい黄橙	3㎜以下の灰褐・褐・黒褐色粒を少量	
411	土師器	高坏 坏部	SA13	(21.2)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、にぶい黄橙、褐灰	橙	2㎜以下の淡黄・灰白・灰・橙・黒色粒、透明光沢粒	
412	土師器	高坏 坏部～脚部	SA13	(19.8)			ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 黄灰	2㎜以下の灰白・暗赤褐色粒、微細な灰白光沢粒	

第15表　西下本庄遺跡出土土器観察表(11)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
413	土師器	高坏 脚部	SA13		11.7		ミガキ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3㎜以下の透明光沢粒を多量、1㎜以下の灰白色粒を少量	
414	土師器	器台？ 完形	SA13	3.2	(6.3)	5.1	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の灰褐・褐色粒	
415	土師器	坏 口縁部～底部	SA13	(12.5)		3.9	ナデ	ナデ	にぶい橙 褐灰	橙、暗灰黄	1㎜以下の乳白・茶褐・黒色粒、微細な金色光沢粒	
416	土師器	鉢 口縁部～胴部	SE5	(12.5)			ナデ	ミガキ、ナデ	にぶい橙	橙、浅黄橙	2㎜以下の灰白・灰褐・褐灰色粒	
417	土師器	鉢 口縁部	SE5				ミガキ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい橙	1㎜以下の白灰・淡黄・茶色粒、微細な金色光沢粒	
418	土師器	鉢 口縁部～胴部	SA13	(23.2)			ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3㎜以下の暗褐色粒	外面にスス付着
419	土師器	鉢 口縁部～胴部	SA13	(12.3)			ナデ	ナデ	灰黄褐	褐灰	1㎜以下の灰褐・褐・赤褐・黒褐色粒	外面にスス付着
420	土師器	高坏 坏部	SA15	13.8			ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	橙 にぶい黄橙	橙 にぶい橙	3㎜以下の浅黄・黒色粒、透明光沢粒	内外面に丹塗り
421	土師器	高坏 脚部	SA15		(11.1)		ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	橙	橙	精良	内外面に丹塗り
422	土師器	坏 完形	SA15	15.6		6.2	ミガキ	ナデ	橙	橙 にぶい黄橙	2㎜以下の白・茶褐・黒色粒、微細な金色光沢粒	
423	土師器	坏蓋 完形	SA15	14.4		4.8	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐 赤褐	橙、赤褐	4㎜以下のにぶい赤褐色粒、1㎜以下の灰褐色粒	内外面に丹塗り
424	土師器	坏 口縁部～胴部	SA15	(13.0)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	精良	内外面に丹塗り
425	須恵器	甕 口縁部～頸部	SA15	(11.5)			回転ナデ 櫛描波状文	回転ナデ	暗灰黄	黄灰	1㎜以下の灰褐・褐・黒褐色粒	
428	土師器	壺 口縁部	SA17	(27.3)			ハケ目、ナデ 櫛描波状文	ナデ、ハケ目	にぶい黄橙	黄灰 にぶい黄橙	2㎜以下の白色粒、1㎜以下の浅黄色・透明光沢粒	
429	土師器	壺 頸部	SA17				ハケ目	ミガキ、ナデ 指押え	にぶい黄橙	浅黄橙、橙	1㎜以下の褐、黒色粒	
430	土師器	甕 底部	SA17		(8.0)		ナデ	ナデ	橙	にぶい黄褐	7㎜以下の乳白・褐色粒	外面にスス付着
431	土師器	高坏 脚部	SA17		(19.0)		ミガキ、ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	橙、褐灰	2㎜以下の白・灰白色粒を少量	
432	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	20.4		26.7	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明赤褐 にぶい褐	橙 にぶい褐	4㎜以下の褐灰・明褐・明褐・黒褐色粒を多量	外面にスス付着
433	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	23.3		30.6	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	明赤褐 にぶい黄橙	明赤褐	4㎜以下のにぶい赤褐色粒、2㎜以下の褐・暗褐色粒	外面にスス付着
434	土師器	甕 口縁部～胴部	SA18	18.5			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	5㎜以下の乳白・灰・褐灰・褐・黒色粒を多量	
435	土師器	甕 完形	SA18	21.5		26.6	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ 指ナデ	橙 にぶい橙	橙 にぶい橙	6㎜以下の灰白・褐・茶褐色粒、微細な透明光沢粒を多量	外面にスス付着
436	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	23.7			ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ 指ナデ	浅黄橙	黄橙	8㎜以下の灰・茶・褐色粒を多量	
437	土師器	甕 口縁部～胴部	SA18	(22.2)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 にぶい黄橙	橙、暗灰黄	5㎜以下の灰黄・褐灰・褐色粒を多量	
438	土師器	甕 口縁部～胴部	SA18	(18.5)			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙	明黄褐	4㎜以下の黄灰・褐色粒を多量	
439	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	(23.1)			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、ハケ目	橙	黄橙、橙	4㎜以下の褐・茶色粒	外面にスス付着
440	土師器	甕 完形	SA18	19.2		27.3	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ	にぶい褐 灰白	にぶい褐	3㎜以下の褐・褐灰色粒を多量	
441	土師器	甕 完形	SA18	23.0		28.7	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄、橙、にぶい黄橙	橙、赤橙	4㎜以下の灰白・褐灰・赤褐色粒を多量、2㎜以下の乳白・灰白色粒を少量	外面にスス付着
442	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	(16.5)			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙、明黄褐、にぶい黄橙、黄褐	橙、灰黄褐、明黄褐、暗灰黄	5㎜以下の乳白・灰・褐・茶色粒	外面にスス付着
443	土師器	甕 口縁部～胴部	SA18	20.9			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙、にぶい黄橙、黒褐	橙 にぶい黄橙	2㎜以下の褐・褐灰色粒	外面にスス付着
444	土師器	甕 完形	SA18	20.5		28.4	ナデ、ハケ目、工具ナデ、ケズリ	ナデ、工具ナデ	黄橙、橙 黄褐	黄褐、橙	10～8㎜の赤褐色粒を少量、5㎜以下の赤褐・茶褐・灰褐色粒を多量	
445	土師器	甕 口縁部～胴部	SA18	(27.8)			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ ケズリ	明赤褐	明褐	3㎜以下の褐灰色粒	
446	土師器	甕 完形	SA18	16.9	3.3	22.9	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙、明黄褐	橙、暗灰黄	5㎜以下の黄灰色粒、3㎜以下の褐・赤褐色粒を多量	外面にスス付着
447	土師器	甕 完形	SA18	24.3		26.2	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 褐灰	4㎜以下の灰白・灰褐・褐色粒	外面にスス付着
448	土師器	甕 完形	SA18	25.5		27.0	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、ハケ目 工具ナデ	赤、橙	赤	4㎜以下の褐灰色粒	外面にスス付着
449	土師器	甕 完形	SA18	25.1	7.9	28.6	ナデ、ハケ目、工具ナデ、指押え	ナデ、工具ナデ	橙	橙	5㎜以下の褐・茶褐色粒を多量	
450	土師器	甕 口縁部～胴部	SA18	24.5			ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、ハケ目 工具ナデ	にぶい黄褐、明赤褐、灰オリーブ	にぶい黄褐 明赤褐	4㎜以下の褐灰・灰褐色粒を多量、2㎜以下の乳白色粒を少量	
451	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	30.0		32.2	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	5㎜以下の白・茶・黒色粒、3㎜以下の乳白色粒	
452	土師器	甕 完形	SA18	22.8	7.7	25.4	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 黒褐	にぶい黄橙 褐灰	3㎜以下の褐・灰褐・赤褐色粒	外面にスス付着
453	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	(17.0)		18.0	ナデ、ケズリ	ナデ、工具ナデ	黄橙 にぶい黄褐	橙、黒褐	3㎜以下の褐灰・黒褐色粒	
454	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	15.9			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙、黒褐	橙	4㎜以下の灰褐・赤褐・黒褐色粒を多量	外面にスス付着
455	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	13.2			ナデ、ハケ目	ナデ、工具ナデ 指押え	明黄褐	橙	5㎜以下の灰・褐色粒	外面にスス付着
456	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	14.3			ナデ	ナデ、工具ナデ	褐灰 灰黄褐	褐灰	5㎜以下の褐・赤茶色粒	

第16表　西下本庄遺跡出土土器観察表(12)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
457	土師器	甕 口縁部～底部	SA18	(14.5)			ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 橙	にぶい黄橙 橙	3㎜以下の灰白・灰黄・褐灰橙色粒	
458	土師器	甕 口縁部～胴部	SA18	(15.3)			ナデ、ハケ目 工具ナデ	ナデ、工具ナデ	灰黄	灰白、黄灰	3㎜以下の灰褐・褐色粒を多量	
459	土師器	甕 口縁部～胴部	SA18	(13.3)			ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	2㎜以下の乳白・灰・褐色粒	
460	土師器	鉢 完形	SA18	12.7	3.3	8.2	ナデ、指ナデ	ナデ、指ナデ	橙 にぶい赤褐	橙	6㎜以下の灰白色粒、4㎜以下の茶褐色粒を多量	外面にスス付着
461	土師器	壺 頸部～胴部	SA18				ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目 指押え	橙、黒褐	黄灰	1㎜以下の灰白・淡黄・橙色粒、透明光沢粒	外面にスス付着
462	土師器	甑 完形	SA18	30.5	(8.4)	21.5	ナデ、指押え、工具ナデ、ケズリ	ナデ、工具ナデ 指押え	橙	橙 にぶい黄橙	4㎜以下の褐灰・暗赤褐色粒を多量	
463	土師器	高坏 完形	SA18	13.0	8.6	7.0	ミガキ、ナデ 指ナデ	ミガキ、ナデ	橙	にぶい赤褐	精良、1㎜以下の褐灰粒、透明光沢粒	内外面に丹塗り
464	土師器	高坏 口縁部～脚部	SA18	7.8		6.7	ミガキ、ナデ	ナデ	橙	橙	精良	
465	土師器	坏 完形	SA18	14.9		5.0	ミガキ	ミガキ	明赤褐	明赤褐	精良	内外面に丹塗り
466	土師器	坏 完形	SA18	14.7		4.7	ミガキ	ミガキ	橙	明赤褐	精良	内外面に丹塗り
467	土師器	坏 口縁部	SA18	(14.7)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙、暗灰黄	精良、6㎜以下の暗赤褐色粒を少量	
468	土師器	鉢 口縁部～胴部	SA18	(17.7)			ナデ	ナデ、ミガキ	橙	橙	6㎜以下の橙色粒を少量	
469	土師器	ミニチュア土器 完形	SA18	8.1	4.9	5.3	指ナデ	指ナデ	橙	橙	4㎜以下の乳白・灰・黄灰・褐色粒	
470	須恵器	高坏 脚部	SA18		(8.7)		回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	2㎜以下の灰白・にぶい黄橙色粒を少量	3方に方形透し孔有り
471	土師器	甕 口縁部	SA19				ナデ、ハケ目	ナデ	橙	橙	3㎜以下の灰白・褐色粒を多量	
472	土師器	高坏 坏部	SA19				ハケ目、ナデ	ミガキ	橙	橙	2㎜以下の乳白・黄灰・黒色粒	
473	土師器	鉢 口縁部～胴部	SA19	(12.2)			ナデ	ナデ、ミガキ	にぶい橙	にぶい黄橙	1㎜以下の灰白・黒色粒、透明光沢粒を少量	
474	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	(21.2)		32.0	ナデ、工具ナデ ケズリ、指押え	ナデ、工具ナデ（指ナデ？）	橙、明赤褐	明赤褐	4㎜以下の暗赤褐・黒褐色粒を多量	
475	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	(19.5)			ナデ、ケズリ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	4㎜以下の褐・茶褐色粒を多量、1㎜以下の透明光沢粒	
476	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	21.3		25.4	ナデ、ケズリ 指押え	ナデ、工具ナデ	橙	橙、黄灰	4㎜以下の茶褐・黒褐色粒を多量	外面にスス付着
477	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	(18.3)		24.3	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄褐	橙	4㎜以下の灰色粒	外面にスス付着
478	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	17.3		22.5	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 赤褐	橙 にぶい黄橙	6㎜以下の暗褐色粒、3㎜以下の褐灰色粒	外面にスス付着
479	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	(27.0)		30.3	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明黄褐	橙	6㎜以下の茶褐・褐色粒を少量	外面にスス付着
480	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	23.5		31.5	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ	淡黄	浅黄橙	3㎜以下の褐灰・褐色粒を多量	
481	土師器	甕 口縁部～胴部	SA20	(25.0)			ナデ、工具ナデ ケズリ、指押え	ナデ、工具ナデ	褐、黒褐	明赤褐 にぶい赤褐	3㎜以下の灰白・灰・赤褐色粒を多量	外面にスス付着
482	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	(29.6)		32.8	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	明黄褐	明黄褐	8㎜以下の乳白・灰・褐・黒色粒を多量	
483	土師器	甕 完形	SA20	22.2		24.9	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ 指押え	明赤褐 暗灰黄	にぶい橙 明褐	3㎜以下の褐灰・赤褐・黒褐色粒	外面にスス付着
484	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	(18.7)			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい黄橙 にぶい褐	にぶい橙	3㎜以下の暗褐・茶色粒	外面にスス付着
485	土師器	甕 完形	SA20	25.7		31.1	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙 にぶい黄橙	橙、にぶい黄橙 灰オリーブ	5㎜以下の褐灰色粒を多量、3㎜以下の灰白色粒	外面にスス付着
486	土師器	甕 完形	SA20	17.5		21.9	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙	橙、黄灰	4㎜以下の黄灰・暗褐・褐色粒を多量	外面にスス付着
487	土師器	甕 口縁部～胴部	SA20	(27.8)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙、黒褐	橙	3㎜以下の乳白・灰・褐色粒	外面にスス付着
488	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	(19.3)		23.6	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	5㎜以下の灰褐・褐・赤褐色粒、2㎜以下の乳白色粒を少量	内面に粘土の貼り付け（補修）、外面にスス付着
489	土師器	甕 完形	SA20	(22.9)		28.2	ナデ、ハケ目 ケズリ、指押え	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい赤褐 明赤褐	明赤褐	5㎜以下の灰白・灰・褐・赤褐色を多量	外面にスス付着
490	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	20.6		21.8	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	5㎜以下の灰・褐・赤褐色粒を多量	外面にスス付着
491	土師器	甕 口縁部～胴部	SA20	(19.0)			ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ、工具ナデ 指押え	橙	灰黄褐 明赤褐	7㎜以下の灰・褐・赤褐・黒褐色粒、1㎜以下の透明光沢粒を多量	
492	土師器	甕 口縁部～底部	SA20	(15.6)		19.2	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	3㎜以下の乳白・灰・褐・茶色粒を多量	
493	土師器	甕 口縁部～胴部	SA20	(20.7)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい橙	橙	5㎜以下の灰褐・褐色粒	
494	土師器	甑 口縁部～底部	SA20	(28.2)	9.1	24.6	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	橙	橙	3㎜以下の灰白・灰・褐・赤・茶色粒	
495	土師器	甑 口縁部～底部	SA20	29.3	8.2	25.0	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	6㎜以下の灰白・茶褐・茶・黒色粒	
496	土師器	甑 口縁部～底部	SA20	26.5	(7.0)	20.2	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 にぶい赤褐	にぶい赤褐	5㎜以下の灰褐・褐・赤茶色粒	
497	土師器	甑 完形	SA20	29.5	7.2	22.9	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	にぶい赤橙	にぶい橙	4㎜以下の褐灰・赤褐色粒	外面にスス付着
498	土師器	甑 口縁部～底部	SA20	(14.7)	3.4	16.1	ナデ、ハケ目 ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙、褐灰 にぶい黄橙	にぶい橙 橙	4㎜以下の褐灰・褐色粒を多量、2㎜以下の黒色光沢粒を少量	

第17表　西下本庄遺跡出土土器観察表(13)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
499	土師器	甑 口縁部～底部	SA20	15.1	5.1	14.7	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ、指押え	橙、黄橙	橙	3㎜以下の灰褐・茶褐・赤褐・黒褐色粒、微細な透明光沢粒を多量	
500	土師器	鉢 口縁部～底部	SA20	(17.0)		15.7	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	灰白、黄灰	淡黄	3㎜以下の灰褐・褐・赤褐色粒を多量	
501	土師器	鉢 完形	SA20	15.2		10.3	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	灰黄褐、橙	橙、暗灰黄	5㎜以下の褐灰・明褐・橙・にぶい橙・褐灰・にぶい褐・浅黄・橙色粒	
502	土師器	鉢 完形	SA20	17.6		12.6	ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ、工具ナデ	灰褐 にぶい橙	灰褐 にぶい橙	5㎜以下の灰白・灰・褐色粒を多量	外面にスス付着
503	土師器	壺 口縁部～胴部	SA20	(9.0)			ナデ、ミガキ	ナデ、指押え	にぶい赤褐 明赤褐	褐、明赤褐	精良	内外面に丹塗り
504	土師器	脚付壺 口縁部～底部	SA20	6.3			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	赤褐、橙	赤褐	1㎜以下の透明光沢粒、微細な黒色粒	内外面に丹塗り
505	土師器	長頸壺 完形	SA20	10.7		16.2	ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	1㎜以下の灰・褐・黒褐色粒、透明光沢粒	内外面に丹塗り
506	土師器	壺 口縁部～底部	SA20	11.6		30.8	ナデ、ミガキ	ナデ、指押え	暗褐、黒	にぶい黄橙 赤褐	4㎜以下の褐・茶色粒	
507	土師器	高坏 完形	SA20	12.1	8.5	7.7	ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	微細な赤褐色粒、透明光沢粒	内外面に丹塗り
508	土師器	高坏 坏部	SA20	14.1			ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄褐 にぶい褐	明赤褐	微細な灰白色粒、透明光沢粒を少量	
509	土師器	高坏 完形	SA20	13.8	10.4	9.2	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	3㎜以下の茶色粒を少量	内外面に丹塗り
510	土師器	高坏 完形	SA20	14.0	8.2	7.7	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐、橙	明赤褐、橙	微細な透明・黒色光沢粒を少量	内外面に丹塗り
511	土師器	高坏 完形	SA20	14.3	10.0	8.7	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	赤褐 明赤褐	灰褐、明赤褐、明褐	2㎜以下の淡黄・茶色粒を少量	内外面に丹塗り
512	土師器	高坏 完形	SA20	(12.6)	(7.9)	6.9	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい橙	にぶい橙 褐灰	1㎜以下の灰褐・褐色粒、微細な透明光沢粒	
513	土師器	高坏 坏部	SA20	13.2			ミガキ	ミガキ	明赤褐	明赤褐	6㎜以下の赤茶色粒を少量、2㎜以下の淡黄色粒、黒色光沢粒	内外面に丹塗り
514	土師器	坏 口縁部～底部	SA20	14.6		4.8	ミガキ	ミガキ	黄橙	橙	精良	
515	土師器	坏 口縁部～胴部	SA20	(13.9)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	1㎜以下の乳白・灰・茶・黒色粒、透明光沢粒を少量	
516	土師器	坏 口縁部～胴部	SA20	(13.5)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、赤褐	橙	1㎜以下の暗褐・黒色粒	
517	土師器	坏 口縁部～胴部	SA20	(14.0)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	黄橙	橙	1㎜以下の乳白・黒色粒、微細な透明光沢粒を少量	内面に丹塗り
518	土師器	坏 完形	SA20	14.6	5.7	6.9	ナデ、指押え	ナデ、指押え	橙	橙	4㎜以下の赤褐色粒を少量、2㎜以下の褐灰・暗褐色粒を多量	
519	土師器	坏 口縁部～底部	SA20	15.9		5.1	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	2㎜以下の白・白灰・黒褐色粒、微細な透明・黒色光沢粒	外面にヘラ記号
520	土師器	坏 口縁部～胴部	SA20	(10.9)			ミガキ	ミガキ	明赤褐	明赤褐	精良	内外面に丹塗り
521	須恵器	坏蓋 口縁部～天上部	SA20	(15.4)		4.9	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	灰黄	にぶい橙	6㎜以下の灰色粒、3㎜以下の乳白・褐・黒色粒、微細な透明光沢粒を多量	
522	須恵器	坏身 完形	SA20	14.1		5.2	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	にぶい赤褐	灰褐	精良	
523	須恵器	甕 口縁部～胴部	SA20	15.0			回転ナデ、平行タタキ、カキ目	回転ナデ、ナデ 同心円当具痕	灰 にぶい黄褐	灰、灰褐	7㎜以下の灰白・淡黄・にぶい橙色粒、微細な透明光沢粒	
528	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	(21.6)	6.9	26.0	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 褐灰	橙	8㎜以下の褐・茶色粒を多量	
529	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	22.2			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 橙	橙	4㎜以下の褐色粒を多量	外面にスス付着
530	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	(29.2)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙、黒褐 灰	橙	4㎜以下の褐灰・褐色粒を多量	
531	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	(21.3)			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	にぶい赤褐 浅黄	にぶい褐	4㎜以下の灰白・灰黄・褐色粒を多量	
532	土師器	甕 胴部～底部	SA21		9.7		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙、黒褐 灰	橙	4㎜以下の褐灰・褐色粒を多量	530と同一個体か
533	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	(22.2)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ 指押え	黄橙、黒褐	橙、黄褐	4㎜以下の灰褐・灰黄・褐色粒	外面にスス付着
534	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	22.9		30.9	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙、黒褐	橙、黄灰	5㎜以下の茶褐・黒褐色粒を多量、2㎜以下の灰・赤褐色粒を少量	外面にスス付着
535	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	16.6		19.8	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、ハケ目 工具ナデ	灰黄褐	橙	5㎜以下の褐色粒を多量	外面にスス付着
536	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	18.7			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい黄橙 黄灰	暗灰黄 黄灰	4㎜以下の灰白・灰褐・褐・赤茶色粒を多量	
537	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	(21.2)		29.1	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	にぶい黄橙	5㎜以下の灰・褐・茶色粒	外面にスス付着
538	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	18.8			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい褐	橙	6㎜以下の灰・暗褐色粒、3㎜以下の茶色粒	外面にスス付着
539	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	17.6		25.8	ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ、工具ナデ	にぶい橙、にぶい褐、褐灰	にぶい橙	8㎜以下の茶褐色粒を多量、6㎜以下の灰色粒を少量	外面にスス付着
540	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	(16.2)		23.3	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ 指押え	明黄褐	明黄褐	3㎜以下の暗褐・褐灰色粒	
541	土師器	甕 完形	SA21	18.8		23.8	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	10～7㎜の黄褐色粒を少量、5㎜以下の灰褐・褐・茶褐色粒	外面にスス付着
542	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	19.3		28.2	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙、黒褐	橙、褐灰	4㎜以下の灰褐・茶褐・赤褐色粒を多量	外面にスス付着
543	土師器	甕 胴部～底部	SA21				ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい褐 灰褐、黒褐	明褐、灰褐 黒褐	4㎜以下の淡黄・赤褐・黒褐・茶・黒色粒、微細な金色光沢粒	外面にスス付着
544	土師器	甕 胴部～底部	SA21				ナデ、工具ナデ ケズリ	工具ナデ	橙	橙	7㎜以下の暗褐・黒褐色粒、3㎜以下の褐灰色粒	

第18表　西下本庄遺跡出土土器観察表(14)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
545	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	(32.1)		30.6	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 黄褐	明黄褐 にぶい黄褐	6㎜以下の黄灰・暗褐・黒褐色粒を多量	
546	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	(21.5)			ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ、工具ナデ	褐灰、灰褐	にぶい橙 灰褐	4㎜以下の灰・褐色粒を多量、2㎜以下の灰白色粒を少量	外面にスス付着
547	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	24.2		27.3	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙 にぶい褐	橙	6㎜以下の明褐・褐灰・暗褐・黒褐色粒を多量	
548	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	20.9			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 暗灰黄	黄褐、橙	2㎜以下の褐・暗色粒	外面にスス付着
549	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	(22.4)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙	7㎜以下の褐・暗褐色粒を多量、1㎜以下の赤褐色粒を少量	外面にスス付着
550	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	(21.4)			ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ、工具ナデ	明赤褐 にぶい褐	明赤褐	4㎜以下の褐色粒、7㎜以下の灰白色粒を多量	外面にスス付着
551	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	(17.4)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙、灰黄褐	橙、暗灰黄	3㎜以下の乳白、赤褐、黒色粒	
552	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	21.2			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	3㎜以下の褐・赤褐・黒褐色粒を多量	外面にスス付着
553	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	(18.1)		20.0	ナデ、ハケ目 工具ナデ	ナデ、ハケ目 指押え	にぶい黄橙	黒褐 にぶい黄橙	6㎜以下の灰褐・黄褐・茶褐・褐色粒	外面にスス付着
554	土師器	甕 口縁部～底部	SA21	(19.6)			ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	橙 にぶい黄褐	橙 にぶい黄橙	4㎜以下の褐色粒を少量	
555	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	(20.2)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	5㎜以下の褐色粒	
556	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	(19.5)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	6㎜以下の灰・茶・茶褐・黒色粒を多量	
557	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	19.4			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明黄褐、橙	橙	4㎜以下の灰色粒	外面にスス付着
558	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	17.4			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指押え	橙	にぶい黄橙 灰黄褐	4㎜以下の暗褐・茶色粒	外面にスス付着
559	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	12.3			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい橙 黄灰	にぶい橙 黄灰	6㎜以下の褐灰・灰褐・赤褐色粒を多量	
560	土師器	甕 完形	SA21	13.5		12.7	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい黄	明黄褐	6㎜以下の灰・褐・茶色粒、微細な透明光沢粒	
561	土師器	甕 胴部～底部	SA21		6.7		ナデ、工具ナデ 指ナデ	ナデ、工具ナデ	暗灰黄	黄灰	7㎜以下の浅黄・褐・茶褐色粒	
562	土師器	甕 底部	SA21		5.4		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄褐	黄褐	4㎜以下の灰褐・褐・茶褐色粒、透明光沢粒	
563	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	11.4			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	明赤褐 明黄褐	5㎜以下の褐灰・暗褐色粒	
564	土師器	甕 口縁部～胴部	SA21	13.2			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明赤褐	明赤褐	5㎜以下の褐灰・赤褐色粒	
565	土師器	甑 完形	SA21	28.1	7.9	19.4	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	明黄褐、橙	4㎜以下の褐・茶色粒	外面にスス付着
566	土師器	甑 完形	SA21	30.9	8.7	24.7	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 橙、褐灰	橙、灰黄	3㎜以下の褐灰・灰褐・黄灰色粒を多量	外面にスス付着
567	土師器	甑 口縁部～底部	SA21	(21.6)	8.2	18.8	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	赤褐	5㎜以下の褐灰色粒	外面にスス付着
568	土師器	甑 完形	SA21	28.2	7.6	24.8	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙、明黄褐	明黄褐	6㎜以下の褐色粒、3㎜以下の褐灰色粒を多量	外面にスス付着
569	土師器	甑 口縁部～底部	SA21	19.6		14.3	ナデ、工具ナデ ケズリ	ナデ、工具ナデ	黄橙	黄橙	3㎜以下の灰・褐・黒色粒	外面にスス付着
570	土師器	壺 頸部～胴部	SA21				ナデ	ナデ、指押え	灰褐、黒	にぶい黄橙 褐灰	2㎜以下の灰・褐・茶褐色粒を多量、微細な透明・黒色光沢粒を少量	外面にスス付着
571	土師器	壺 完形	SA21	10.8		22.2	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ 指押え	橙、褐灰	橙	3㎜以下の褐・茶色粒を多量	
572	土師器	長頸壺 口縁部～底部	SA21	11.8			ミガキ	ミガキ、ナデ	赤褐、橙	赤褐、橙	1㎜以下の乳白・灰白・黒色粒、微細な透明光沢粒	内外面に丹塗り
573	土師器	長頸壺 口縁部～底部	SA21	10.2		15.4	ミガキ	ミガキ、ナデ	明赤褐	橙	3㎜以下の淡黄色粒、透明・黒色光沢粒	内外面に丹塗り
574	土師器	壺 口縁部～胴部	SA21	9.4			ミガキ	ミガキ、ナデ 工具ナデ	橙	橙 にぶい黄橙	5㎜以下の灰色粒を少量	外面に丹塗り
575	土師器	長頸壺 頸部～底部	SA21		3.4		ナデ、ミガキ	ナデ	橙	橙	3㎜以下の暗赤褐色粒、2㎜以下の灰白・褐灰色粒、透明光沢粒	
576	土師器	高坏 口縁部～裾部	SA21	(13.7)	11.5	9.6	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	6㎜以下の茶色粒を少量、2㎜以下の灰・褐・茶色粒	
577	土師器	高坏 口縁部～裾部	SA21	18.9	(11.7)	10.5	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、明赤褐	橙	7～4㎜の褐灰・赤褐色粒を少量、1㎜以下の褐灰・暗褐色粒	内外面に丹塗り
578	土師器	高坏 完形	SA21	14.6	9.4	8.8	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明褐、橙	明褐、橙	4㎜以下の黄褐・褐・茶褐色粒を少量	
579	土師器	高坏 完形	SA21	13.7	9.6	8.6	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	赤褐	橙	3㎜以下の褐灰色粒	内外面に丹塗り
580	土師器	高坏 完形	SA21	14.6	9.8	8.6	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	2㎜以下の茶・黒色粒、透明光沢粒	内外面に丹塗り
581	土師器	高坏 完形	SA21	13.9	8.5	7.8	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	2㎜以下の乳白・灰・黒色粒、微細な透明光沢粒を少量	内外面に丹塗り
582	土師器	高坏 口縁部～裾部	SA21	15.2	8.3	8.6	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	2㎜以下の灰白・褐・赤褐色粒、微細な透明光沢粒	
583	土師器	高坏 完形	SA21	13.4	8.6	8.1	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、赤褐 黒褐	橙、赤褐	3㎜以下の赤褐・黒褐色粒を少量、1㎜以下の透明光沢粒を多量	内外面に丹塗り
584	土師器	高坏 坏部	SA21	15.7			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	5㎜以下の浅黄・灰褐・褐・赤褐色粒を多量	内外面に丹塗り
585	土師器	高坏 口縁部～裾部	SA21	(19.5)	(13.3)	14.8	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	赤褐、橙	赤褐、黄灰	5㎜以下の褐灰・黒褐色粒	内外面に丹塗り
586	土師器	坏蓋 口縁部～天上部	SA21	14.0		6.45	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	2㎜以下の乳白・灰・黒色粒、微細な透明・黒色光沢粒	

第19表　西下本庄遺跡出土土器観察表(15)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
587	土師器	坏蓋 口縁部～天上部	SA21	14.0		6.35	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	2㎜以下の黄灰・灰・褐色粒、透明・黒色光沢粒	内外面に丹塗り
588	土師器	坏蓋 完形	SA21	14.5		5.0	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	4㎜以下の灰・橙色粒を少量、2㎜以下の褐・黒色粒	
589	土師器	坏蓋 口縁部～天上部	SA21	(15.1)		5.1	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	2㎜以下の灰白・黄白色粒	
590	土師器	坏蓋 胴部～天上部	SA21				ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明褐	橙	1㎜以下の乳白・褐・黒灰色粒、透明・金色光沢粒を少量	外面にヘラ記号
591	土師器	坏蓋 口縁部～天上部	SA21	15.6		5.6	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	黄橙 明赤褐	明赤褐、橙	1㎜以下の褐灰・赤褐色粒	
592	土師器	坏蓋 口縁部～天上部	SA21	(13.8)		5.45	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい橙	橙	2㎜以下の透明光沢粒を多量	
593	土師器	坏蓋 口縁部～天上部	SA21	(14.9)		4.4	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、明赤褐	明赤褐	微細な灰・にぶい黄橙色粒、透明光沢粒を少量	外面に丹塗り
594	土師器	坏蓋 完形	SA21	14.3		5.1	ナデ、工具ナデ	ナデ	橙	橙	6㎜以下の褐・茶色粒	
595	土師器	坏蓋 口縁部～天上部	SA21	(15.4)		4.2	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい赤褐 にぶい褐	橙 にぶい黄褐	微細な灰白・黒色粒を少量	外面にヘラ記号
596	土師器	坏身 完形	SA21	14.0		4.45	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	1㎜の褐色粒、1㎜以下の灰白・赤褐色粒を少量	内外面に丹塗り
597	土師器	坏身 口縁部～底部	SA21	14.5		5.7	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐 にぶい赤褐	赤褐	2㎜以下の暗褐色粒	内外面に丹塗り
598	土師器	坏身 口縁部～底部	SA21	14.4		5.55	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	1㎜以下の褐・黒褐色粒を少量	
599	土師器	坏身 口縁部～底部	SA21	11.8		5.6	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐、橙	明赤褐、橙	1㎜以下の灰白・灰・褐色粒を多量	
600	土師器	坏身 完形	SA21	12.1		5.3	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、黄灰	橙、黄灰	微細な褐・黒色粒を少量	
601	土師器	坏身 完形	SA21	12.2		5.2	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	2㎜以下の灰白・茶・黒色粒、微細な金色透明粒	内外面に丹塗り
602	土師器	坏身 口縁部～底部	SA21	(14.3)		5.2	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	2㎜以下の乳白・茶色粒を少量	
603	土師器	坏身 口縁部～底部	SA21	(11.8)		4.05	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	精良	内外面に丹塗り
604	土師器	坏身 完形	SA21	12.4		5.3	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 にぶい黄橙	橙、にぶい黄橙、黒褐、黒	微細な透明光沢粒を少量	内面黒色
605	土師器	坏身 口縁部～底部	SA21	(13.1)		5.1	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、明黄褐	橙、明黄褐	2㎜以下の灰白色粒	
606	土師器	坏身 完形	SA21	12.2		4.9	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	1㎜以下の透明光沢粒を少量	
607	土師器	坏身 完形	SA21	12.5		4.9	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、黒	橙	1㎜以下の灰白色粒、透明光沢粒を多量	
608	土師器	坏身 完形	SA21	13.9		5.5	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、明赤褐	明赤褐	1㎜以下の灰白・褐灰・赤褐色粒	
609	土師器	坏身 口縁部～底部	SA21	(12.5)		4.9	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の白灰・灰褐・茶褐・黒褐色粒	
610	土師器	坏身 口縁部～底部	SA21	(13.2)		4.4	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 灰	にぶい黄橙	3㎜以下の赤褐色粒、微細な透明光沢粒	
611	土師器	坏身 口縁部～底部	SA21	(13.0)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	赤褐	赤褐	2㎜以下の暗赤褐色粒	
612	土師器	坏 口縁部～底部	SA21	13.7		5.3	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	橙 にぶい黄橙	5㎜以下の明赤褐色粒、2㎜以下の灰褐色粒、灰白光沢粒	
613	土師器	坏 完形	SA21	14.8		6.1	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 橙	にぶい黄橙 橙	5㎜以下のにぶい黄褐色粒、2㎜以下の褐・明赤褐色粒	
614	土師器	坏 口縁部～底部	SA21	(14.1)		5.2	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	5㎜以下の灰・灰褐色粒、2㎜以下の乳白色粒、透明・金・黒色光沢粒	内外面に丹塗り、木の葉底
615	土師器	坏 口縁部～底部	SA21	(15.2)		5.2	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	赤褐、明褐	明赤褐 黒褐	微細な灰・黒色粒を少量	内外面に丹塗り
616	土師器	鉢？ 口縁部～底部	SA21	(13.2)		6.3	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	2㎜以下の灰白・褐色粒を少量	
617	土師器	鉢？ 口縁部～底部	SA21	12.1		5.8	ナデ、工具ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	2㎜以下の褐・黒色粒	
618	土師器	鉢 口縁部～胴部	SA21	(14.9)			ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	3㎜以下の茶褐色粒を少量、2㎜以下の灰褐・茶褐色粒を多量	
619	土師器	鉢 完形	SA21	13.1		9.4	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ 指押え	橙	橙	6㎜以下の灰褐・褐・茶色粒を少量	
620	土師器	鉢 完形	SA21	20.7	10.6	13.3	ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ	橙	にぶい黄橙 橙	5㎜以下の褐・茶褐・茶色粒を少量	外面にスス付着
621	須恵器	坏蓋 完形	SA21	12.5		4.55	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	暗灰	暗灰	5㎜以下の灰白色粒	天上部に自然釉
622	須恵器	坏蓋 完形	SA21	16.6		4.0	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	灰	灰	3㎜以下の灰白・淡黄色粒	天上部に自然釉、赤色顔料付着
623	須恵器	坏身 口縁部～底部	SA21	(11.0)		4.85	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	暗灰黄、灰	灰	5㎜以下の灰白色粒、2㎜以下の褐灰色粒	
624	須恵器	坏身 口縁部～底部	SA21	(15.2)		3.85	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	灰、灰黄	灰	3㎜以下の灰白・灰・黒色粒	
625	須恵器	坏蓋 口縁部～天上部	SA21	15.0		4.0	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	灰、灰白	灰	精良	
626	須恵器	坏身 口縁部～底部	SA21	(13.5)			回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	灰	灰	4㎜以下の乳白・灰白・灰色粒	
627	須恵器	坏身 口縁部～底部	SA21	(12.8)			回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	灰	灰	3㎜以下の灰白色粒	
628	須恵器	坏身 口縁部～底部	SA21	(12.2)		4.85	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	黄灰	黄灰	4㎜以下の灰白色粒、2㎜以下の黒色粒	

第20表　西下本庄遺跡出土土器観察表(16)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
629	須恵器	壺？ 底部	SA21				回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	暗灰黄	暗灰黄	1㎜以下の黒褐色粒を少量	
630	須恵器	蓋 口縁部～天上部	SA21	(9.8)		3.1	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	灰	灰	微細な黒色粒を少量	
631	須恵器	短頸壺 口縁部～肩部	SA21	(7.5)			回転ナデ カキ目	回転ナデ	灰白	灰白	6㎜以下の白色粒、2㎜以下の白色粒を少量	肩部に自然釉
632	須恵器	壺 胴部～底部	SA21		(6.6)		回転ナデ、ナデ	回転ナデ	灰	灰	2㎜以下の白色粒	
637	土師器	甕 口縁部～頸部	SA22				ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	4㎜以下の灰・褐色粒を少量	外面にスス付着
638	土師器	壺 口縁部	SA22	(25.5)			ナデ 櫛描波状文	ナデ	にぶい黄橙 にぶい赤褐	黒	2㎜以下の灰白・白色粒、微細な透明光沢粒	
639	土師器	鉢 口縁部～胴部	SA22				ナデ、ミガキ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	橙	1㎜以下の透明光沢粒	
640	土師器	壺 頸部～底部	SA22				ナデ	ナデ、指押え	橙	橙	3㎜以下の乳白・灰・黒灰・茶褐・茶色粒、微細な透明・黒色光沢粒	外面にスス付着
641	土師器	壺 口縁部～底部	SA22	(11.4)		12.5	ナデ、ミガキ	ナデ、ハケ目 ミガキ、指押え	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の透明光沢粒を多量	
642	土師器	壺 口縁部～胴部	SA22				ナデ、ミガキ 櫛描波状文	ナデ、工具ナデ	橙	にぶい黄橙 黄灰	2㎜以下の灰色粒、透明・黒色光沢粒	
643	土師器	鉢 口縁部～底部	SA22	(13.9)		7.3	ナデ、ハケ目 指押え	ナデ、ハケ目 指押え	橙	橙	2㎜以下の乳白・灰・褐色粒、微細な透明光沢粒を少量	
644	土師器	甕 口縁部～胴部	SA23	(18.9)			ナデ	ナデ	橙	黒褐	5㎜以下の灰・赤褐・黒褐色粒、微細な透明・黒色光沢粒	外面にスス付着
645	土師器	甕 胴部～底部	SA23		8.9		ナデ、工具ナデ	ナデ、指押え	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙 にぶい橙	5㎜以下の灰白・褐色粒を多量	
646	土師器	甑？ 口縁部	SA23	(29.3)			ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ、工具ナデ	橙	黄橙	5㎜以下の灰・黄灰・灰黄褐色粒、微細な透明光沢粒	
647	土師器	坏 口縁部	SA23				ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明褐、黒褐	橙	1㎜以下のにぶい赤褐色粒	
648	土師器	坏 口縁部～底部	SA23	(15.6)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙、明灰黄	橙、灰褐	1㎜以下のにぶい赤褐色粒	
649	土師器	甕 底部	SA23		(9.2)		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	4㎜以下の淡黄・茶褐・黒色粒	
650	土師器	高坏 坏部～脚部	SA23				ナデ、ミガキ	ナデ	橙	橙	精良	
651	土師器	甕 口縁部～胴部	SA24				ナデ	ナデ	浅黄橙	橙	3㎜以下の灰・褐色粒を多量	
652	土師器	甕 底部	SA24		8.2		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3㎜以下の褐・黒褐色粒	外面にスス付着
653	土師器	甕 胴部～底部	SA24		(4.4)		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 橙	にぶい黄橙 黄灰	4㎜以下の褐色粒を多量、3㎜以下の白色粒を少量	
654	土師器	甕 胴部～底部	SA24		13.0		ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙	5㎜以下の灰・褐・茶・黒色粒	木の葉底
655	土師器	甑 底部	SA24				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3㎜以下の褐・茶褐・黒褐色粒	
656	土師器	坏 口縁部～胴部	SA24	(20.8)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐 にぶい黄褐	明赤褐、にぶい赤褐、にぶい黄橙	3㎜以下の淡黄・茶褐・黒色粒、微細な金色光沢粒	
657	土師器	高坏 口縁部～裾部	SA24	16.4	13.7		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい橙	精良	内外面に丹塗り
658	土師器	高坏 完形	SA24	14.0	9.5	10.3	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい橙 橙	にぶい黄橙 橙	3㎜以下の褐灰・赤褐色粒を多量	
659	土師器	甕 口縁部～胴部	SA26				ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	橙	4㎜以下の褐・暗褐色粒を多量、2㎜以下の白・灰白・灰・赤褐色粒を少量	外面にスス付着
660	土師器	高坏？ 口縁部	SA26				ナデ	ナデ	明黄褐	橙	1㎜以下の灰白色粒	
661	土師器	高坏？ 口縁部	SA26				ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	3㎜以下の灰白色粒	
662	土師器	鉢 口縁部～底部	SA26	(13.7)			ナデ	ナデ	橙	橙	1㎜以下の灰白色粒を少量	
663	土師器	鉢 完形	SA26	9.9	3.0	6.7	ナデ、ミガキ	ナデ	橙	橙	2㎜以下の乳白・黄灰・灰色粒、微細な透明光沢粒	
664	土師器	甕 口縁部～底部	SA27	19.1		23.8	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 にぶい黄橙	橙 にぶい黄橙	5㎜以下の淡黄・灰・暗褐・茶色粒	外面にスス付着
665	土師器	甕 口縁部～底部	SA27	21.8	4.8	22.2	ナデ	ナデ、指押え	灰褐 にぶい赤褐	橙	7㎜以下の茶褐色を少量、5㎜以下の灰・赤褐色粒、微細な透明光沢粒	外面にスス付着
666	土師器	甕 胴部～底部	SA27				ナデ	ナデ	にぶい橙 にぶい黄褐	橙、灰褐	6㎜以下の褐色粒、4㎜以下の灰白・黒色粒を少量	
667	土師器	高坏 坏部	SA27	12.4			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、明赤褐	橙	4㎜以下の赤褐色粒	
668	土師器	坏 口縁部～底部	SA27	(15.6)		6.5	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	4㎜以下の黄褐・褐色粒、1㎜以下の乳白色粒、透明光沢粒	内外面に丹塗り
669	土師器	甑 底部	SA28	(10.0)			ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	にぶい黄橙 黄灰	2㎜以下の乳白・茶褐・茶色粒、微細な透明光沢粒	
670	土師器	鉢 口縁部～底部	SA28	(14.0)			ナデ	ナデ	明褐、橙	橙	1㎜以下の灰白・黒色光沢粒	
671	土師器	鉢 完形	SA28	16.1		7.6	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐、橙	明赤褐	3㎜以下の橙色粒、1㎜以下の灰褐色粒、灰白光沢粒を少量	内外面に丹塗り
672	須恵器	甕 口縁部付近	SA28				回転ナデ 櫛描波状文	回転ナデ	灰	オリーブ黒	2㎜以下の白・乳白・茶色粒	内面に自然釉
673	土師器	甕 口縁部～底部	SC4	23.4	3.4	27.5	ナデ 平行タタキ	ナデ	明黄褐、橙	橙	3㎜以下の褐灰・赤褐色粒を多量	外面にスス付着
675	土師器	壺 口縁部	SC5	(37.0)			ナデ 櫛描波状文	ナデ、ミガキ	黄橙	明赤褐	1㎜以下の白色粒、透明光沢粒	

第21表　西下本庄遺跡出土土器観察表(17)

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
676	土師器	壺 口縁部～頸部	SC5	(22.4)			ナデ、指押え	ナデ	橙	黄褐、灰	2㎜以下の淡黄・茶褐・黒色粒、1㎜以下の金色光沢粒	
677	土師器	甕 底部	SC5		4.0		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	4㎜以下の褐色粒を多量	
678	土師器	甕 底部	SC5		(4.5)		ナデ	ナデ	明黄褐	明黄褐	4㎜以下の褐色粒を多量	
679	土師器	甕 底部	SC5		(6.0)		ナデ、指押え	工具ナデ	明黄褐	橙	4㎜以下の褐色粒を多量	
680	土師器	高坏 坏部	SC5				ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	明黄褐	1㎜以下の乳白色粒	
681	土師器	高坏 脚中部	SC5				ミガキ、指押え	工具ナデ	明赤褐	明赤褐	精良	円形透し孔有り
682	土師器	高坏 裾部	SC5				ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙 灰黄褐	1㎜以下の乳白・灰褐・褐色粒を少量	
683	土師器	高坏 裾部	SC5				ナデ、ミガキ	ナデ	橙 にぶい橙	にぶい橙	2㎜以下の白灰・褐色粒、微細な金色光沢粒	
684	土師器	鉢 口縁部～底部	SC14	(12.9)	2.2	8.4	ナデ、指ナデ	ナデ	橙	橙	3㎜以下の乳白・褐・茶色粒、微細な透明光沢粒	外面にスス付着
685	須恵器	坏身 口縁部～底部	SC10	(9.9)			回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰	灰	精良	
687	土師器	甕 口縁部～底部	SE2	(18.8)		25.6	ナデ、ハケ目 工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄 黒褐	にぶい黄 黄灰	5㎜以下の灰白・茶褐色粒、3㎜以下のの淡黄・茶・黒褐色粒、微細な透明光沢粒	
688	土師器	甕 口縁部～底部	SE2	20.6			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙	明黄褐、橙	6㎜以下の褐・黒色粒	外面にスス付着
689	土師器	甕 口縁部～底部	SE2	(22.6)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 にぶい黄橙	橙 にぶい黄	7㎜以下の乳白・灰・茶・暗褐・黒色粒	外面にスス付着
690	土師器	甕 胴部～底部	SE2				ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 灰褐	橙	6㎜以下の暗赤褐、褐灰色粒を多量	
691	土師器	甕 胴部～底部	SE2		6.1		ナデ、工具ナデ	ナデ	明褐橙	にぶい黄橙	4㎜以下の灰白・褐灰・暗褐・黒褐色粒	
692	土師器	甕 底部	SE2		(5.8)		ナデ、指押え	ナデ	黄灰 にぶい黄橙	灰黄、黄灰	4㎜以下の褐・黒色粒を多量	
693	土師器	甕 底部	SE2		6.9		ナデ、指押え	ナデ、工具ナデ	橙、暗灰黄	にぶい黄橙 黄褐	6㎜以下の褐灰・黒褐色粒	木の葉底
694	土師器	甑 把手	SE2				ナデ	ナデ	橙		1㎜以下の乳白色粒、透明光沢粒	
695	土師器	甑 底部	SE2				工具ナデ	工具ナデ	橙	橙	5㎜以下の褐・茶色粒を多量	
696	土師器	壺 胴部～底部	SE2				ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	5㎜以下の乳白・灰・褐・茶褐・黒色粒を多量	外面にスス付着
697	土師器	鉢？ 胴部～底部	SE2		(5.5)		ナデ、工具ナデ	工具ナデ	暗灰黄	明褐	4㎜以下の黄褐・褐・黒褐色粒	
698	土師器	壺 胴部～底部	SE2		1.4		ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄橙	橙	1㎜以下の褐灰・赤褐色粒を少量	
699	土師器	高坏 口縁部～裾部	SE2	15.4	10.7	10.15	ナデ、工具ナデ ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	黄橙	3㎜以下の白・茶・黒色粒	
700	土師器	高坏 口縁部～裾部	SA12	(14.6)	(11.2)	8.2	ナデ、工具ナデ ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	暗灰黄、橙	3㎜以下のにぶい黄橙・灰色粒を少量	
701	土師器	高坏 脚部	SA12		12.3		ナデ、工具ナデ ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、黄橙	明黄褐 にぶい黄	2㎜以下の灰白・にぶい黄橙色粒、1㎜以下の透明光沢粒を少量	内外面に丹塗り
702	土師器	高坏 坏部～脚部	SE2				ナデ、工具ナデ ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	にぶい黄橙 黄灰	2㎜以下の褐・茶色粒	
703	土師器	器台？ 受部～脚部	SE2				ミガキ	ナデ、ミガキ	浅黄橙	浅黄橙	精良	
704	土師器	鉢 口縁部～底部	SE2	(17.8)		7.0	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	2㎜以下の灰白・褐灰・赤褐色粒	
705	土師器	鉢 口縁部～底部	SE2	(16.6)	7.0	6.9	ナデ、指押え	ナデ	橙、明黄褐 暗灰黄	明黄褐 黄灰、橙	5㎜以下の灰白・褐・黒色粒を多量	
706	須恵器	俵壺 胴部	SE2				平行タタキ カキ目	同心円当具痕	灰	灰	1㎜以下の灰色粒	
708	土師器	甕 口縁部～底部	SE4	(29.2)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明褐	明赤褐 にぶい赤褐	4㎜以下の黄褐・灰褐・褐色粒	外面にスス付着
709	土師器	甕 口縁部～底部	SE4	22.7	10.0	22.8	ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ、工具ナデ	橙	橙	5㎜以下の灰色粒、3㎜以下のの赤褐・黒褐色粒	外面にスス付着
710	土師器	甕 口縁部～底部	SE4	21.6			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	黒褐 にぶい褐	黒褐 にぶい褐	8～6㎜の褐色粒を少量、5㎜以下の褐・茶色粒を多量	外面にスス付着
711	土師器	甑 口縁部～底部	SE4	28.7	8.8	22.5	ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい橙 にぶい褐	にぶい橙	4㎜以下の白・灰褐・暗褐色粒を多量	
712	土師器	甕？ 口縁部～胴部	SE4	(21.0)			ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	灰黄褐	灰黄褐	4㎜以下の褐灰・褐色粒	
713	土師器	甕 口縁部	SE4	(21.9)			ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	3㎜以下の暗赤褐色粒	
714	土師器	甕 底部	SE4		11.1		ナデ、指押え	ナデ	橙、暗灰黄	にぶい黄 灰	3㎜以下の灰黄褐・灰赤色粒	
715	土師器	甑 胴部～底部	SE4		6.5		ナデ、工具ナデ 指押え	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい橙	にぶい橙	5㎜以下の灰・褐色粒、3㎜以下の灰白色粒を多量	
716	土師器	甑 底部	SE4		(8.4)		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明黄褐	橙	4㎜以下の褐・赤褐色粒、2㎜以下の灰白・灰色粒を多量	
717	土師器	甑 底部	SE4		(6.2)		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3㎜以下の褐・赤褐・黒褐色粒を多量	
718	土師器	坏蓋 口縁部～天上部	SE4	(15.3)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	にぶい黄橙	5㎜以下の灰・茶・黒褐色粒、微細な透明光沢粒	
719	土師器	高坏 口縁部～脚部	SE4	(16.4)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙、灰	橙、灰	3㎜以下の灰白・にぶい黄橙・赤茶色粒、微細な透明光沢粒を少量	

第22表　西下本庄遺跡出土土器観察表(18)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
720	須恵器	坏蓋 口縁部	SE4				回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	3㎜以下の褐灰色粒を少量、2㎜以下の灰白・褐色粒を多量	
721	須恵器	甕 口縁部	SE4	(14.9)			回転ナデ	回転ナデ	黄灰、灰白	灰黄	精良	
722	須恵器	壺 胴部～底部	SE4				回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰	灰	精良	
723	須恵器	甕 胴部	SE4				格子目タタキ カキ目	同心円当具痕 ナデ	灰オリーブ 灰	灰オリーブ	精良	
724	土師器	甑 胴部～底部	SE8		(8.5)		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ 指押え	にぶい黄橙	橙 にぶい黄橙	5㎜以下の灰白・黄灰・暗褐色粒	
725	土師器	壺 口縁部～頸部	SE8	(16.1)			ナデ、ミガキ	ナデ	明黄橙	橙、浅黄橙	4㎜以下の暗褐・黒褐色粒、2㎜以下の乳白・茶色粒	
726	土師器	坏 口縁部	SE8				ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	1㎜以下の白・褐・黒色粒を少量	
727	土師器	高坏 脚部	SE8		(14.0)		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ ミガキ	橙、浅黄橙	橙	1㎜以下の褐・茶・黒色粒を少量	
728	土師器	高坏 坏部	SE8	(11.1)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	2㎜以下の灰・茶・黒色粒、半透明光沢粒	
729	土師器	甕 口縁部～胴部	柱穴状遺構	(22.7)			ナデ、ハケ目	ハケ目	橙、明黄褐	橙	3㎜以下の褐色粒を多量	外面にスス付着
730	土師器	甕 頸部～底部	柱穴状遺構		3.4		ナデ	ナデ	明黄褐、橙	明赤褐、橙	3㎜以下の灰・褐・赤褐・黒褐色粒を多量	外面にスス付着
731	土師器	甕 口縁部～底部	柱穴状遺構	(16.4)		23.5	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明赤褐	明赤褐	4㎜以下の乳白・灰・褐・黒色粒を多量	外面にスス付着
732	土師器	壺 口縁部～胴部	柱穴状遺構	(11.1)			ナデ、ミガキ 櫛描波状文	ナデ	橙	橙	1㎜以下の透明・黒色光沢粒	
733	土師器	ミニチュア土器 完形	柱穴状遺構	6.9		6.2	ナデ、工具ナデ	ナデ、指ナデ	明赤褐、橙	橙	微細な乳白色粒、透明光沢粒を少量	
734	土師器	高坏 脚部	柱穴状遺構		12.6		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	黄橙、橙	橙	2㎜以下の白・黄橙・褐色粒、1㎜以下の透明光沢粒	
735	土師器	鉢 完形	柱穴状遺構	13.5	5.3	8.1	ナデ	ナデ	橙	橙	6㎜以下の黄灰・暗褐色粒	
736	土師器	鉢 口縁部～底部	柱穴状遺構	(16.0)			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	1㎜以下の乳白・茶色粒を少量	
737	土師器	坏身 完形	柱穴状遺構	14.7		4.55	ナデ	ナデ	明褐 明赤褐	明褐 明赤褐	2㎜以下の褐色粒、微細な透明光沢粒を多量	
738	須恵器	瓶又は壺 頸部～胴部	柱穴状遺構				回転ナデ、櫛歯状の連続刺突	回転ナデ、ナデ	灰	灰	1㎜以下の乳白・茶色粒を少量	肩部に自然釉
741	土師器	甕 口縁部～底部	包含層	22.6	3.2	22.9	ナデ	ナデ、工具ナデ	明赤褐	橙	4㎜以下の褐・黒褐色粒、2㎜以下の灰白・赤褐色粒を多量	
742	土師器	甕 口縁部～底部	包含層	(20.3)	4.0	19.3	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	にぶい黄橙	にぶい橙 にぶい黄橙	6㎜以下の灰白・灰・茶・赤茶褐色粒を多量	
743	土師器	甑 口縁部～底部	包含層	(26.2)	8.9	20.5	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 にぶい黄橙	浅黄橙 にぶい黄橙	7㎜以下の褐・赤褐・黒褐色粒を多量	外面にスス付着
744	土師器	壺 口縁部～頸部	包含層	(16.3)			ナデ	ナデ	橙	浅黄橙	2㎜以下の白・灰白・灰色粒	
745	土師器	壺 口縁部	包含層	(10.9)			櫛描波状文	ナデ	黄橙	黄橙、橙	2㎜以下の浅黄・灰褐・褐色粒	
746	土師器	壺 口縁部～底部	包含層	(9.7)		16.2	ナデ	ナデ、指押え	橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の灰白・褐色粒、1㎜以下の透明光沢粒	
747	土師器	高坏 坏部	包含層				ナデ、ミガキ 刺突文	ナデ、ミガキ	明黄褐	明黄褐、橙	1㎜以下の透明・黒色光沢粒	
748	土師器	高坏 脚部	包含層				ミガキ、帯状の小さな円形透し孔(3列以上)	ナデ	橙	橙	微細な透明光沢粒	
749	土師器	鉢 口縁部～底部	包含層				ナデ、ミガキ 櫛描波状文	ナデ、ハケ目	淡黄	淡黄	2㎜以下の白・褐坏・透明光沢粒	
750	土師器	器台 脚部	包含層	(13.5)			ミガキ	ナデ、ミガキ	橙	橙	2㎜以下の灰・暗褐・茶黒色粒、半透明光沢粒	3方に合形状の透し孔有り

第23表　西下本庄遺跡出土石器計測表(2)

遺物番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
210	不明	SA1	8.3	8.6	3.3	51.5	軽石	
230	不明	SA2	7.8	8.0	2.2	230.0	砂岩	
265	磨製石鏃	SA3	2.4	2.1	0.2	1.6	頁岩	先端部欠損
325	石錘	SA8	9.3	4.9	2.8	166.5	砂岩	縄文時代か
524	砥石	SA20	34.6	13.7	8.0	5000.0	砂岩	
525	敲石	SA20	12.5	5.0	3.5	256.4	砂岩	
526	砥石	SA20	4.5	2.1	1.4	14.9	砂岩	
634	石錘	SA21	5.0	2.9	1.3	36.1	砂岩	縄文時代か
635	石錘	SA21	7.9	5.8	1.6	123.8	砂岩	縄文時代か
636	敲石	SA21	14.0	7.2	5.0	840.0	砂岩	
674	敲石	SC3	9.1	9.1	6.0	670.0	砂岩	

第24表　西下本庄遺跡出土鉄器観察表(1)

遺物番号	器種	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
209	鉄鏃	SA1	10.7	1.5	0.6	10.9	最大長及び重量は合算
297	鋤先	SA6	7.2	11.7	2.5	185.3	
388	鉄鏃	SA12	5.0	1.4	0.3	4.9	赤色顔料付着
389	鉄鏃	SA12	2.5	1.5	0.4	1.5	茎部のみ
527	鉄鏃	SA20	11.9	1.0	0.9	7.7	最大長及び重量は合算
633	鉄鏃	SA21	8.5	1.1	0.8	9.4	
686	不明	SC15	2.9	2.7	0.7	4.2	表裏面に木質付着
707	刀子	SE2	5.7	1.9	0.5	7.9	
739	鉄鏃	柱穴状遺構	7.5	1.1	0.9	9.4	
740	鉄鏃	柱穴状遺構	3.2	2.5	0.9	4.0	木質付着
753	鉄斧	包含層	6.3	4.4	3.0	54.9	

第３節　古代～中世の遺構と遺物

古代～中世の遺構として確認されたものは、掘立柱建物22棟、柵列状遺構１条、土坑６基、石組土坑３基、溝状遺構６条である。第84図は各遺構より出土した遺物から、概ね古代の遺構と考えられるものと中世の遺構と考えられるものにわけて、その分布状況を示している。ただし、溝状遺構等では、かなり時期差がみられる遺物が出土しており、その時期認定は不明瞭である。

以下、時代を問わず、遺構・遺物の種別ごとにその内容を報告する。なお、遺物に関しては、紙幅の関係もあるため概略を紹介するに留めるので、詳細は観察表を参照いただきたい。

(1)　遺構及び出土遺物

a　掘立柱建物

古代とみられるものが12棟（SB５，7，8，18，19，20，22，24，27，28，30，31)、中世とみられるものが10棟（SB12，15，16，17，26，29，32，37，38，42）ある。それぞれの建物の規模については、第25表のとおり。

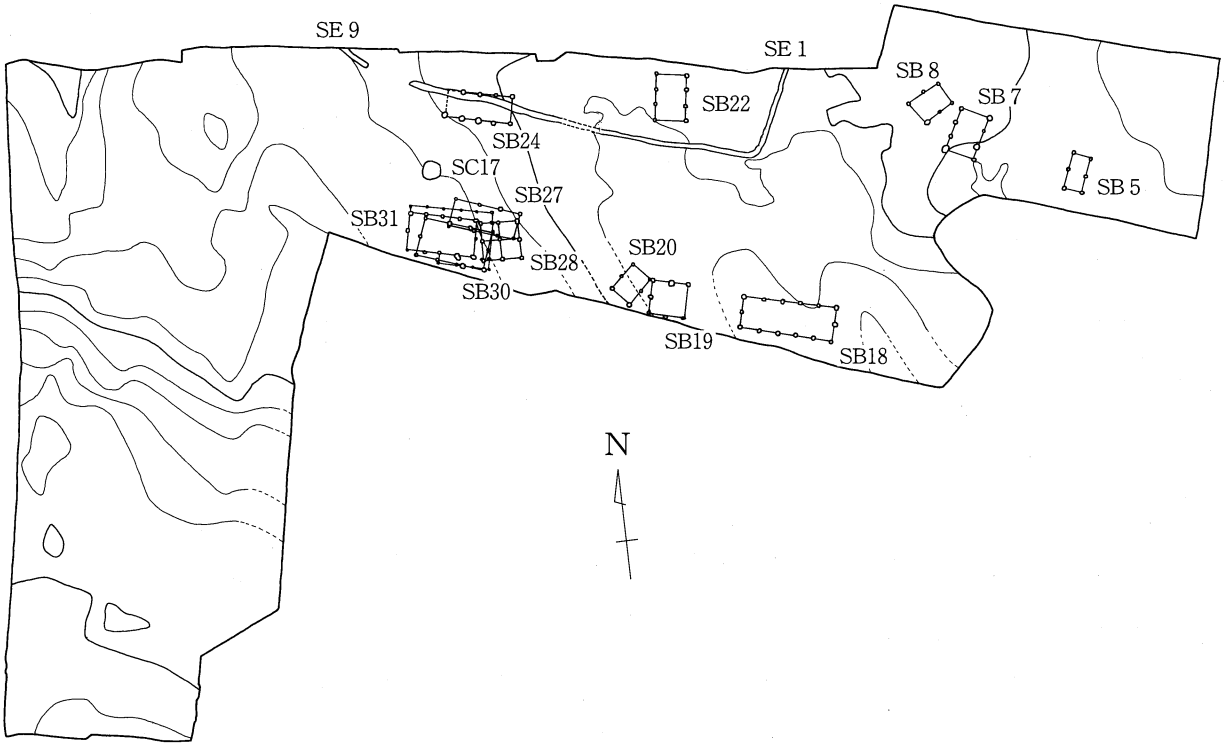
古代のものでは、１×２間のもの３棟（SB５，８，20)、１×３間のもの３棟（SB７，22，27)、１×４間のもの１棟（SB24)、２×２間のもの２棟（SB19，28、ただし28は総柱)、２×３間のもの１棟（SB30)、２×４間のもの１棟（SB31)、２×５間のもの１棟（SB18）があり、庇を有するものはみられない。また、主軸もしくは主軸に直交する軸が南北からやや東に傾くものが多い。

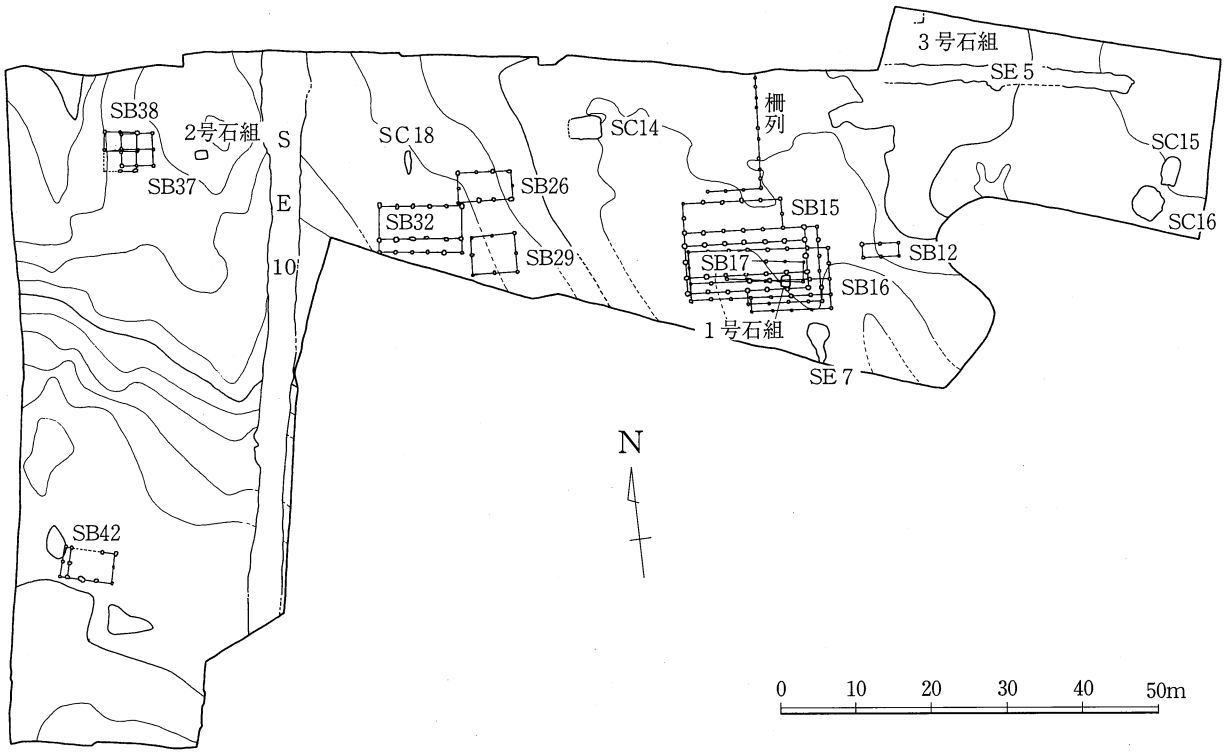
中世のものでは、１×２間のもの１棟（SB12)、１×４間のもの１棟（SB17)、１×５間のもの１棟（SB32)、２×２間のもの３棟（SB29，37，38，ただし37・38は総柱)、２×３間のもの２棟（SB26，43)、２×７間のもの１棟（SB16)、２×５間と２×６間のものが庇を介して連結したもの１棟（SB15）がある。庇は梁行方向に１面取り付くもの（SB43)、桁行方向に１面取り付くもの（SB32)、桁行方向に１面取り付き、更に孫庇を有するもの（SB16)、梁行方向に１面、桁行方向に１面の庇が取り付き、更に孫庇を有するもの（SB15）があり、多様である。建物の主軸もしくは主軸に直交する軸は、ほぼ東西をとるものが多い。また、SB16の柱穴の柱痕跡とみられる部分には白色粘土がみられるものが多く、今回の調査で検出された柱穴状遺構にも同様の特徴がみられるものが多数あった。

第95図は掘立柱建物を構成する柱穴から出土した遺物である。754はSB５、755はSB16、756～762はSB15、763はSB31、764はSB32、765はSB26、766はSB37からそれぞれ出土している。中でも757から762は同一の柱穴からの出土で、基底からかなり浮いた位置から出土している。

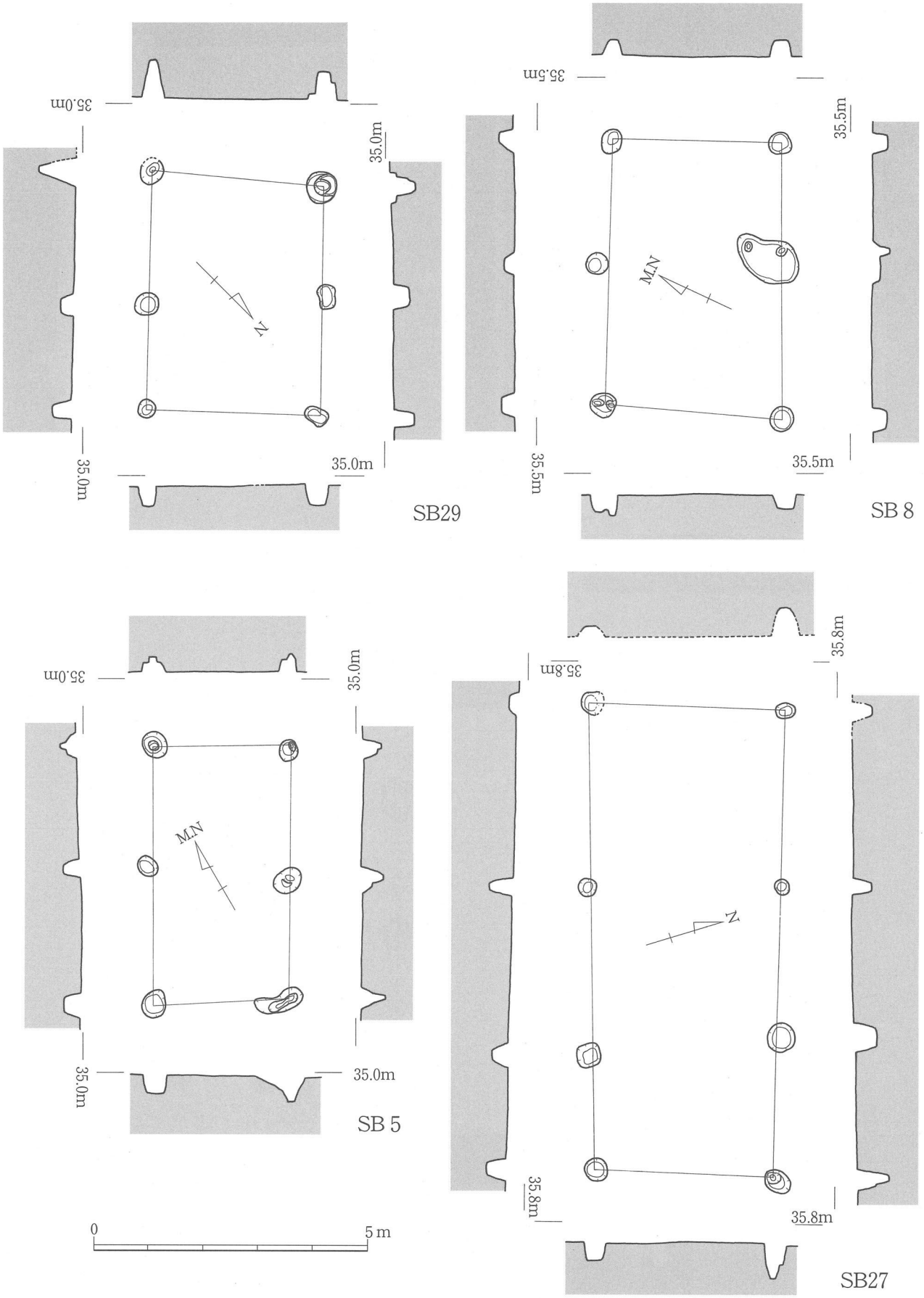
b　柵列状遺構

SB15の北側には、調査区外から南に延び、建物に平行して西側へ曲がる逆Ｌ字状の柵列状の柱穴列が確認された。柱穴の大きさはSB15のものよりも小さく、南北方向の列では柱間約1.4m、東西方向の列では柱間約２mを測り、柱穴の深さは約30cmほどのものが多い。

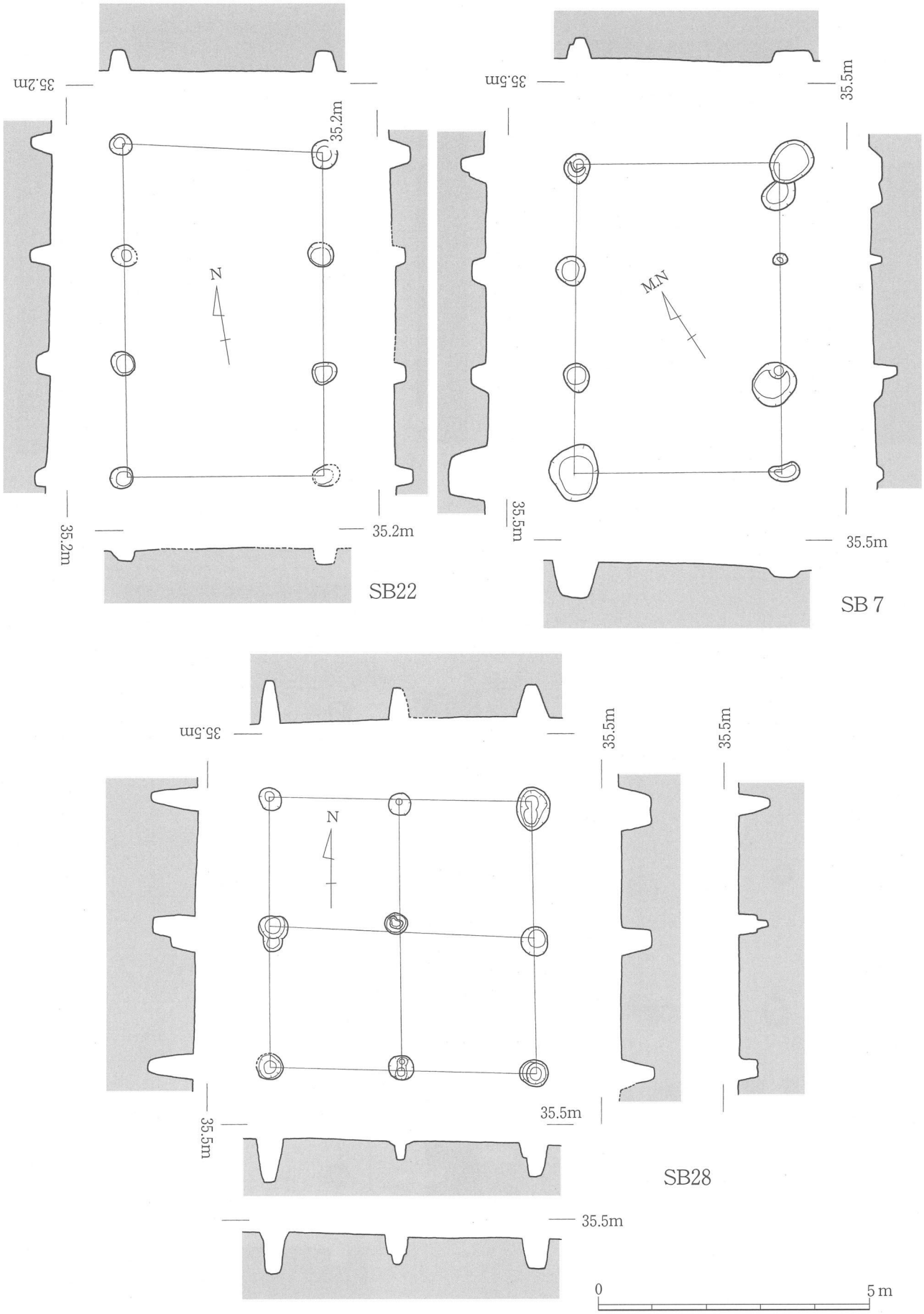




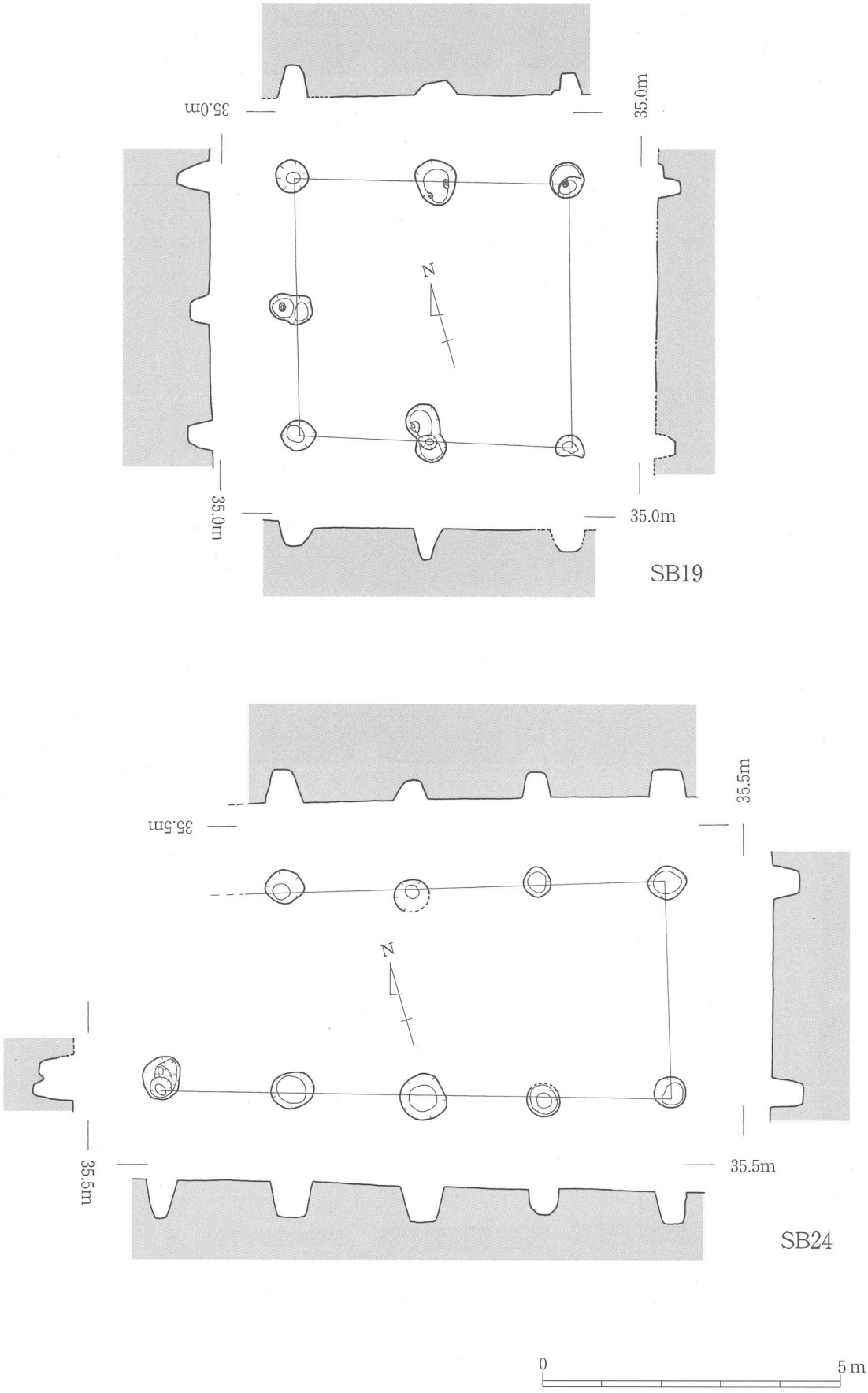
第84図　古代（上）～中世（下）遺構分布図（1/1000）



第85図　古代～中世掘立柱建物実測図①（1/100）



第86図　古代～中世掘立柱建物実測図②（1 /100）



第87図　古代～中世掘立柱建物実測図③（1/100）